

市民生活の現状及び児童・生徒の
意識や行動に関するアンケート調査
報告書

【クロス集計版】

令和年3年4月

刈谷市

目次

1. 調査の概要	1
1 - 1. 調査の概要	1
1 - 2. 調査結果の見方	1
2. 市民生活の現状についてのアンケート	2
2 - 1. 回答者の属性	2
2 - 2. 刈谷市の全体的な印象	8
2 - 3. 市政に対する現状の評価と今後の期待	14
2 - 4. 市民の暮らしの現状など	34
2 - 5. 刈谷市のまちの現状	60
3. 新型コロナウイルス感染症の影響について	84
3 - 1. 回答者の業種	84
3 - 2. コロナ禍における「活動」や「場所への外出」に対する意識変化	85
3 - 3. コロナ禍における行動変化	114
3 - 4. コロナ禍における課題と行政支援	130
4. 児童・生徒の意識や行動に関するアンケート	135
4 - 1. 回答者の属性	135
4 - 2. 刈谷市の全体的な印象	136
4 - 3. 個別設問の回答	140

1. 調査の概要

1 - 1. 調査の概要

調査目的	市民や小中学生の意識等を幅広く把握し、「第7次刈谷市総合計画」の進行管理を行うことを目的として、以下のとおり市民を対象とした2種類のアンケートと、小中学生を対象としたアンケートを実施しました。		
調査区分	市民生活の現状についてのアンケート 市政に対する評価 (以下「市政評価」という。)	暮らし・まちの現状把握 (以下「現状把握」という。)	児童・生徒の意識や行動に関するアンケート
調査対象	刈谷市内在住の18歳以上の市民から無作為に抽出した各2,500人(合計5,000人)		刈谷市内の小学5年生、中学2年生 合計2,772人
調査項目	①回答者の属性 ②刈谷市の全体的な印象 ③市政に対する現状の評価と今後の期待 ④新型コロナウイルス感染症の影響について ⑤これからの刈谷市のまちづくりについて(自由意見)	①回答者の属性 ②刈谷市の全体的な印象 ③みなさんの暮らしの現状など ④刈谷市のまちの現状 ⑤新型コロナウイルス感染症の影響について ⑥これからの刈谷市のまちづくりについて(自由意見)	①普段から思っていること、していることや、刈谷市のまちに対する考えなどについて
調査方法	郵送による調査票の配布 郵送による調査票の回収及びインターネットによる回答		学校を通じた配布・回収
調査期間	令和2年10月29日に配布し、11月18日を回答期限として回収		令和2年11月2日に配布し、11月27日までに回収
回収状況	<ul style="list-style-type: none"> ・配布数 2,500票 ・有効回収数 1,595票 うち、郵送：1,276票 インターネット：319票 ・有効回収率 63.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布数 2,500票 ・有効回収数 1,671票 うち、郵送：1,316票 インターネット：355票 ・有効回収率 66.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布数：2,772票 ・有効回収数：2,632票 ・有効回収率：94.9%
	合計(参考：平成30年度) <ul style="list-style-type: none"> ・配布数：5,000票(5,000票) ・有効回収数：3,266票(2,712票) ・有効回収率：65.3%(54.2%) 		(参考：平成30年度) <ul style="list-style-type: none"> (配布数：2,774票) (有効回収数：2,645票) (有効回収率：95.3%)

1 - 2. 調査結果の見方

- ・比率はすべて百分率で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、合計が100.0%にならないことがあります。
- ・グラフにおける数値は、回答者数(n)を分母、各項目の回答数を分子としたときの比(相対度数)を百分率で示しています。なお、この回答者数(n)には特記しないかぎり、「無回答」を含みます。
- ・報告書では、意味の変わらない範囲で、設問及び選択肢の文章を省略して記載する場合があります。

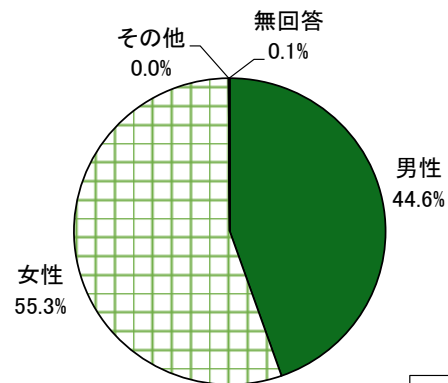
2. 市民生活の現状についてのアンケート

2 - 1. 回答者の属性

「市政評価」「現状把握」：設問 1～9（共通）

(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 44.6%、「女性」が 55.3%となっています。

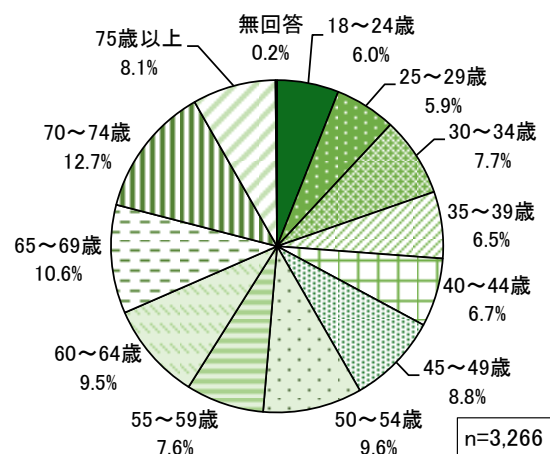


n=3,266

	設問 1 性別				
	合計	男性	女性	その他	無回答
全体	3,266	1,457	1,805	1	3
	100.0%	44.6%	55.3%	0.0%	0.1%
市政評価	1,595	719	875	0	1
	100.0%	45.1%	54.9%	0.0%	0.1%
現状把握	1,671	738	930	1	2
	100.0%	44.2%	55.7%	0.1%	0.1%

(2) 年齢

最も多いのは、「70～74歳」で 12.7%、次いで「65～69歳」10.6%、「50～54歳」9.6%、「60～64歳」9.5%の順となっています。

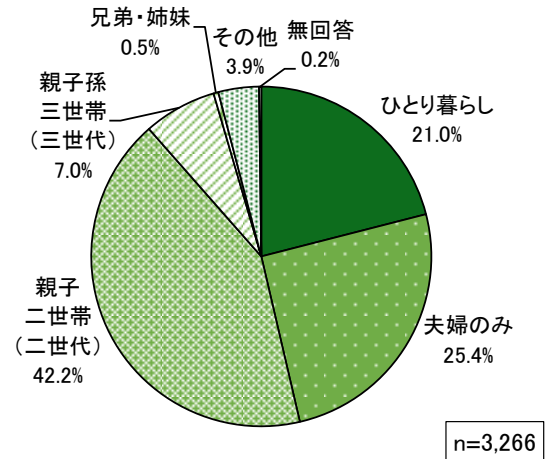


n=3,266

	設問 2 年齢													
	合計	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
全体	3,266	196	194	253	212	218	289	315	248	311	345	415	265	5
	100.0%	6.0%	5.9%	7.7%	6.5%	6.7%	8.8%	9.6%	7.6%	9.5%	10.6%	12.7%	8.1%	0.2%
市政評価	1,595	93	95	120	97	107	145	159	120	160	164	198	133	4
	100.0%	5.8%	6.0%	7.5%	6.1%	6.7%	9.1%	10.0%	7.5%	10.0%	10.3%	12.4%	8.3%	0.3%
現状把握	1,671	103	99	133	115	111	144	156	128	151	181	217	132	1
	100.0%	6.2%	5.9%	8.0%	6.9%	6.6%	8.6%	9.3%	7.7%	9.0%	10.8%	13.0%	7.9%	0.1%

(3) 家族構成

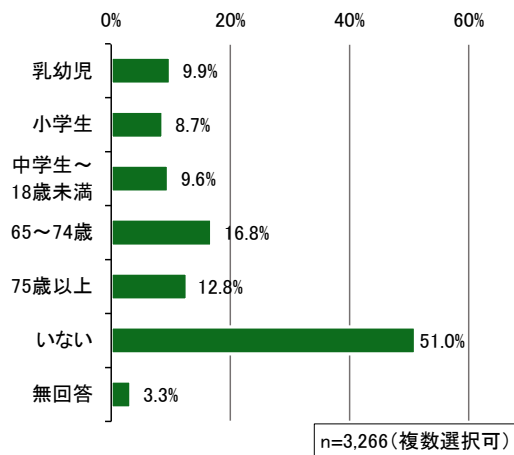
最も多いのは、「親子二世帯（二世代）」で42.2%、次いで「夫婦のみ」25.4%、「ひとり暮らし」21.0%の順となっています。



	設問3 家族構成							
	合計	ひとり暮らし	夫婦のみ	親子二世帯 (二世代)	親子孫三世帯 (三世帯)	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体	3,266	686	828	1,377	227	15	126	7
	100.0%	21.0%	25.4%	42.2%	7.0%	0.5%	3.9%	0.2%
市政評価	1,595	332	399	677	105	10	69	3
	100.0%	20.8%	25.0%	42.4%	6.6%	0.6%	4.3%	0.2%
現状把握	1,671	354	429	700	122	5	57	4
	100.0%	21.2%	25.7%	41.9%	7.3%	0.3%	3.4%	0.2%

(4) 同居家族

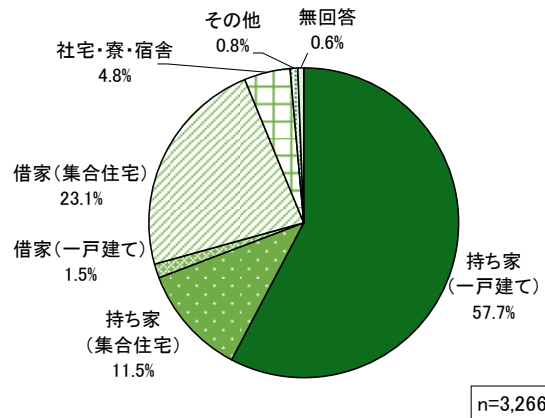
最も多いのは、「65～74歳」で16.8%、次いで「75歳以上」12.8%となっているほか、18歳未満の各年代も10%程度となっています。



	設問4 同居家族							
	合計 (回答者数)	乳幼児	小学生	中学生～18歳未満	65～74歳	75歳以上	いない	無回答
全体	3,266	324	284	314	550	417	1,667	108
	100.0%	9.9%	8.7%	9.6%	16.8%	12.8%	51.0%	3.3%
市政評価	1,595	157	148	149	265	205	802	62
	100.0%	9.8%	9.3%	9.3%	16.6%	12.9%	50.3%	3.9%
現状把握	1,671	167	136	165	285	212	865	46
	100.0%	10.0%	8.1%	9.9%	17.1%	12.7%	51.8%	2.8%

(5) 住宅の種類

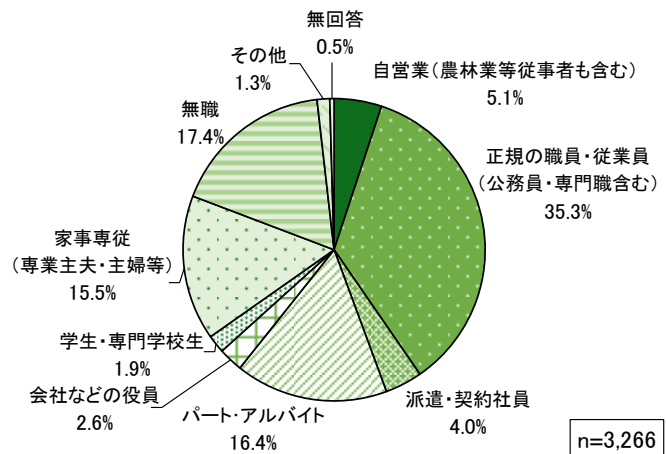
最も多いのは、「持ち家(一戸建て)」57.7%、次いで「借家(集合住宅)」23.1%の順となっています。



	設問5 住宅の種類							
	合計	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (集合住宅)	借家 (一戸建て)	借家 (集合住宅)	社宅・寮・ 宿舍	その他	無回答
全体	3,266	1,885	376	48	754	157	26	20
	100.0%	57.7%	11.5%	1.5%	23.1%	4.8%	0.8%	0.6%
市政評価	1,595	917	185	27	368	74	15	9
	100.0%	57.5%	11.6%	1.7%	23.1%	4.6%	0.9%	0.6%
現状把握	1,671	968	191	21	386	83	11	11
	100.0%	57.9%	11.4%	1.3%	23.1%	5.0%	0.7%	0.7%

(6) 職業

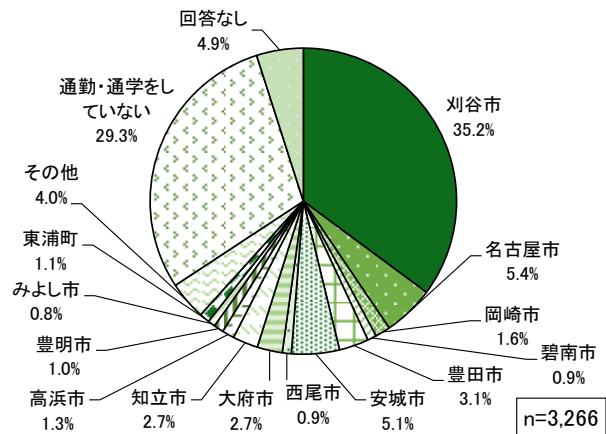
最も多いのは、「正規の職員・従業員(公務員・専門職含む)」35.3%、次いで「無職」17.4%、「パート・アルバイト」16.4%の順となっています。



	設問6 職業										
	合計	自営業 (農林業等従 事者も含む)	正規の職員・ 従業員 (公務員・専 門職含む)	派遣・ 契約社員	パート・ア ルバイト	会社など の役員	学生・ 専門学校 生	家事専従 (専業主夫・ 主婦等)	無職	その他	無回答
全体	3,266	166	1,153	130	534	85	63	507	569	44	15
	100.0%	5.1%	35.3%	4.0%	16.4%	2.6%	1.9%	15.5%	17.4%	1.3%	0.5%
市政評価	1,595	75	580	62	265	35	27	235	285	26	5
	100.0%	4.7%	36.4%	3.9%	16.6%	2.2%	1.7%	14.7%	17.9%	1.6%	0.3%
現状把握	1,671	91	573	68	269	50	36	272	284	18	10
	100.0%	5.4%	34.3%	4.1%	16.1%	3.0%	2.2%	16.3%	17.0%	1.1%	0.6%

(7) 通勤・通学先

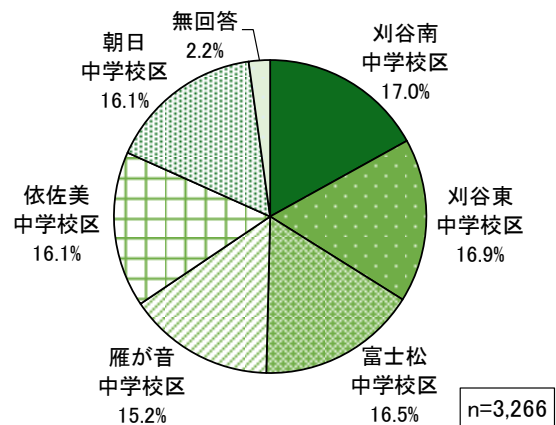
最も多いのは、「刈谷市」が35.2%、次いで「名古屋市」5.4%の順となっています。
 なお、「通勤・通学をしていない」が29.3%となっています。



	設問7 通勤・通学先																
	合計	刈谷市	名古屋市	岡崎市	碧南市	豊田市	安城市	西尾市	大府市	知立市	高浜市	豊明市	みよし市	東浦町	その他	通勤・通学をしていない	無回答
全体	3,266	1,148	176	52	31	102	165	31	87	87	42	34	25	35	132	958	161
	100.0%	35.2%	5.4%	1.6%	0.9%	3.1%	5.1%	0.9%	2.7%	2.7%	1.3%	1.0%	0.8%	1.1%	4.0%	29.3%	4.9%
市政評価	1,595	576	78	22	16	52	80	20	35	48	12	19	13	17	76	451	80
	100.0%	36.1%	4.9%	1.4%	1.0%	3.3%	5.0%	1.3%	2.2%	3.0%	0.8%	1.2%	0.8%	1.1%	4.8%	28.3%	5.0%
現状把握	1,671	572	98	30	15	50	85	11	52	39	30	15	12	18	56	507	81
	100.0%	34.2%	5.9%	1.8%	0.9%	3.0%	5.1%	0.7%	3.1%	2.3%	1.8%	0.9%	0.7%	1.1%	3.4%	30.3%	4.8%

(8) 居住地区

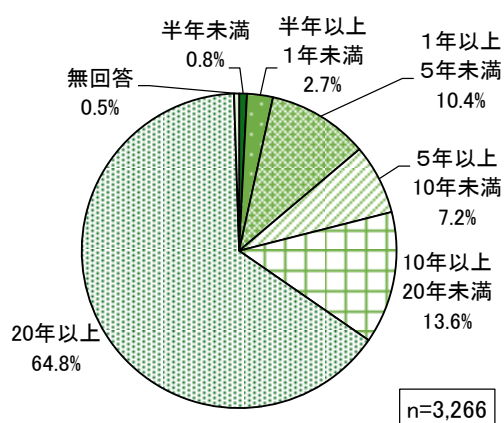
最も多いのは、「刈谷南中学校区」で17.0%、次いで「刈谷東中学校区」16.9%、「富士松中学校区」16.5%の順となっています。



	設問8 居住地区							
	合計	刈谷南中学校区	刈谷東中学校区	富士松中学校区	雁が音中学校区	依佐美中学校区	朝日中学校区	無回答
全体	3,266	554	553	539	496	526	526	72
	100.0%	17.0%	16.9%	16.5%	15.2%	16.1%	16.1%	2.2%
市政評価	1,595	275	271	269	239	248	262	31
	100.0%	17.2%	17.0%	16.9%	15.0%	15.5%	16.4%	1.9%
現状把握	1,671	279	282	270	257	278	264	41
	100.0%	16.7%	16.9%	16.2%	15.4%	16.6%	15.8%	2.5%

(9) 居住年数

最も多いのは、「20年以上」で64.8%、次いで「10年以上20年未満」13.6%、「1年以上5年未満」10.4%の順となっています。



	設問9 居住年数							
	合計	半年未満	半年以上 1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上	無回答
全体	3,266	26	87	339	235	444	2,118	17
	100.0%	0.8%	2.7%	10.4%	7.2%	13.6%	64.8%	0.5%
市政評価	1,595	10	45	172	113	221	1,025	9
	100.0%	0.6%	2.8%	10.8%	7.1%	13.9%	64.3%	0.6%
現状把握	1,671	16	42	167	122	223	1,093	8
	100.0%	1.0%	2.5%	10.0%	7.3%	13.3%	65.4%	0.5%

2 - 2. 刈谷市の全体的な印象

市政評価、現状把握：設問10～14（共通）

(1) 住みやすさの評価

「総合的にみて、刈谷市は住みやすいところだと感じますか。」と尋ねたところ、「たいへん住みやすい」が29.6%、「どちらかといえば住みやすい」が55.1%、あわせて84.7%（男性83.1%、女性85.9%）が「住みやすい」と回答しています。

前回調査（平成30年度）と比べると、「住みやすい」と回答した割合（「たいへん住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計）は、2.5ポイント増加しています。

年齢別でみると、「住みやすい」と回答した割合は、30～39歳が87.5%で最も高く、70歳以上が81.9%で最も低くなっています。

中学校区別でみると、「住みやすい」と回答した割合は、富士松中学校区が77.9%と最も低い一方で、他の中学校区では80%を超えており、刈谷東中学校区が89.0%で最も高くなっています。

居住年数別では、「住みやすい」と回答した割合は、居住年数が長くなるほど割合が高くなっています。また、居住年数1年以上の回答者に限ってみると、20年以上が86.4%で最も高く、1年以上5年未満が82.0%で最も低くなっています。

居住意向別でみると、居住意向が高いほど「住みやすい」と回答した割合は高くなっており、「いつまでも住み続けたい」で95.5%、「当分住み続けたい」は85.7%となっています。

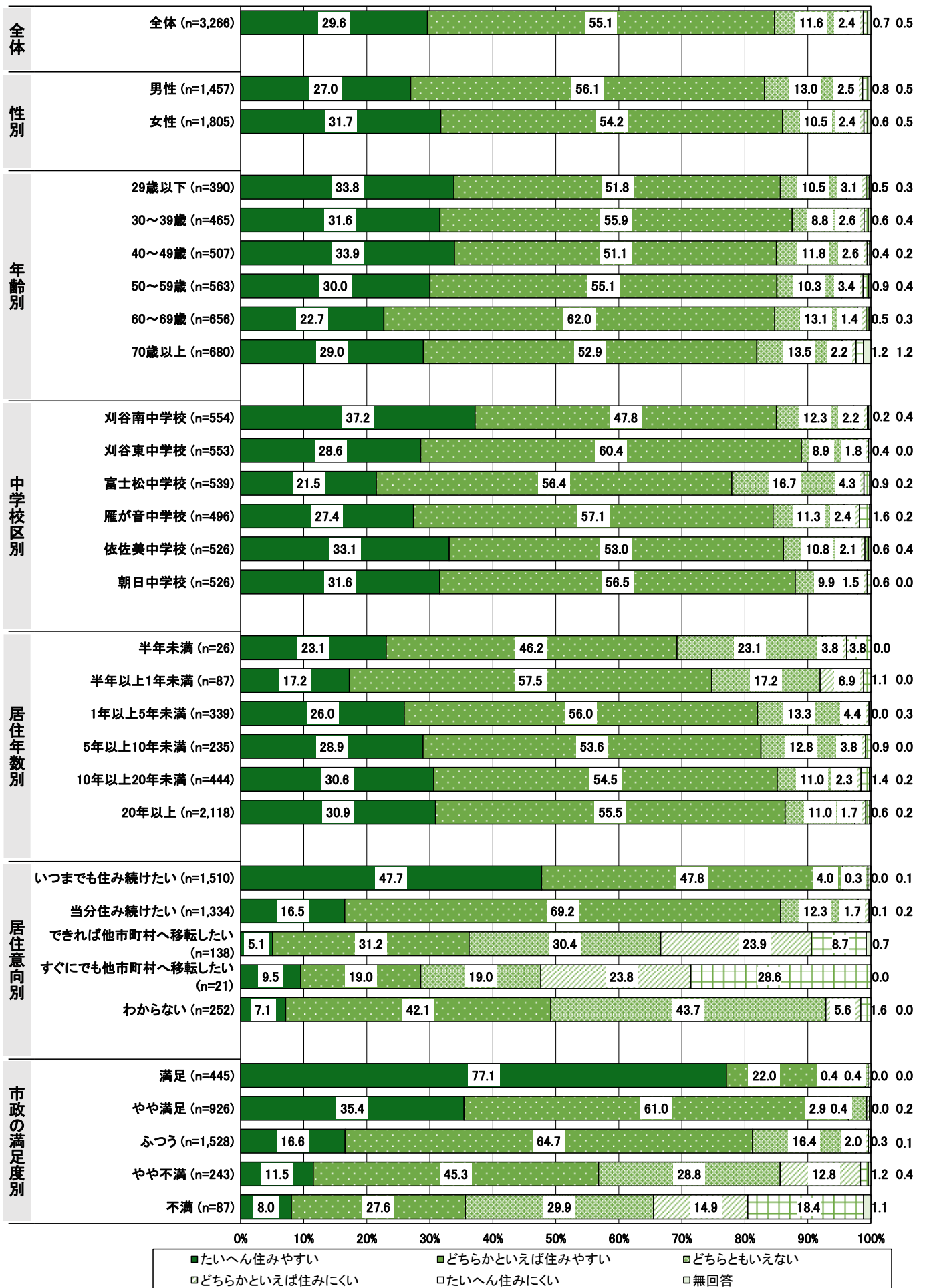
市政の満足度別では、満足度が高いほど「住みやすい」と回答した割合は高くなっており、「満足」では99.1%、「やや満足」では96.4%と、ともに95%を超えています。

	設問10 住みやすさ						
	合計	たいへん住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	たいへん住みにくい	無回答
全体	3,266	968	1,799	380	80	23	16
	100.0%	29.6%	55.1%	11.6%	2.4%	0.7%	0.5%
市政評価	1,595	462	890	178	43	13	9
	100.0%	29.0%	55.8%	11.2%	2.7%	0.8%	0.6%
現状把握	1,671	506	909	202	37	10	7
	100.0%	30.3%	54.4%	12.1%	2.2%	0.6%	0.4%

経年比較

（単位：％）

	平成										令和
	14年度	16年度	18年度	20年度	22年度	24年度	26年度	28年度	30年度	2年度	
住みやすい	73.9	76.5	78.6	80.5	82.5	84.5	82.4	82.4	82.2	84.7	
どちらともいえない	19.6	17.2	16.3	14.4	13.5	12.3	13.4	13.5	12.8	11.6	
住みにくい	5.6	5.7	4.4	4.0	3.4	2.6	3.2	3.5	4.1	3.1	



(2) これからの居住意向

「これからも刈谷市に住み続けたいと思いますか。」と尋ねたところ、「いつまでも住み続けたい」が46.2%、「当分住み続けたい」が40.8%、あわせて87.0%（男性84.8%、女性88.9%）が、これからも「住み続けたい」と回答しています。

前回調査（平成30年度）と比べると、「住み続けたい」と回答した割合（「いつまでも住み続けたい」と「当分住み続けたい」の合計）は、0.5ポイント増加しています。

年齢別でみると、年代が高いほど「住み続けたい」と回答した割合は概して高くなる傾向があり、最も低い29歳以下が75.1%であるのに対し、最も高い70歳以上では92.3%となっています。

中学校区別でみると、「住み続けたい」と回答した割合は、刈谷東中学校区が89.7%で最も高い一方で、富士松中学校区が85.7%で最も低くなっています。

居住年数別では、居住年数が長いほど「住み続けたい」と回答する割合は概して高くなっており、「住み続けたい」と回答した割合は、20年以上が91.5%で最も高くなっています。

住みやすさの評価別でみると、住みやすさの評価が高いほど、「住み続けたい」と回答する割合は高く、「たいへん住みやすい」では97.2%、「どちらかといえば住みやすい」でも91.4%と、ともに90%を超えています。

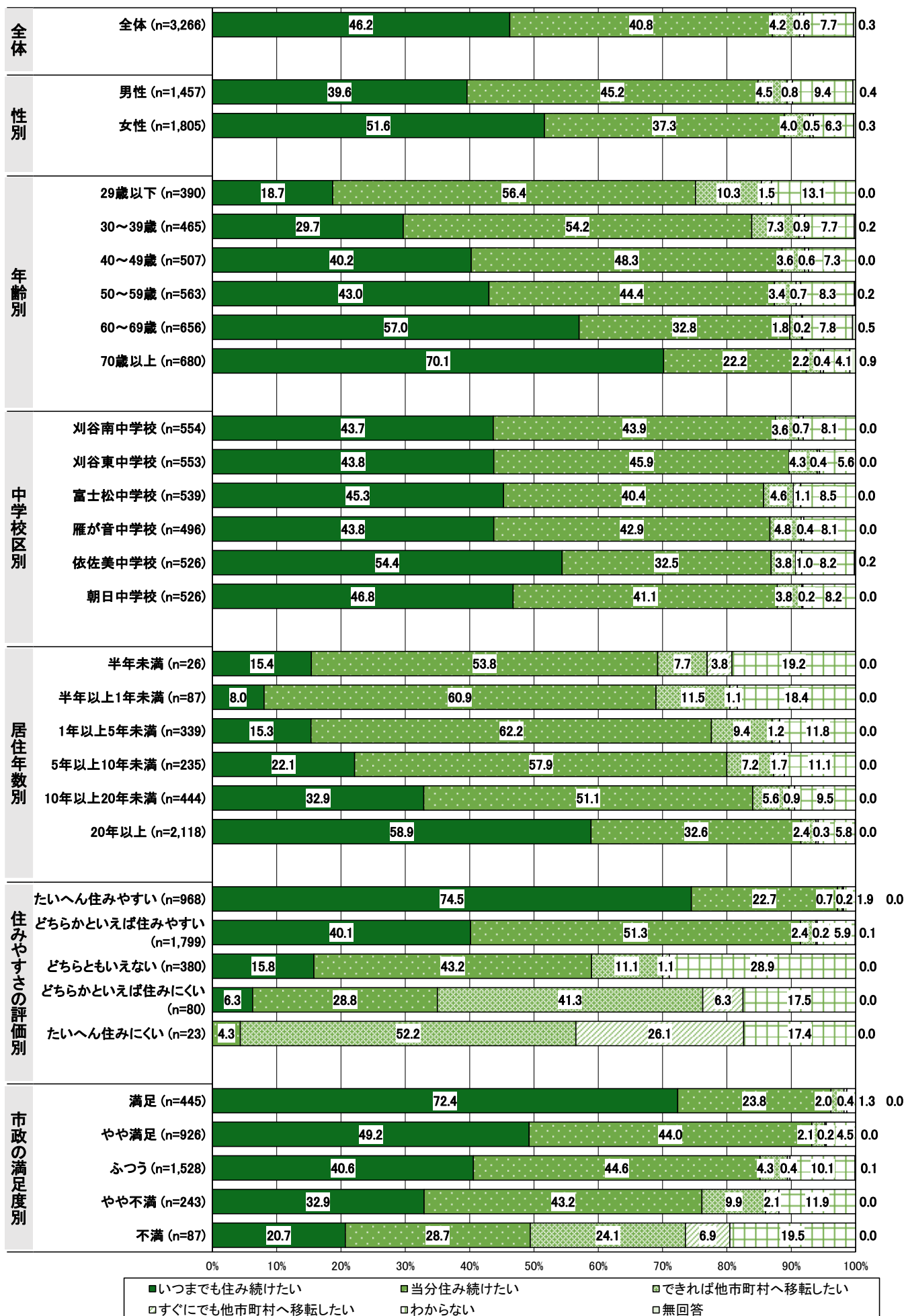
市政の満足度別でみると、市政への満足度が高いほど「住み続けたい」と回答する割合も高くなっており、「満足」では96.2%、「やや満足」でも93.2%と、ともに90%を超えています。

	設問11 刈谷市での居住意向						
	合計	いつまでも 住み 続けたい	当分住み 続けたい	できれば 他市町村へ 移転したい	すぐにでも 他市町村へ 移転したい	わからない	無回答
全体	3,266	1,510	1,334	138	21	252	11
	100.0%	46.2%	40.8%	4.2%	0.6%	7.7%	0.3%
市政評価	1,595	746	638	72	7	128	4
	100.0%	46.8%	40.0%	4.5%	0.4%	8.0%	0.3%
現状把握	1,671	764	696	66	14	124	7
	100.0%	45.7%	41.7%	3.9%	0.8%	7.4%	0.4%

経年比較

(単位：%)

	平成									令和
	14年度	16年度	18年度	20年度	22年度	24年度	26年度	28年度	30年度	2年度
住み続けたい	81.4	83.6	84.2	86.1	87.5	89.6	88.7	87.1	86.5	87.0
移転したい	6.6	6.0	5.6	5.7	4.3	3.2	3.1	3.3	3.7	4.2



■いつまでも住み続けたい ■当分住み続けたい □できれば他市町村へ移転したい
 □すぐにも他市町村へ移転したい □わからない □無回答

(3) 刈谷市の市政（まちづくり）についての満足度

「刈谷市の市政（まちづくり）について満足していますか。」と尋ねたところ、「満足」が13.6%、「やや満足」が28.4%、あわせて42.0%（男性41.9%、女性42.1%）が刈谷市の市政に満足しています。一方、「不満」は2.7%、「やや不満」は7.4%、あわせて10.1%（男性11.8%、女性8.7%）が不満と感じています。

前回調査（平成30年度）と比べると、「市政に満足」と回答した割合（「満足」と「やや満足」の合計）は0.7ポイント減少しています。

年齢別でみると、「市政に満足」と回答した割合は、29歳以下が49.5%で最も高く、60～69歳が34.4%で最も低くなっています。

中学校区別でみると、「市政に満足」と回答した割合は、刈谷南中学校区が46.4%と最も高く、富士松中学校区が37.8%で最も低くなっています。

居住年数別では、居住年数が1年以上の場合に限ってみると、「市政に満足」と回答した割合は、5年以上10年未満が49.4%で最も高く、20年以上が40.0%と最も低くなっています。

住みやすさの評価別でみると、住みやすさの評価が高いほど「市政に満足」と回答する割合は高くなっており、「たいへん住みやすい」では69.3%、「どちらかといえば住みやすい」は36.8%となっています。

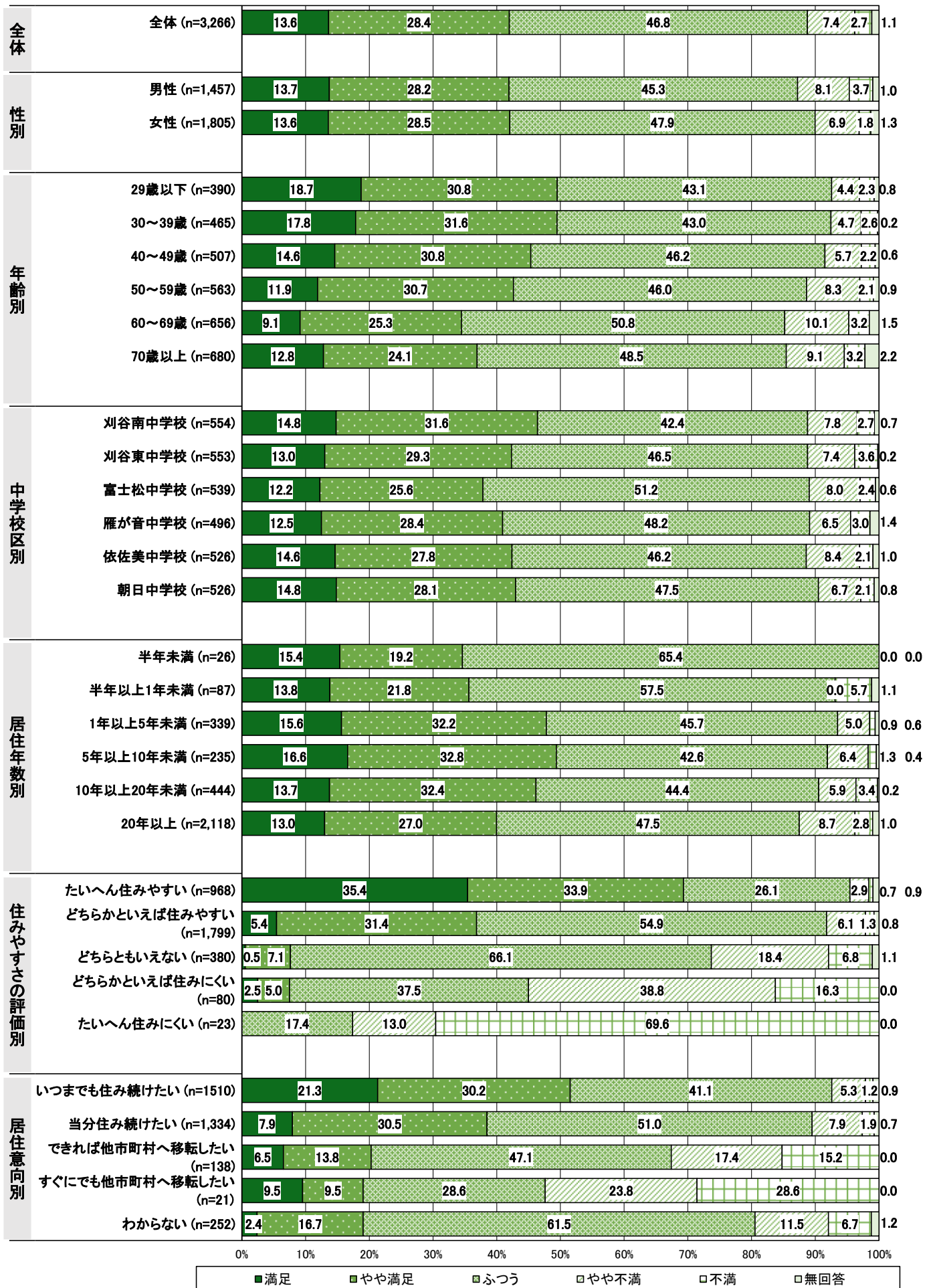
居住意向別でみると、「住み続けたい」と回答した市民は市政に対する満足度も高く、「いつまでも住み続けたい」は51.5%と半数を超え、「当分住み続けたい」は38.4%となっています。

	設問14 刈谷市の市政（まちづくり）についての満足度						
	合計	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答
全体	3,266	445	926	1,528	243	87	37
	100.0%	13.6%	28.4%	46.8%	7.4%	2.7%	1.1%
市政評価	1,595	223	438	741	118	53	22
	100.0%	14.0%	27.5%	46.5%	7.4%	3.3%	1.4%
現状把握	1,671	222	488	787	125	34	15
	100.0%	13.3%	29.2%	47.1%	7.5%	2.0%	0.9%

経年比較

（単位：％）

	平成								令和
	16年度	18年度	20年度	22年度	24年度	26年度	28年度	30年度	R2年度
満足、やや満足	34.6	36.1	39.8	41.8	45.1	44.2	44.7	42.7	42.0
ふつう	43.5	41.2	38.4	43.6	42.8	45.0	44.0	45.0	46.8
不満、やや不満	20.4	19.3	13.1	13.4	11.0	9.8	10.4	11.0	10.1



2 - 3. 市政に対する現状の評価と今後の期待

市政評価：設問 15～47

(1) 市政に対する現状の満足度と重要度

第7次総合計画の施策体系をもとに設定した33項目に対して、満足度と重要度の評価を次のとおり点数化しました。

表 満足度・重要度の算出方法

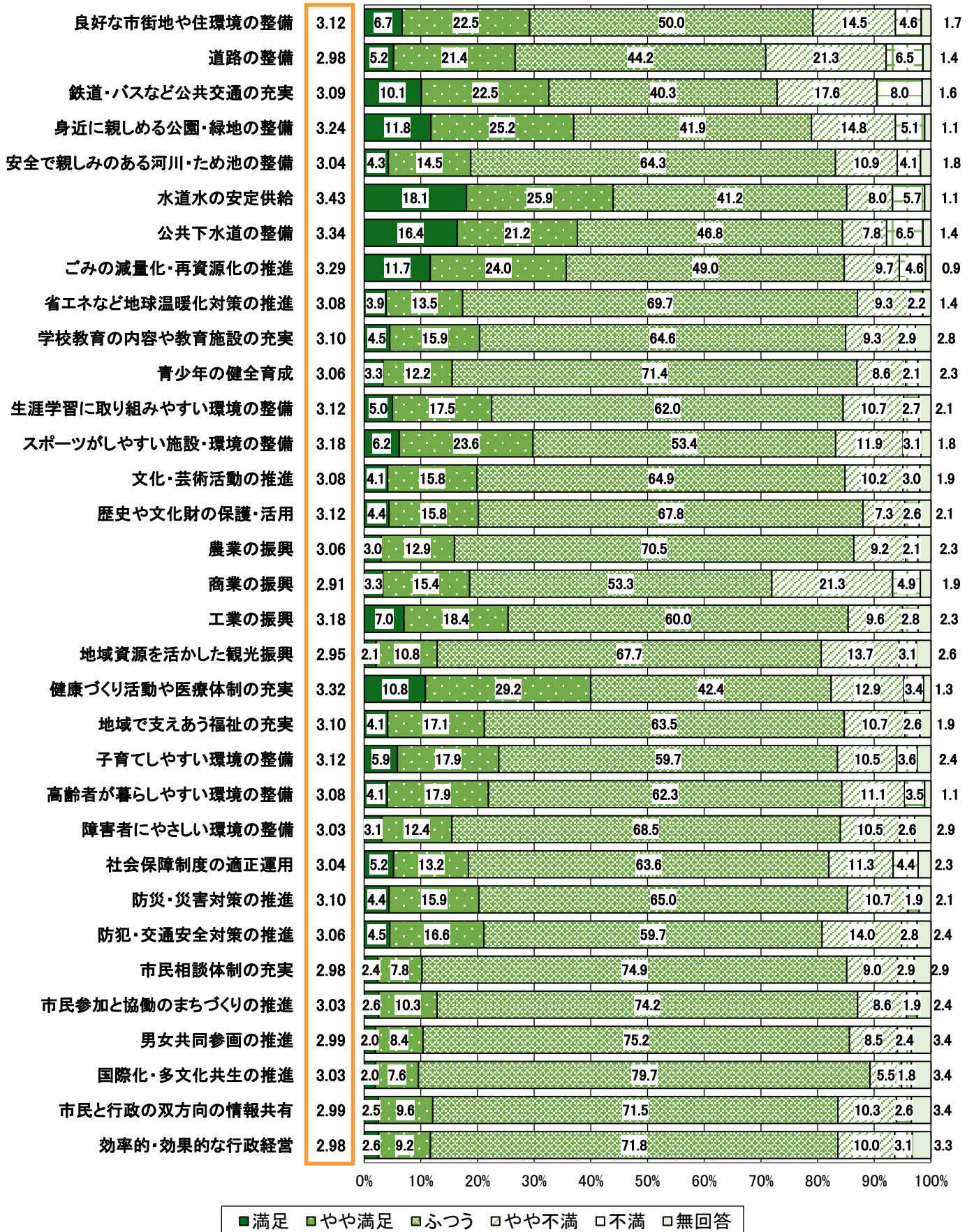
満足度	満足度の評価では、「満足」を5点、「やや満足」を4点、「ふつう」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とし、各回答の合計値を、無回答を除いた件数で除して、満足度の平均ポイントを算出します。 平均ポイントが5に近いほど満足度が高く、1に近いほど満足度が低く、不満であることを示します。
重要度	重要度の評価では、「高い」を5点、「やや高い」を4点、「ふつう」を3点、「やや低い」を2点、「低い」を1点とし、各回答の合計値を、無回答を除いた件数で除して、重要度の平均ポイントを算出します。 平均ポイントが5に近いほど重要度が高く、1に近いほど重要度が低いことを示します。

①市政に対する現状の満足度評価

図 市政に対する現状の満足度評価

平均ポイント

(n=1,595)

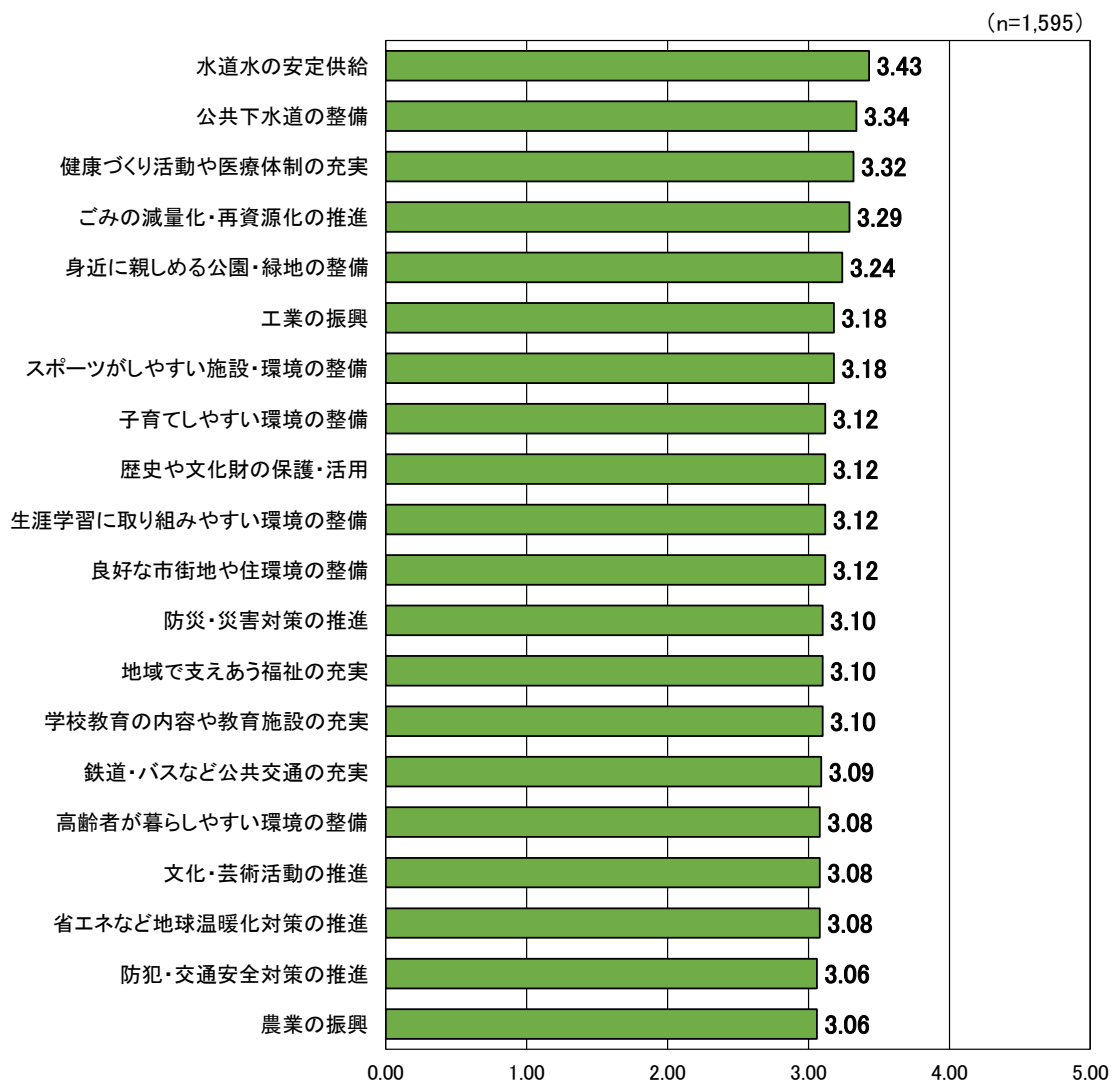


満足度の平均ポイントの上位項目は、次のようになっています。

表 満足度平均ポイント 上位項目

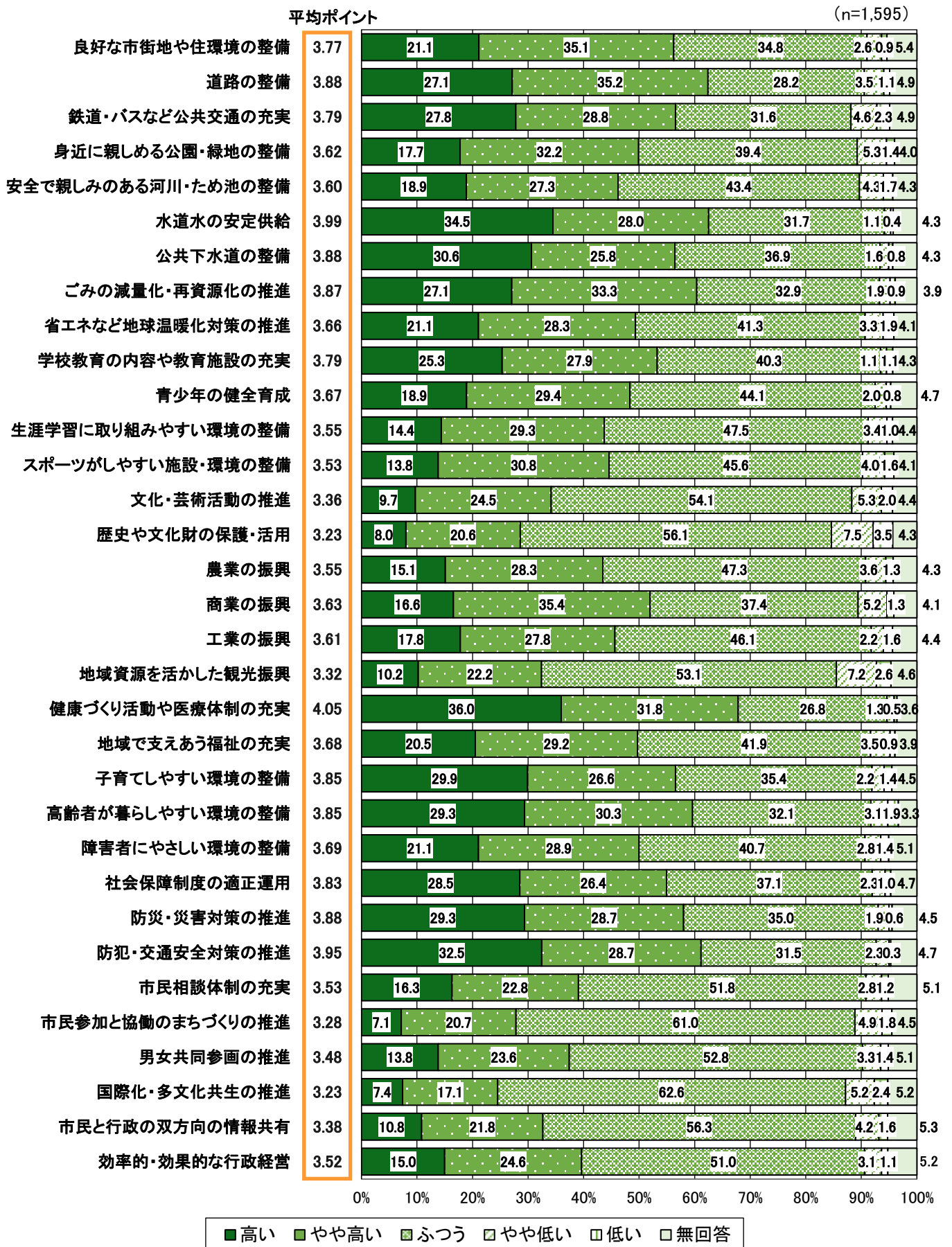
順位	項目	平均ポイント
1位	水道水の安定供給	3.43
2位	公共下水道の整備	3.34
3位	健康づくり活動や医療体制の充実	3.32
4位	ごみの減量化・再資源化の推進	3.29
5位	身近に親しめる公園・緑地の整備	3.24

図 満足度平均ポイント 上位20項目



②市政に対する現状の重要度評価

図 市政に対する現状の重要度評価

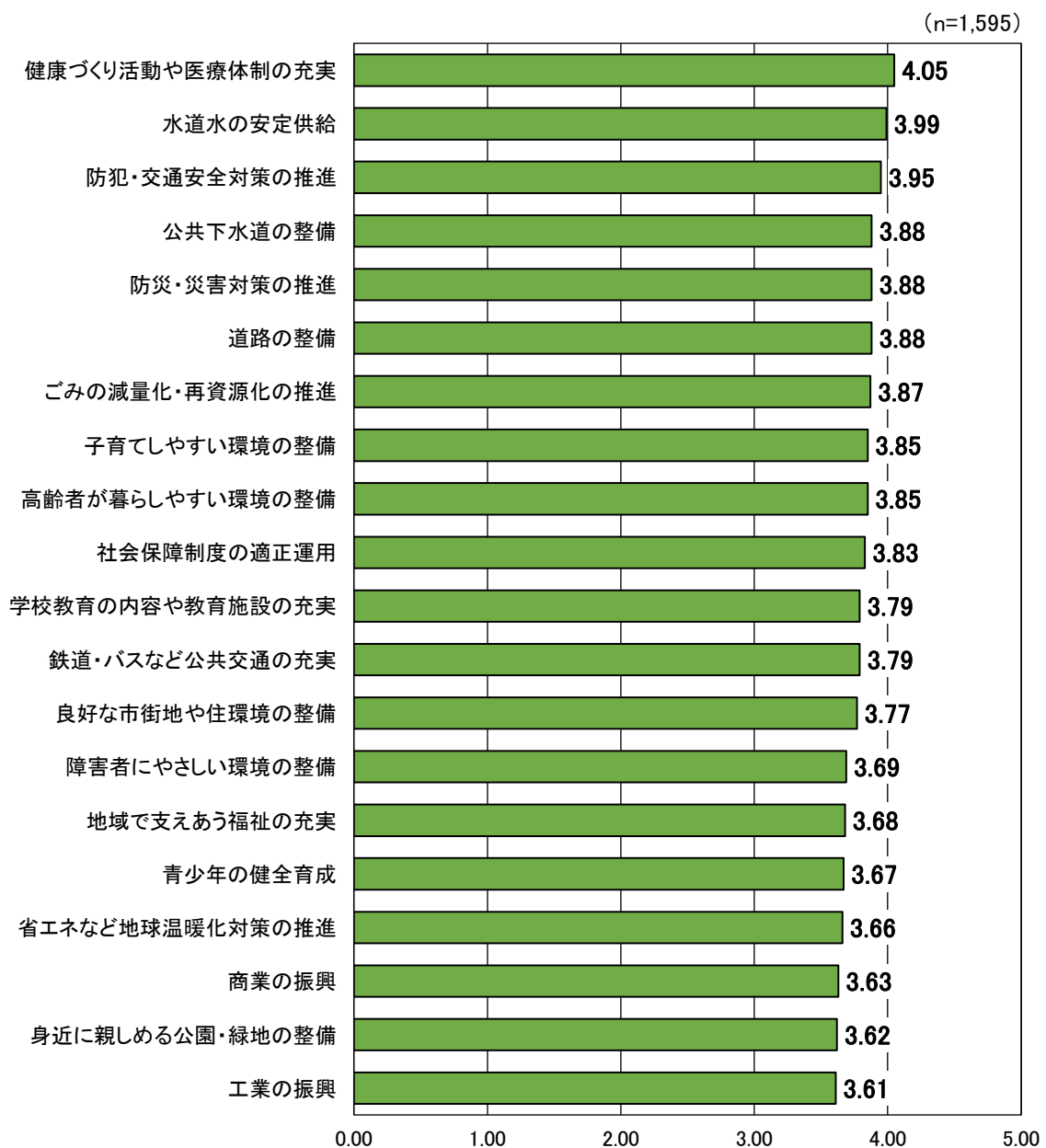


重要度の平均ポイントの上位項目は、次のようになっています。

表 重要度平均ポイント 上位項目

順位	項目	平均ポイント
1位	健康づくり活動や医療体制の充実	4.05
2位	水道水の安定供給	3.99
3位	防犯・交通安全対策の推進	3.95
4位	公共下水道の整備 防災・災害対策の推進 道路の整備	3.88

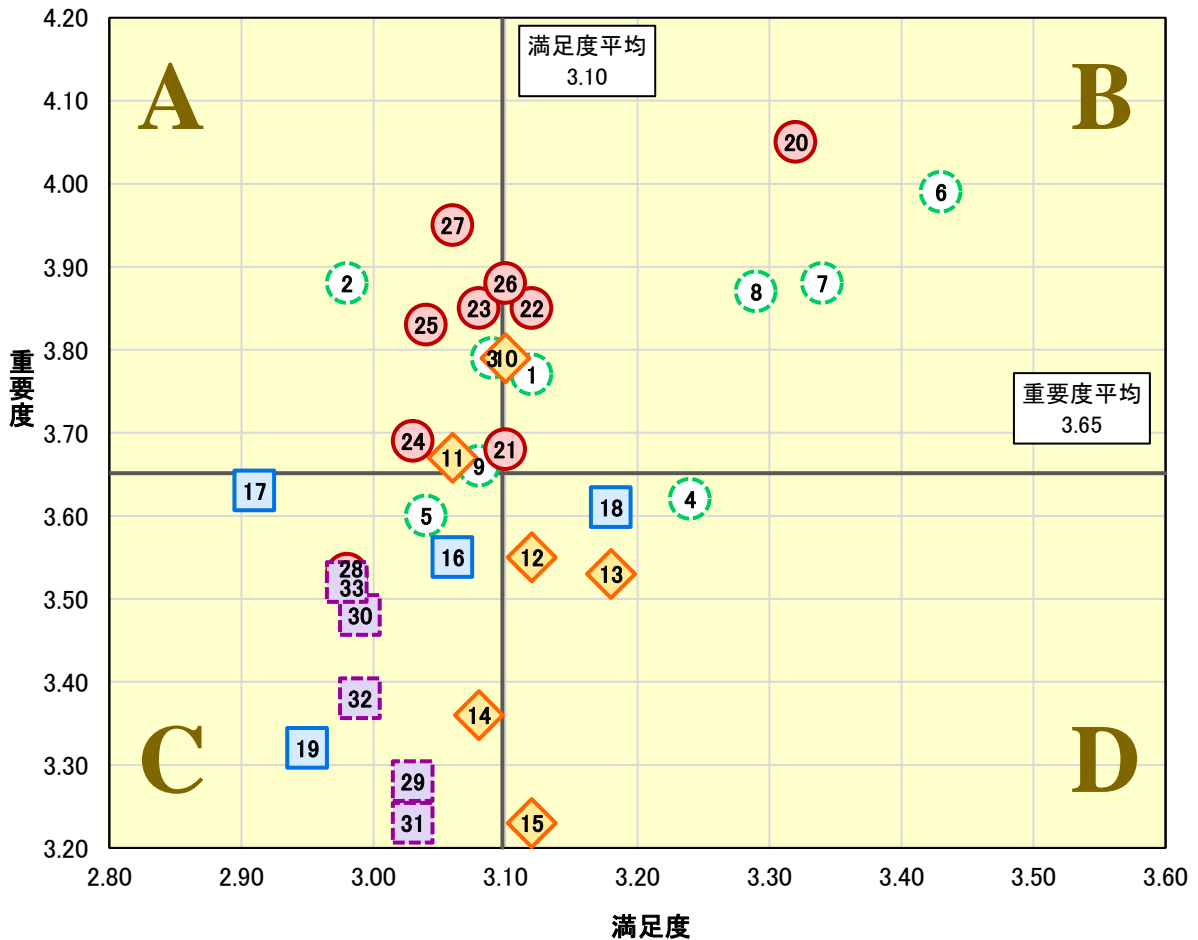
図 重要度平均ポイント 上位20項目



③満足度・重要度の平均ポイント

満足度を横軸、重要度を縦軸としてグラフ化した図を用いて分析すると、満足度が低く重要度が高い施策（Aの領域）として、「27 防犯・交通安全対策の推進」、「2 道路の整備」や「23 高齢者が暮らしやすい環境の整備」をはじめとする8項目があげられています。

図 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図



分野	番号	項目
都市環境	1	良好な市街地や住環境の整備
	2	道路の整備
	3	鉄道・バスなど公共交通の充実
	4	身近に親しめる公園・緑地の整備
	5	安全で親しみのある河川・ため池の整備
	6	水道水の安定供給
	7	公共下水道の整備
	8	ごみの減量化・再資源化の推進
	9	省エネなど地球温暖化対策の推進
教育文化	10	学校教育の内容や教育施設の充実
	11	青少年の健全育成
	12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備
	13	スポーツがしやすい施設・環境の整備
	14	文化・芸術活動の推進
	15	歴史や文化財の保護・活用

分野	番号	項目
産業振興	16	農業の振興
	17	商業の振興
	18	工業の振興
	19	地域資源を活かした観光振興
福祉安全	20	健康づくり活動や医療体制の充実
	21	地域で支えあう福祉の充実
	22	子育てしやすい環境の整備
	23	高齢者が暮らしやすい環境の整備
	24	障害者にやさしい環境の整備
	25	社会保障制度の適正運用
	26	防災・災害対策の推進
	27	防犯・交通安全対策の推進
	28	市民相談体制の充実
計画推進	29	市民参加と協働のまちづくりの推進
	30	男女共同参画の推進
	31	国際化・多文化共生の推進
	32	市民と行政の双方向の情報共有
	33	効率的・効果的な行政経営

表 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図での位置（散布図位置別、重要度順）

番号	項目	満足度	重要度	散布図での位置
	平均値	3.10	3.65	-
27	防犯・交通安全対策の推進	3.06	3.95	A
2	道路の整備	2.98	3.88	A
23	高齢者が暮らしやすい環境の整備	3.08	3.85	A
25	社会保障制度の適正運用	3.04	3.83	A
3	鉄道・バスなど公共交通の充実	3.09	3.79	A
24	障害者にやさしい環境の整備	3.03	3.69	A
11	青少年の健全育成	3.06	3.67	A
9	省エネなど地球温暖化対策の推進	3.08	3.66	A
20	健康づくり活動や医療体制の充実	3.32	4.05	B
6	水道水の安定供給	3.43	3.99	B
7	公共下水道の整備	3.34	3.88	B
26	防災・災害対策の推進	3.10	3.88	B
8	ごみの減量化・再資源化の推進	3.29	3.87	B
22	子育てしやすい環境の整備	3.12	3.85	B
10	学校教育の内容や教育施設の充実	3.10	3.79	B
1	良好な市街地や住環境の整備	3.12	3.77	B
21	地域で支えあう福祉の充実	3.10	3.68	B
17	商業の振興	2.91	3.63	C
5	安全で親しみのある河川・ため池の整備	3.04	3.60	C
16	農業の振興	3.06	3.55	C
28	市民相談体制の充実	2.98	3.53	C
33	効率的・効果的な行政経営	2.98	3.52	C
30	男女共同参画の推進	2.99	3.48	C
32	市民と行政の双方向の情報共有	2.99	3.38	C
14	文化・芸術活動の推進	3.08	3.36	C
19	地域資源を活かした観光振興	2.95	3.32	C
29	市民参加と協働のまちづくりの推進	3.03	3.28	C
31	国際化・多文化共生の推進	3.03	3.23	C
4	身近に親しめる公園・緑地の整備	3.24	3.62	D
18	工業の振興	3.18	3.61	D
12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備	3.12	3.55	D
13	スポーツがしやすい施設・環境の整備	3.18	3.53	D
15	歴史や文化財の保護・活用	3.12	3.23	D

④ニーズ得点

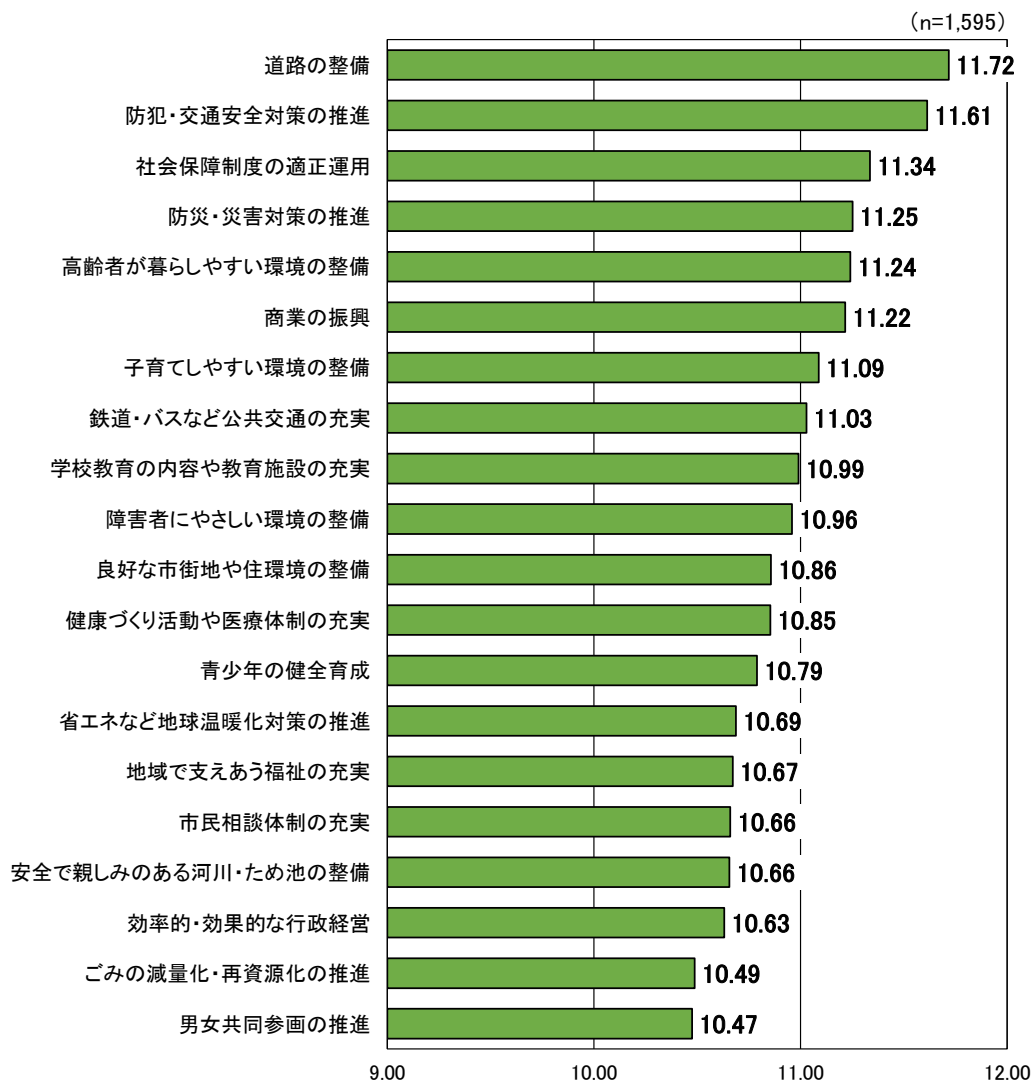
満足度と重要度から「ニーズ得点」を算出し、施策に対する市民のニーズについて分析します。ニーズ得点とは、重要度が高いほど、かつ満足度が低いほど、点数が高くなる指標であり、重要度得点と満足度得点を算出した上で、次のとおりニーズ得点を設定しています。

$$\text{ニーズ得点} = \text{重要度得点} \times (6 - \text{満足度得点})$$

表 ニーズ得点 上位5項目

順位	項目	ニーズ得点
1位	道路の整備	11.72
2位	防犯・交通安全対策の推進	11.61
3位	社会保障制度の適正運用	11.34
4位	防災・災害対策の推進	11.25
5位	高齢者が暮らしやすい環境の整備	11.24

図 ニーズ得点 上位20項目



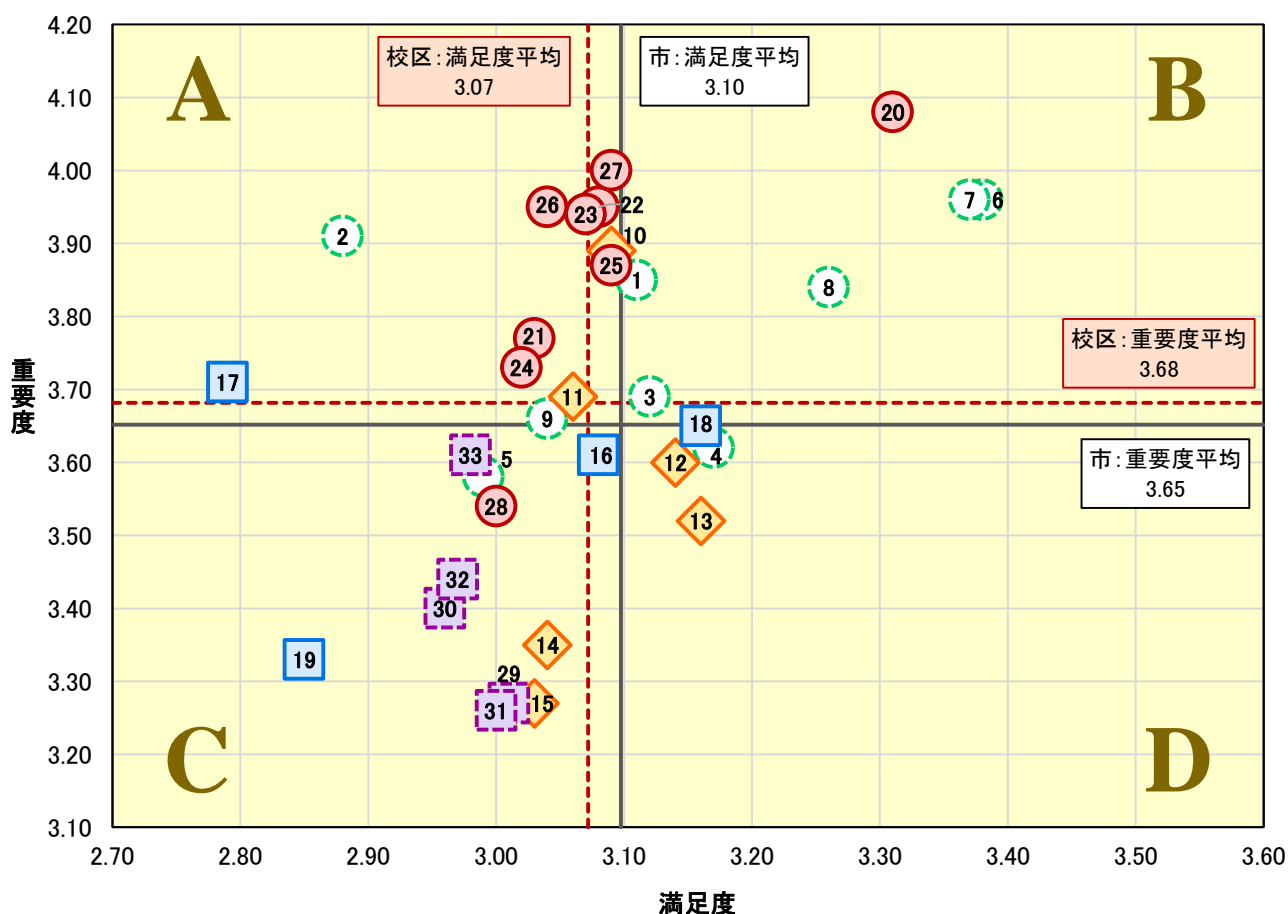
(2) 市政に対する現状の満足度と重要度（中学校区別）

① 刈谷南中学校区

市全体の平均と比較すると、満足度平均はやや低く、重要度平均はやや高くなっています。

満足度が低く重要度が高い施策（Aの領域）として、「26 防災・災害対策の推進」、「23 高齢者が暮らしやすい環境の整備」、「2 道路の整備」、「2 道路の整備」、「21 地域で支えあう福祉の充実」をはじめとする7項目があげられています。

図 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図



分野	番号	項目
都市環境	1	良好な市街地や住環境の整備
	2	道路の整備
	3	鉄道・バスなど公共交通の充実
	4	身近に親しめる公園・緑地の整備
	5	安全で親しみのある河川・ため池の整備
	6	水道水の安定供給
	7	公共下水道の整備
	8	ごみの減量化・再資源化の推進
	9	省エネなど地球温暖化対策の推進
教育文化	10	学校教育の内容や教育施設の充実
	11	青少年の健全育成
	12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備
	13	スポーツがしやすい施設・環境の整備
	14	文化・芸術活動の推進
	15	歴史や文化財の保護・活用

分野	番号	項目
産業振興	16	農業の振興
	17	商業の振興
	18	工業の振興
	19	地域資源を活かした観光振興
福祉安全	20	健康づくり活動や医療体制の充実
	21	地域で支えあう福祉の充実
	22	子育てしやすい環境の整備
	23	高齢者が暮らしやすい環境の整備
	24	障害者にやさしい環境の整備
	25	社会保障制度の適正運用
	26	防災・災害対策の推進
	27	防犯・交通安全対策の推進
	28	市民相談体制の充実
計画推進	29	市民参加と協働のまちづくりの推進
	30	男女共同参画の推進
	31	国際化・多文化共生の推進
	32	市民と行政の双方向の情報共有
	33	効率的・効果的な行政経営

図 満足度・重要度の平均ポイントによる全体平均値との比較

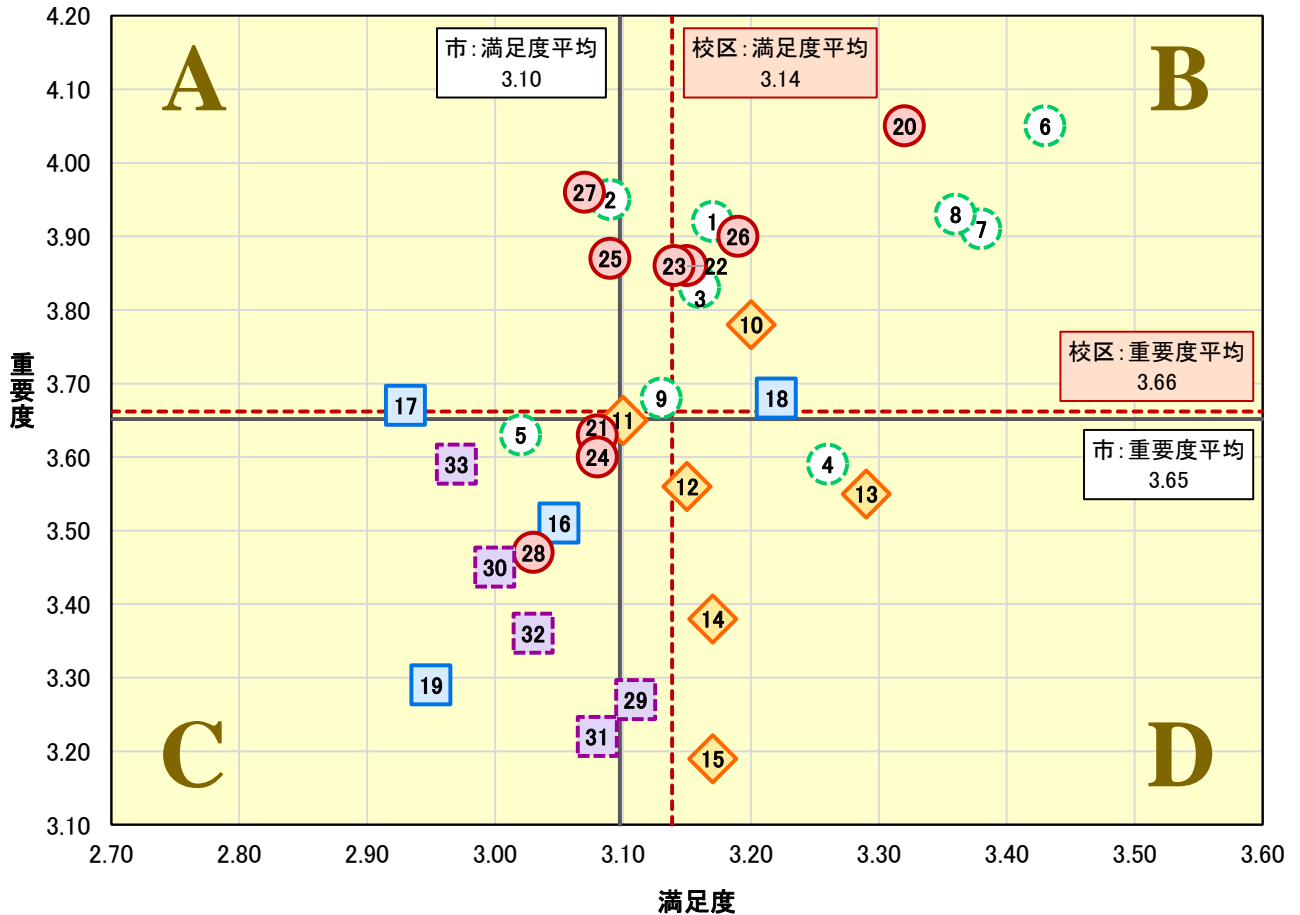


②刈谷東中学校区

市全体の平均と比較すると、満足度平均はやや高く、重要度平均は同水準となっています。

満足度が低く重要度が高い施策（Aの領域）として、「27 防犯・交通安全対策の推進」、「2 道路の整備」、「25 社会保障制度の適正運用」をはじめとする4項目があげられています。

図 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図



分野	番号	項目
都市環境	1	良好な市街地や住環境の整備
	2	道路の整備
	3	鉄道・バスなど公共交通の充実
	4	身近に親しめる公園・緑地の整備
	5	安全で親しみのある河川・ため池の整備
	6	水道水の安定供給
	7	公共下水道の整備
	8	ごみの減量化・再資源化の推進
	9	省エネなど地球温暖化対策の推進
教育文化	10	学校教育の内容や教育施設の充実
	11	青少年の健全育成
	12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備
	13	スポーツがしやすい施設・環境の整備
	14	文化・芸術活動の推進
	15	歴史や文化財の保護・活用

分野	番号	項目
産業振興	16	農業の振興
	17	商業の振興
	18	工業の振興
	19	地域資源を活かした観光振興
福祉安全	20	健康づくり活動や医療体制の充実
	21	地域で支えあう福祉の充実
	22	子育てしやすい環境の整備
	23	高齢者が暮らしやすい環境の整備
	24	障害者にやさしい環境の整備
	25	社会保障制度の適正運用
	26	防災・災害対策の推進
	27	防犯・交通安全対策の推進
	28	市民相談体制の充実
計画推進	29	市民参加と協働のまちづくりの推進
	30	男女共同参画の推進
	31	国際化・多文化共生の推進
	32	市民と行政の双方向の情報共有
	33	効率的・効果的な行政経営

図 満足度・重要度の平均ポイントによる全体平均値との比較

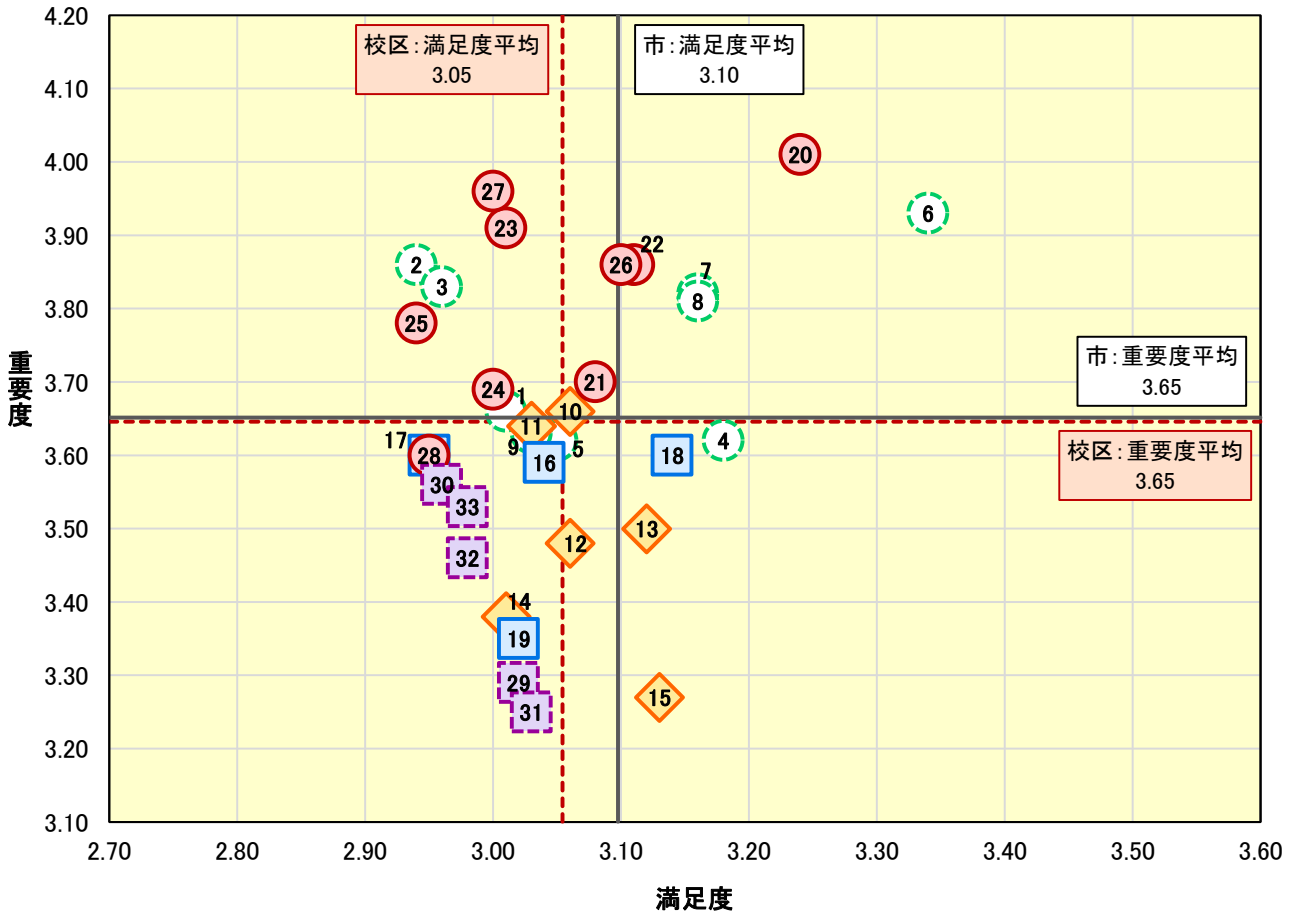


③富士松中学校区

全体平均と比較すると、満足度平均は低く、重要度平均は同水準となっています。

満足度が低く重要度が高い施策（Aの領域）として、「27 防犯・交通安全対策の推進」、「23 高齢者が暮らしやすい環境の整備」、「2 道路の整備」、「3 鉄道・バスなど公共交通の充実」をはじめとする7項目があげられています。

図 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図



分野	番号	項目
都市環境	1	良好な市街地や住環境の整備
	2	道路の整備
	3	鉄道・バスなど公共交通の充実
	4	身近に親しめる公園・緑地の整備
	5	安全で親しみのある河川・ため池の整備
	6	水道水の安定供給
	7	公共下水道の整備
	8	ごみの減量化・再資源化の推進
	9	省エネなど地球温暖化対策の推進
教育文化	10	学校教育の内容や教育施設の充実
	11	青少年の健全育成
	12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備
	13	スポーツがしやすい施設・環境の整備
	14	文化・芸術活動の推進
	15	歴史や文化財の保護・活用

分野	番号	項目
産業振興	16	農業の振興
	17	商業の振興
	18	工業の振興
	19	地域資源を活かした観光振興
福祉安全	20	健康づくり活動や医療体制の充実
	21	地域で支えあう福祉の充実
	22	子育てしやすい環境の整備
	23	高齢者が暮らしやすい環境の整備
	24	障害者にやさしい環境の整備
	25	社会保障制度の適正運用
	26	防災・災害対策の推進
	27	防犯・交通安全対策の推進
	28	市民相談体制の充実
計画推進	29	市民参加と協働のまちづくりの推進
	30	男女共同参画の推進
	31	国際化・多文化共生の推進
	32	市民と行政の双方向の情報共有
	33	効率的・効果的な行政経営

図 満足度・重要度の平均ポイントによる全体平均値との比較

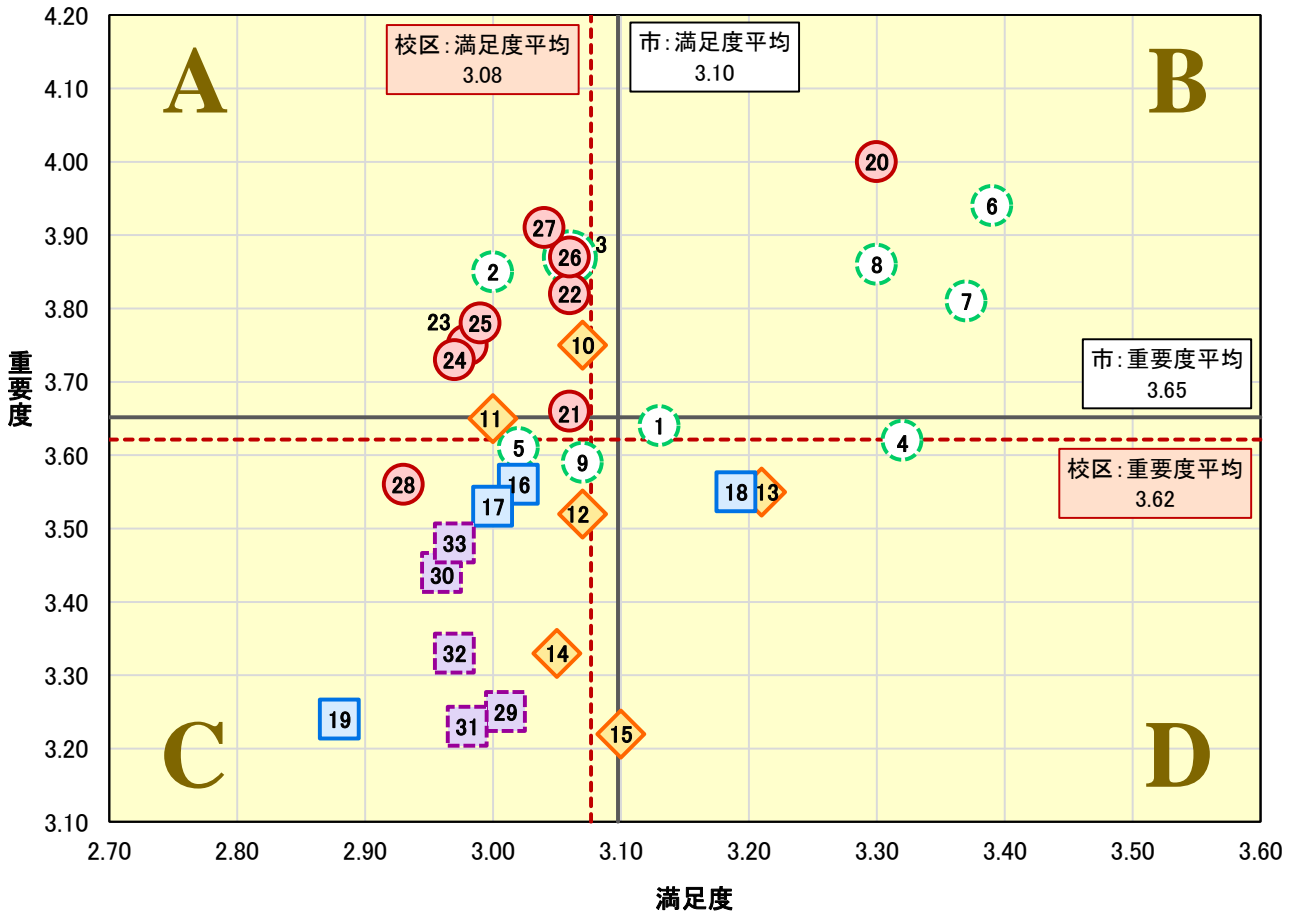


④雁が音中学校区

全体平均と比較すると、満足度平均、重要度平均ともにやや低くなっています。

満足度が低く重要度が高い施策（Aの領域）として、「27 防犯・交通安全対策の推進」、「26 防災・災害対策の推進」、「3 鉄道・バスなどの公共交通の充実」、「2 道路の整備」をはじめとする11項目があげられています。

図 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図



分野	番号	項目
都市環境	1	良好な市街地や住環境の整備
	2	道路の整備
	3	鉄道・バスなど公共交通の充実
	4	身近に親しめる公園・緑地の整備
	5	安全で親しみのある河川・ため池の整備
	6	水道水の安定供給
	7	公共下水道の整備
	8	ごみの減量化・再資源化の推進
	9	省エネなど地球温暖化対策の推進
教育文化	10	学校教育の内容や教育施設の充実
	11	青少年の健全育成
	12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備
	13	スポーツがしやすい施設・環境の整備
	14	文化・芸術活動の推進
	15	歴史や文化財の保護・活用

分野	番号	項目
産業振興	16	農業の振興
	17	商業の振興
	18	工業の振興
	19	地域資源を活かした観光振興
福祉安全	20	健康づくり活動や医療体制の充実
	21	地域で支えあう福祉の充実
	22	子育てしやすい環境の整備
	23	高齢者が暮らしやすい環境の整備
	24	障害者にやさしい環境の整備
	25	社会保障制度の適正運用
	26	防災・災害対策の推進
	27	防犯・交通安全対策の推進
	28	市民相談体制の充実
計画推進	29	市民参加と協働のまちづくりの推進
	30	男女共同参画の推進
	31	国際化・多文化共生の推進
	32	市民と行政の双方向の情報共有
	33	効率的・効果的な行政経営

図 満足度・重要度の平均ポイントによる全体平均値との比較

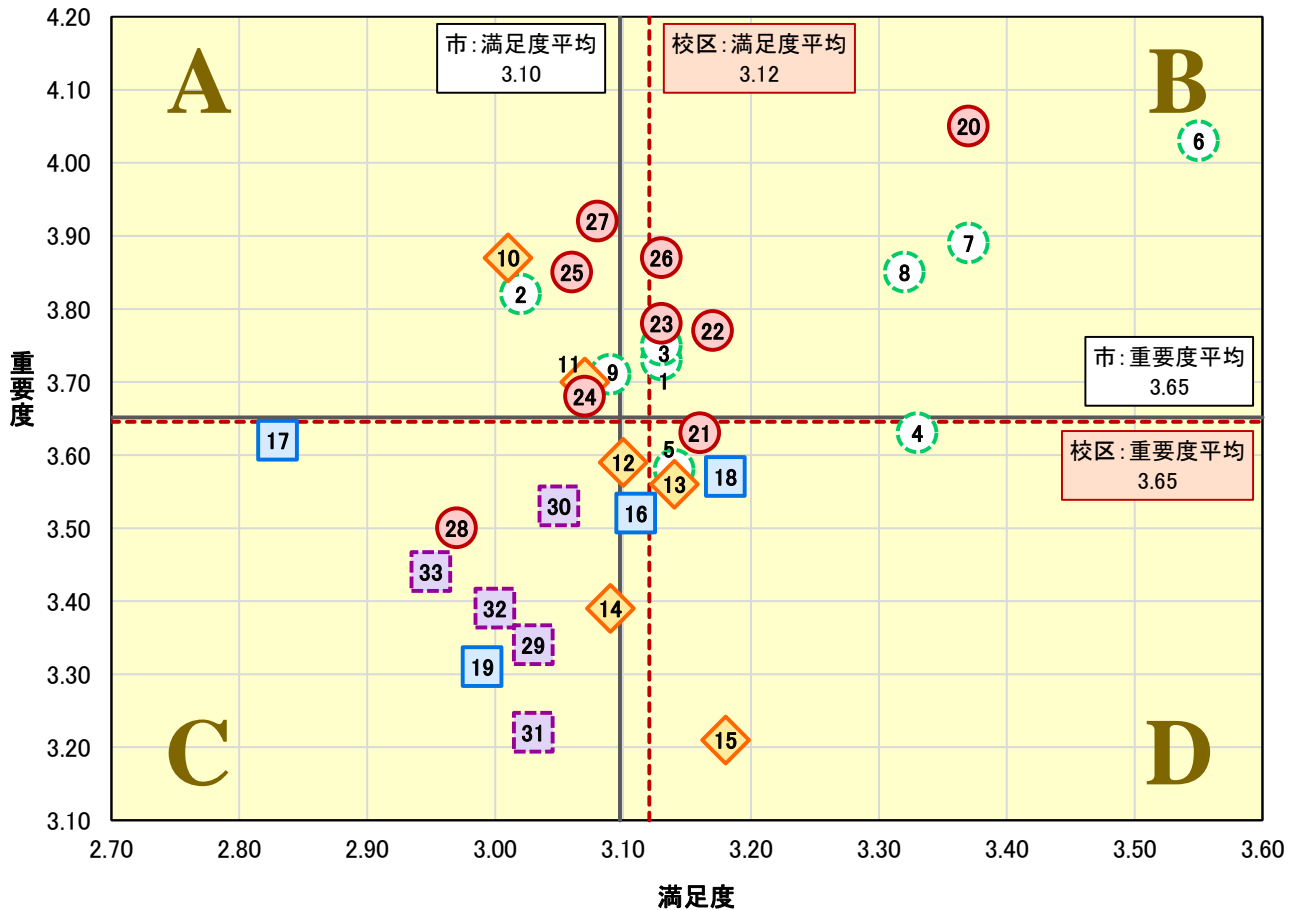


⑤依佐美中学校区

全体平均と比較して、満足度平均はやや高く、重要度平均は同水準となっています。

満足度が低く重要度が高い施策（Aの領域）として、「27 防犯・交通安全対策の推進」、「10 学校教育の内容や教育施設の充実」、「25 社会保障制度の適正運用」、「2 道路の整備」をはじめとした7項目があげられています。

図 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図



分野	番号	項目
都市環境	1	良好な市街地や住環境の整備
	2	道路の整備
	3	鉄道・バスなど公共交通の充実
	4	身近に親しめる公園・緑地の整備
	5	安全で親しみのある河川・ため池の整備
	6	水道水の安定供給
	7	公共下水道の整備
	8	ごみの減量化・再資源化の推進
	9	省エネなど地球温暖化対策の推進
教育文化	10	学校教育の内容や教育施設の充実
	11	青少年の健全育成
	12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備
	13	スポーツがしやすい施設・環境の整備
	14	文化・芸術活動の推進
	15	歴史や文化財の保護・活用

分野	番号	項目
産業振興	16	農業の振興
	17	商業の振興
	18	工業の振興
	19	地域資源を活かした観光振興
福祉安全	20	健康づくり活動や医療体制の充実
	21	地域で支えあう福祉の充実
	22	子育てしやすい環境の整備
	23	高齢者が暮らしやすい環境の整備
	24	障害者にやさしい環境の整備
	25	社会保障制度の適正運用
	26	防災・災害対策の推進
	27	防犯・交通安全対策の推進
	28	市民相談体制の充実
計画推進	29	市民参加と協働のまちづくりの推進
	30	男女共同参画の推進
	31	国際化・多文化共生の推進
	32	市民と行政の双方向の情報共有
	33	効率的・効果的な行政経営

図 満足度・重要度の平均ポイントによる全体平均値との比較

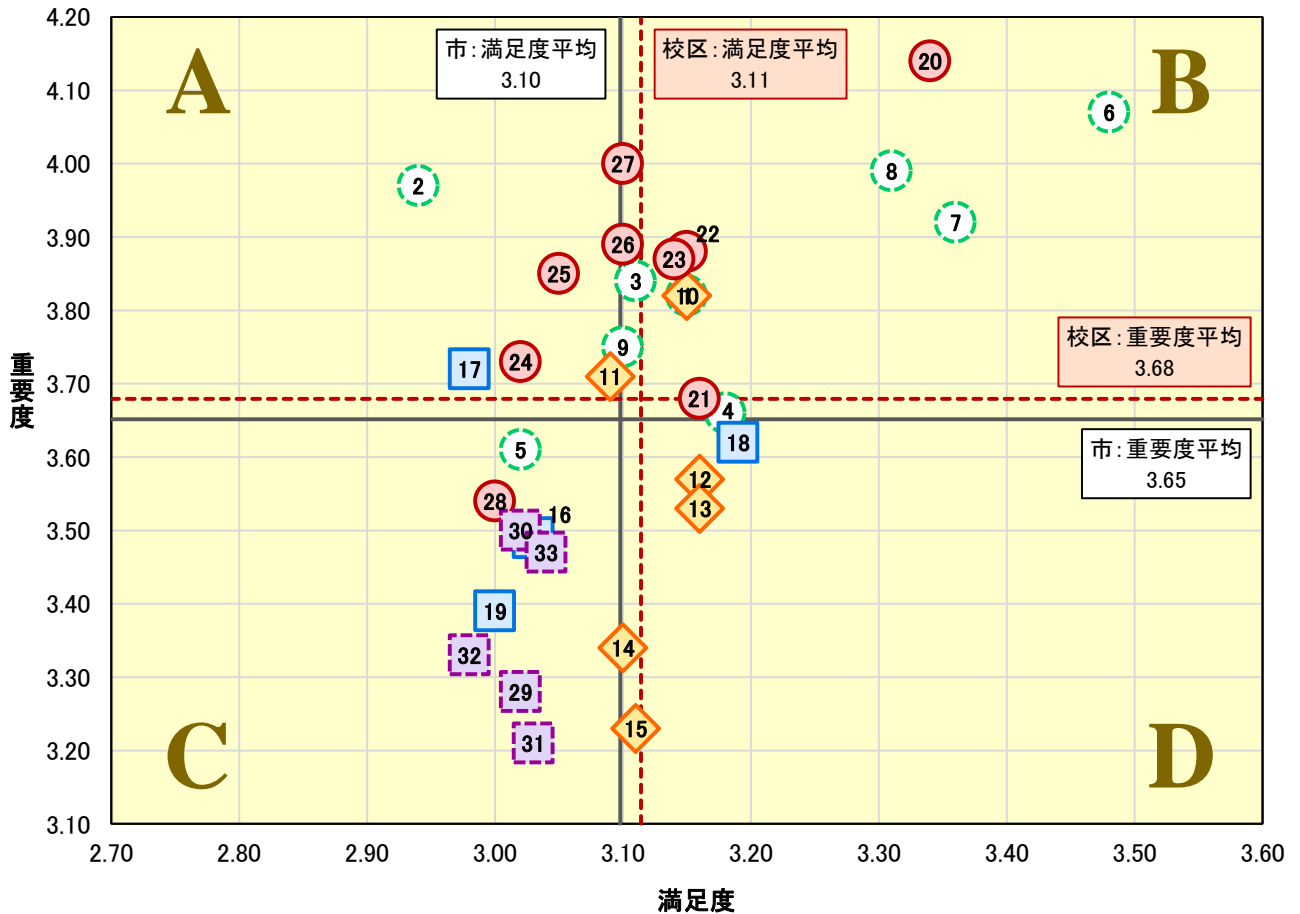


⑥朝日中学校区

全体平均と比較して、満足度平均はほぼ同水準、重要度はやや高くなっています。

満足度が低く重要度が高い施策（Aの領域）として、「27 防犯・交通安全対策の推進」、「2 道路の整備」、「26 防災・災害対策の推進」、「25 社会保障の適正運用」をはじめとした9項目があげられています。

図 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図



分野	番号	項目
都市環境	1	良好な市街地や住環境の整備
	2	道路の整備
	3	鉄道・バスなど公共交通の充実
	4	身近に親しめる公園・緑地の整備
	5	安全で親しみのある河川・ため池の整備
	6	水道水の安定供給
	7	公共下水道の整備
	8	ごみの減量化・再資源化の推進
	9	省エネなど地球温暖化対策の推進
教育文化	10	学校教育の内容や教育施設の充実
	11	青少年の健全育成
	12	生涯学習に取り組みやすい環境の整備
	13	スポーツがしやすい施設・環境の整備
	14	文化・芸術活動の推進
	15	歴史や文化財の保護・活用

分野	番号	項目
産業振興	16	農業の振興
	17	商業の振興
	18	工業の振興
	19	地域資源を活かした観光振興
	20	健康づくり活動や医療体制の充実
福祉安全	21	地域で支えあう福祉の充実
	22	子育てしやすい環境の整備
	23	高齢者が暮らしやすい環境の整備
	24	障害者にやさしい環境の整備
	25	社会保障制度の適正運用
	26	防災・災害対策の推進
	27	防犯・交通安全対策の推進
	28	市民相談体制の充実
計画推進	29	市民参加と協働のまちづくりの推進
	30	男女共同参画の推進
	31	国際化・多文化共生の推進
	32	市民と行政の双方向の情報共有
	33	効率的・効果的な行政経営

図 満足度・重要度の平均ポイントによる全体平均値との比較



2 - 4. 市民の暮らしの現状など

現状把握：設問 15～38

図 普段の生活について（設問 15～29） 調査結果比較

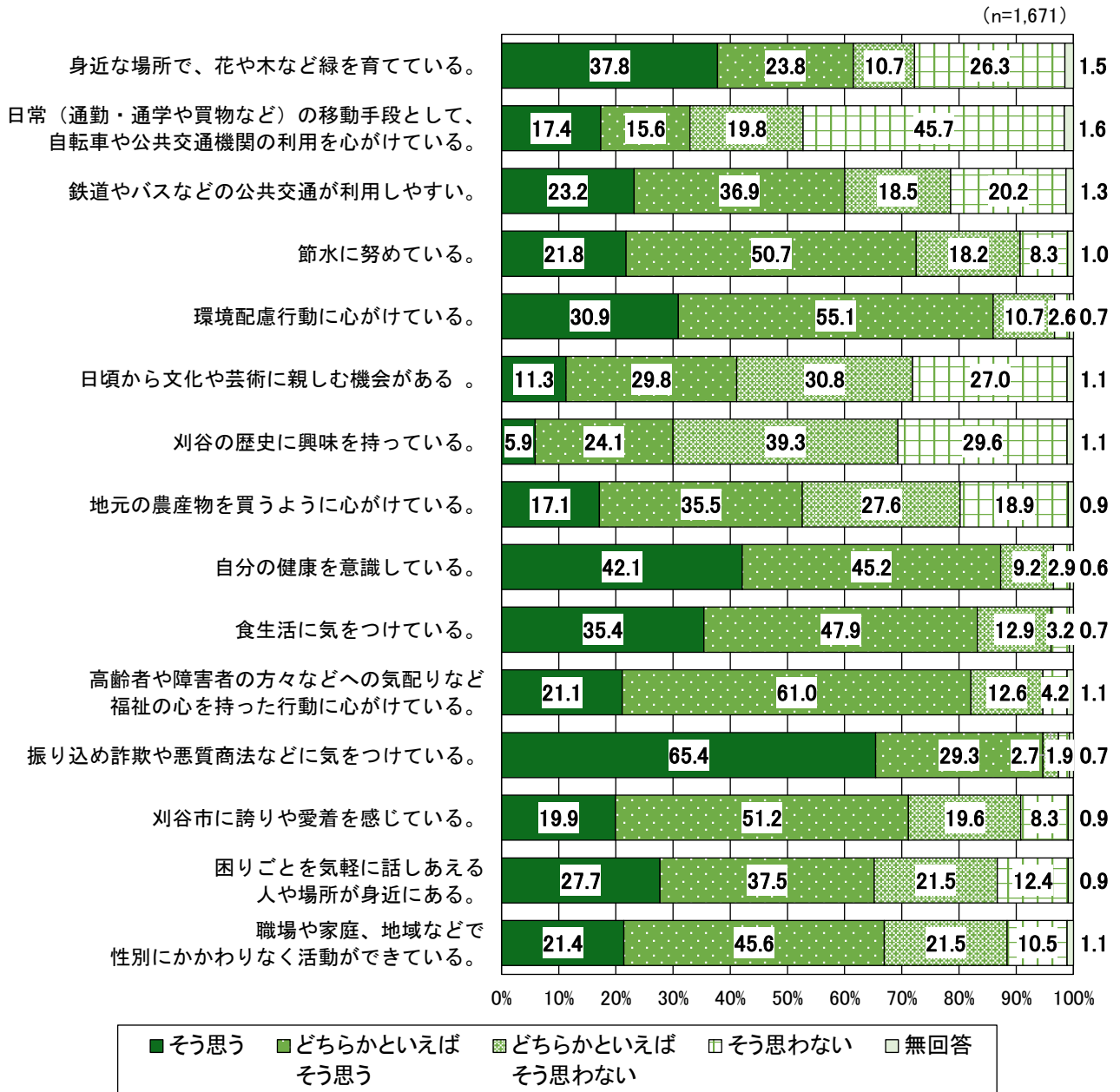
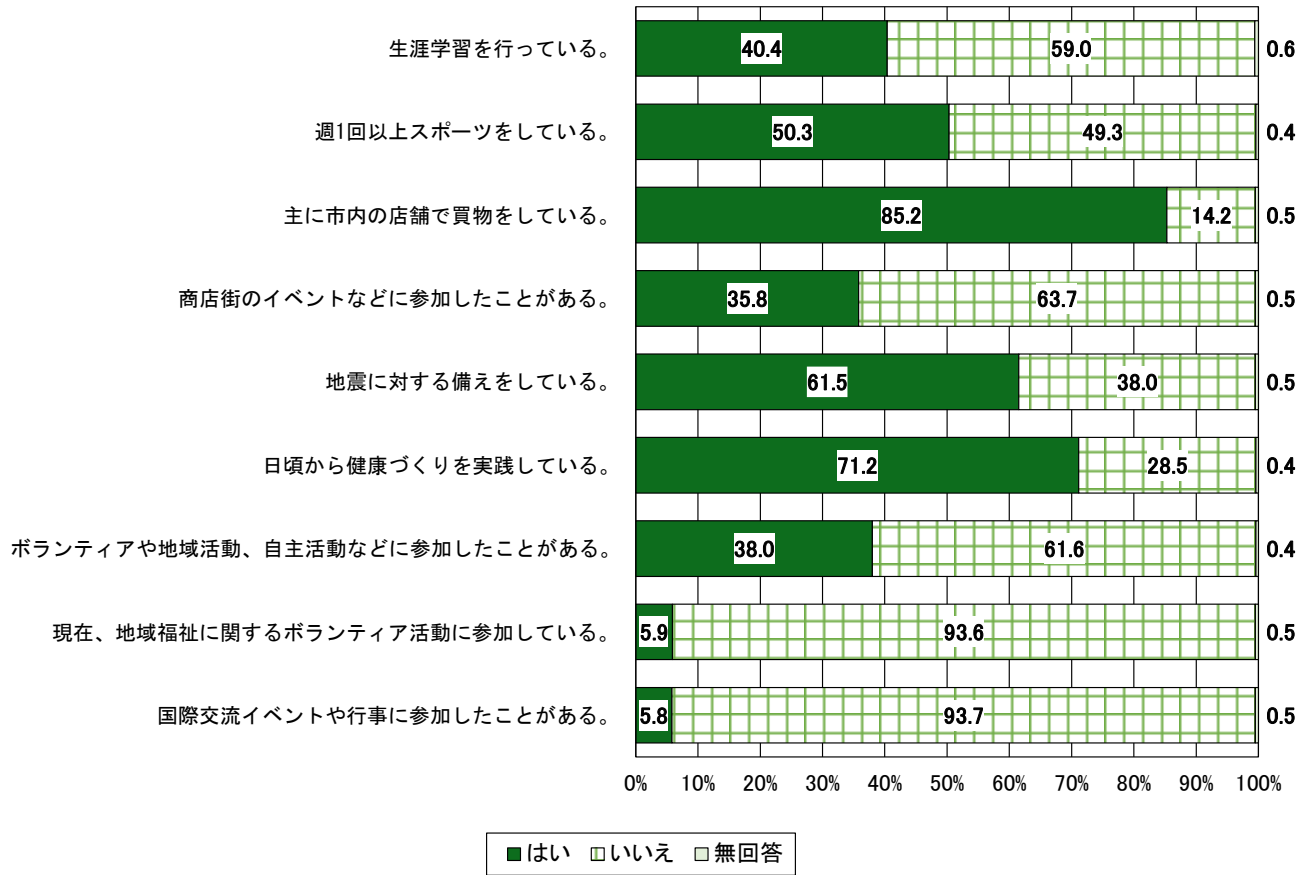


図 普段の生活について（設問 30～38） 調査結果比較

(n=1,671)

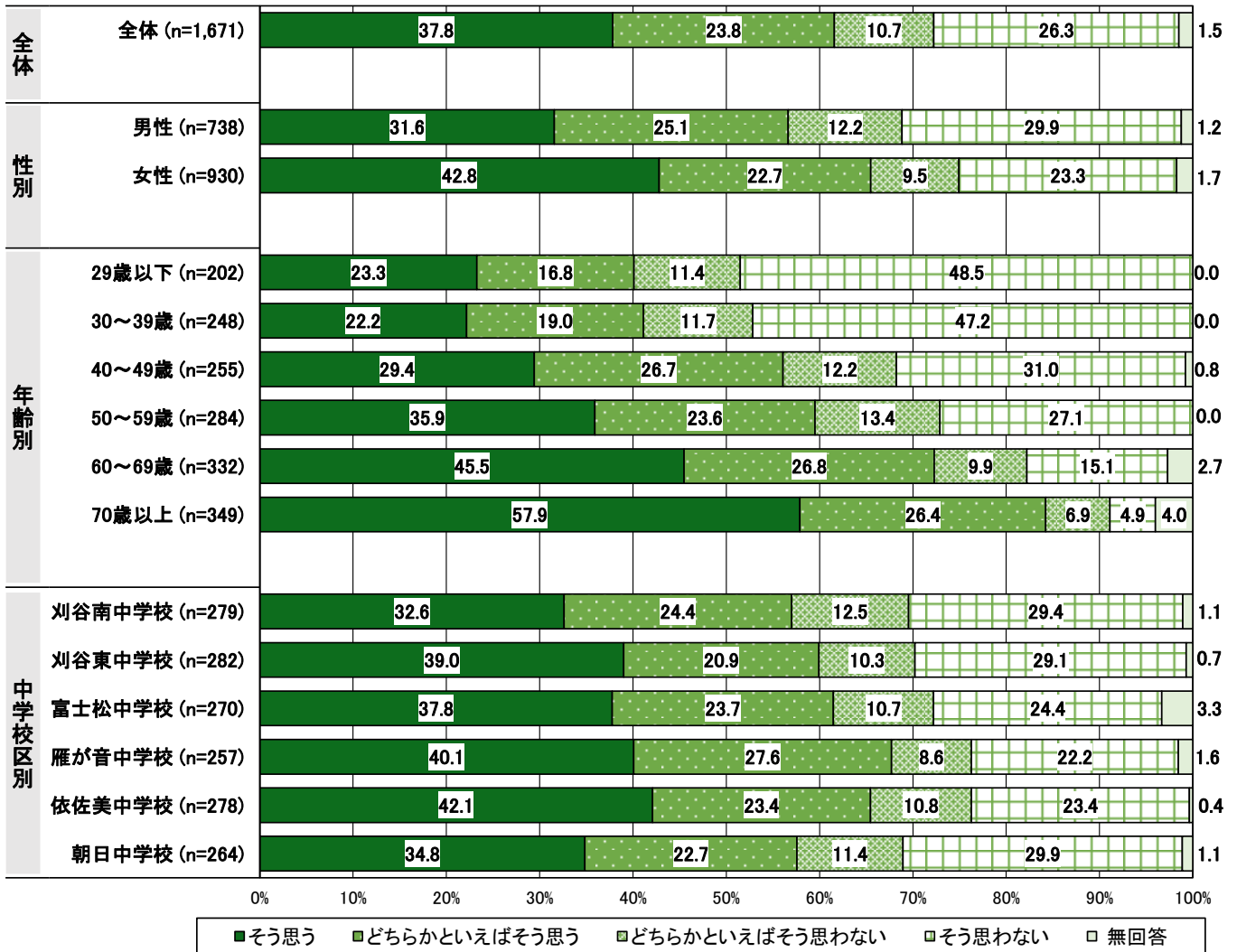


(1) 身近な場所での緑化

庭やベランダでの植栽、屋上や外壁の緑化など「身近な場所で、花や木など緑を育てている」市民の割合は、「そう思う」が37.8%、「どちらかといえばそう思う」が23.8%、あわせて61.6%（男性56.7、女性65.5%）となっています。

年齢別で見ると、年代が高いほど割合は高くなっており、最も低い29歳以下が40.1%であるのに対し、最も高い70歳以上では84.3%と、40ポイント以上の大きな差が生じています。

中学校区別で見ると、雁が音中学校区が67.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の57.0%と、約10ポイントの差が生じています。

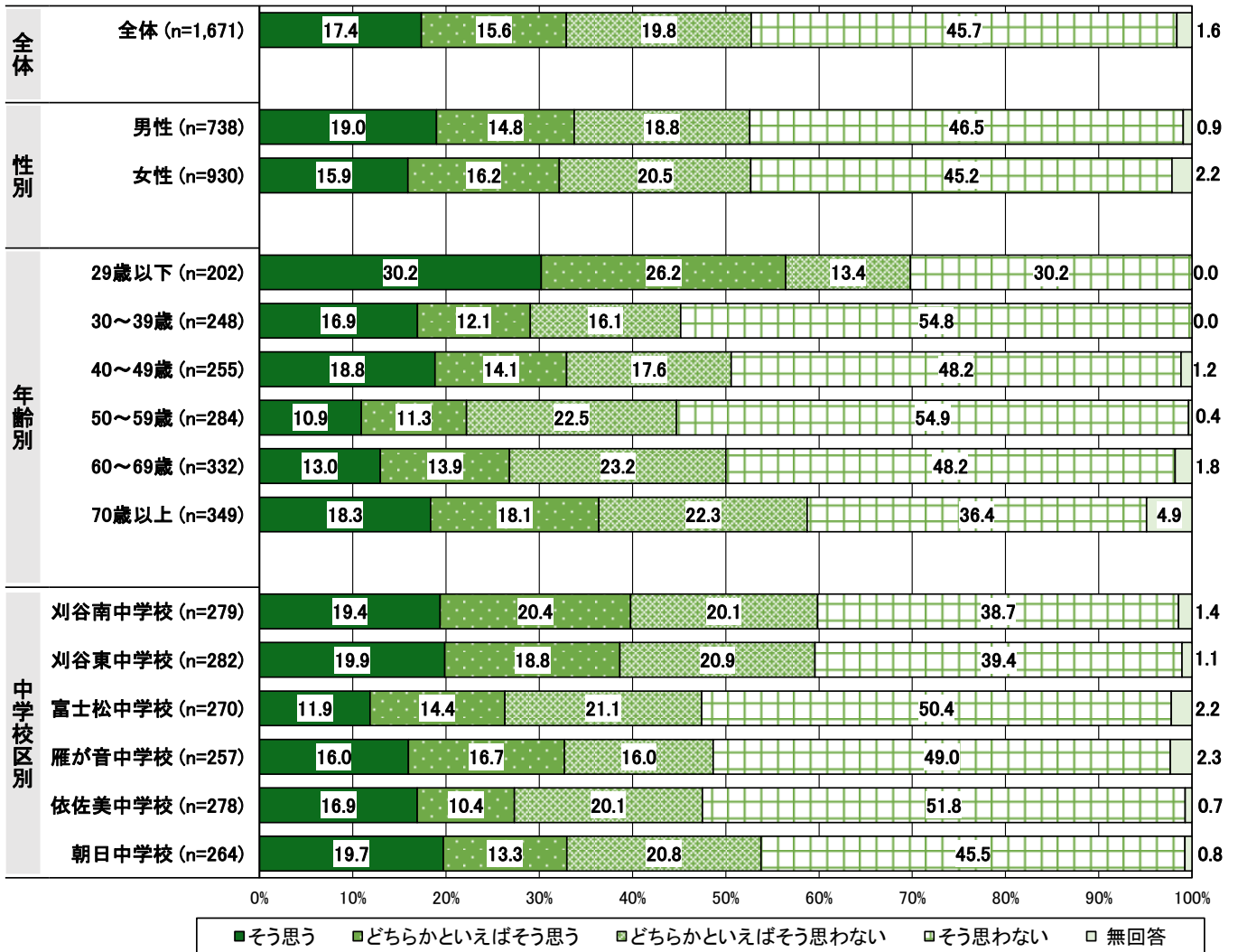


(2) 自転車や公共交通機関の利用

「日常（通勤・通学や買物など）の移動手段として、自転車や公共交通機関の利用を心がけている」市民の割合は、「そう思う」が17.4%、「どちらかといえばそう思う」が15.6%、あわせて33.0%（男性33.8%、女性32.1%）となっています。

年齢別でみると、29歳以下が56.4%で最も高く、最も低い50歳～59歳の22.2%と、30ポイント以上の大きな差が生じています。

中学校区別にみると、刈谷南中学校区が39.8%で最も高く、最も低い富士松中学校区の26.3%と、10ポイント以上の差が生じています。

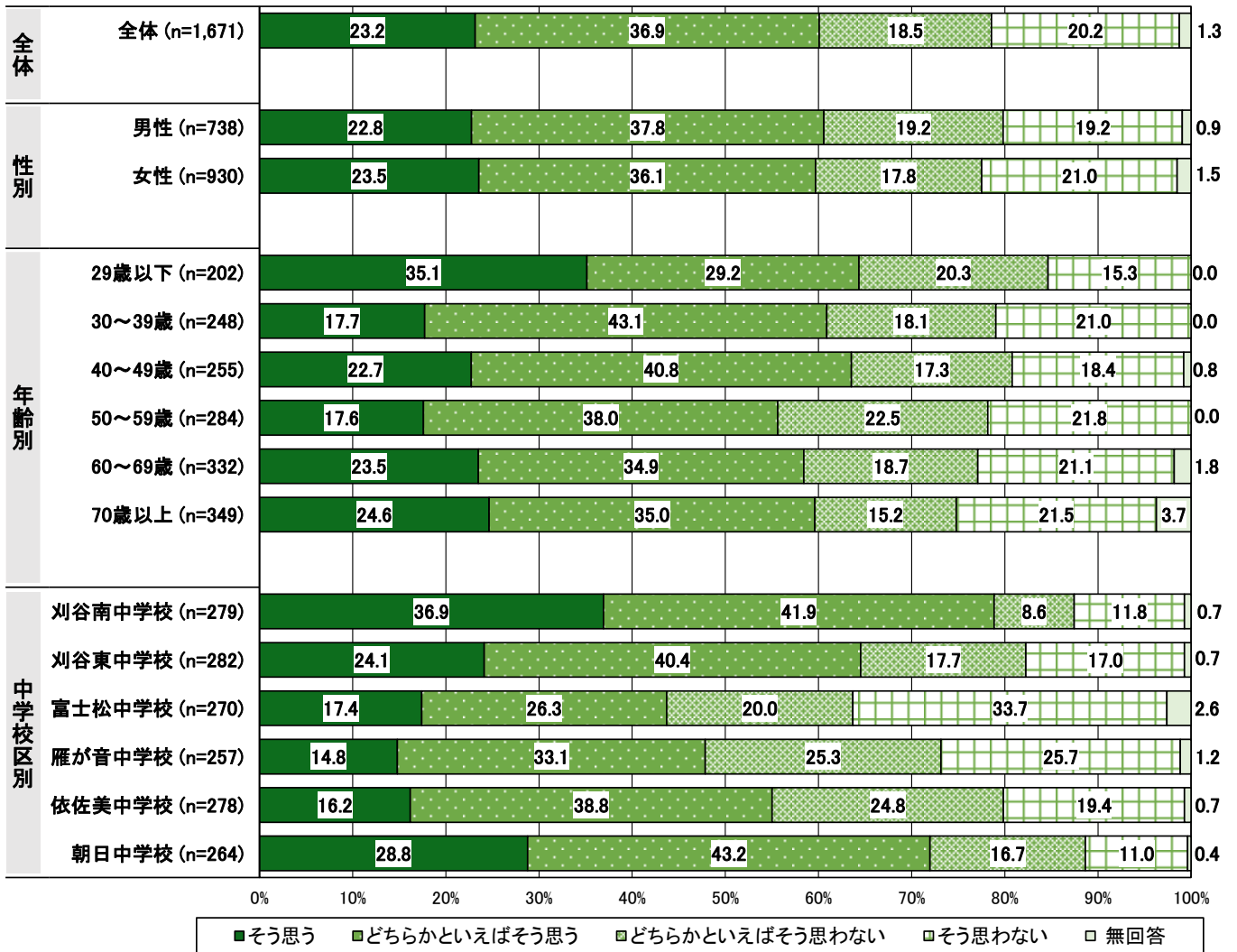


(3) 公共交通が利用しやすい

「公共交通が利用しやすい」市民の割合は、「そう思う」が23.2%、「どちらかといえばそう思う」が36.9%、あわせて60.1%（男性60.6%、女性59.6%）となっています。

年齢別でみると、最も低い50～59歳が55.6%であるのに対し、29歳以下では64.3%で最も高くなっています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区が78.8%で最も高く、最も低い富士松中学校区の43.7%と、30ポイント以上の差が生じています。

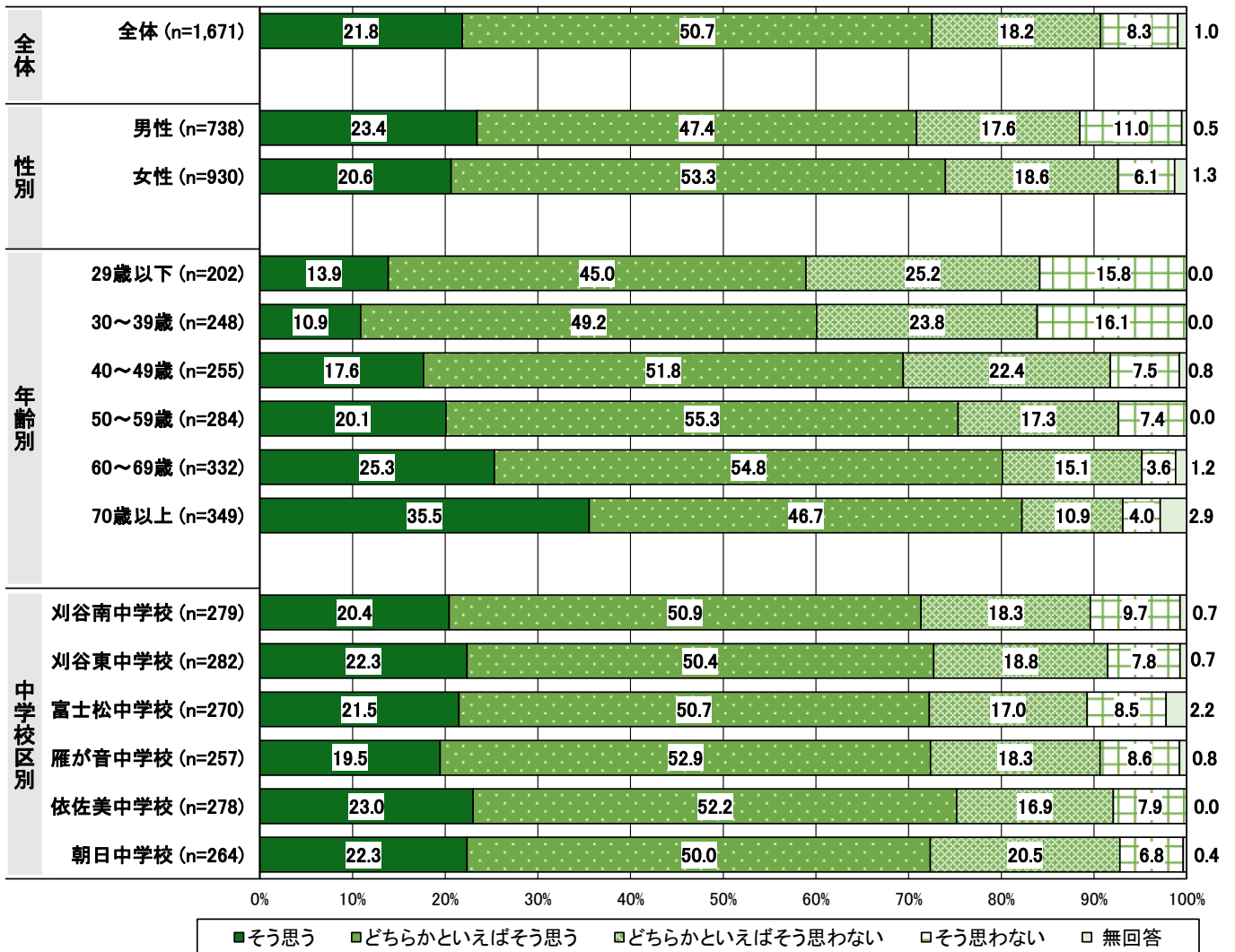


(4) 節水の心がけ

「節水に努めている」市民の割合は、「そう思う」が21.8%、「どちらかといえばそう思う」が50.7%、あわせて72.5%（男性70.8%、女性73.9%）となっています。

年齢別でみると、年代が高いほど割合は高くなっており、最も低い29歳以下が58.9%であるのに対し、70歳以上では82.2%と、20ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が75.2%で最も高く、刈谷南中学校区が71.3%で最も低くなっています。

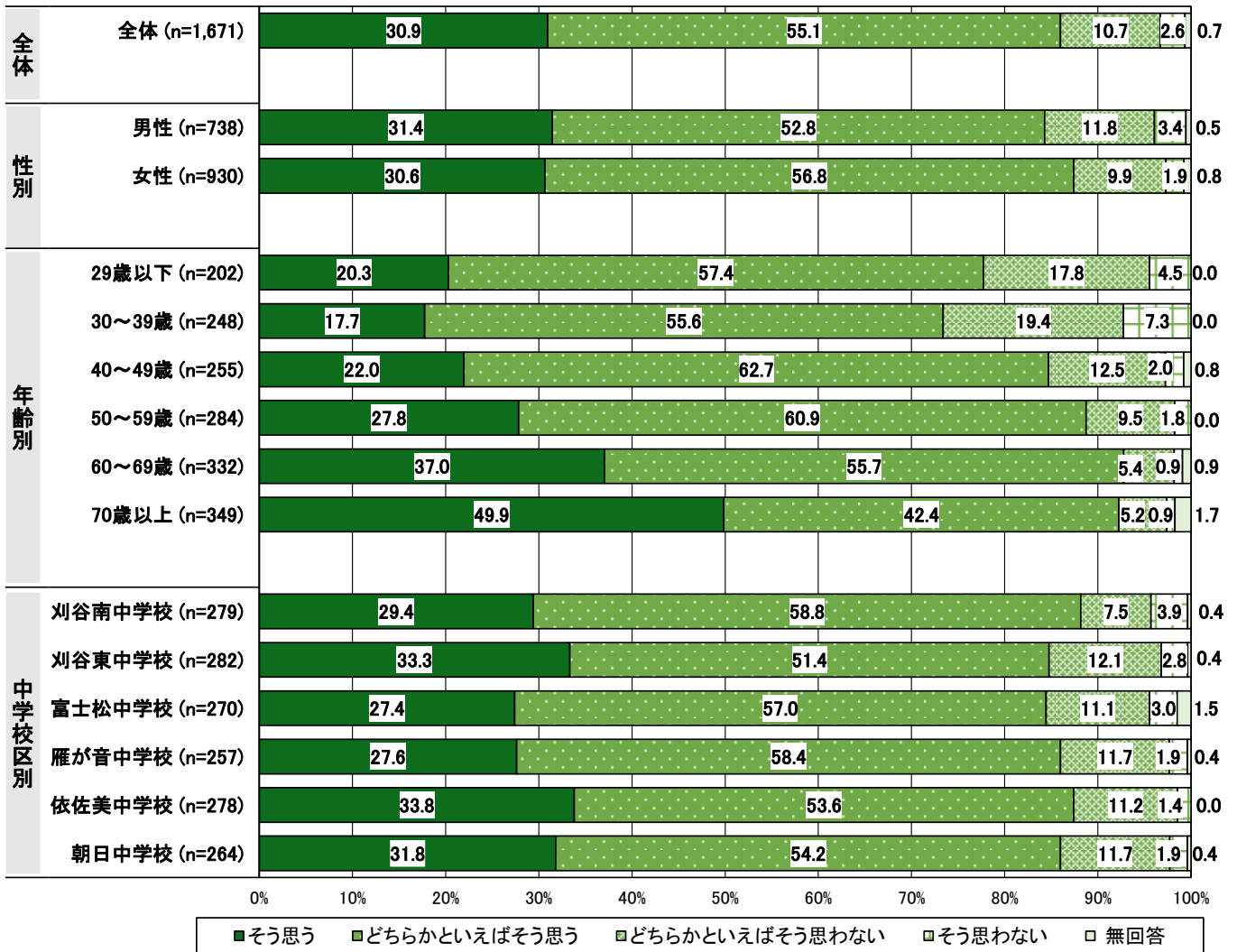


(5) 環境に配慮した行動の心がけ

節電やごみの排出抑制など「環境配慮行動に心がけている」市民の割合は、「そう思う」が30.9%、「どちらかといえばそう思う」が55.1%、あわせて86.0%（男性84.2%、女性87.4%）となっています。

年齢別でみると、年代が高いほど割合は概して高くなっており、最も低い30～39歳が73.3%であるのに対し、60～69歳では92.7%と、20ポイント近くの差が生じています。

中学校区別では、刈谷南中学校区が88.2%で最も高く、富士松中学校区が84.4%で最も低くなっています。

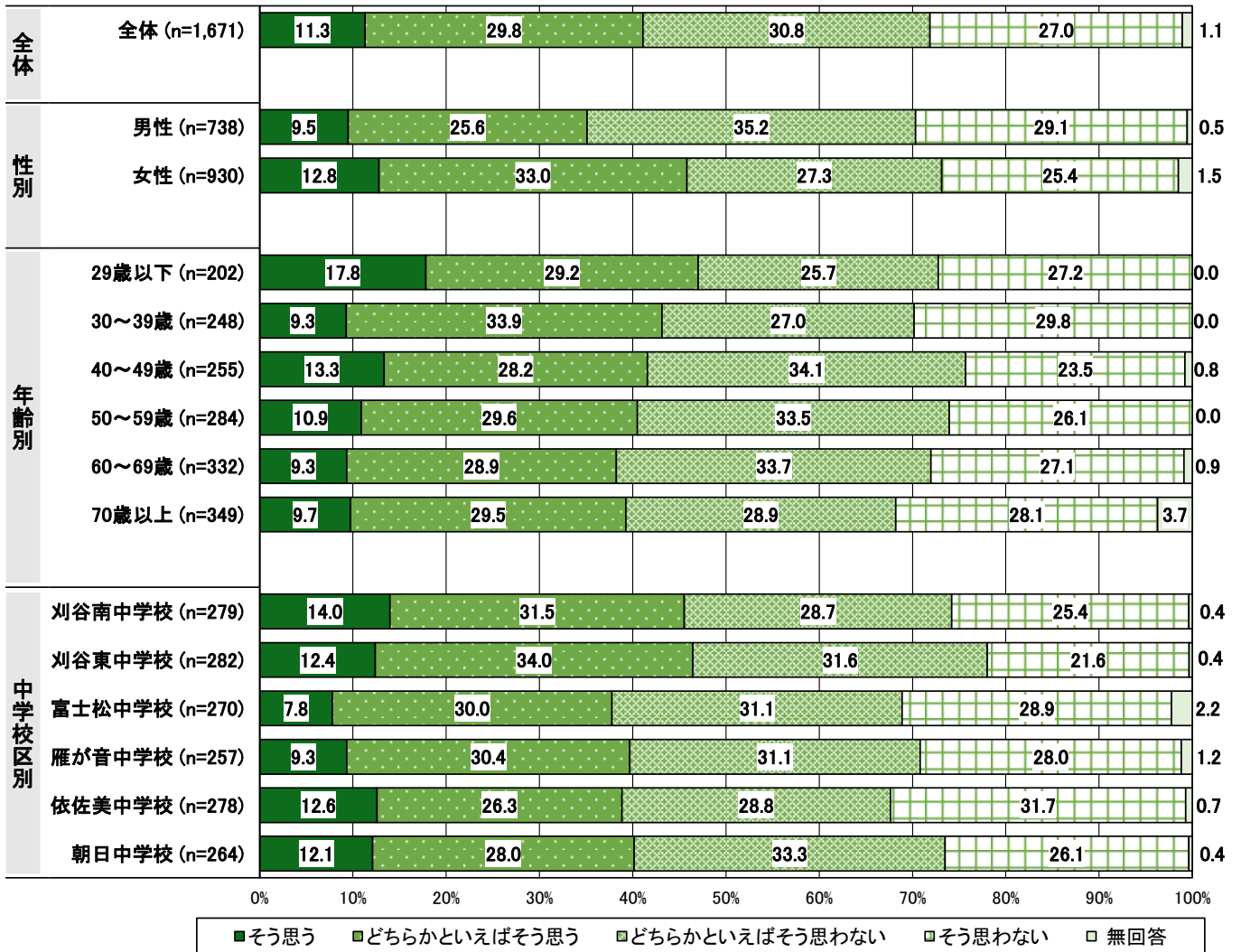


(6) 文化や芸術への親しみ

読書、書道、絵画、コンサート、音楽鑑賞など、「日頃から文化や芸術に親しんでいる」市民の割合は、「そう思う」が11.3%、「どちらかといえばそう思う」が29.8%、あわせて41.1%（男性35.1%、女性45.8%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下が47.0%で最も高く、60～69歳が38.2%で最も低くなっており、10ポイント近くの差が生じています。

中学校区別で見ると、刈谷東中学校区が46.4%で最も高く、最も低い富士松中学校区の37.8%と、10ポイント近くの差が生じています。

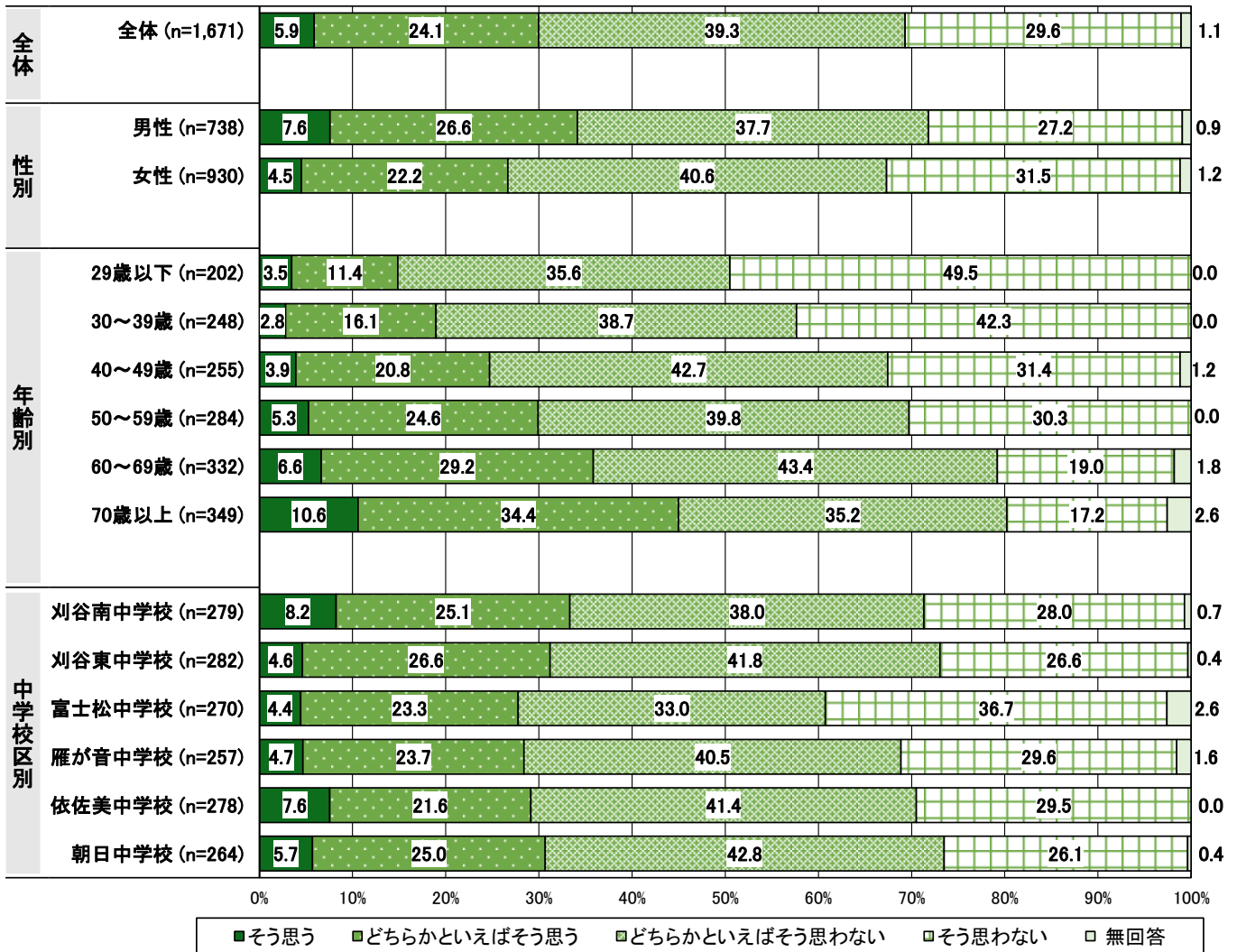


(7) 刈谷の歴史への興味

「刈谷の歴史に興味を持っている」市民の割合は、「そう思う」が5.9%、「どちらかといえばそう思う」が24.1%、あわせて30.0%（男性34.2%、女性26.7%）となっています。

年齢別でみると、年代が高いほど割合は高くなる傾向があり、最も低い29歳以下が14.9%であるのに対し、最も高い70歳以上では45.0%と、30ポイント近くの差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区が33.3%で最も高く、富士松中学校区が27.7%で最も低くなっています。

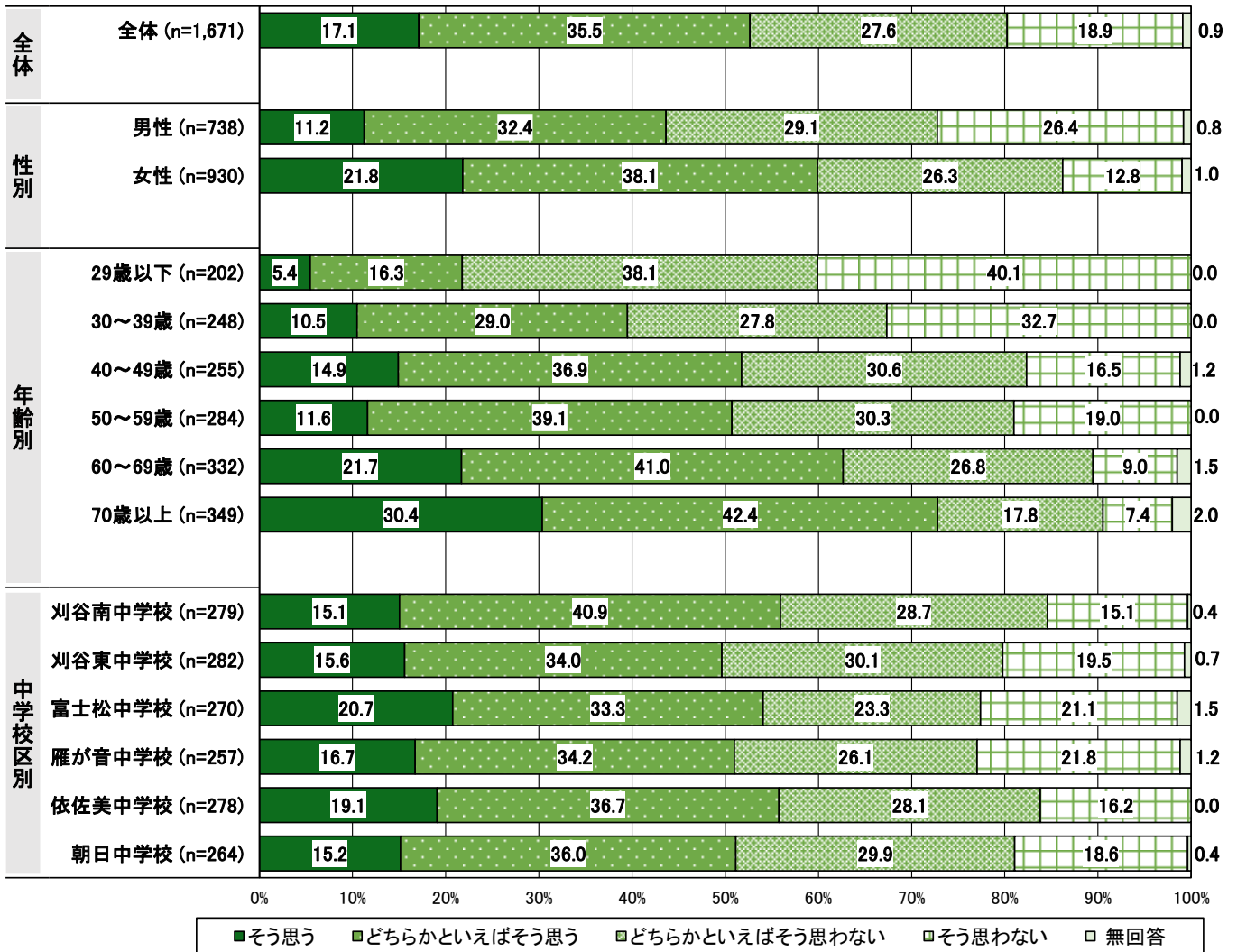


(8) 地元農産物の購入

「地元の農産物を買うように心がけている」市民の割合は、「そう思う」が17.1%、「どちらかといえばそう思う」が35.5%、あわせて52.6%（男性43.6%、女性59.9%）となっています。

年齢別でみると、年代が高いほど割合は概して高くなる傾向があり、最も低い29歳以下が21.7%であるのに対し、70歳以上では72.8%と、約50ポイントの大きな差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区が56.0%で最も高く、刈谷東中学校区が49.6%で最も低くなっています。

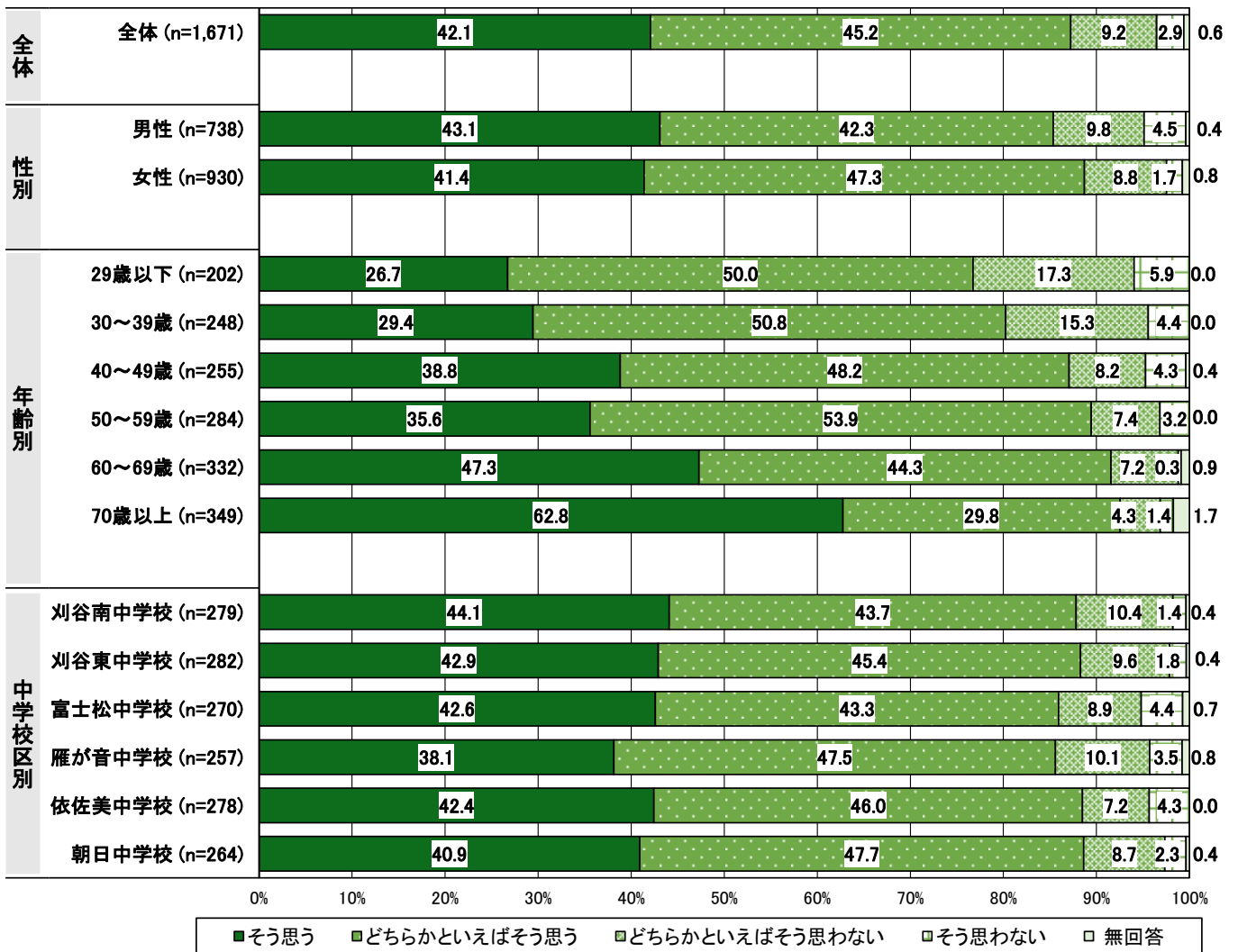


(9) 健康への意識

「自分の健康を意識している」市民の割合は、「そう思う」が42.1%、「どちらかといえばそう思う」が45.2%、あわせて87.3%（男性85.4%、女性88.7%）となっています。

年齢別で見ると、年代が高いほど割合は高くなる傾向があり、最も低い29歳以下が76.7%であるのに対し、最も高い70歳以上では92.6%と、約15ポイントの差が生じています。

中学校区別で見ると、朝日中学校区が88.6%で最も高く、雁が音中学校区が85.6%で最も低くなっています。

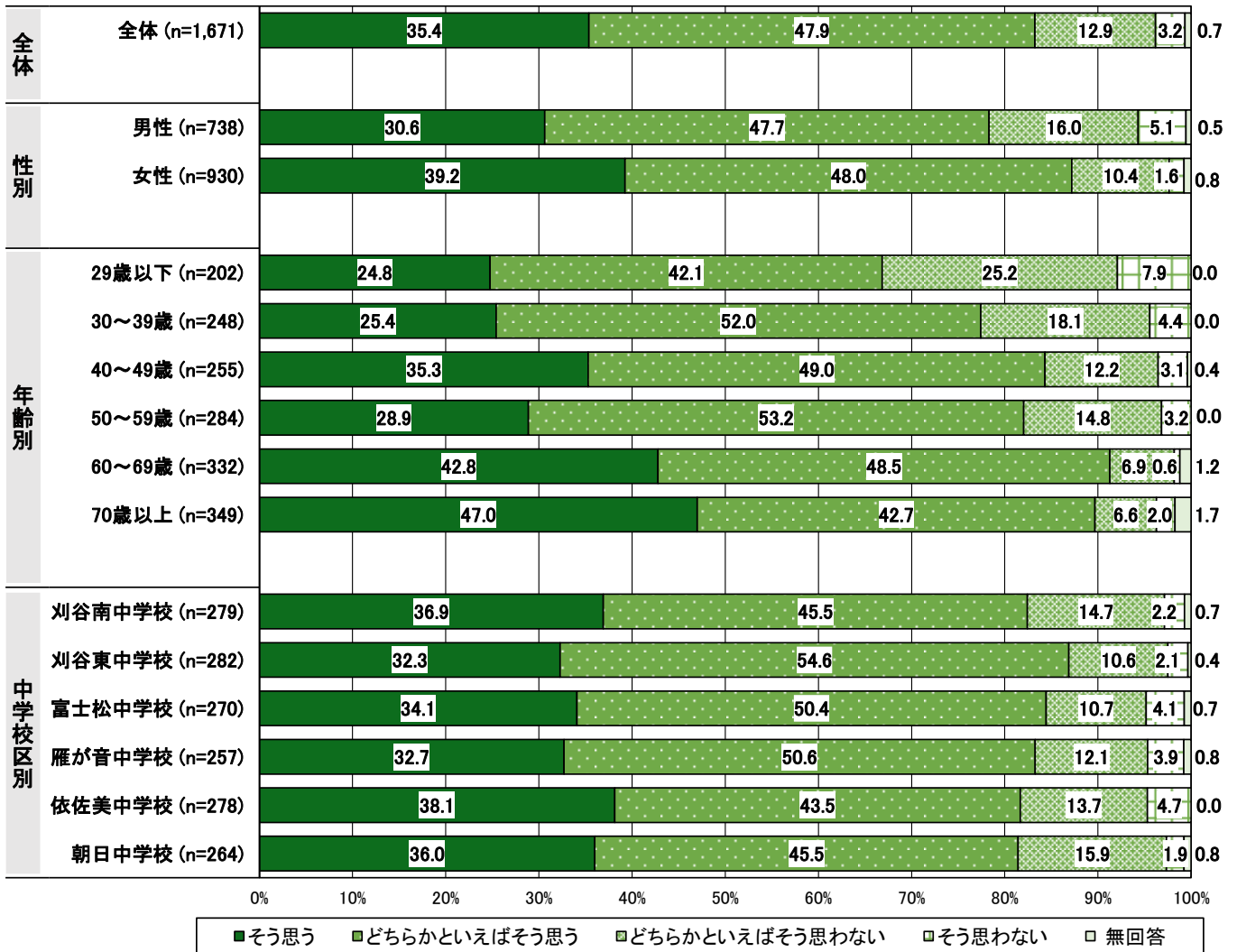


(10) 食生活の心がけ

栄養バランス、朝食をとるなど「食生活に気をつけている」市民の割合は、「そう思う」が35.4%、「どちらかといえばそう思う」が47.9%、あわせて83.3%（男性78.3%、女性87.2%）となっています。

年齢別で見ると、最も低い29歳以下が66.9%であるのに対し、最も高い60～69歳以上では91.3%と、25ポイント近くの差が生じています。

中学校区別で見ると、刈谷東中学校区が86.9%で最も高く、朝日中学校区が81.5%で最も低くなっています。

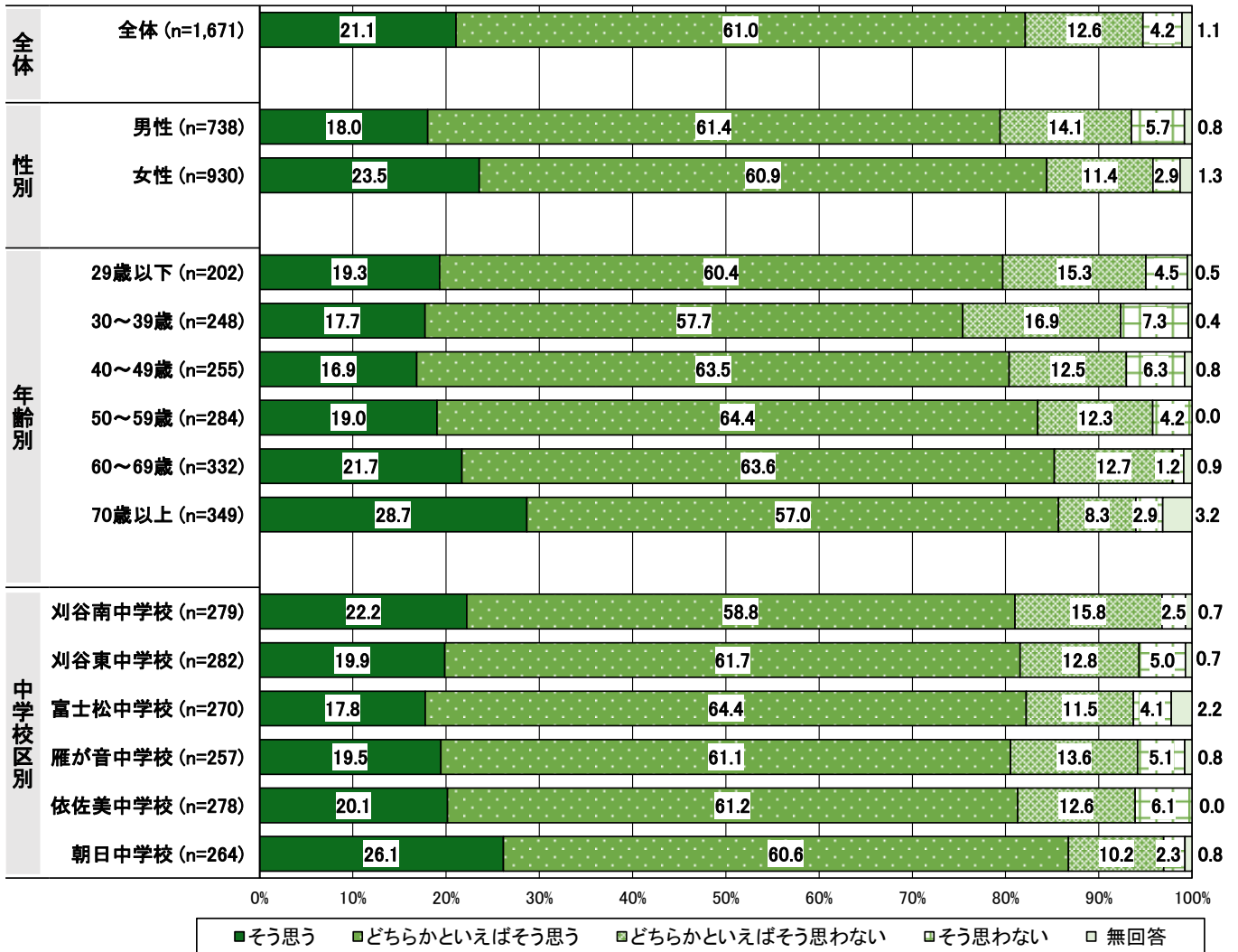


(11) 福祉への心がけ

「高齢者や障害者の方々などへの気配りなど福祉の心を持った行動に心がけている」市民の割合は、「そう思う」が21.1%、「どちらかといえばそう思う」が61.0%、あわせて82.1%（男性79.4%、女性84.4%）となっています。

年齢別でみると、最も低い30～39歳が75.4%であるのに対し、最も高い70歳以上では85.7%と、約10ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、朝日中学校区が86.7%で最も高く、雁が音中学校区が80.6%で最も低くなっています。

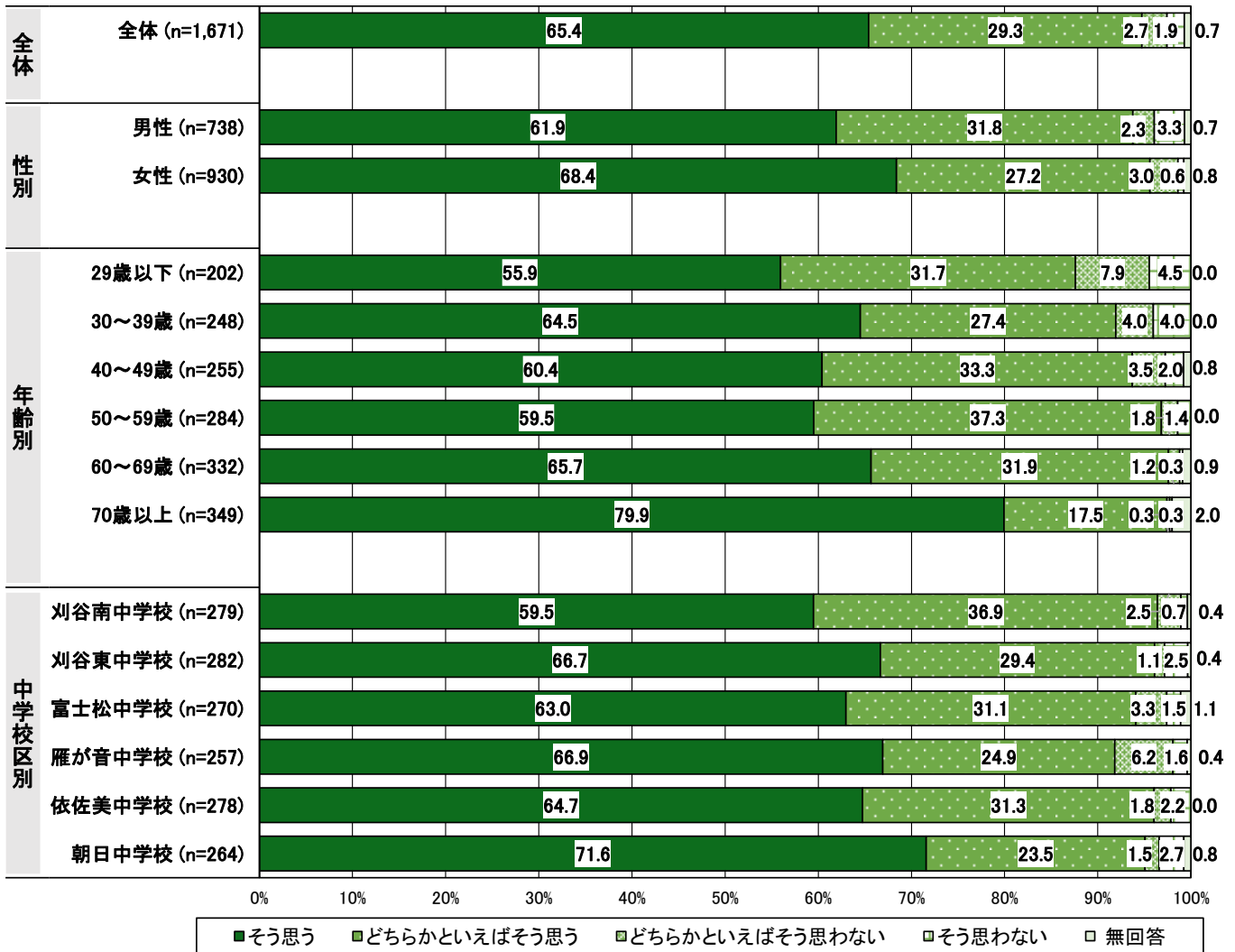


(12) 振り込め詐欺や悪質商法などへの注意

「振り込め詐欺や悪質商法などに気をつけている」市民の割合は、「そう思う」が65.4%、「どちらかといえばそう思う」が29.3%、あわせて94.7%（男性93.7%、女性95.6%）となっています。

年齢別にみると、30歳代以上ではすべて90%を超えているのに対し、29歳以下では87.6%と、他の年代と比べてやや低くなっています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区の96.4%が最も高いのをはじめ、全ての中学校区で90%を超えています。

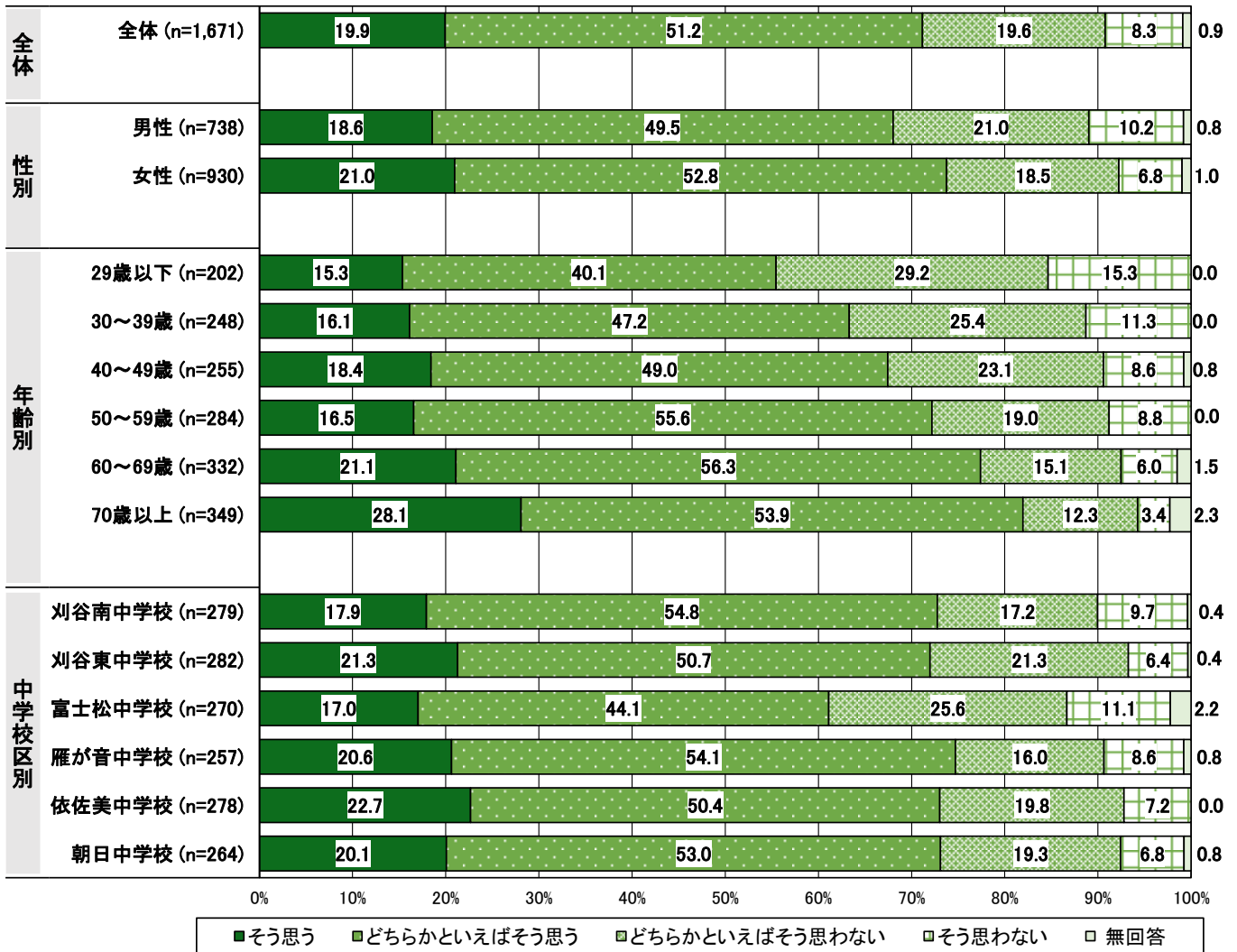


(13) 刈谷市への誇りや愛着

「刈谷市に誇りや愛着を感じている」市民の割合は、「そう思う」が19.9%、「どちらかといえばそう思う」が51.2%、あわせて71.1%（男性68.1%、女性73.8%）となっています。

年齢別で見ると、年代が高いほど割合は高くなる傾向があり、最も低い29歳以下が55.4%であるのに対し、最も高い70歳以上では82.0%と、25ポイント以上の差が生じています。

中学校区別で見ると、富士松中学校区が61.1%で最も低く、唯一70%を下回っており、最も高い雁が音中学校区の74.7%と、10ポイント以上の差が生じています。

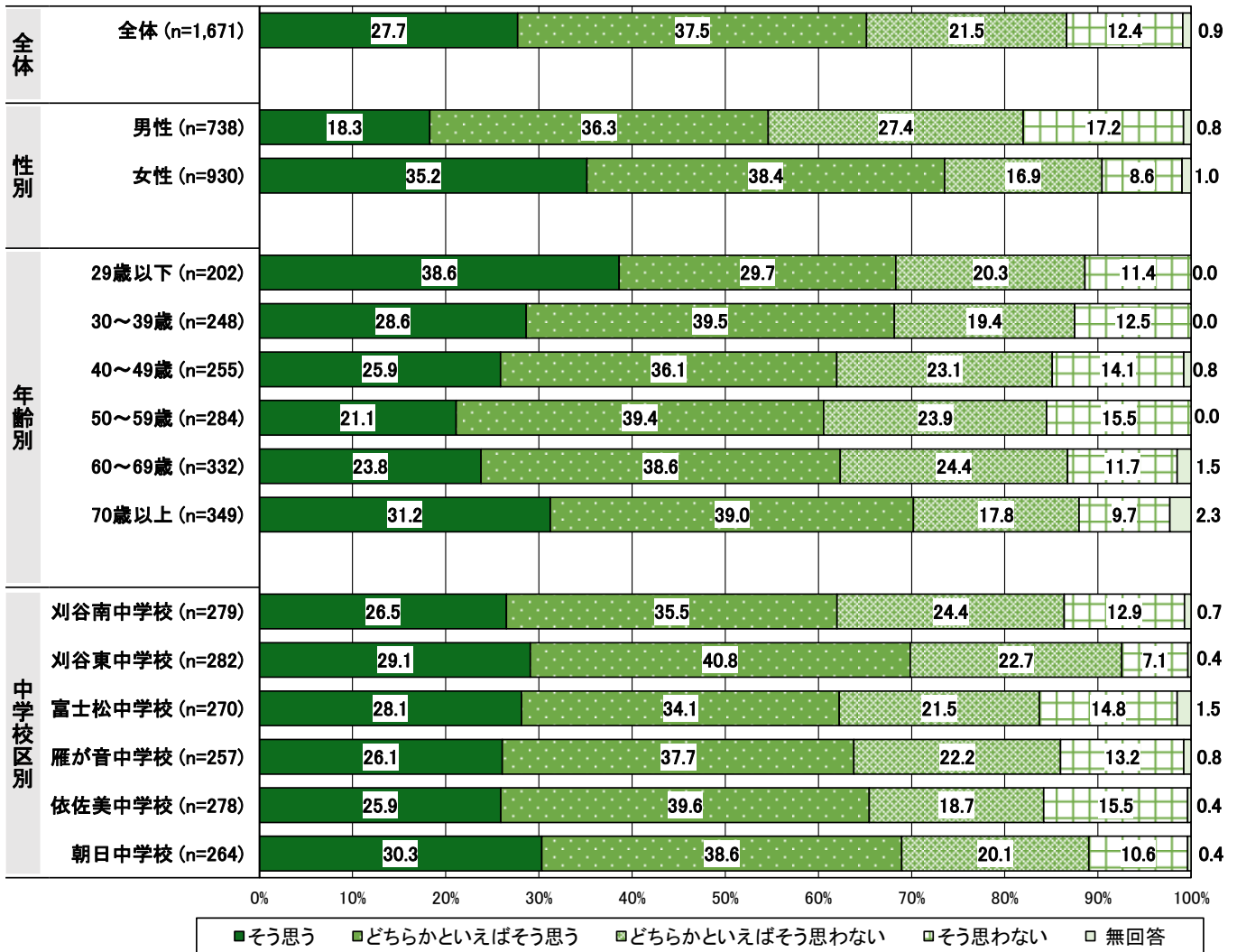


(14) 気軽に相談できる人や場所

「困りごとを気軽に話しあえる人や場所が身近にある」市民の割合は、「そう思う」が27.7%、「どちらかといえばそう思う」が37.5%、あわせて65.2%（男性54.6%、女性73.6%）となっています。

年齢別でみると、70歳以上が70.2%で最も高く、最も低い50歳～59歳の60.5%と、約10ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が69.9%で最も高く、刈谷南中学校区が62.0%で最も低くなっています。

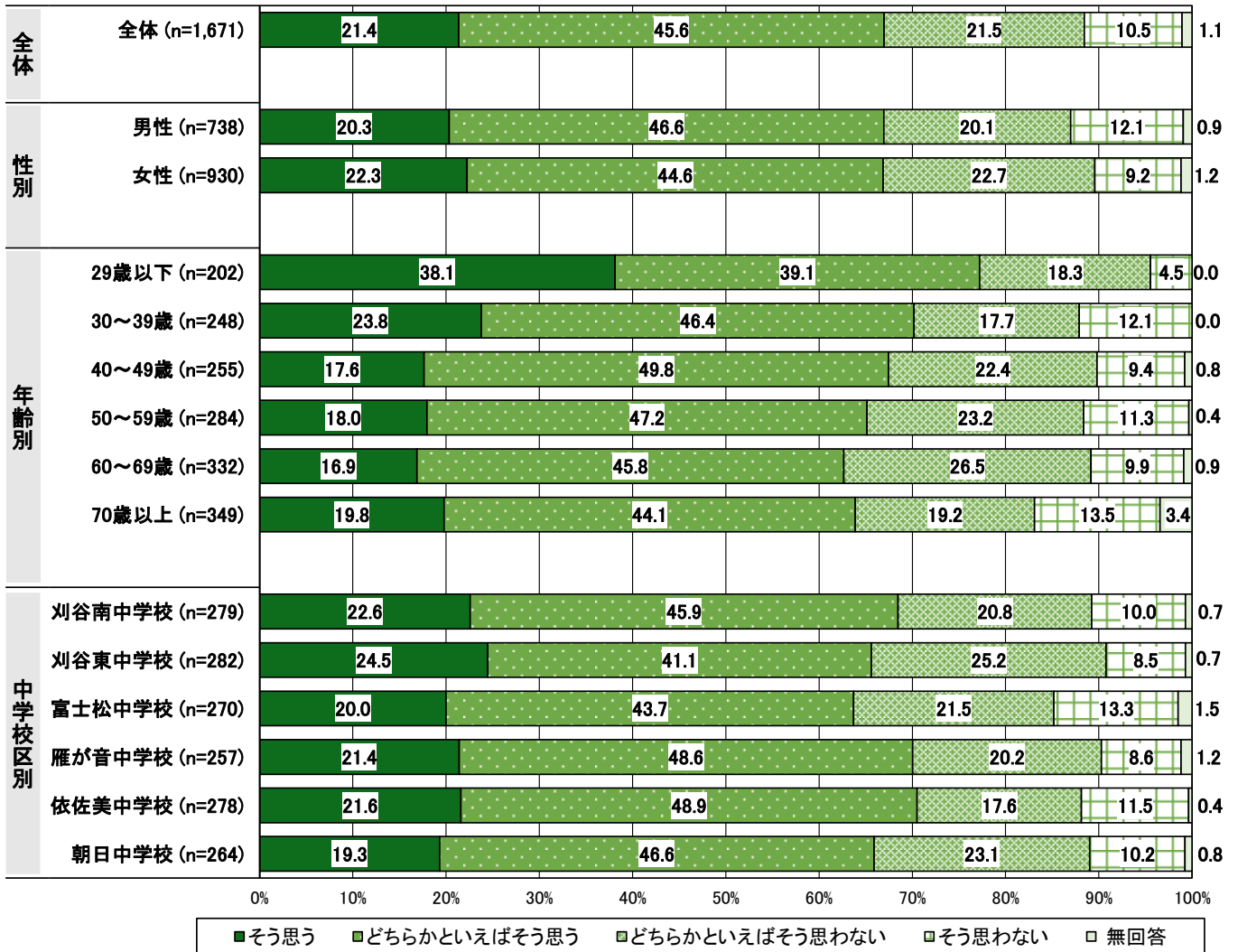


(15) 職場や家庭、地域などでの男女共同参画

「職場や家庭、地域などで男女が性別にかかわらず活動ができている」市民の割合は、「そう思う」が21.4%、「どちらかといえばそう思う」が45.6%、あわせて67.0%（男性、女性ともに66.9%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下が77.2%で最も高く、最も低い60～69歳の62.7%と、15ポイント近くの差が生じています。

中学校区別で見ると、依佐美中学校区が70.5%で最も高く、富士松中学校区が63.7%で最も低くなっています。

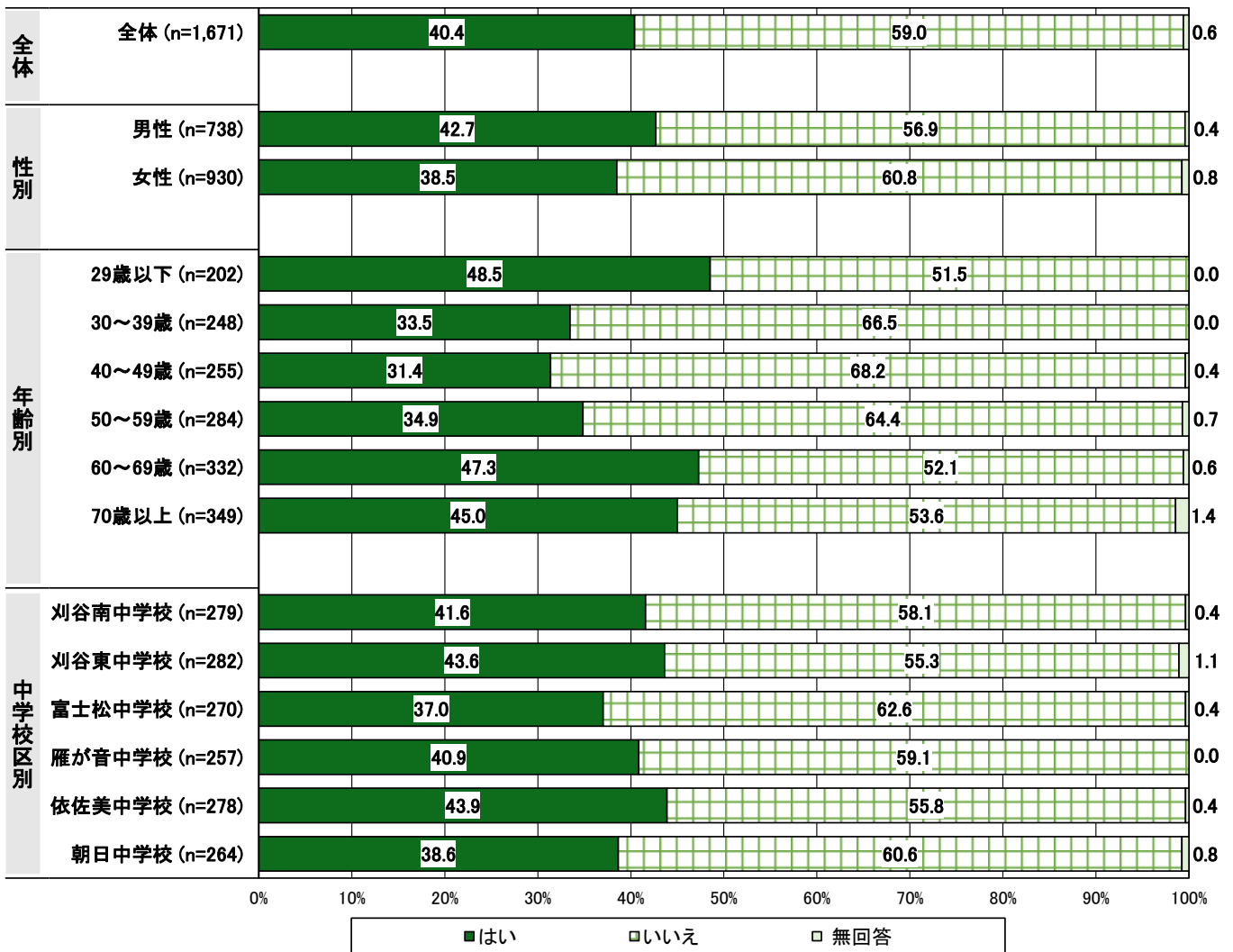


(16) 生涯学習の実践

趣味、教養、講座やイベント、文化鑑賞、スポーツ、地域活動など「生涯学習を行っている」市民の割合は40.4%（男性42.7%、女性38.5%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下が48.5%で最も高く、最も低い40歳～49歳は31.4%と、15ポイント以上の差が生じています。

中学校区別で見ると、依佐美中学校区が43.9%で最も高く、富士松中学校区が37.0%で最も低くなっています。

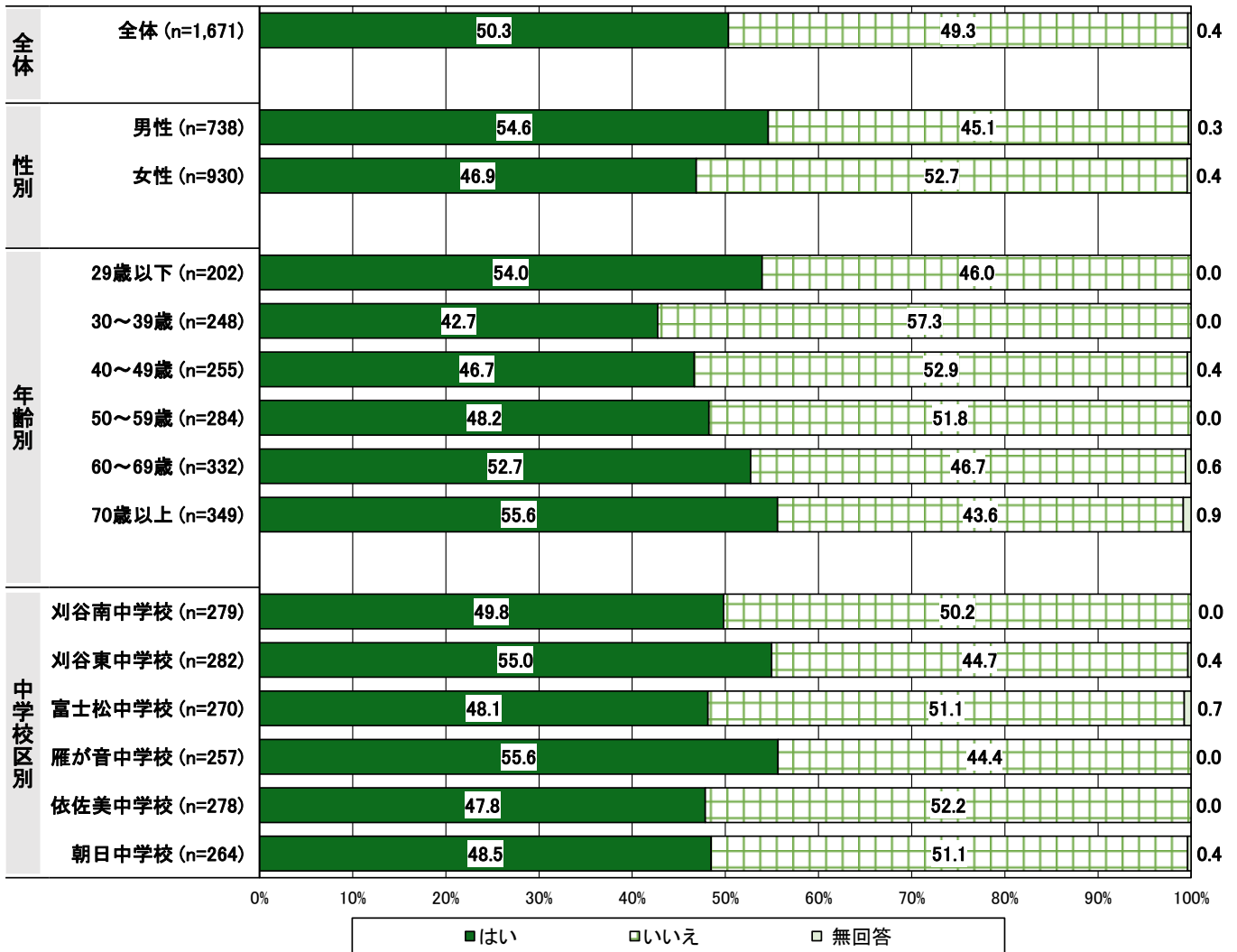


(17) スポーツの実践

ウォーキング、ジョギング、テニス、水泳、体操、徒歩や自転車での通勤・通学など「週1回以上スポーツをしている」市民の割合は50.3%（男性54.6%、女性46.9%）となっています。

年齢別で見ると、70歳以上が55.6%で最も高く、最も低い30～39歳が42.7%と、10ポイント以上の差が生じています。

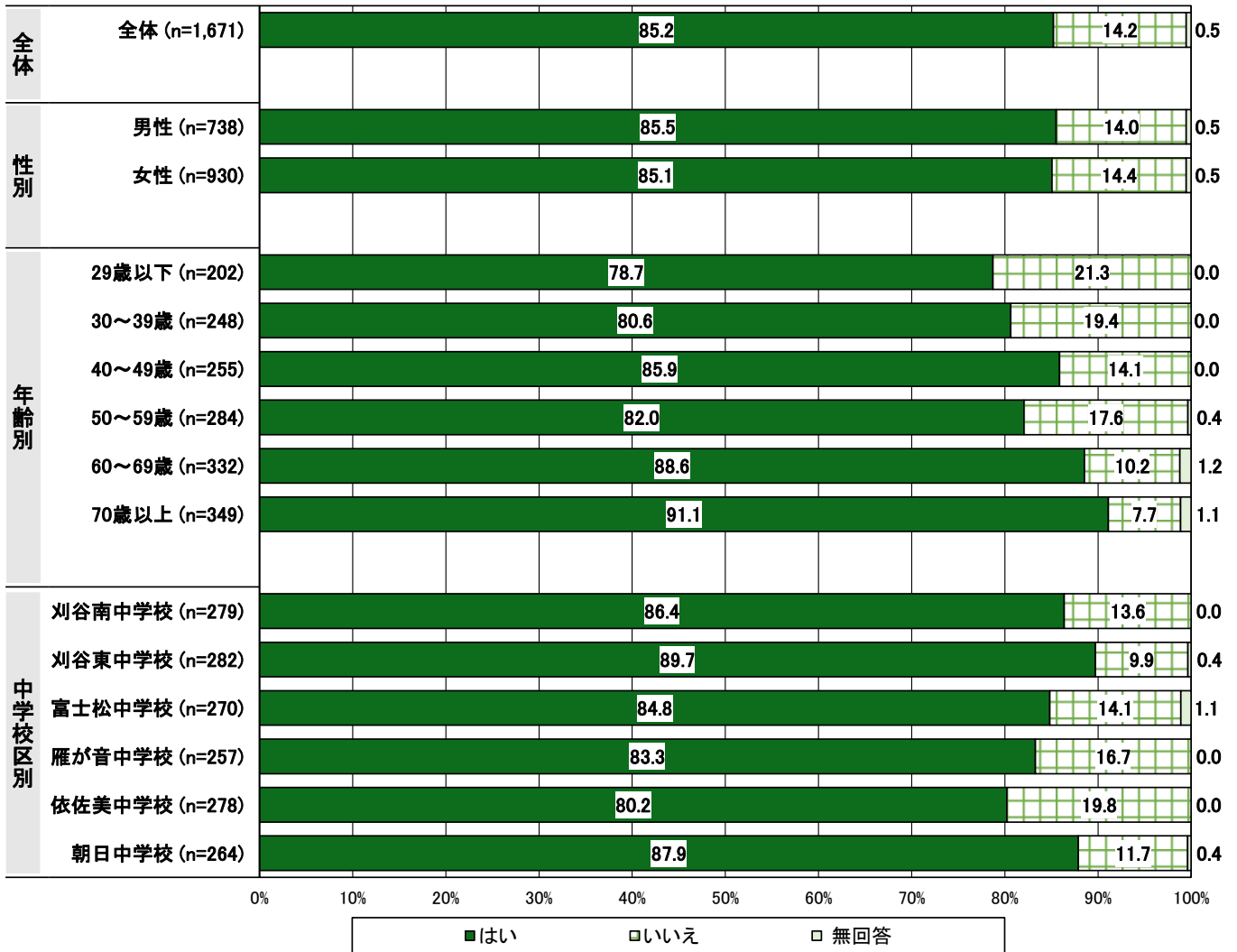
中学校区別で見ると、雁が音中学校区が55.6%で最も高く、依佐美中学校区は47.8%で最も低くなっています。



(18) 市内の店舗での買物

「主に市内の店舗で買物をしている」市民の割合は85.2%（男性85.5%、女性85.1%）となっています。
 年齢別でみると、最も低い29歳以下が78.7%であるのに対し、最も高い70歳以上では91.1%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が89.7%で最も高く、最も低い依佐美中学校区の80.2%と、10ポイント近くの差が生じています。

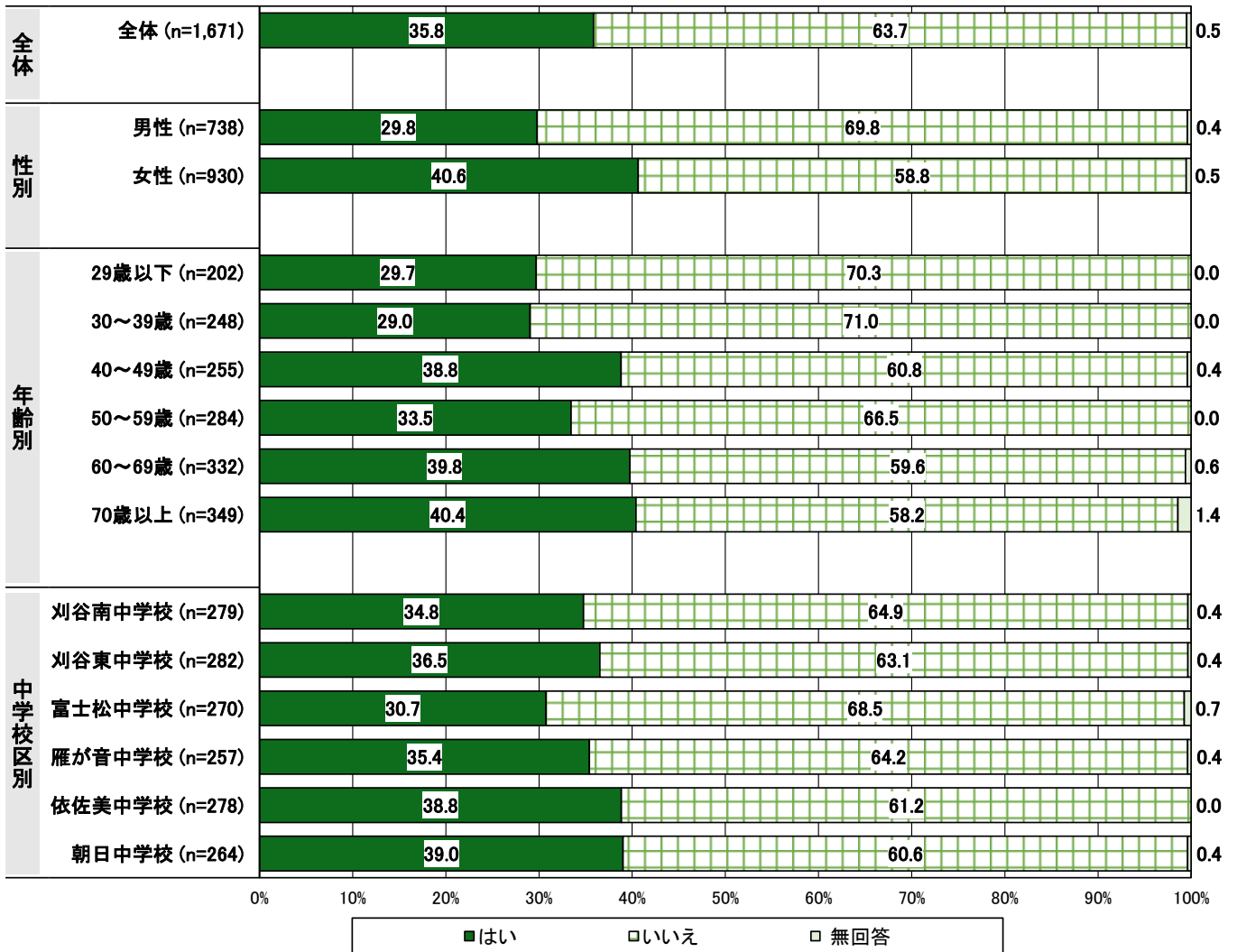


(19) 商店街のイベントへの参加

お祭り、朝市、クリスマスイベントなど「商店街のイベントなどに参加したことがある」市民の割合は35.8%（男性29.8%、女性40.6%）となっています。

年齢別で見ると、30～39歳が29.0%で最も低く、最も高い70歳以上の40.4%と、約10ポイントの差が生じています。

中学校区別で見ると、富士松中学校区が30.7%で最も低く、最も高い朝日中学校区の39.0%と、10ポイント近くの差が生じています。

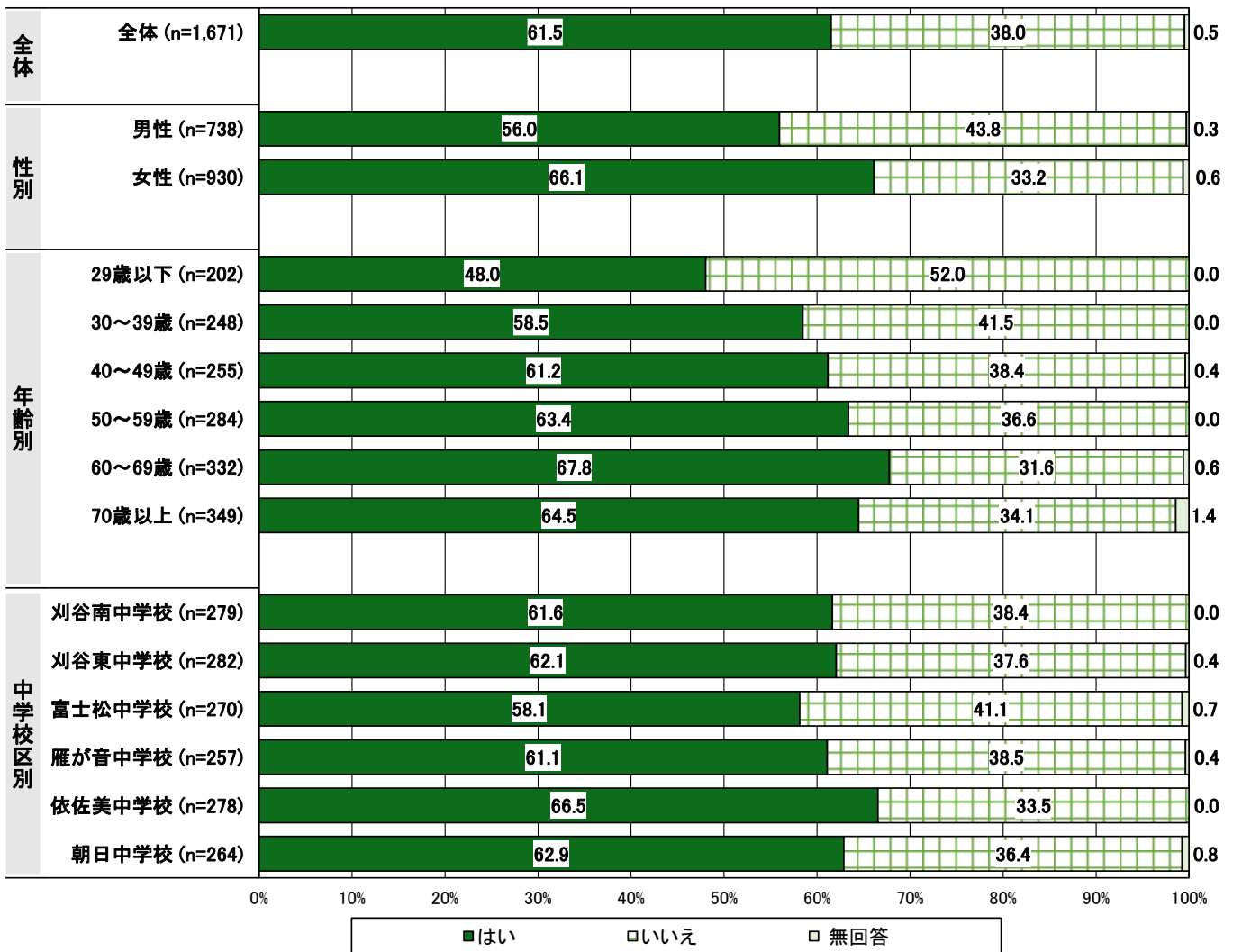


(20) 地震に対する備え

避難場所の確認、水や食料等の備蓄、家具の転倒防止など「地震に対する備えをしている」市民の割合は61.5%（男性56.0%、女性66.1%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下が48.0%で最も低く、唯一50%を下回っており、最も高い60～69歳の67.8%と、約20ポイントの差が生じています。

中学校区別で見ると、依佐美中学校区が66.5%で最も高く、最も低い富士松中学校区が58.1%となっています。

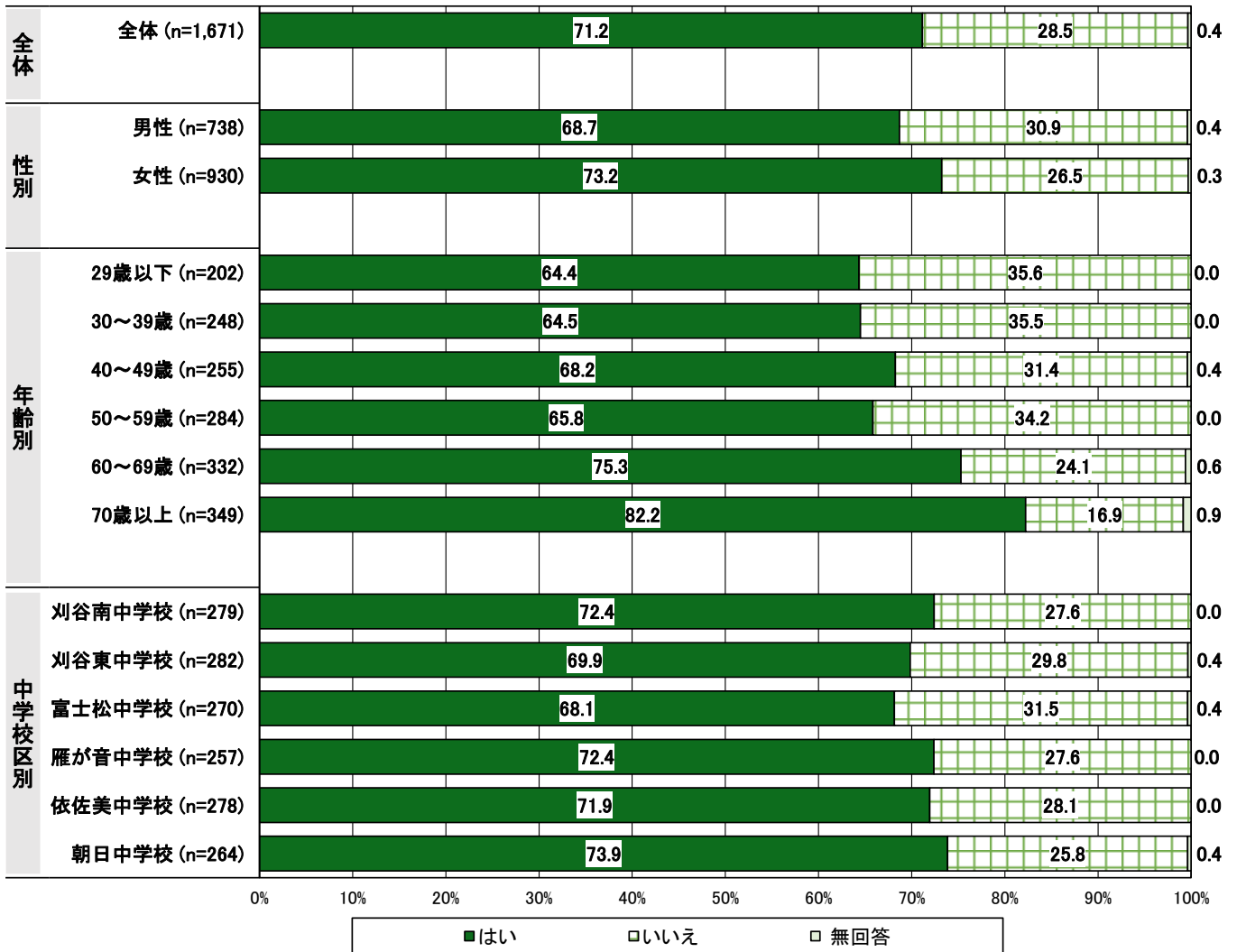


(21) 健康づくりの実践

バランスの良い食生活、適度な運動、十分な睡眠と休養など「日頃から健康づくりを実践している」市民の割合は71.2%（男性68.7%、女性73.2%）となっています。

年齢別で見ると、70歳以上が82.2%で最も高く、最も低い29歳以下の64.4%と、15ポイント以上の差が生じています。

中学校区別で見ると、朝日中学校区の73.9%が最も高く、富士松中学校区の68.1%が最も低くなっています。

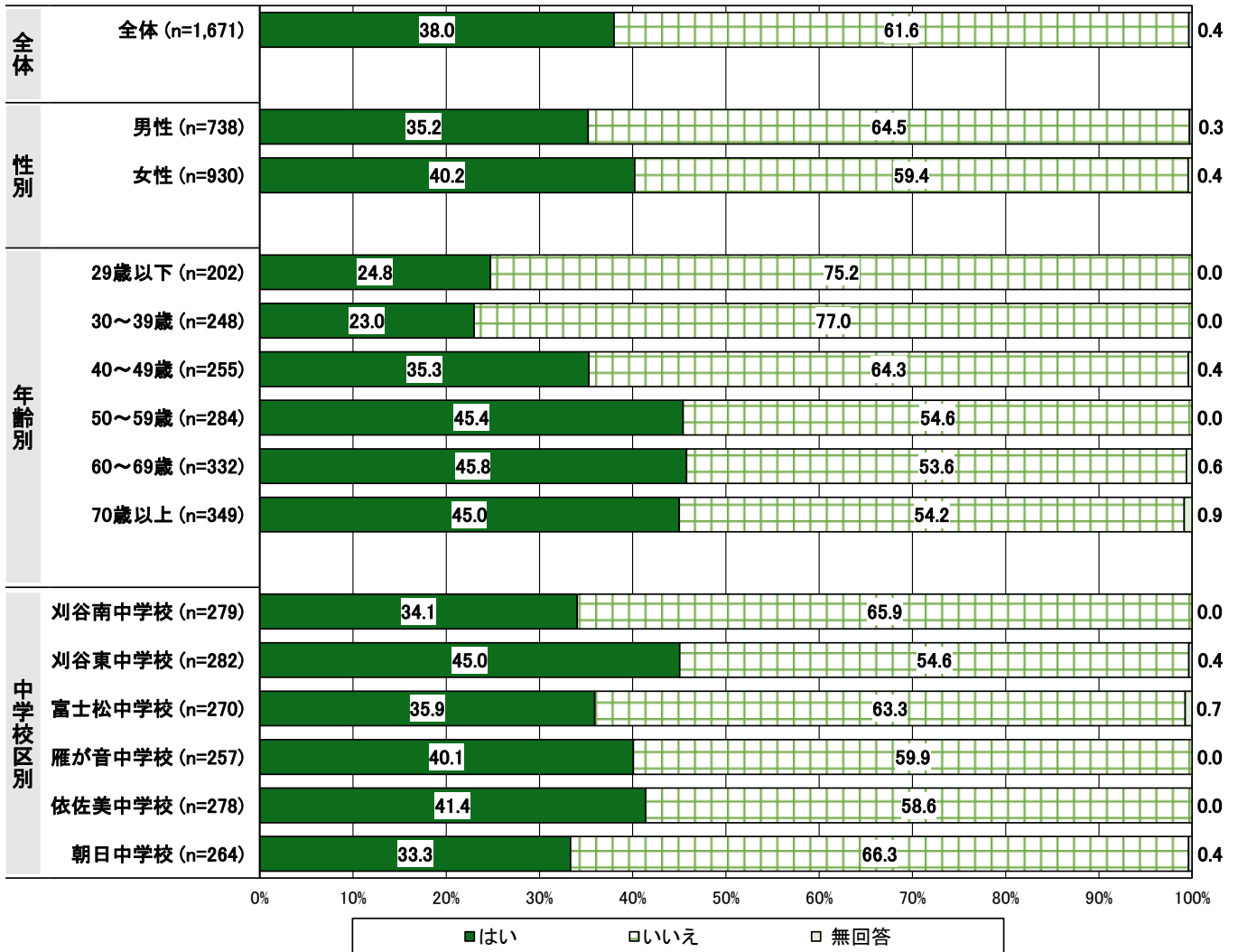


(22) ボランティアや地域活動への参加

自治会活動、防犯活動、環境美化活動など「ボランティアや地域活動、自主活動に参加したことがある」市民の割合は38.0%（男性35.2%、女性40.2%）となっています。

年齢別で見ると、60～69歳が45.8%で最も高く、最も低い30～39歳の23.0%と、20ポイント以上の差が生じています。

中学校区別で見ると、刈谷東中学校区が45.0%で最も高く、最も低い朝日中学校区の33.3%と、10ポイント以上の差が生じています。

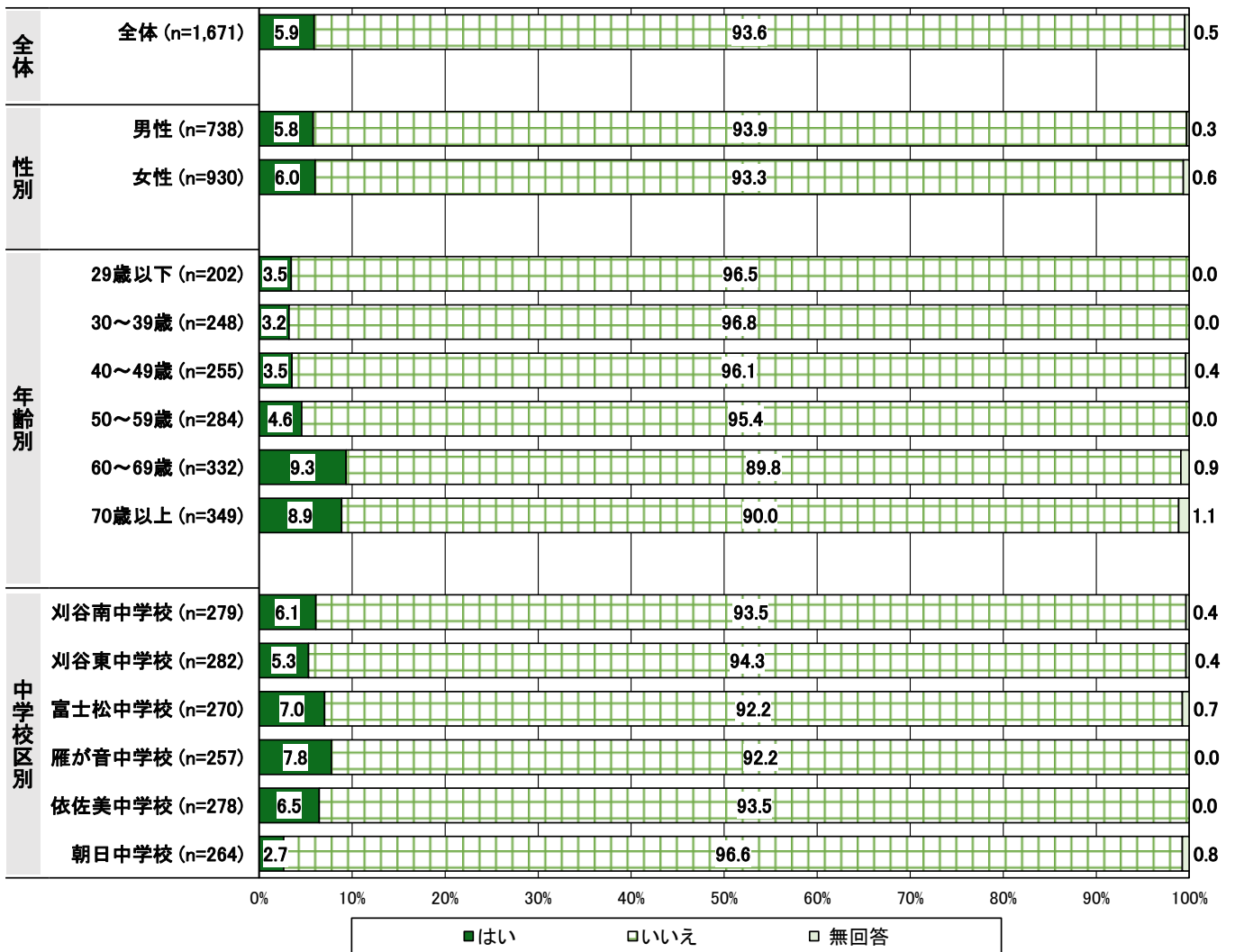


(23) 地域福祉に関するボランティア活動への参加

高齢者や障害者の方々への支援など「現在、地域福祉に関するボランティア活動に参加している」市民の割合は5.9%（男性5.8%、女性6.0%）となっています。

年齢別で見ると、60～69歳が9.3%、70歳以上が8.9%と全体平均より高く、他の世代では5.0%以下と低くなっています。

中学校区別で見ると、雁が音中学校区が7.8%で最も高く、朝日中学校区が2.7%で最も低くなっています。

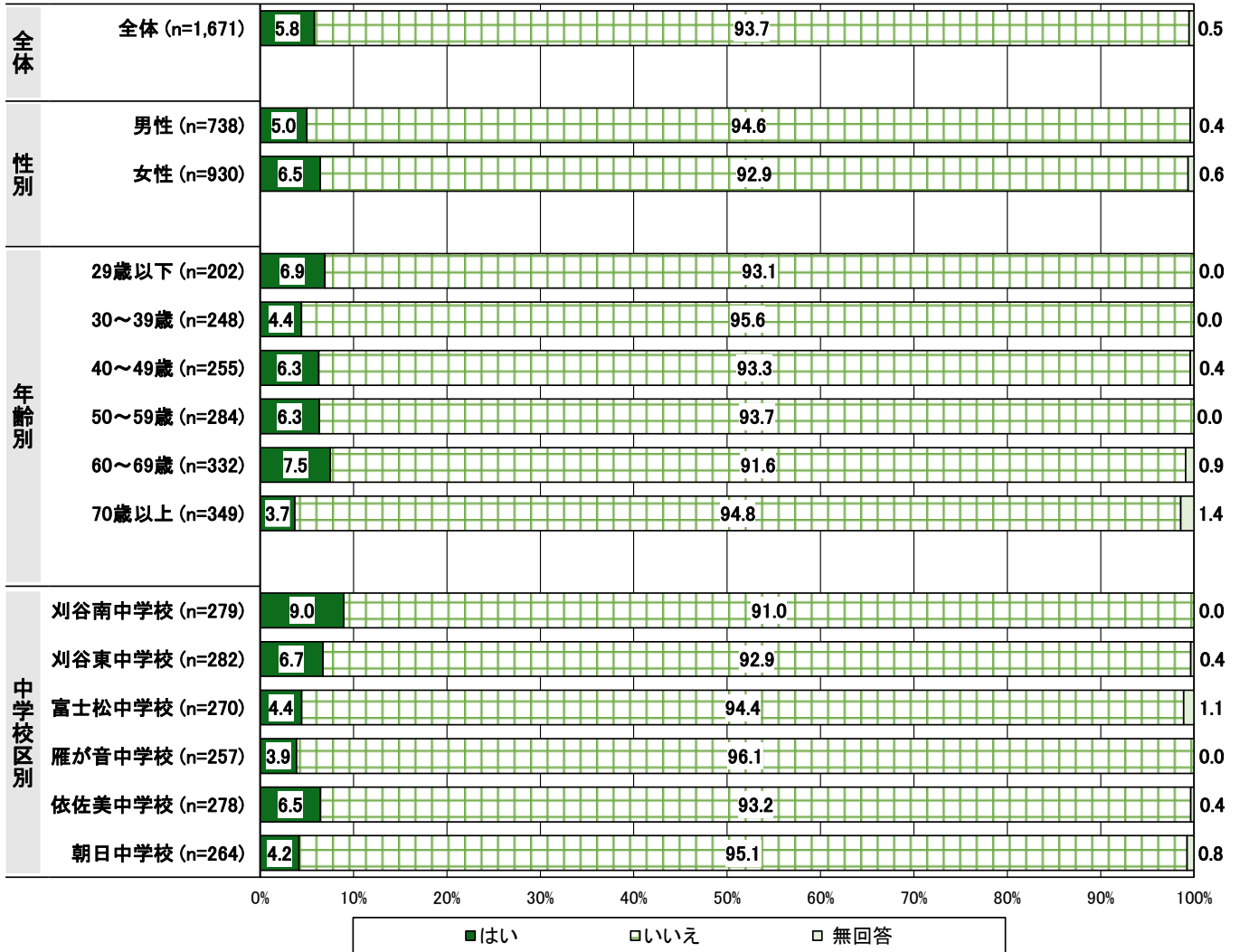


(24) 国際交流イベントへの参加

外国人との交流・共生、国際理解講座、外国語教室など「国際交流イベントや行事に参加したことがある」市民の割合は5.8%（男性5.0%、女性6.5%）となっています。

年齢別でみると、60～69歳が7.5%で最も高く、70歳以上が3.7%で最も低くなっています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区が9.0%で最も高く、雁が音中学校区が3.9%で最も低くなっています。

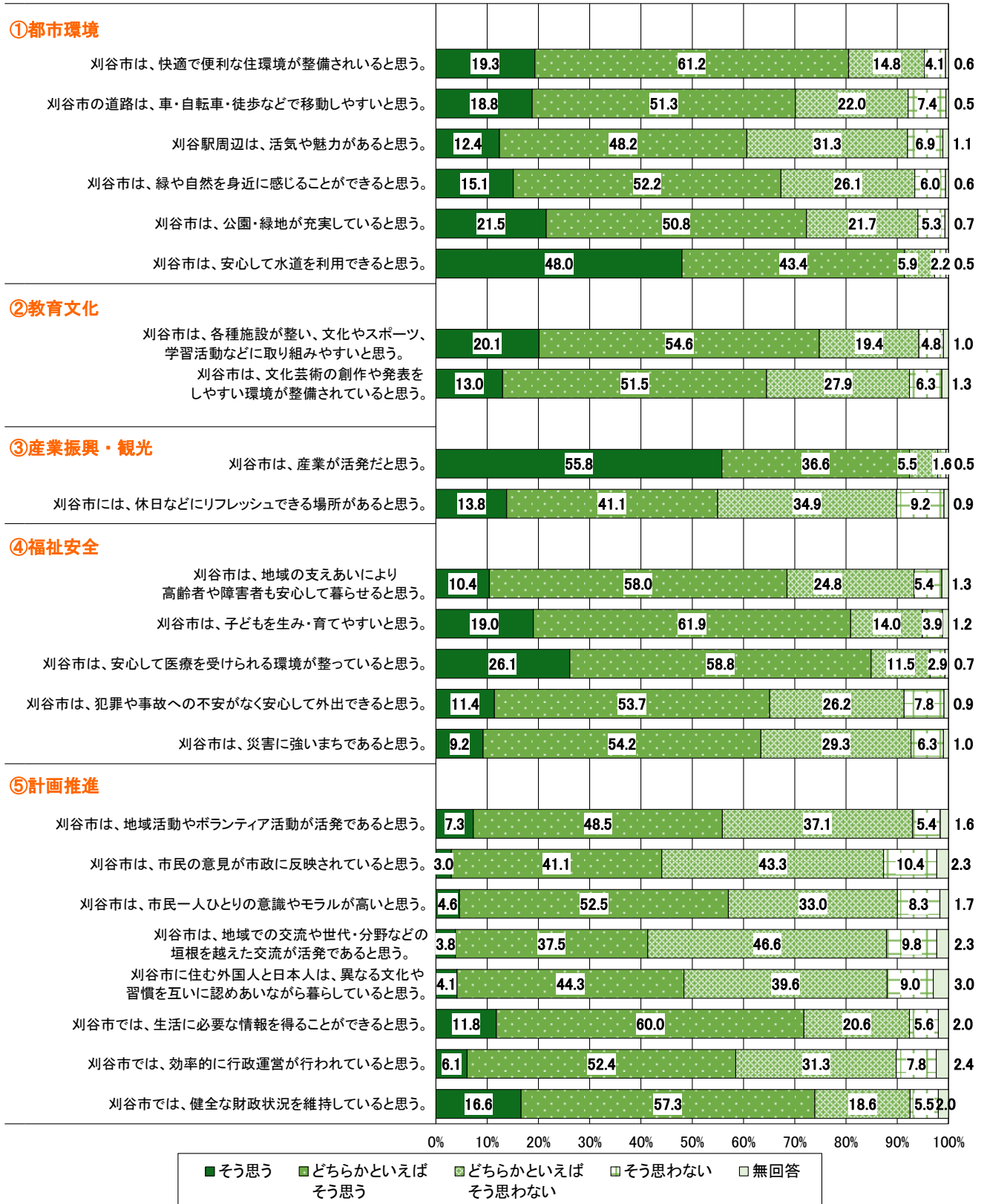


2 - 5. 刈谷市のまちの現状

(設問 39~61 【現状把握】)

図 刈谷市のまちの現状の調査結果比較

(n=1,671)



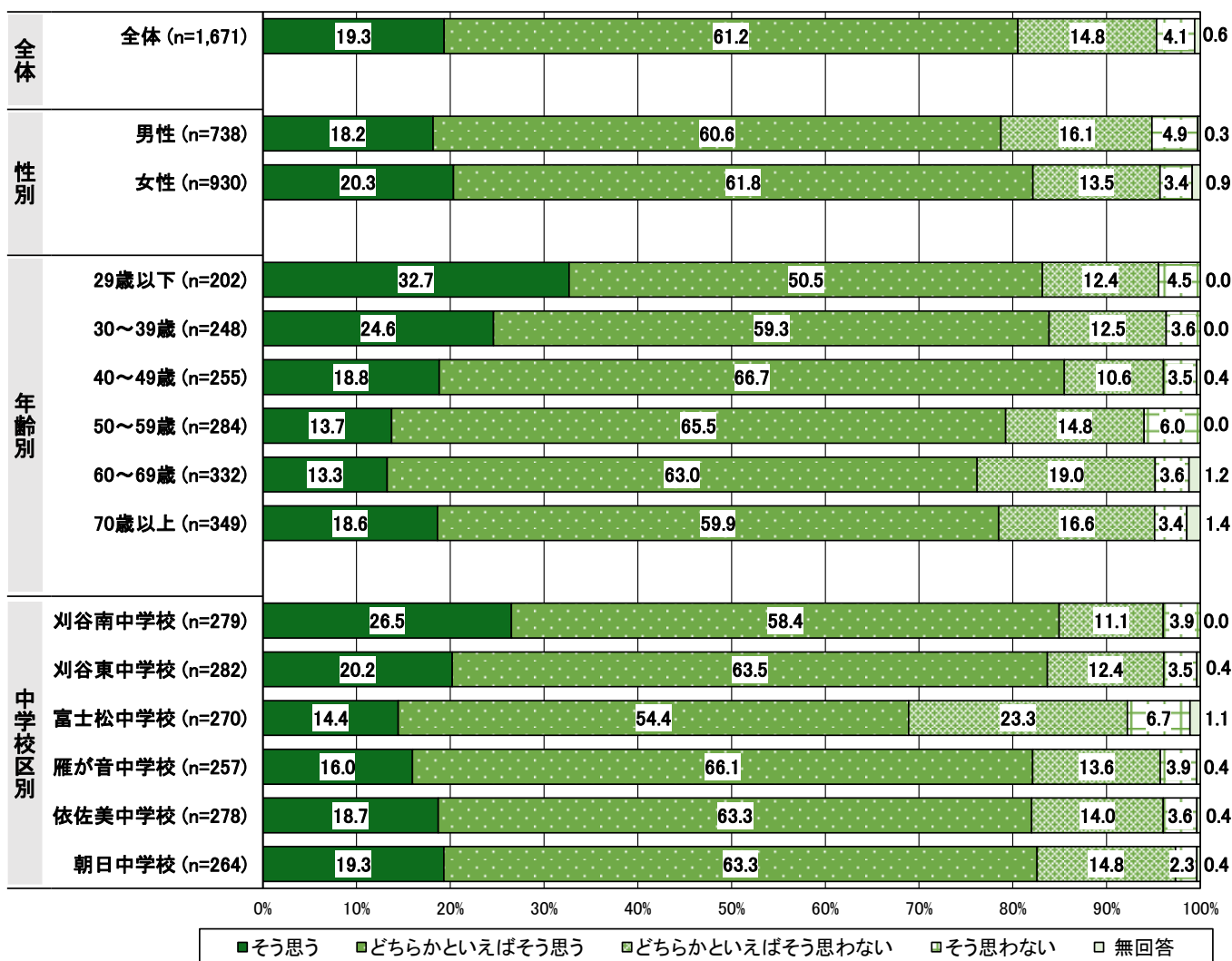
(1) 都市環境について

①快適で便利な住環境

「刈谷市は、快適で便利な住環境が整備されていると思う」市民の割合は、「そう思う」が19.3%、「どちらかといえばそう思う」が61.2%、あわせて80.5%（男性78.8%、女性82.1%）となっています。

年齢別でみると、40～49歳が85.5%で最も高く、最も低い60～69歳の76.3%と、10ポイント近くの差が生じています。

中学校区別では、刈谷南中学校が84.9%で最も高く、最も低い富士松中学校区の68.8%と、15ポイント以上の差が生じています。

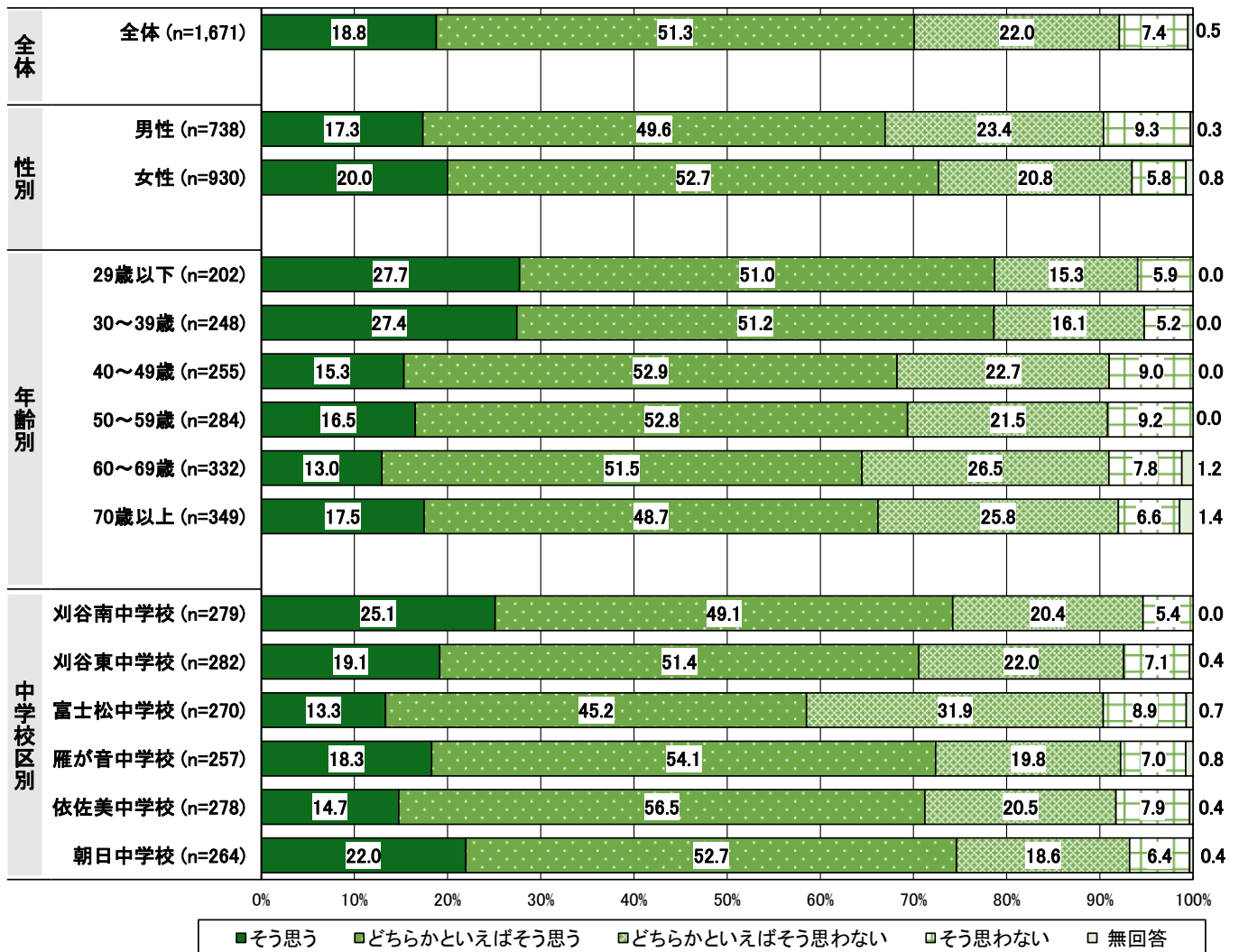


②道路の移動しやすさ

「刈谷市の道路は、車・自転車・徒歩などで移動しやすいと思う」市民の割合は、「そう思う」が18.8%、「どちらかといえばそう思う」が51.3%、あわせて70.1%（男性66.9%、女性72.7%）となっています。

年齢別でみると、29歳以下が78.7%で最も高く、最も低い60～69歳の64.5%と、15ポイント近くの差が生じています。

中学校区別でみると、富士松中学校区が58.5%で最も低く、最も高い朝日中学校の74.7%と、15ポイント以上の差が生じています。

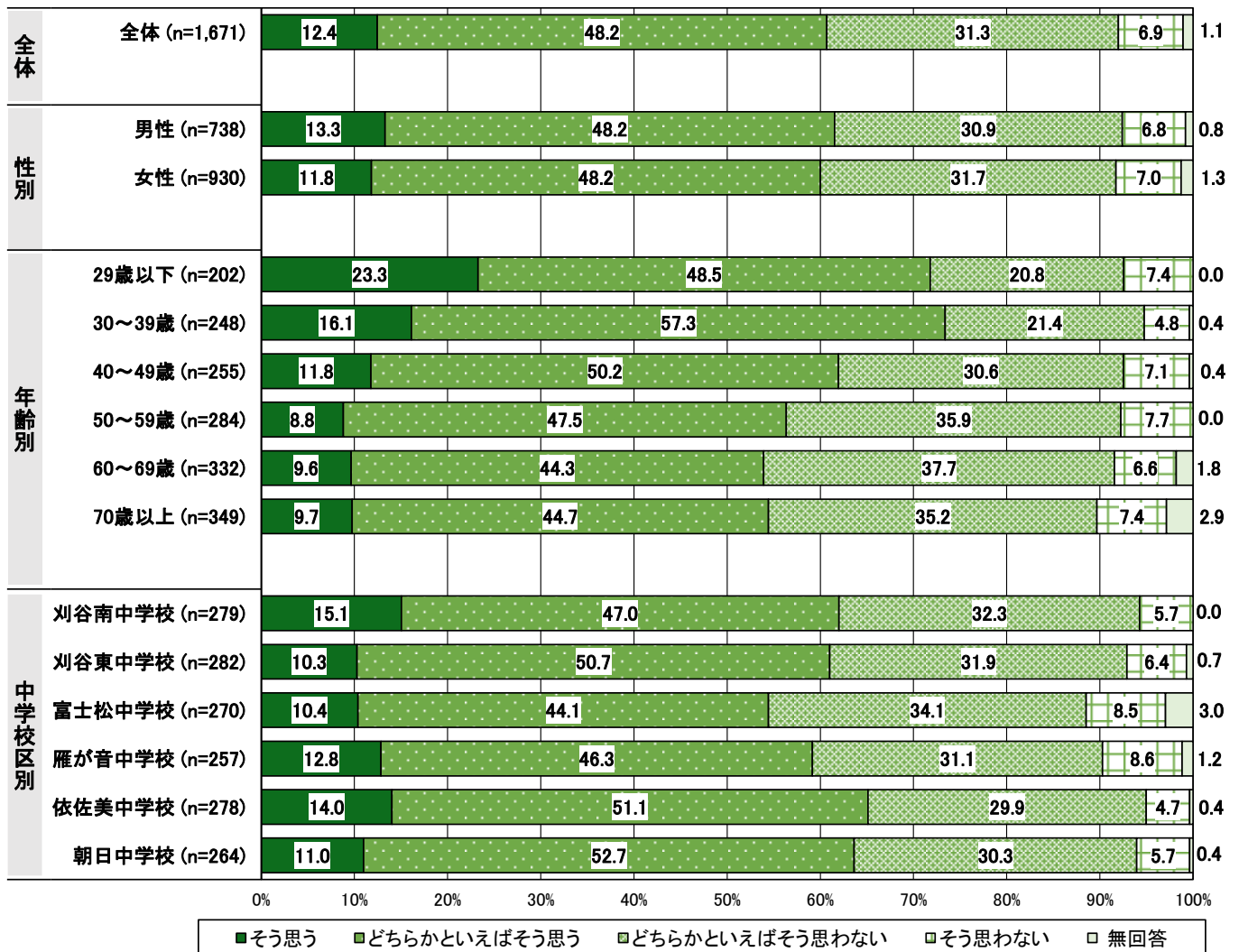


③刈谷駅周辺の活気や魅力

「刈谷駅周辺は、活気や魅力があると思う」市民の割合は、「そう思う」が12.4%、「どちらかといえばそう思う」が48.2%、あわせて60.6%（男性61.5%、女性60.0%）となっています。

年齢別では、年代が低いほど割合は概して高くなる傾向があり、30～39歳が73.4%で最も高く、最も低い60～69歳では53.9%と、20ポイント近くの差が生じています。

中学校区別では、依佐美中学校区が65.1%で最も高く、最も低い富士松中学校の54.5%と、約10ポイントの差が生じています。

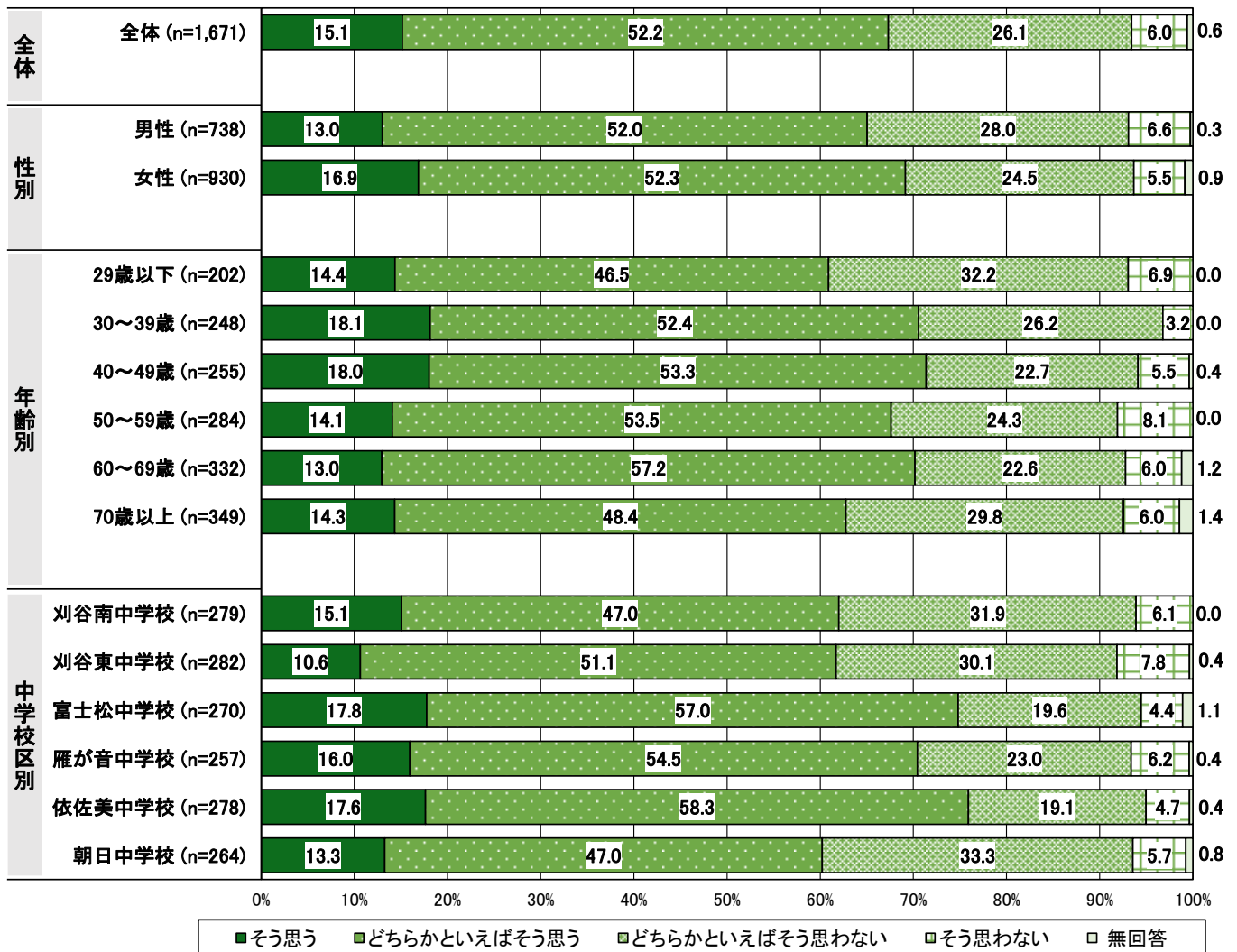


④身近な緑や自然

「刈谷市は、緑や自然を身近に感じることができると思う」市民の割合は、「そう思う」が15.1%、「どちらかといえばそう思う」が52.2%、あわせて67.3%（男性65.0%、女性69.2%）となっています。

年齢別でみると、40～49歳が71.3%で最も高く、最も低い29歳以下が60.9%と、約10ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が75.9%で最も高く、最も低い朝日中学校区の60.3%と、約15ポイントの差が生じています。

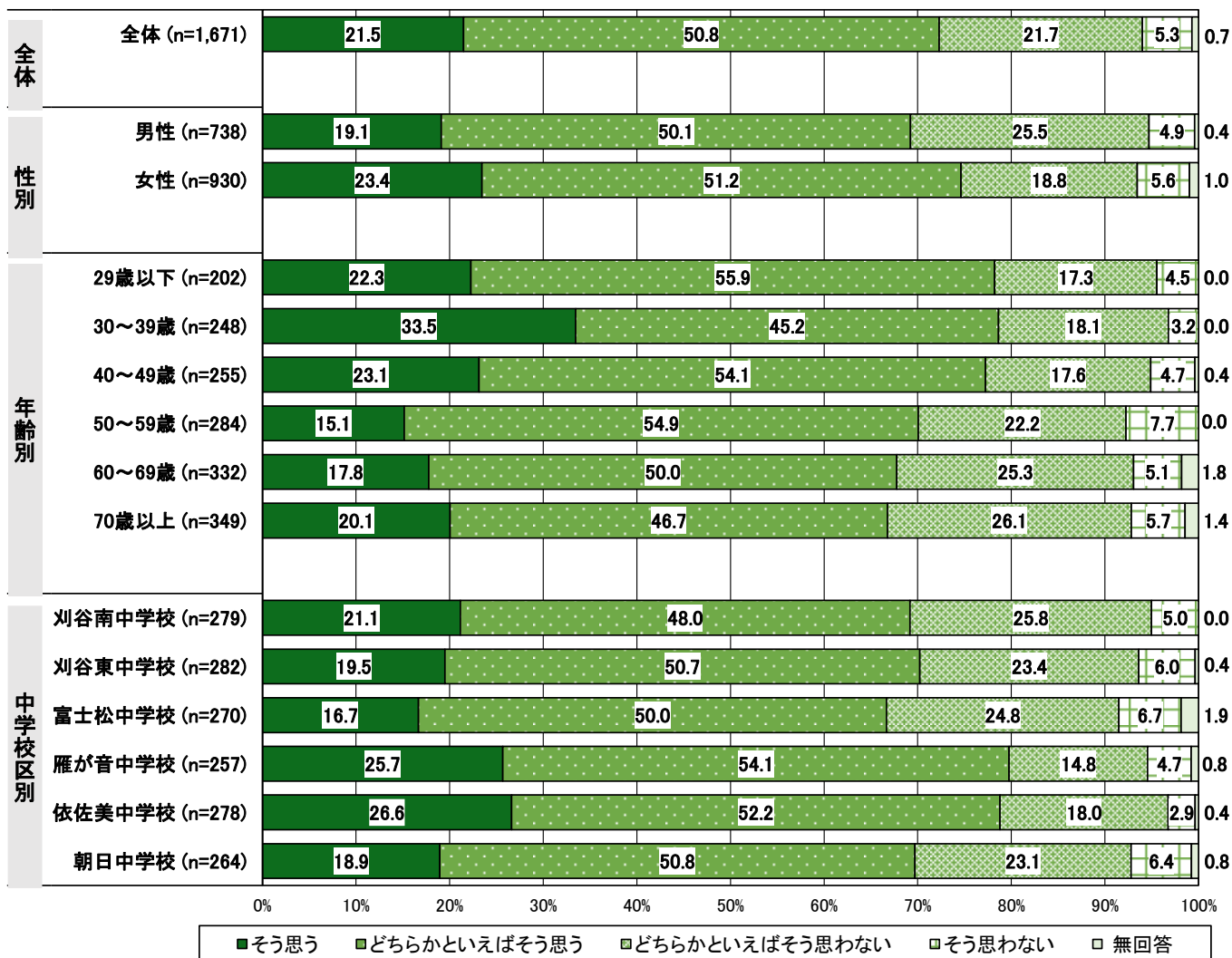


⑤公園・緑地の充実

「刈谷市は、公園・緑地が充実していると思う」市民の割合は、「そう思う」が21.5%、「どちらかといえばそう思う」が50.8%、あわせて72.3%（男性69.2%、女性74.6%）となっています。

年齢別で見ると、30～39歳が78.7%で最も高く、最も低い70歳以上の66.8%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別で見ると、雁が音中学校区が79.8%で最も高く、最も低い富士松中学校区の66.7%と、10ポイント以上の差が生じています。

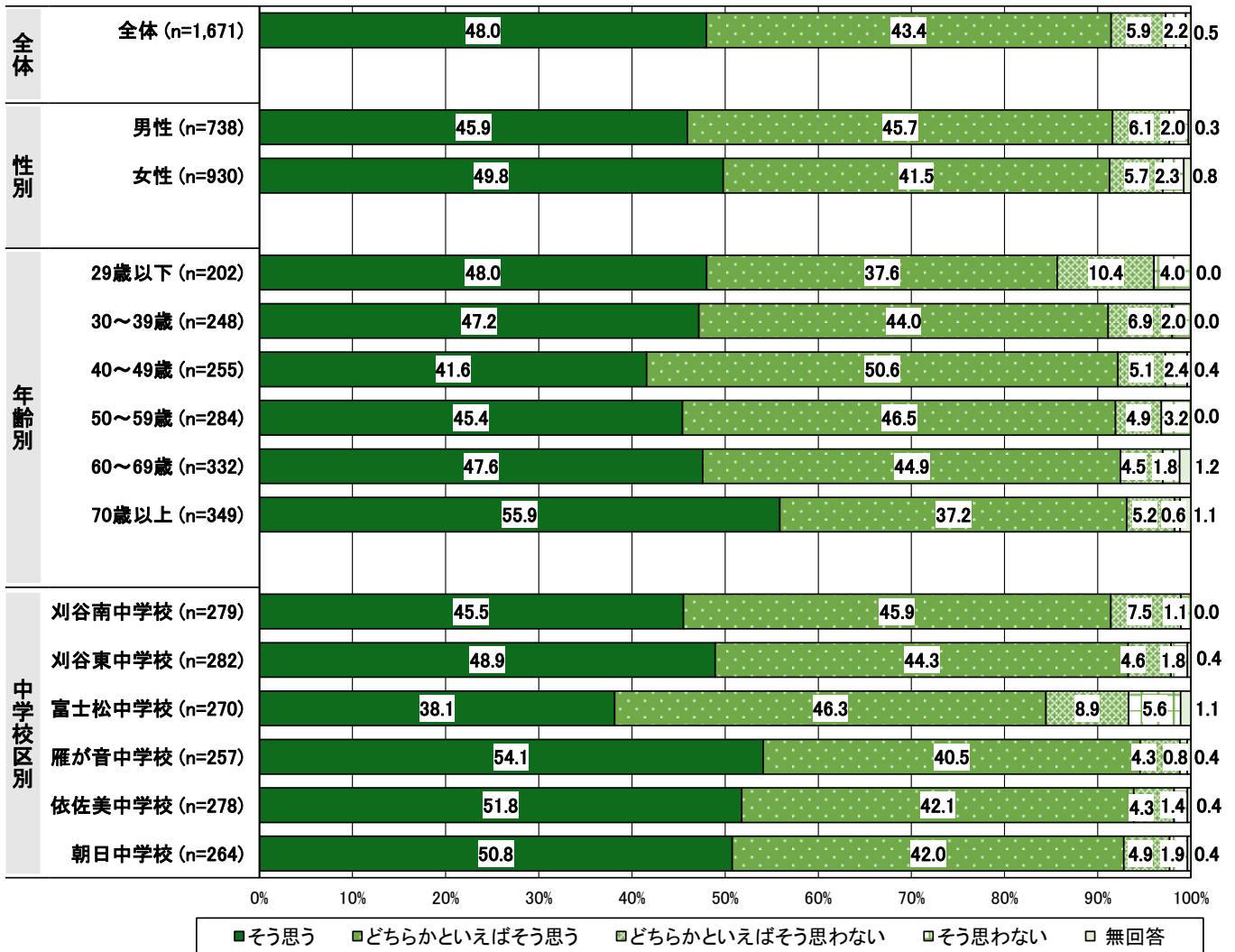


⑥水道の利用

「刈谷市は、安心して水道が利用できると思う」市民の割合は、「そう思う」が48.0%、「どちらかといえばそう思う」が43.4%、あわせて91.4%（男性91.6%、女性91.3%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下が85.6%で最も低く、その他の年代では90%を超えており、最も高い70歳以上の93.1%となっています。

中学校区別で見ると、富士松中学校が84.4%で最も低く、その他の中学校区では90%を超えており、雁が音中学校区が94.6%と最も高くなっています。



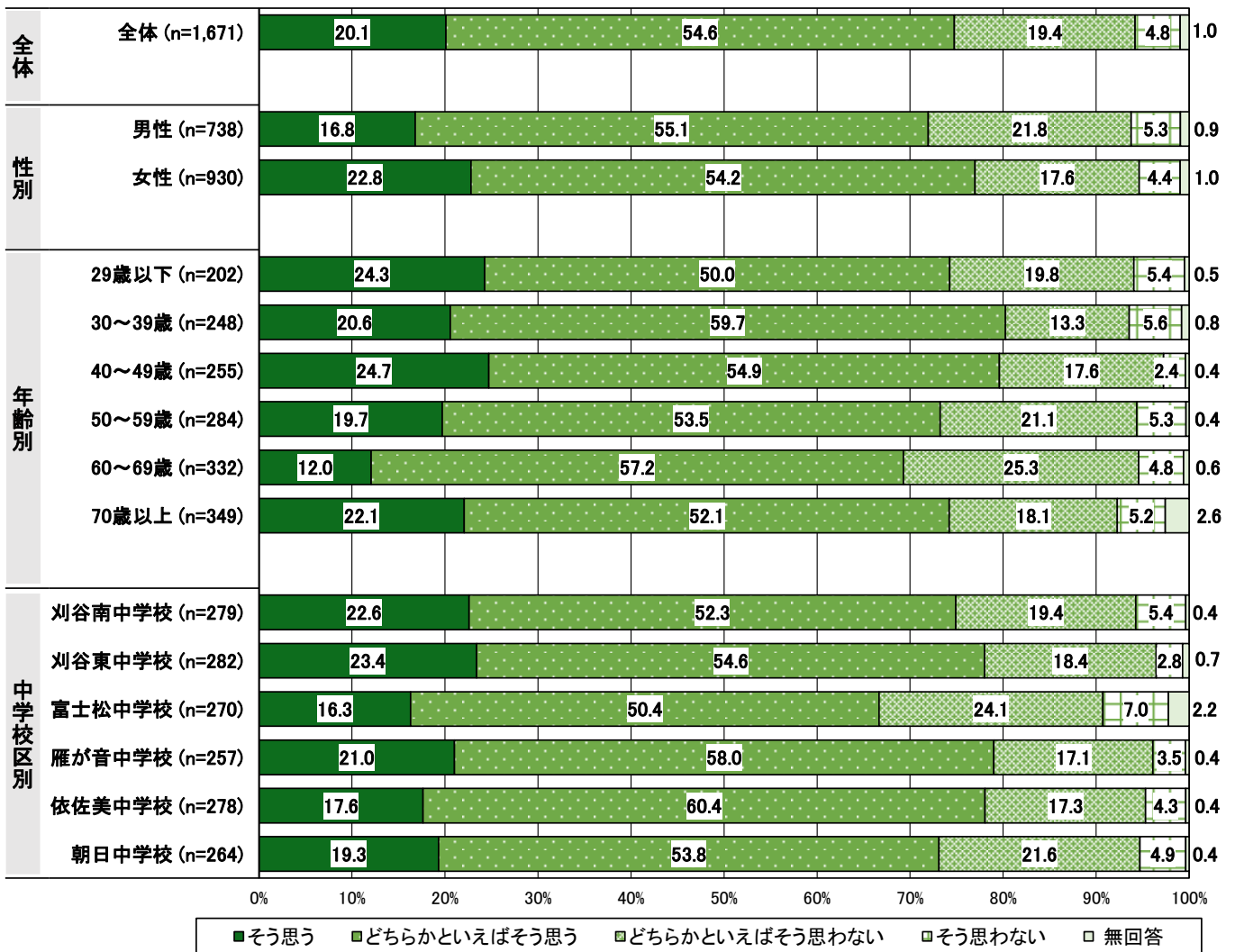
(2) 教育・文化について

①文化やスポーツ、学習活動などの取り組みやすさ

「刈谷市は、各種施設が整い、文化やスポーツ、学習活動などに取り組みやすいと思う」市民の割合は、「そう思う」が20.1%、「どちらかといえばそう思う」が54.6%であり、あわせて74.7%（男性71.9%、女性77.0%）となっています。

年齢別でみると、30～39歳で80.3%と最も高く、最も低い60～69歳で69.2%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、雁が音中学校区が79.0%で最も高く、最も低い富士松中学校区の66.7%と、10ポイント以上の差が生じています。

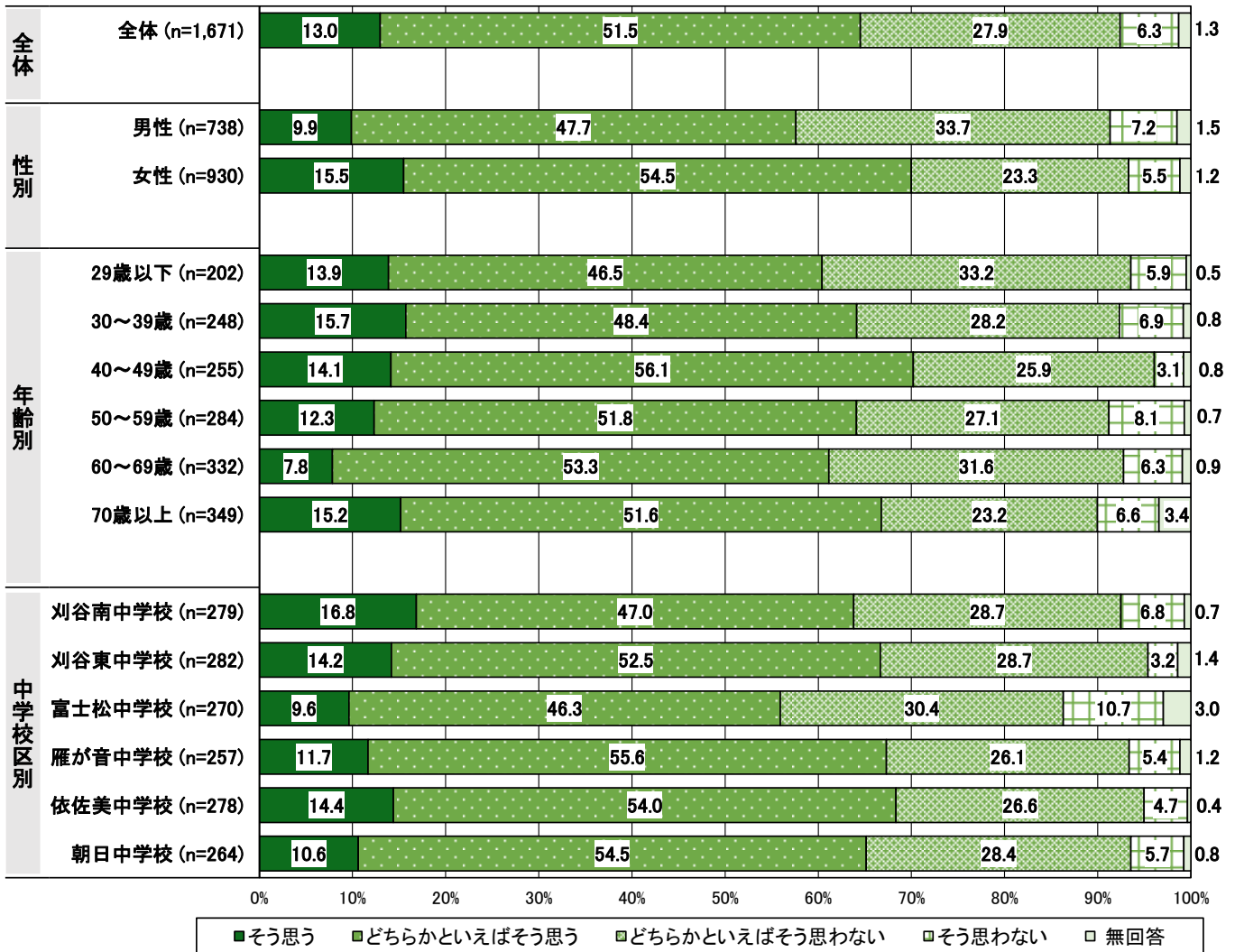


②文化芸術の創作や発表のしやすさ

「刈谷市は、文化芸術の創作や発表がしやすい環境が整備されていると思う」市民の割合は、「そう思う」が13.0%、「どちらかといえばそう思う」が51.5%、あわせて64.5%（男性57.6%、女性70.0%）となっています。

年齢別でみると、40～49歳が70.2%で最も高く、29歳以下が60.4%で最も低くなっています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が68.4%で最も高く、最も低い富士松中学校区の55.9%と、10ポイント以上の差が生じています。



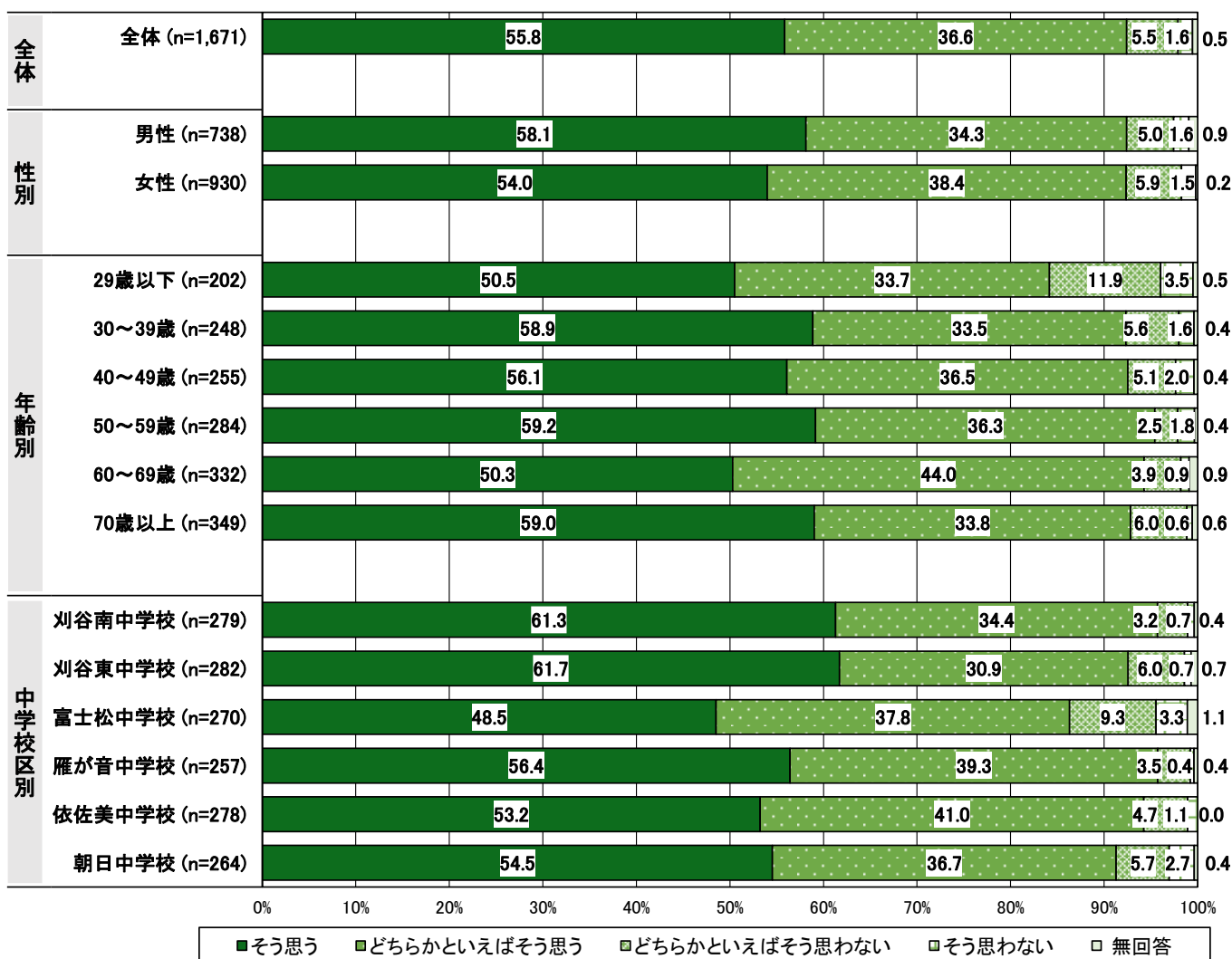
(3) 産業振興・観光について

①産業の活発さ

「刈谷市は、産業が活発だと思う」市民の割合は、「そう思う」が55.8%、「どちらかといえばそう思う」が36.6%、あわせて92.4%（男性92.4%、女性92.4%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下の84.2%が最も低いものの、その他の年代では90%を超えており、最も高い50～59歳の95.5%と、10ポイント以上の差が生じています。

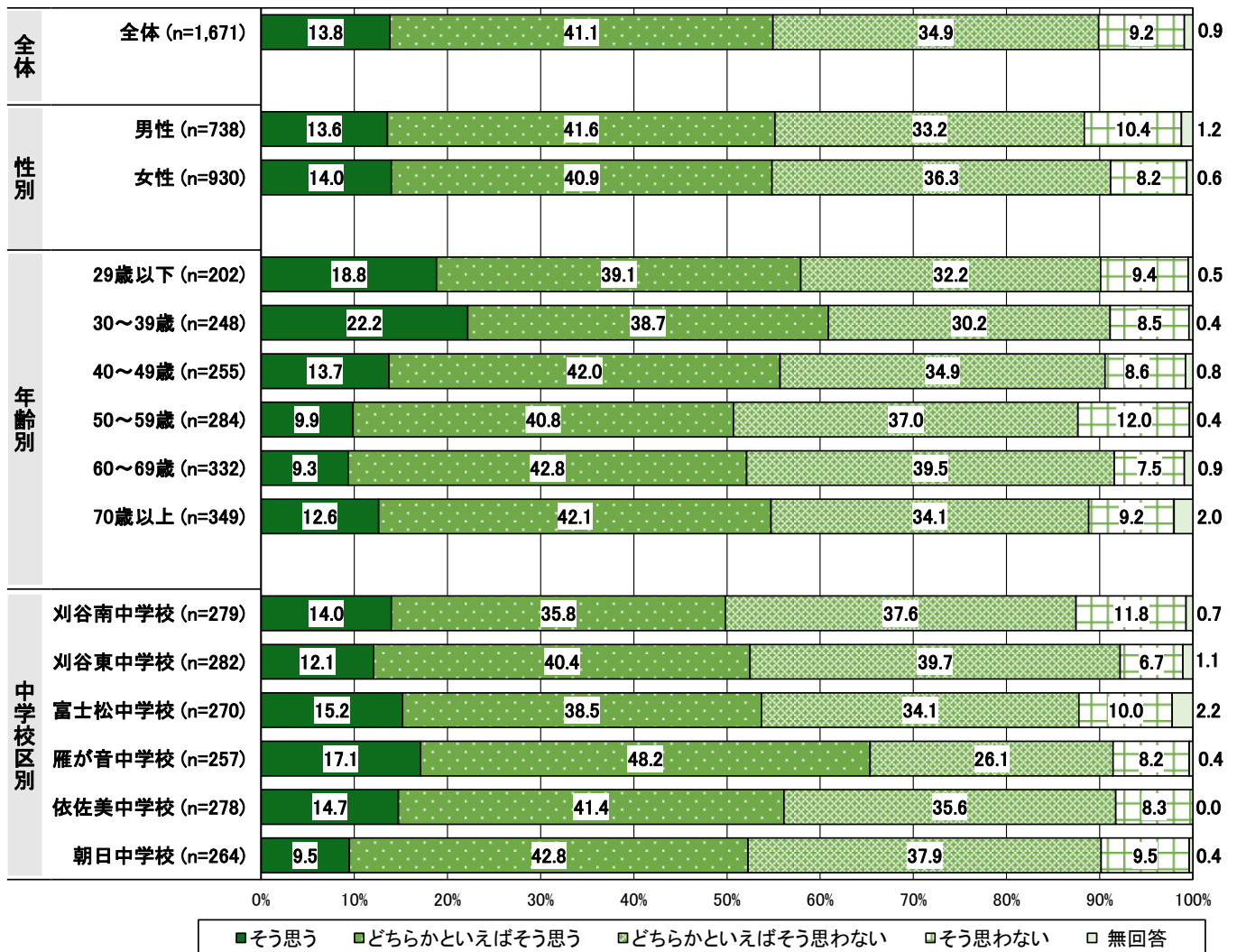
中学校区別で見ると、富士松中学校区が86.3%で最も低く、他の中学校区では90%を超えており、最も高い刈谷南中学校区並びに雁が音中学校区では95.7%となっています。



②休日などにリフレッシュできる場所

「刈谷市には、休日などにリフレッシュできる場所があると思う」市民の割合は、「そう思う」が13.8%、「どちらかといえばそう思う」が41.1%、あわせて54.9%（男性55.2%、女性54.9%）となっています。年齢別でみると、30～39歳が60.9%で最も高く、最も低い50～59歳が50.7%と、約10ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、雁が音中学校区が65.3%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の49.8%と、15ポイント以上の差が生じています。



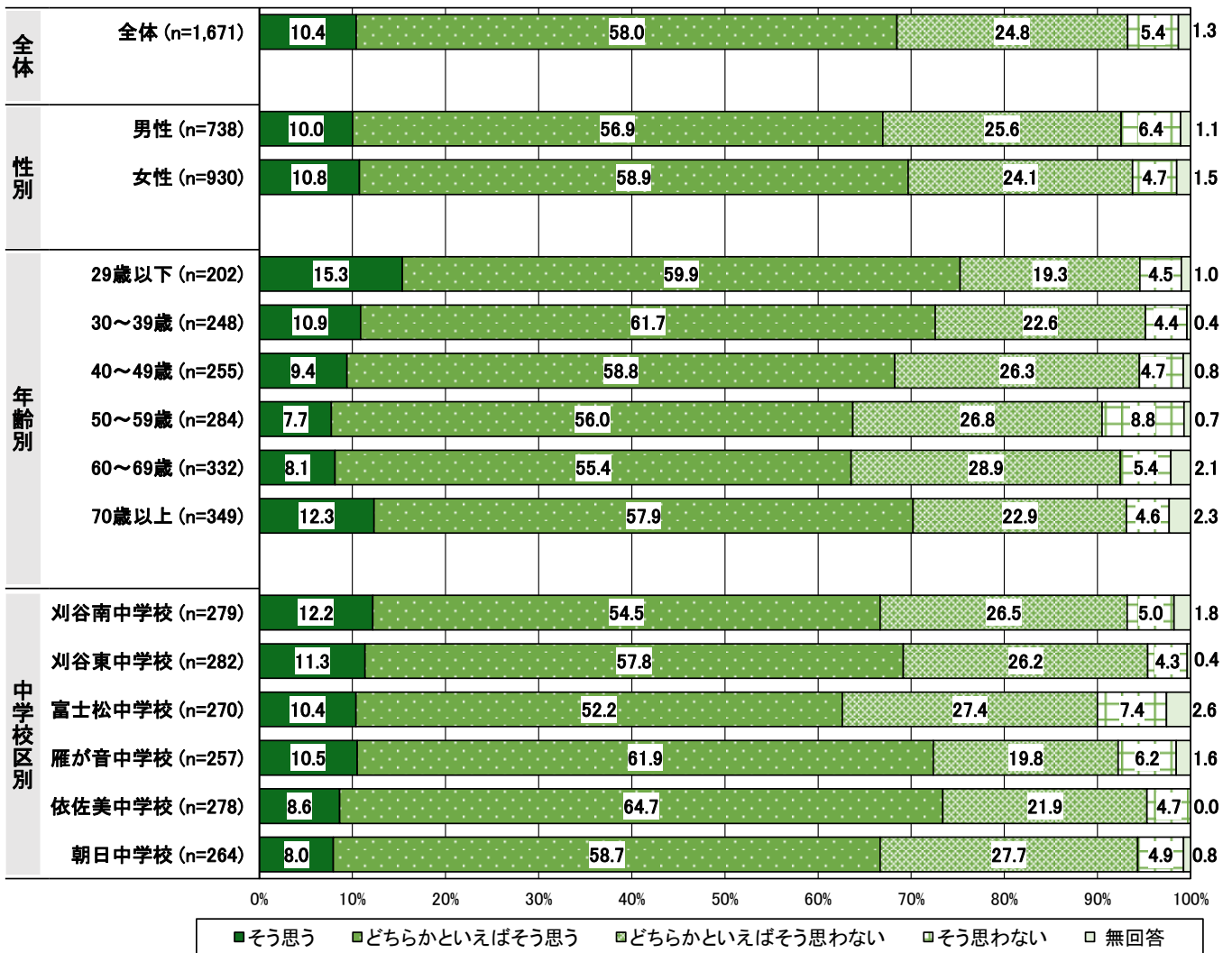
(4) 福祉安全について

①高齢者や障害者の安心した暮らし

「刈谷市は、地域の支えあいにより高齢者や障害者も安心して暮らせると思う」市民の割合は、「そう思う」が10.4%、「どちらかといえばそう思う」が58.0%、あわせて68.4%（男性66.9%、女性69.7%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下が75.2%で最も高く、最も低い60～69歳の63.5%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別で見ると、依佐美中学校区が73.3%で最も高く、最も低い富士松中学校区の62.6%と、約10ポイントの差が生じています。

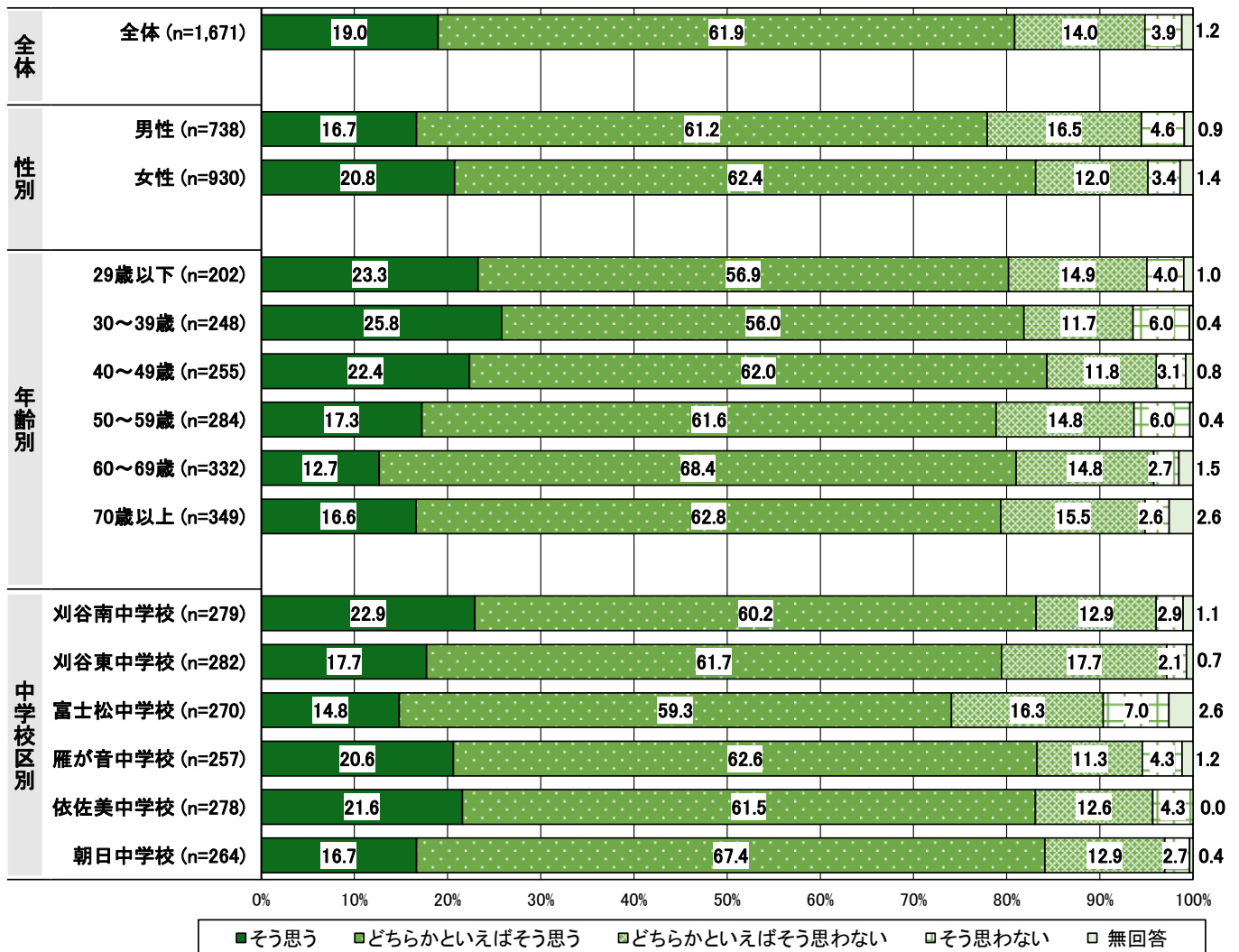


②子どもの生み・育てやすさ

「刈谷市は、子どもを生み・育てやすいと思う」市民の割合は、「そう思う」が19.0%、「どちらかといえばそう思う」が61.9%、あわせて80.9%（男性77.9%、女性83.2%）となっています。

年齢別で見ると、最も低い50～59歳の78.9%から、最も高い40～49歳の84.4%との間に、大きな差はみられません。

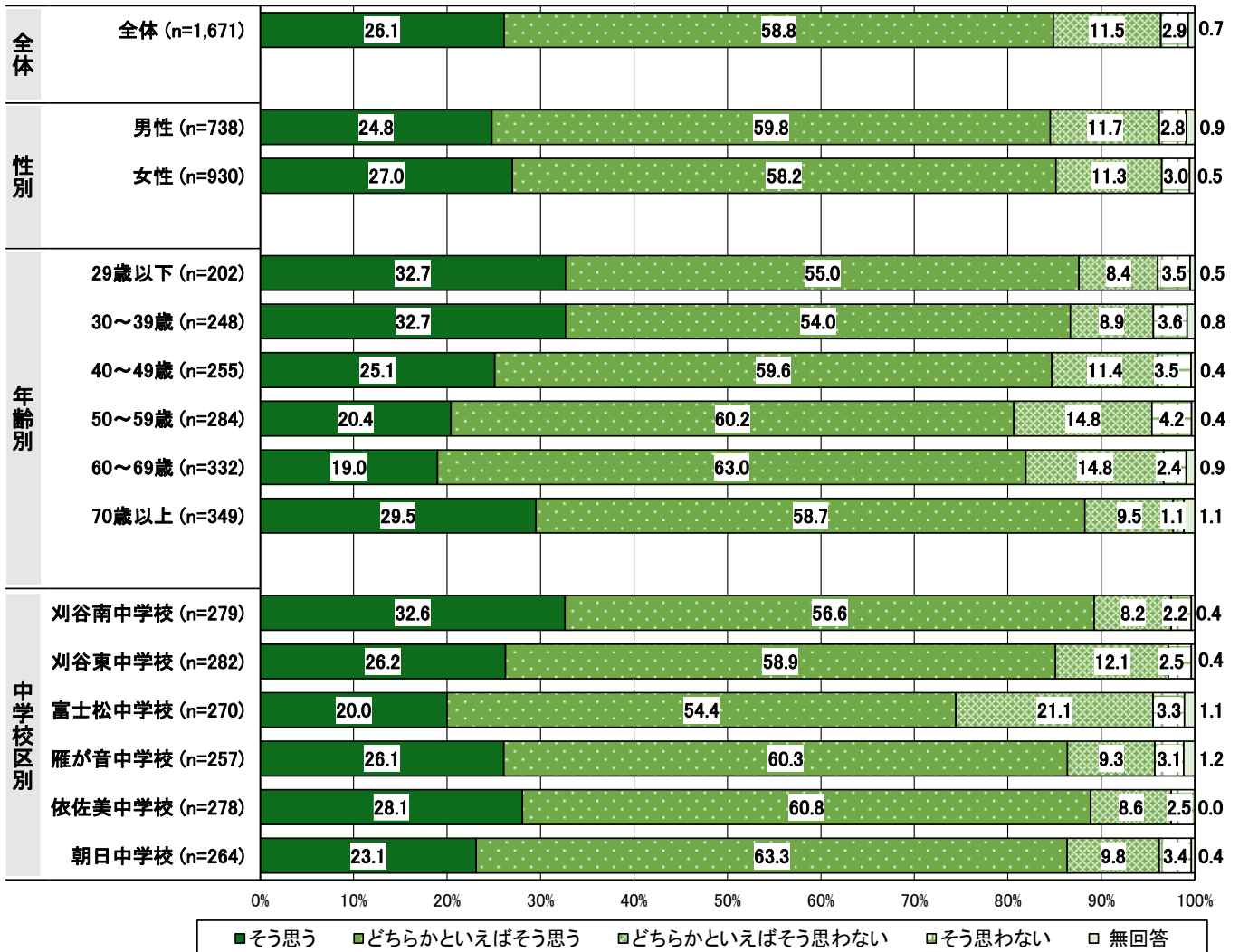
中学校区別で見ると、朝日中学校区が84.1%で最も高く、最も低い富士松中学校区の74.1%と、10ポイントの差が生じています。



③医療環境

「刈谷市は、安心して医療を受けられる環境が整っていると思う」市民の割合は、「そう思う」が26.1%、「どちらかといえばそう思う」が58.8%、あわせて84.9%（男性84.6%、女性85.2%）となっています。年齢別でみると、70歳以上の88.2%が最も高く、他の年代でも80%を超えています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区の89.2%が最も高く、最も低い富士松中学校区の74.4%と、約15ポイントの差が生じています。

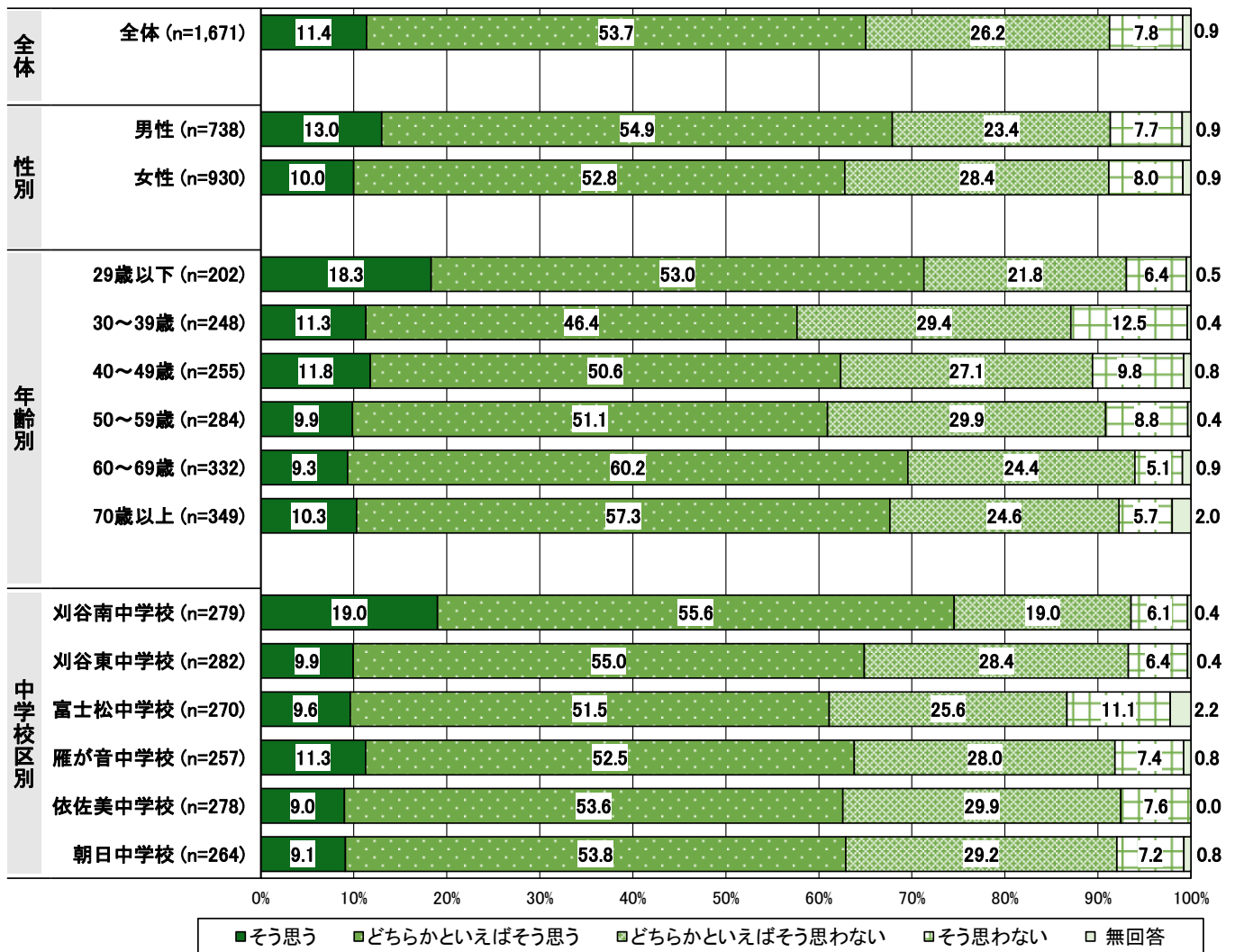


④犯罪や事故への不安

「刈谷市は、犯罪や事故への不安がなく安心して外出ができると思う」市民の割合は、「そう思う」が11.4%、「どちらかといえばそう思う」が53.7%、あわせて65.1%（男性67.9%、女性62.8%）となっています。

年齢別で見ると、29歳以下が71.3%で最も高く、最も低い30～39歳の57.7%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別で見ると、刈谷南中学校区が74.6%で最も高く、最も低い富士松中学校区の61.1%と、10ポイント以上の差が生じています。

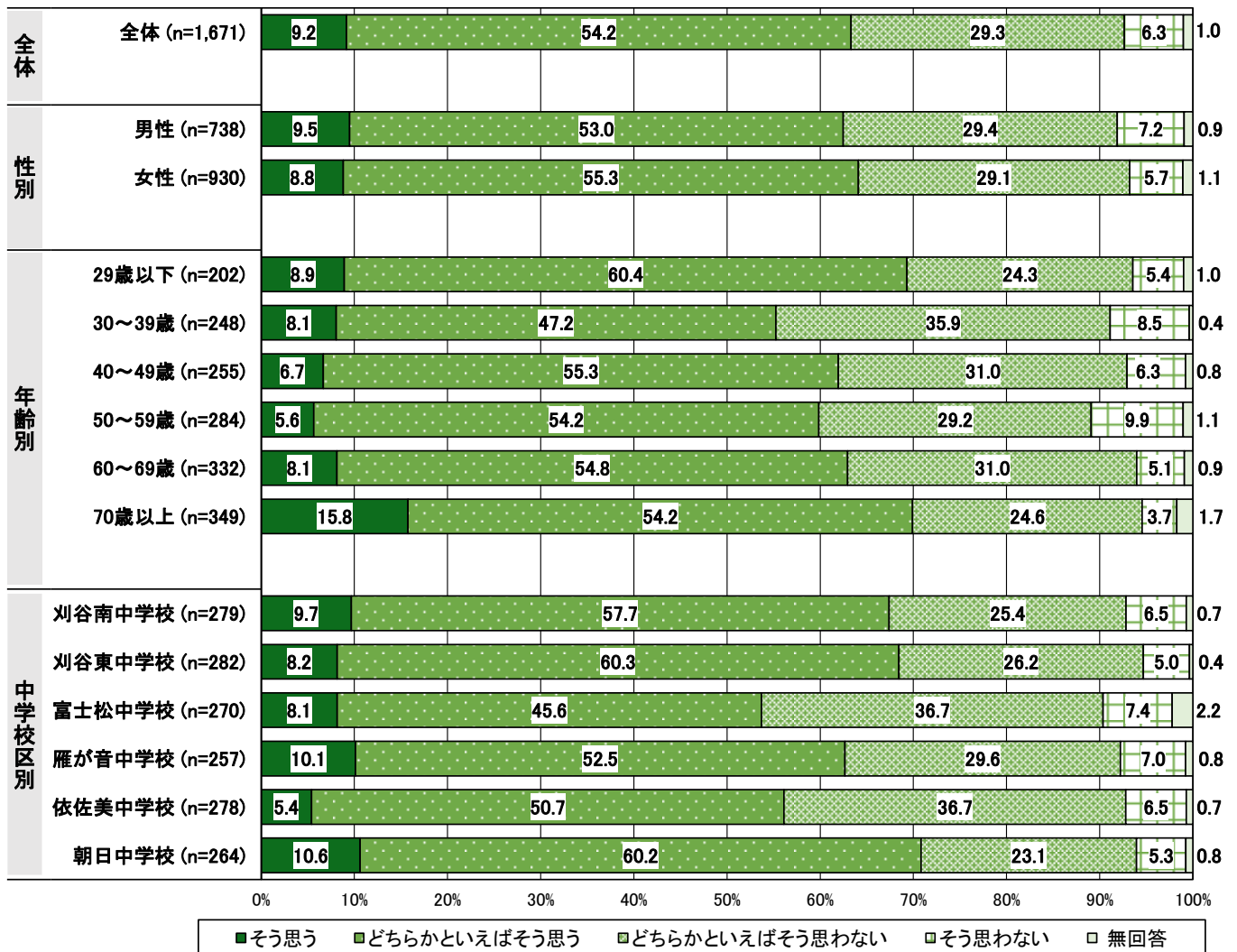


⑤災害への強さ

「刈谷市は、災害に強いまちであると思う」市民の割合は、「そう思う」が9.2%、「どちらかといえばそう思う」が54.2%、あわせて63.4%（男性62.5%、女性64.1%）となっています。

年齢別でみると、70歳以上が70.0%で最も高く、最も低い30～39歳の55.3%と、約15ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、朝日中学校区が70.8%で最も高く、最も低い富士松中学校区の53.7%と、15ポイント以上の差が生じています。



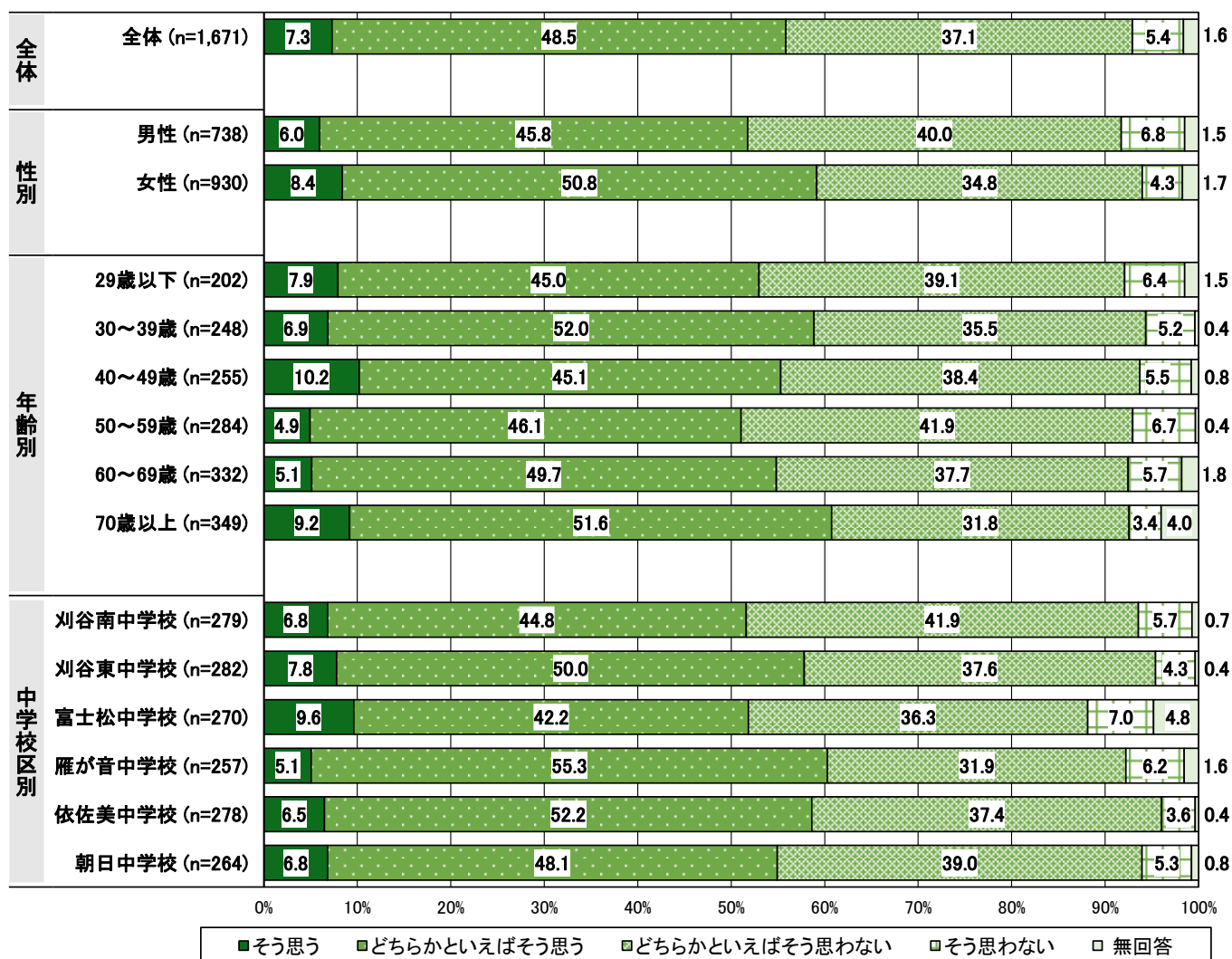
(5) 計画推進について

①地域活動やボランティア活動の活発さ

「刈谷市は、地域活動やボランティア活動が活発であると思う」市民の割合は、「そう思う」が 7.3%、「どちらかといえばそう思う」が 48.5%、あわせて 55.8%（男性 51.8%、女性 59.2%）となっています。

年齢別でみると、70歳以上が 60.8%で最も高く、最も低い 50～59歳の 51.0%と、10ポイント近くの差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区が 51.6%で最も低く、最も高い雁が音中学校区の 60.4%と、大きな差はみられません。

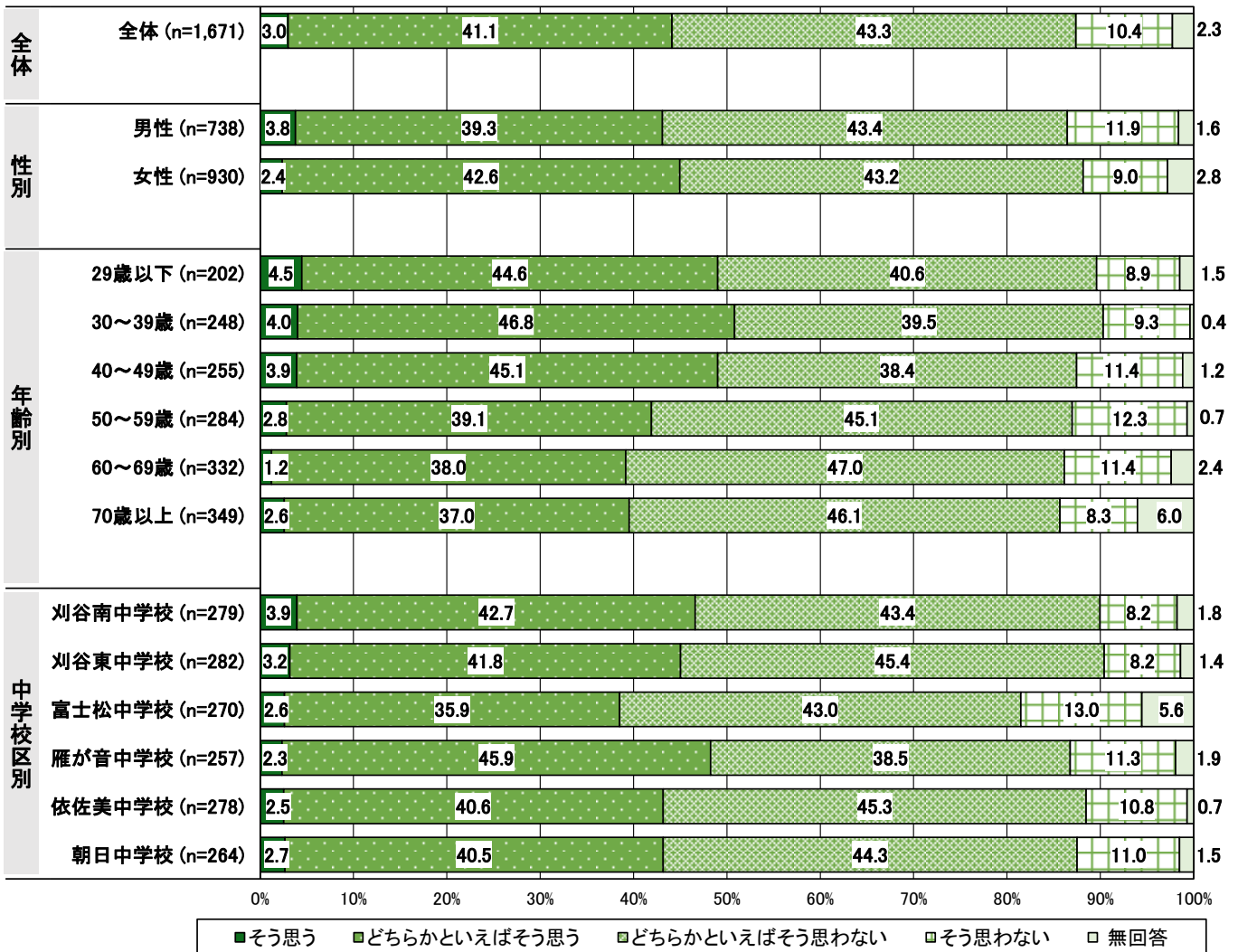


②市民意見の市政への反映

「刈谷市は、市民の意見が市政に反映されていると思う」市民の割合は、「そう思う」が3.0%、「どちらかといえばそう思う」が41.1%、あわせて44.1%（男性43.1%、女性45.0%）となっています。

年齢別でみると、30～39歳が50.8%で最も高く、最も低い60～69歳の39.2%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、雁が音中学校区が48.2%で最も高く、最も低い富士松中学校区の38.5%と、10ポイント近くの差が生じています。

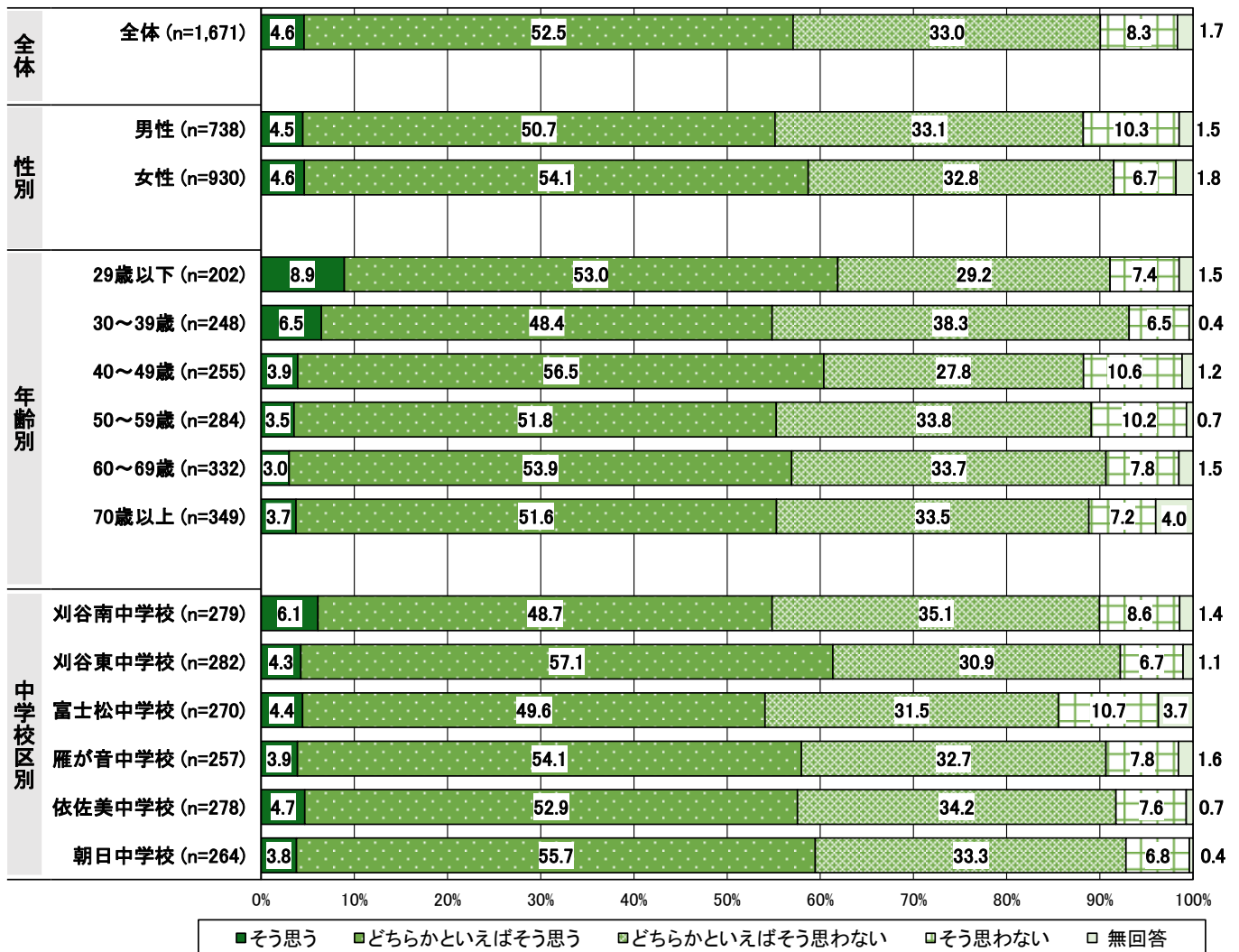


③市民一人ひとりの意識やモラル

「刈谷市は、市民一人ひとりの意識やモラルが高いと思う」市民の割合は、「そう思う」が4.6%、「どちらかといえばそう思う」が52.5%、あわせて57.1%（男性55.2%、女性58.7%）となっています。

年齢別でみると、29歳以下が61.9%で最も高く、30～39歳が54.9%で最も低くなっていますが、大きな差はみられません。

中学校区別でみると、最も高い刈谷東中学校区で61.4%、最も低い富士松中学校区で54.0%となっており、中学校区間でそれほど違いはみられません。

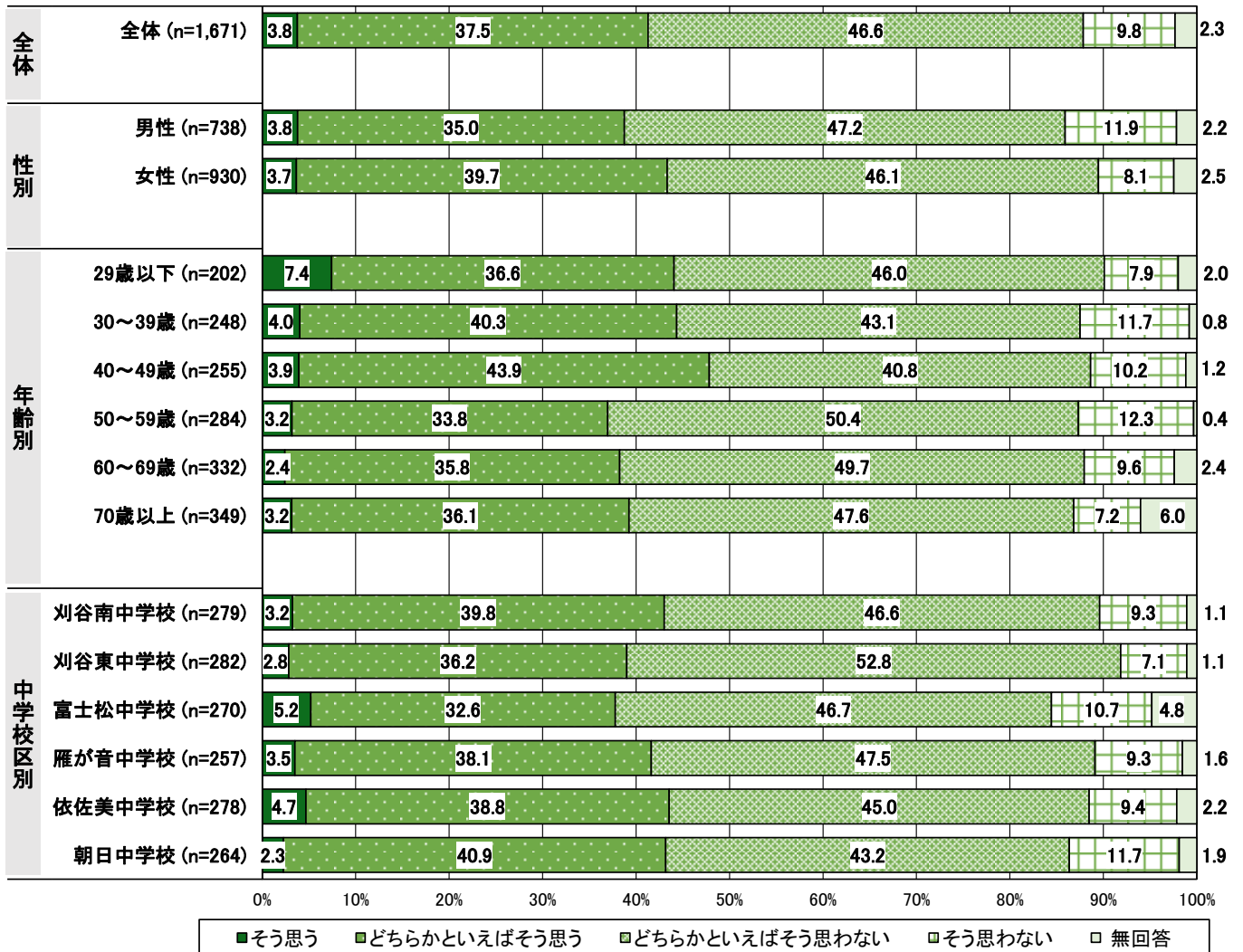


④地域交流や世代・分野間交流の活発さ

「刈谷市は、地域での交流や世代・分野などの垣根を越えた交流が活発であると思う」市民の割合は、「そう思う」が3.8%、「どちらかといえばそう思う」が37.5%、あわせて41.3%（男性38.8%、女性43.4%）となっています。

年齢別でみると、40～49歳が47.8%で最も高く、最も低い50～59歳の37.0%と、約10ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が43.5%で最も高く、富士松中学校区が37.8%で最も低くなっていますが、大きな差はみられません。

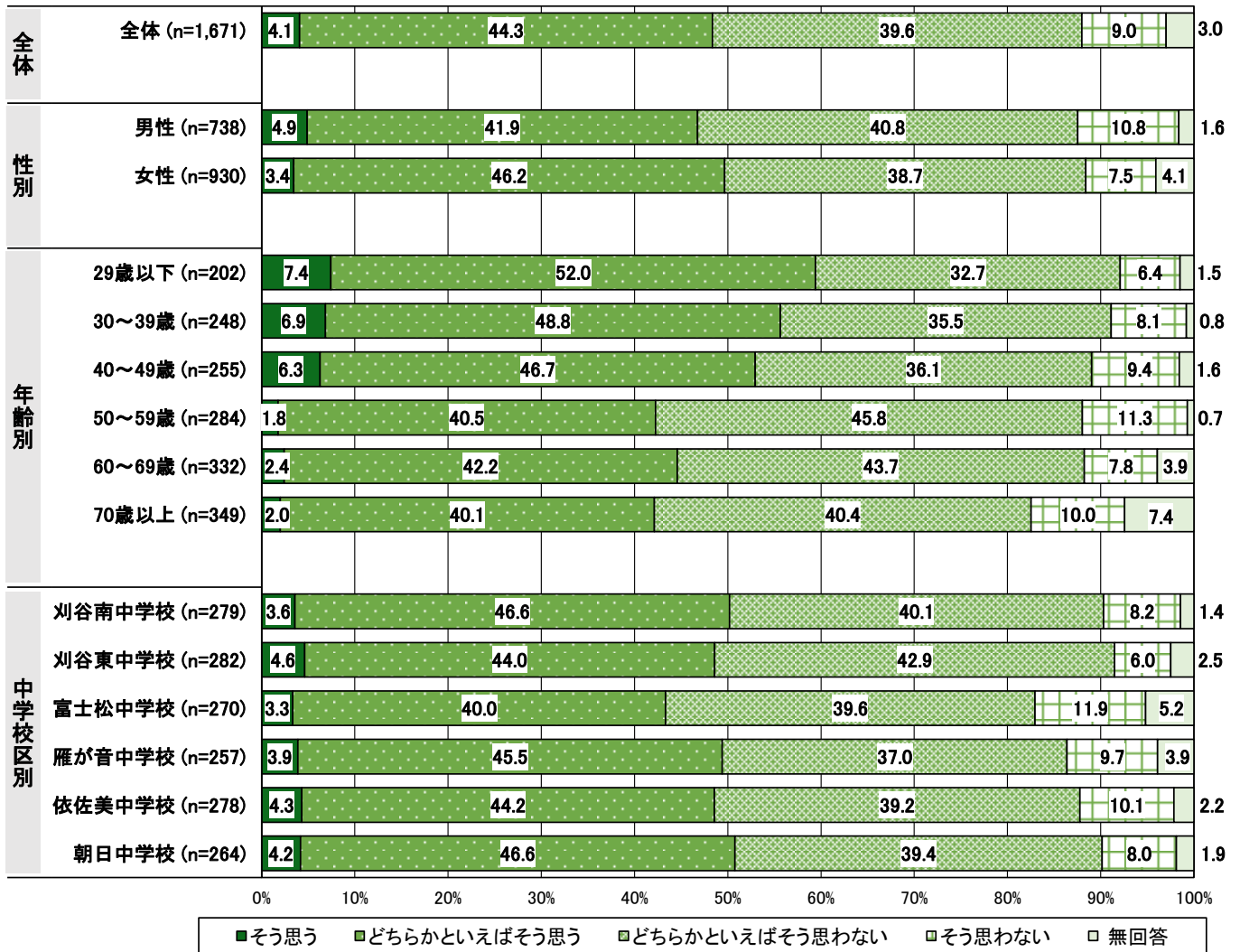


⑤外国人との共生

「刈谷市に住む外国人と日本人は、異なる文化や習慣を互いに認め合いながら暮らしていると思う」市民の割合は、「そう思う」が4.1%、「どちらかといえばそう思う」が44.3%、あわせて48.4%（男性46.8%、女性49.6%）となっています。

年齢別でみると、29歳以下が59.4%で最も高く、最も低い70歳以上の42.1%と、15ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、最も高い朝日中学校区が50.8%、最も低い富士松中学校区が43.3%となっており、中学校区間でそれほど違いはみられません。

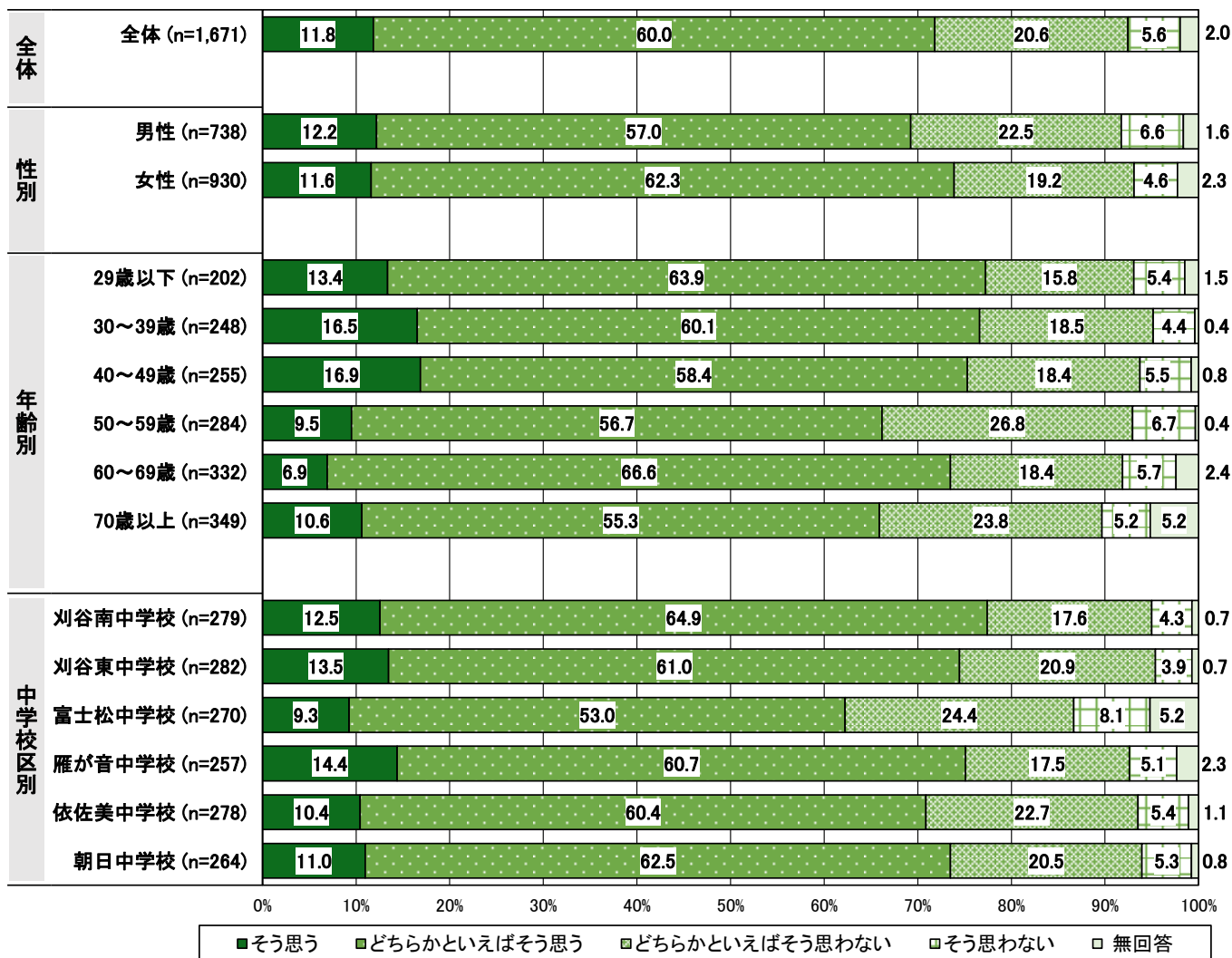


⑥生活に必要な情報

「刈谷市では、生活に必要な情報を得ることができると思う」市民の割合は、「そう思う」が11.8%、「どちらかといえばそう思う」が60.0%、あわせて71.8%（男性69.2%、女性73.9%）となっています。

年齢別でみると、29歳以下が77.3%で最も高く、最も低い70歳以上の65.9%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、富士松中学校区が62.3%で最も低く、最も高い刈谷南中学校区の77.4%と、15ポイント近くの差が生じています。

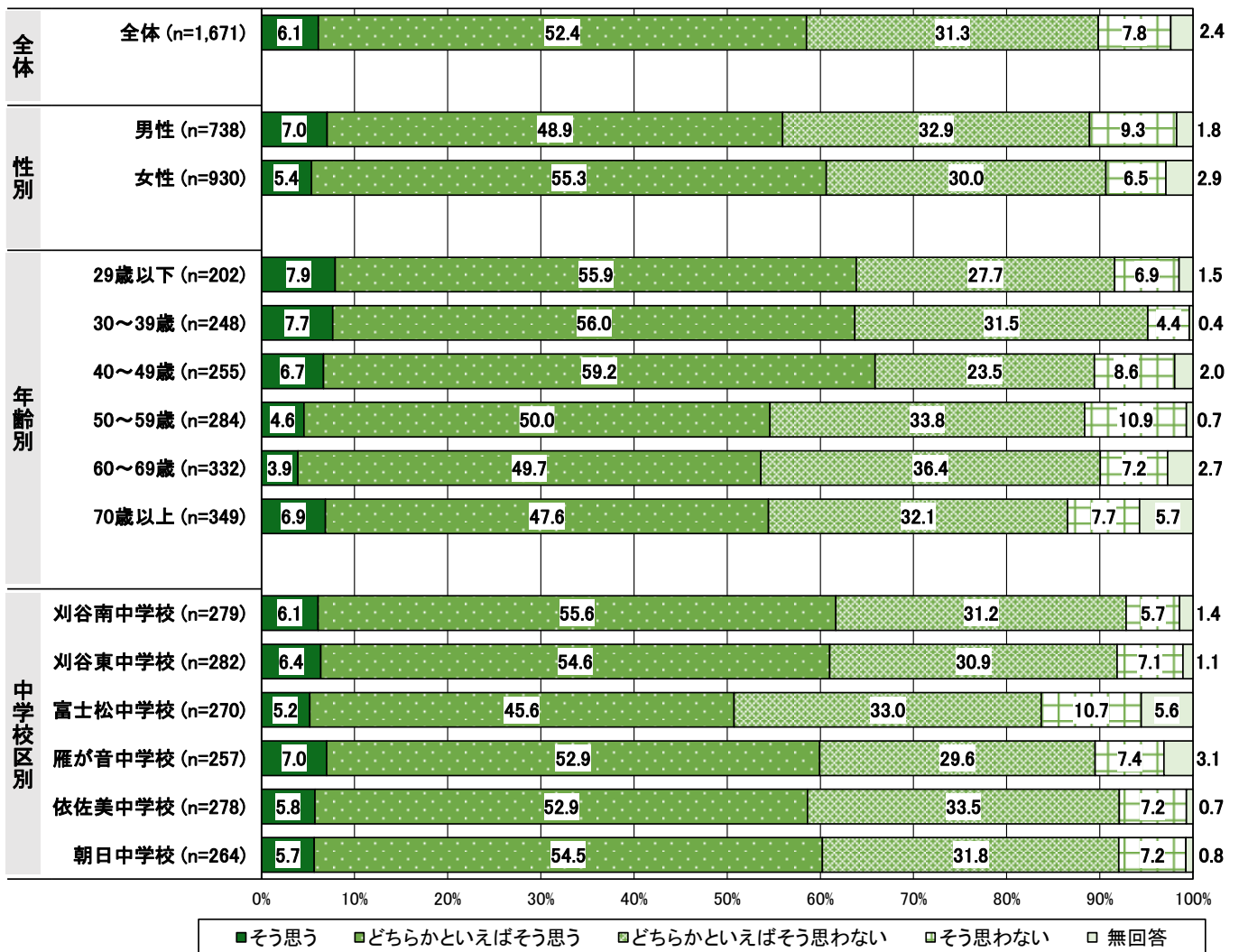


⑦効率的な行政運営

「刈谷市では、効率的に行政運営が行われていると思う」市民の割合は、「そう思う」が6.1%、「どちらかといえばそう思う」が52.4%、あわせて58.5%（男性55.9%、女性60.7%）となっています。

年齢別でみると、40～49歳が65.9%で最も高く、最も低い60～69歳の53.6%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区が61.7%で最も高く、最も低い富士松中学校区の50.8%と、10ポイント以上の差が生じています。

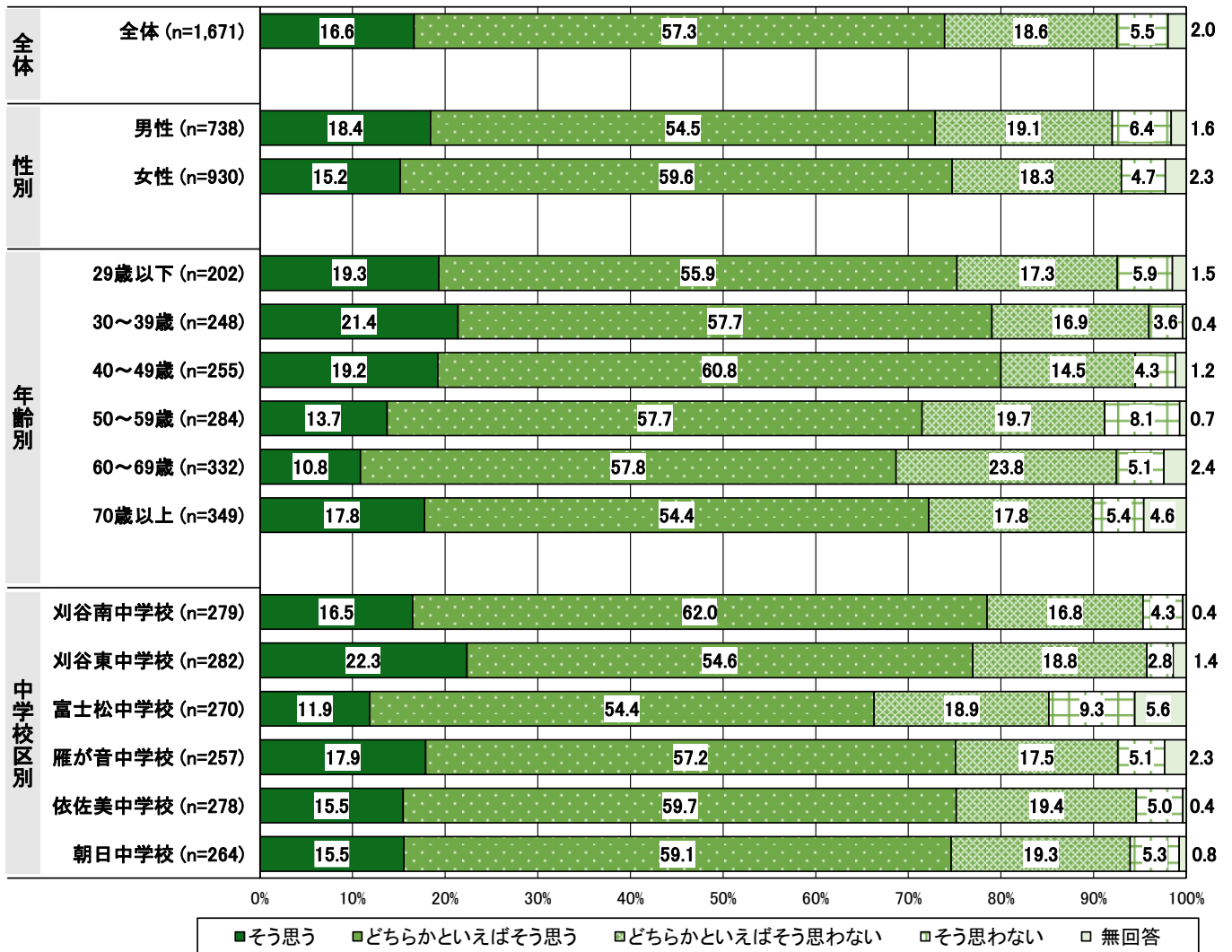


⑧健全な財政維持

「刈谷市は、健全な財政状況を維持していると思う」市民の割合は、「そう思う」が16.6%、「どちらかといえばそう思う」が57.3%、あわせて73.9%（男性72.9%、女性74.8%）となっています。

年齢別でみると、40～49歳が80.0%で最も高く、最も低い60～69歳でも68.6%と、10ポイント以上の差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区が78.5%で最も高く、最も低い富士松中学校区の66.3%と、10ポイント以上の差が生じています。



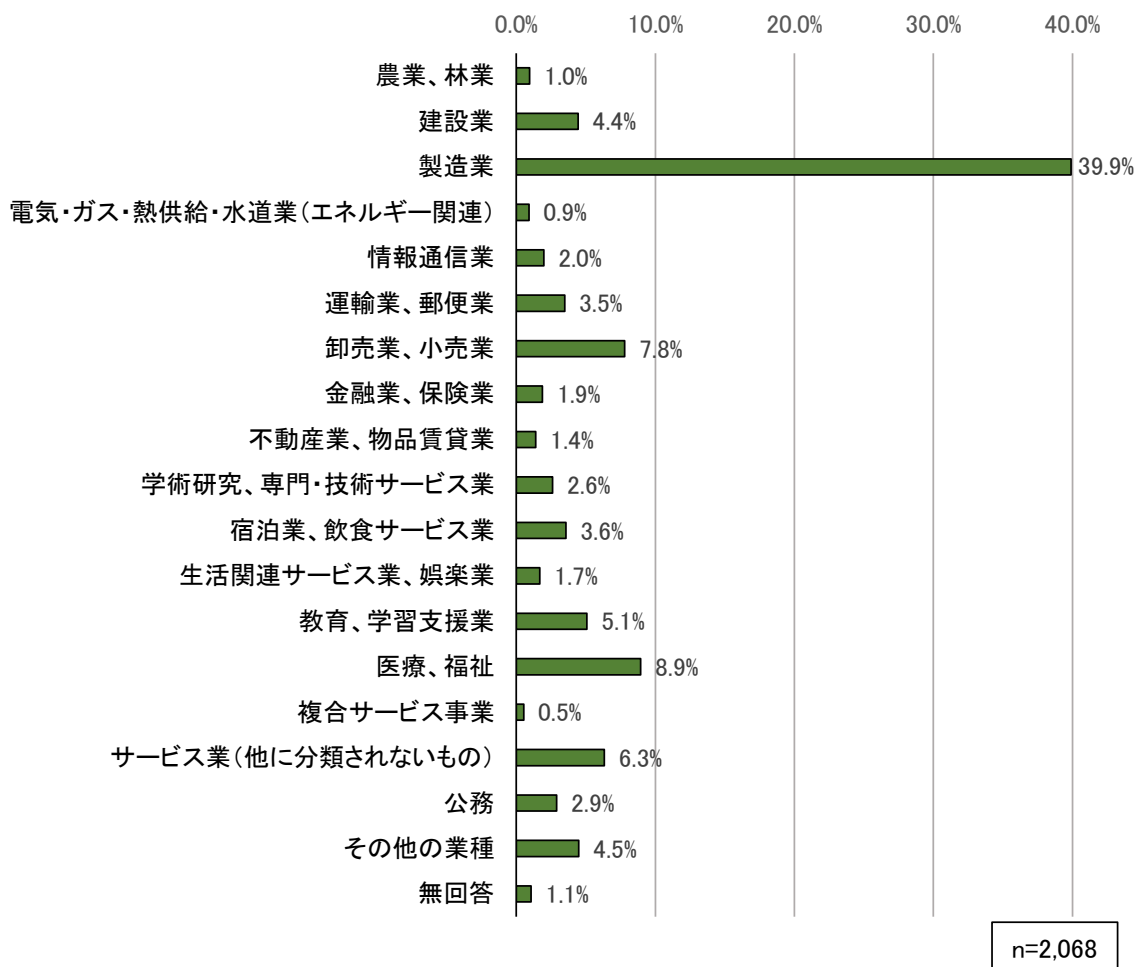
3. 新型コロナウイルス感染症の影響について

3 - 1. 回答者の業種

市政評価(設問 48)、現状把握(設問 62)

※設問6『あなたの職業は?』に対し、「1.自営業(農林業等従事者も含む)」「2.正規の職員・従業員(公務員、専門職含む)」「3.派遣・契約社員」「4.パート・アルバイト」「5.会社員などの役員」と回答した方

最も多いのは、「製造業」39.9%、次いで「医療、福祉」8.9%、「卸売業、小売業」7.8%の順となっています。

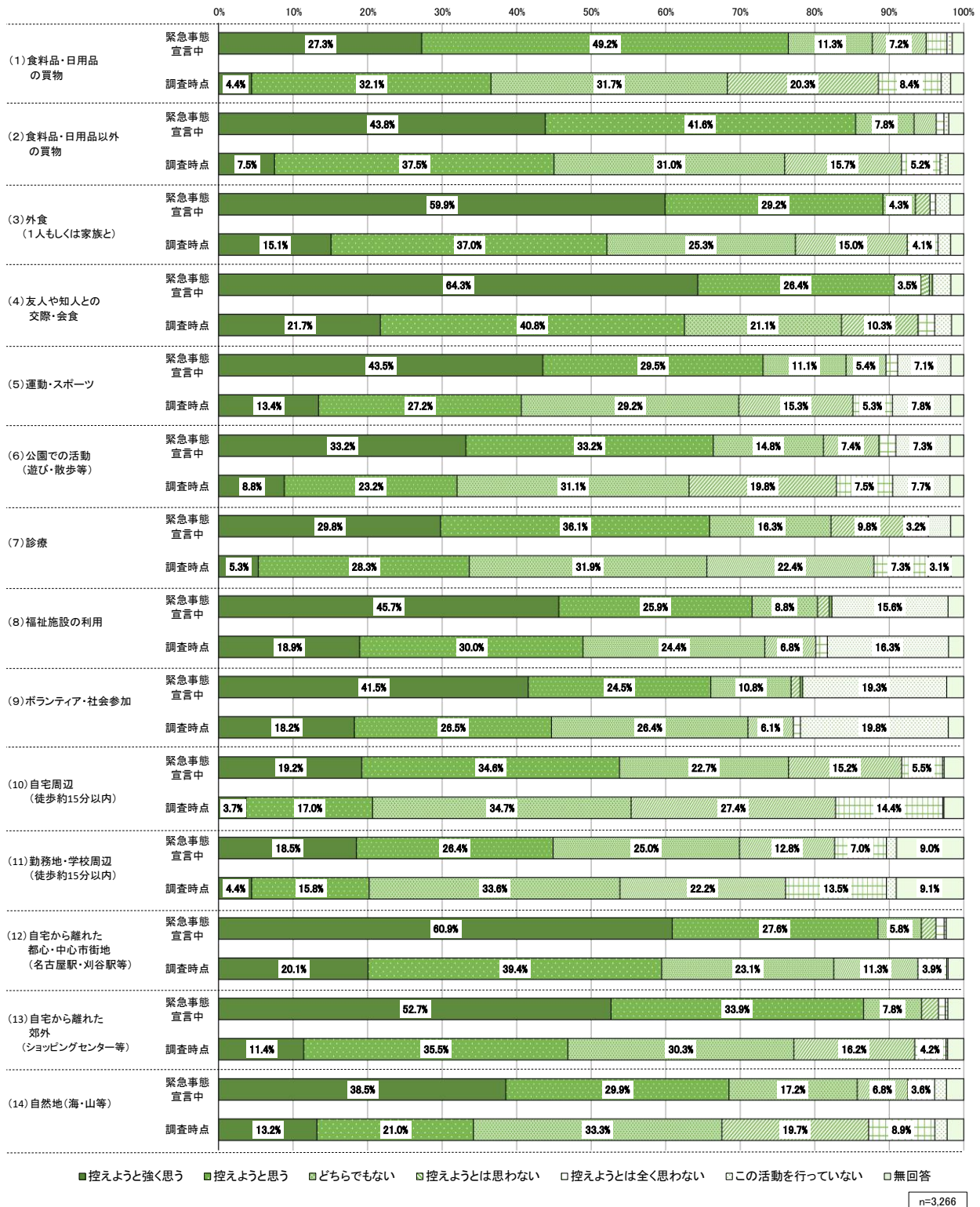


3 - 2. コロナ禍における「活動」や「場所への外出」に対する意識変化

市政評価（設問 49）、現状把握（設問 63）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、政府の緊急事態宣言中（令和2年4月16日～5月13日）及びアンケート調査時点において、「活動」や「場所への外出」を控えようと思ったか尋ねたところ、以下のような回答が得られました。

図 コロナ禍における「活動」や「場所への外出」に対する意識変化 調査結果比較



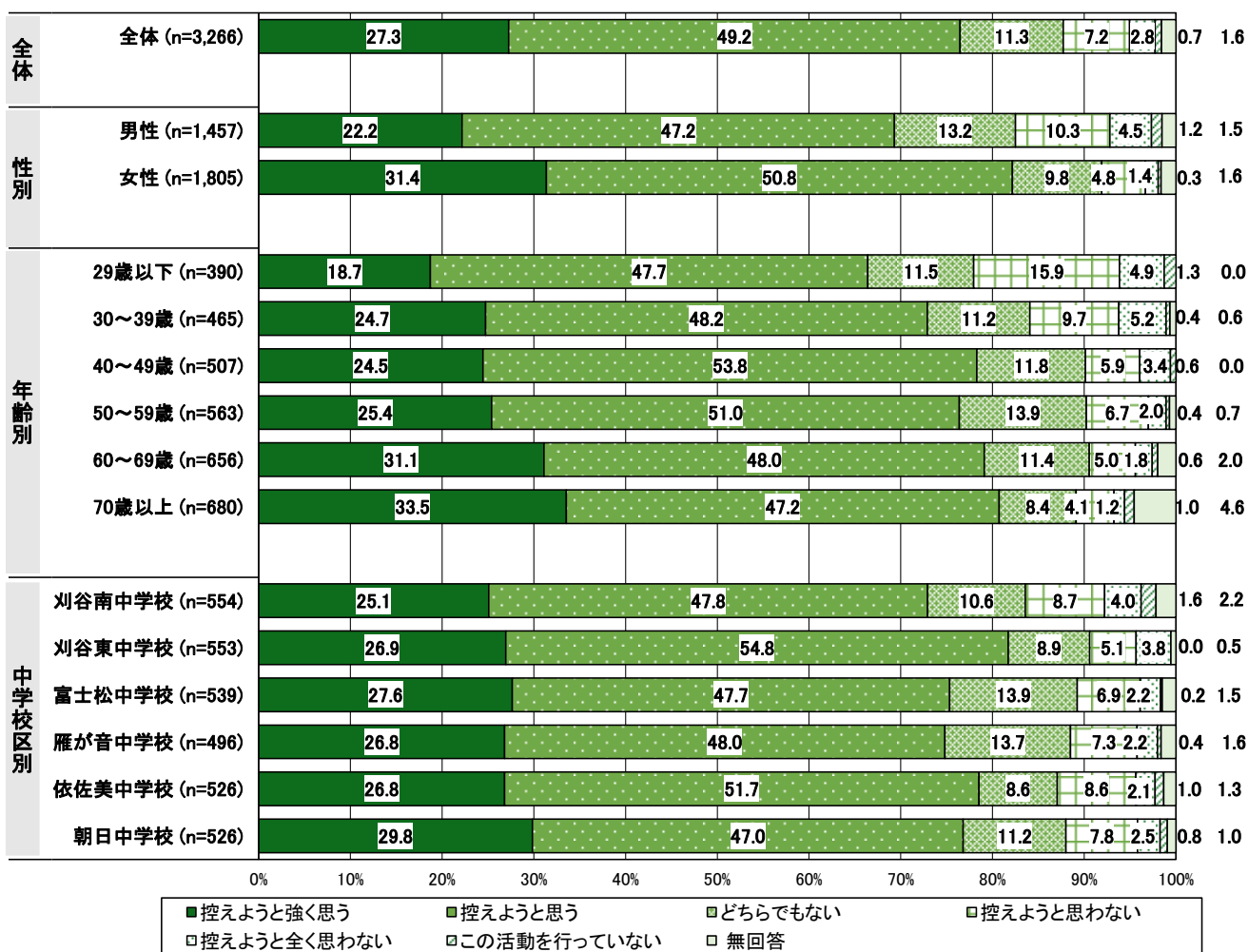
(1)食料品・日用品の買物

①緊急事態宣言中

「食料品・日用品の買物」については、「控えようと強く思う」が27.3%、「控えようと思う」が49.2%、あわせて76.5%（男性69.4%、女性82.2%）となっています。

年齢別でみると、70歳以上が80.7%で最も高く、最も低い29歳以下の66.4%と、14.3ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が81.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の72.9%と8.8ポイントの差が生じています。

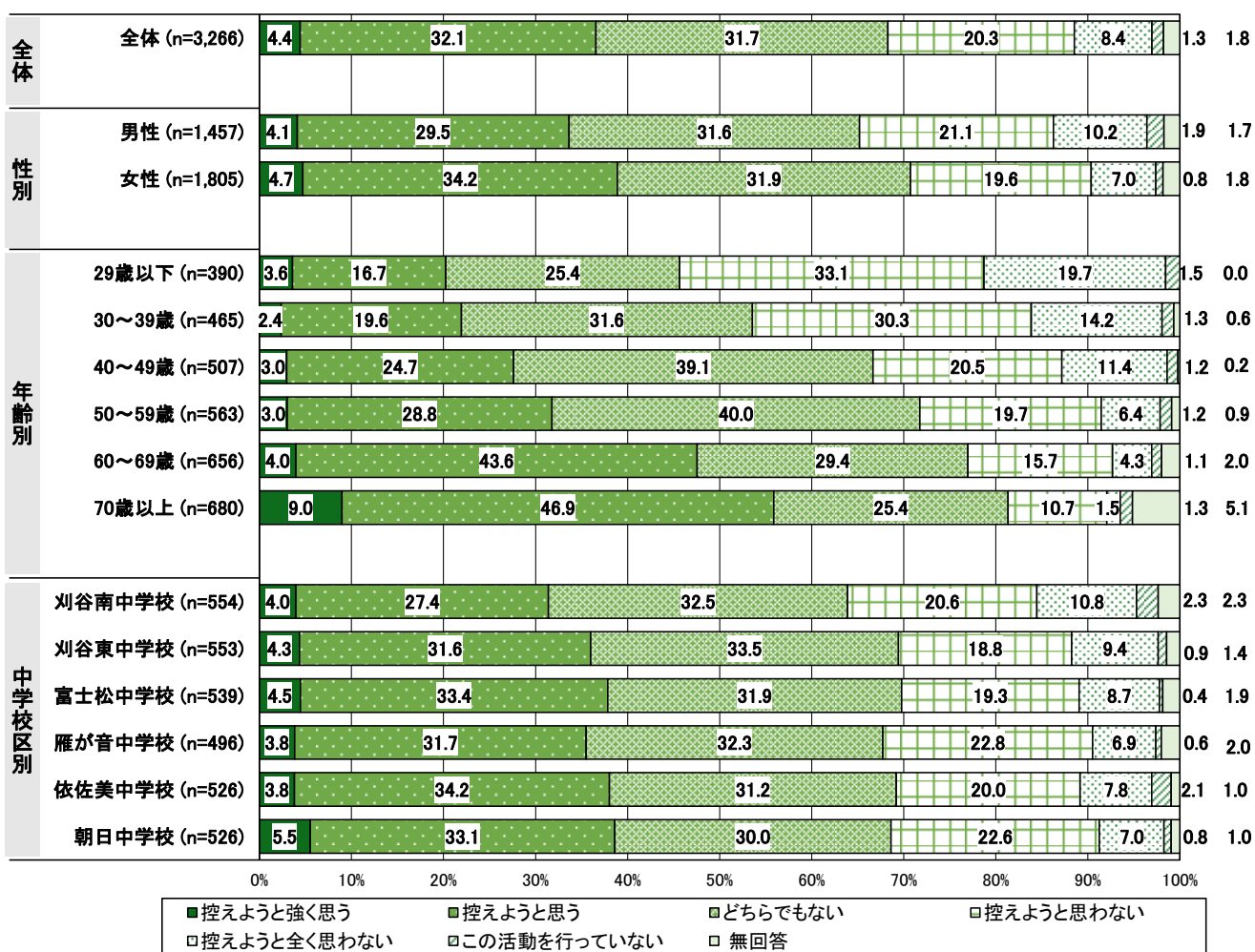


②調査時点

「食料品・日用品の買物」については、「控えようと思う」が4.4%、「控えようと思う」が32.1%、あわせて36.5%（男性33.6%、女性38.9%）となっており、緊急事態宣言中と比べ40.0ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が55.9%で最も高く、最も低い29歳以下の20.3%と、35.6ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、朝日中学校区が38.6%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の31.4%と7.2ポイントの差が生じています。



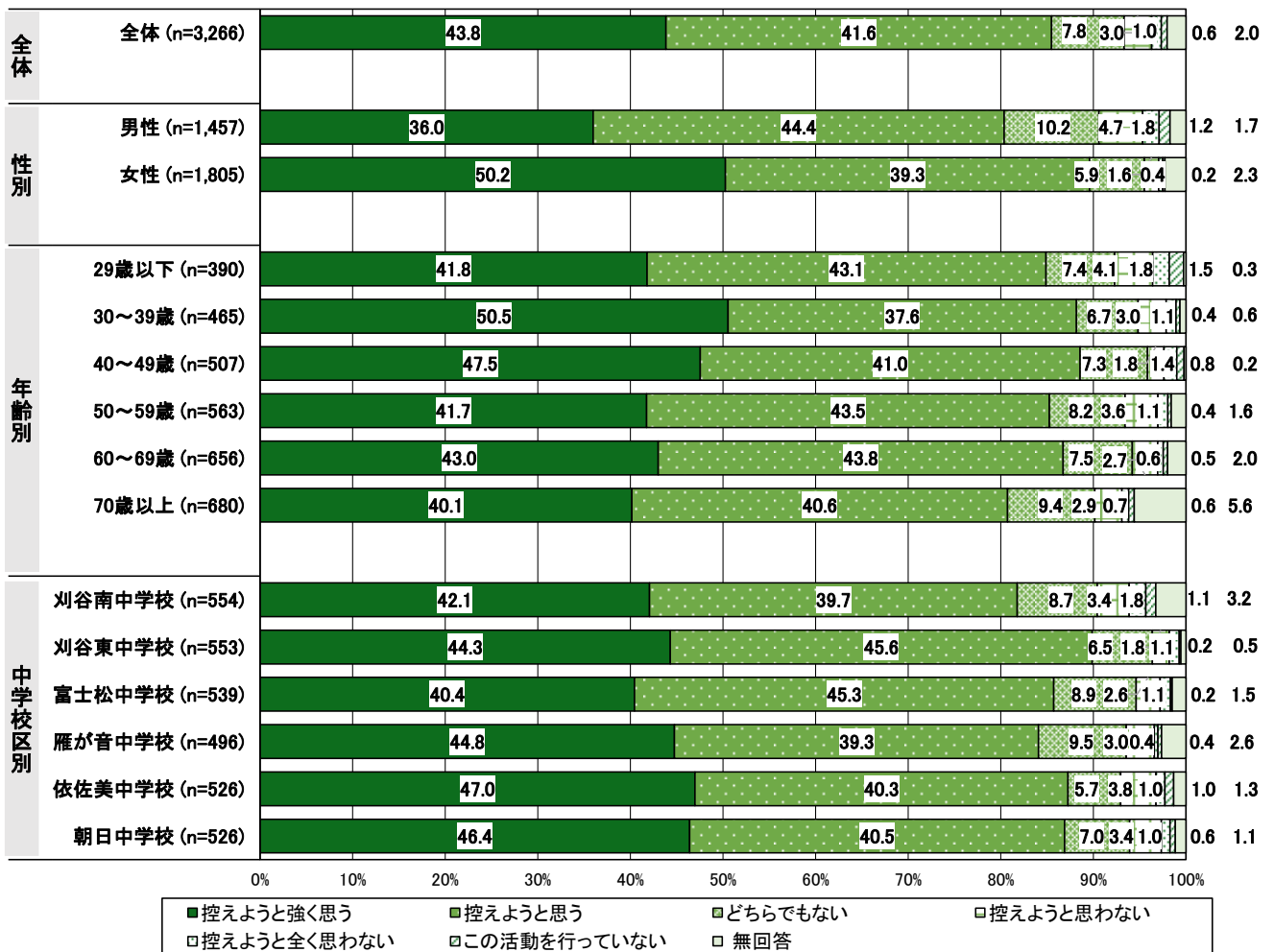
(2)食料品・日用品以外の買物

①緊急事態宣言中

「食料品・日用品以外の買物」については、「控えようと思う」が 43.8%、「控えようと思う」が 41.6%、あわせて 85.4%（男性 80.4%、女性 89.5%）となっています。

年齢別でみると、40～49 歳が 88.5%で最も高く、次いで、30～39 歳が 88.1%、60～69 歳が 86.8%、50～59 歳が 85.2%となっています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が 89.9%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の 81.8%と 8.1 ポイントの差が生じています。

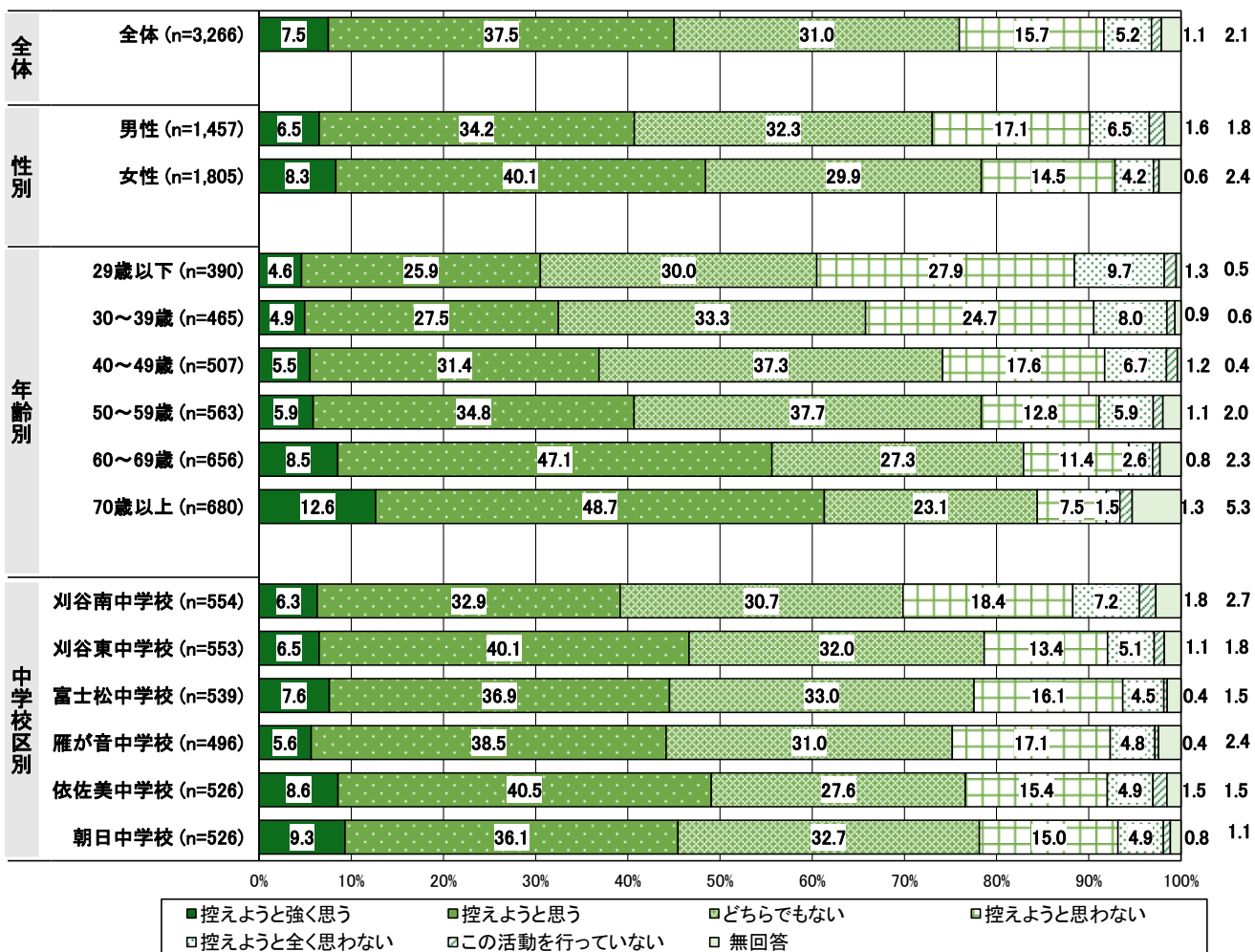


②調査時点

「食料品・日用品以外の買物」については、「控えようと思う」が7.5%、「控えようと思う」が37.5%、あわせて45.0%（男性40.7%、女性48.4%）となっており、緊急事態宣言中と比べ40.4ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が61.3%で最も高く、最も低い29歳以下の30.5%と、30.8ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が49.1%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の39.2%と約10ポイントの差が生じています。



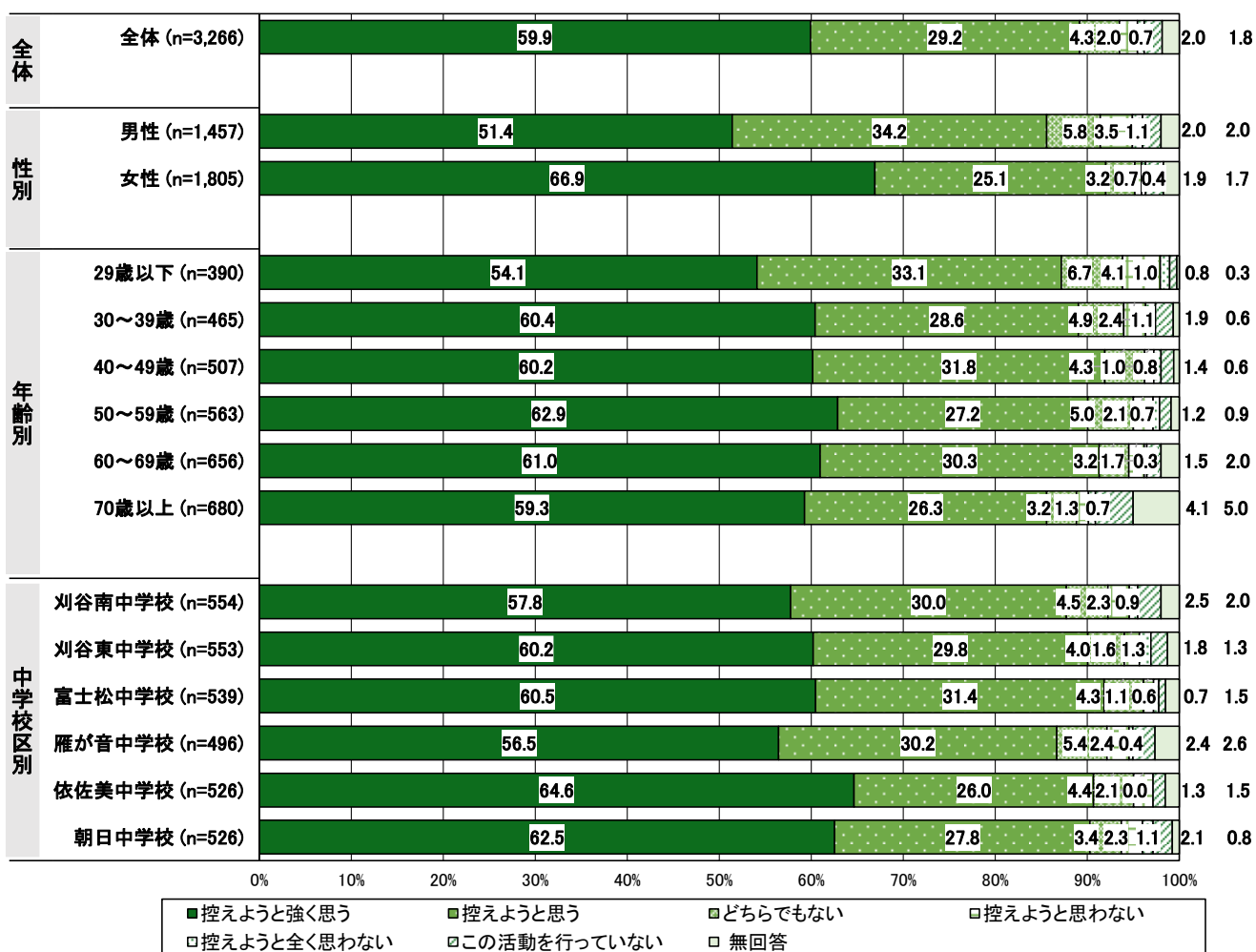
(3) 外食(1人もしくは家族と)

①緊急事態宣言中

「外食(1人もしくは家族と)」については、「控えようと思う」が59.9%、「控えようと思う」が29.2%、あわせて89.1%(男性85.6%、女性92.0%)となっています。

年齢別で見ると、40~49歳が92.0%で最も高く、次いで、60~69歳が91.3%、50~59歳が90.1%、30~39歳が89.0%となっています。

中学校区別で見ると、富士松中学校区が91.9%で最も高く、最も低い雁が音中学校区の86.7%と、大きな差はみられません。

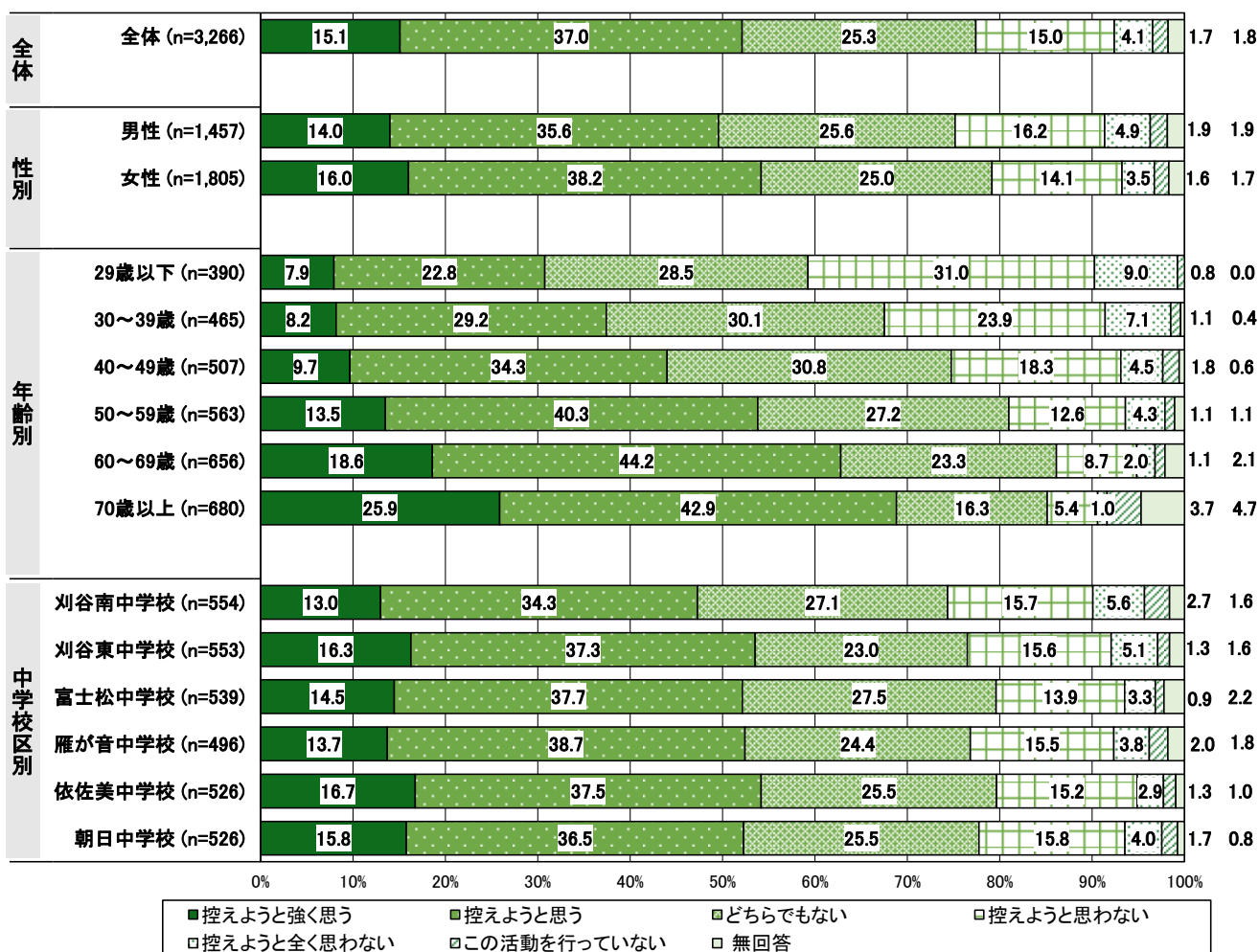


②調査時点

「外食（1人もしくは家族と）」については、「控えようと思う」が15.1%、「控えようと思う」が37.0%、あわせて52.1%（男性49.6%、女性54.2%）となっており、緊急事態宣言中と比べ37.0ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が68.8%で最も高く、最も低い29歳以下の30.7%と、38.1ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が54.2%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の47.3%と6.9ポイントの差が生じています。



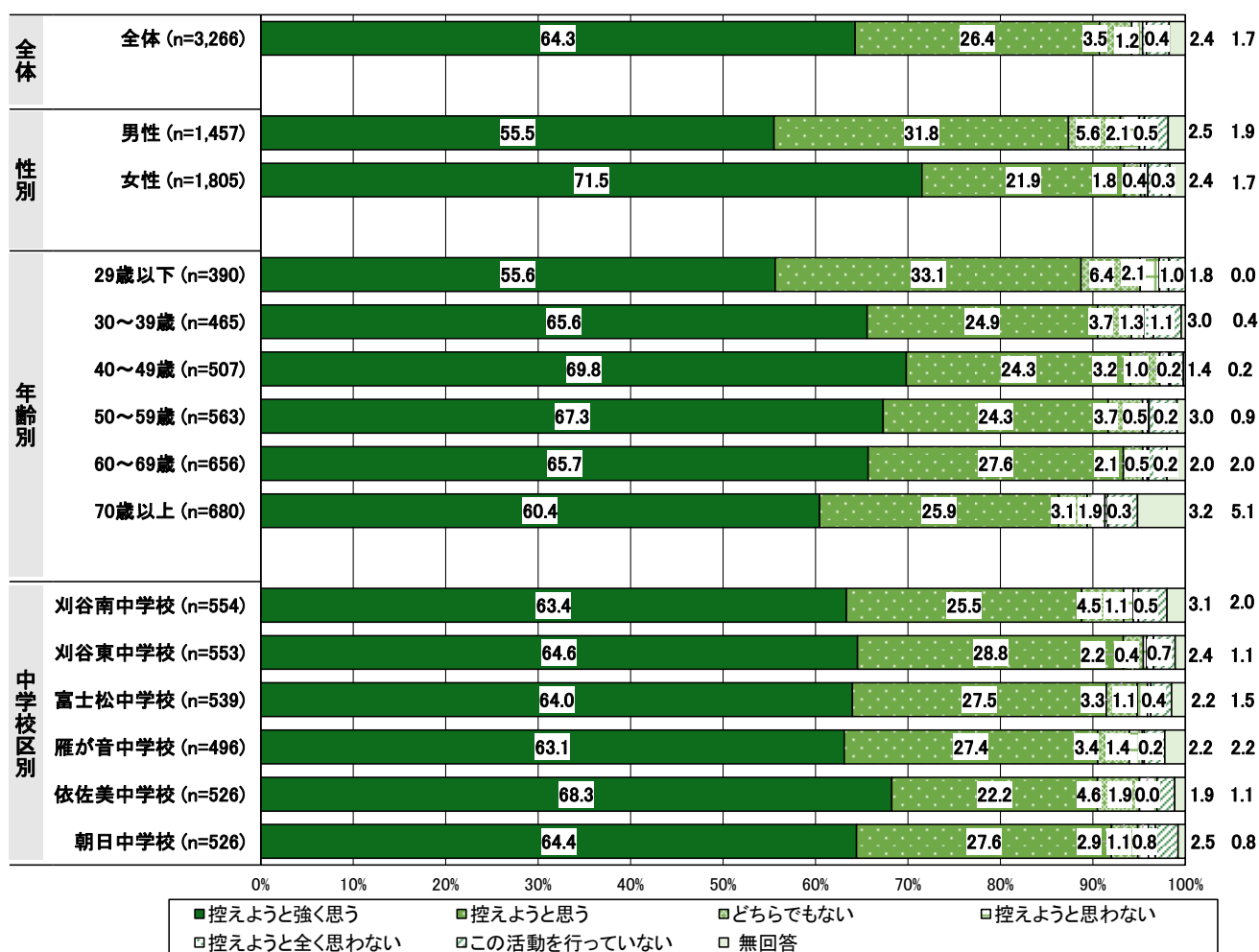
(4) 友人や知人との交際・会食

①緊急事態宣言中

「友人や知人との交際・会食」については、「控えようと思う」が 64.3%、「控えようと思う」が 26.4%、あわせて 90.7%（男性 87.3%、女性 93.4%）となっています。

年齢別でみると、40～49 歳が 94.1%で最も高く、次いで、60～69 歳が 93.3%、50～59 歳が 91.6%、30～39 歳が 90.5%となっています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が 93.4%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の 88.9%と、大きな差はみられません。

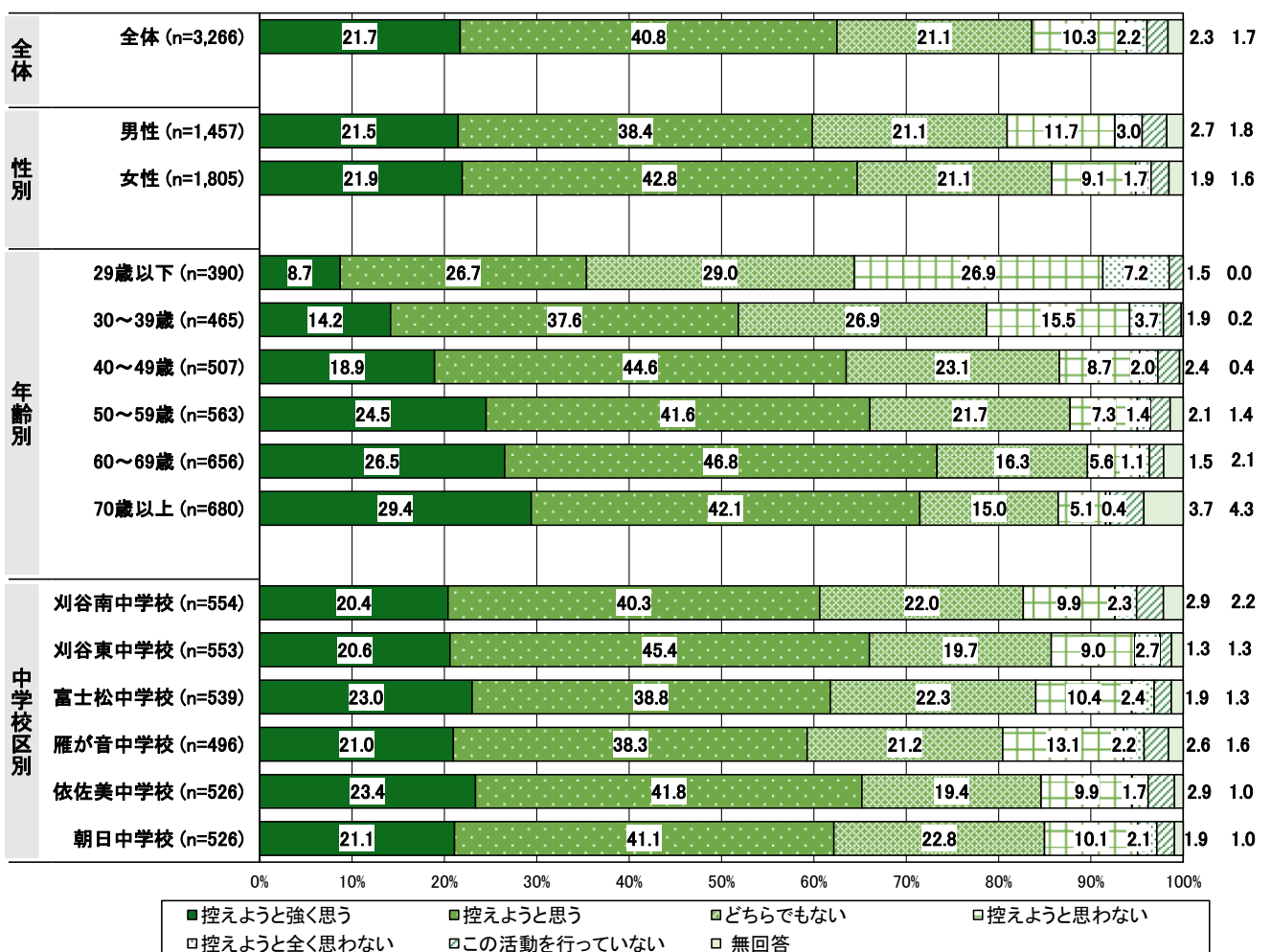


②調査時点

「友人や知人との交際・会食」については、「控えようと思う」が 21.7%、「控えようと思う」が 40.8%、あわせて 62.5%（男性 59.9%、女性 64.7%）となっており、緊急事態宣言中と比べ 28.2 ポイント減少しています。

年齢別でみると、60～69 歳が 73.3%で最も高く、次いで、70 歳以上が 71.5%、50～59 歳が 66.1%、40～49 歳が 63.5%となっています。29 歳以下は 35.4%で最も低く、最も高い 60～69 歳の 73.3%に対して、37.9 ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が 66.0%で最も高く、最も低い雁が音中学校区の 59.3%と 6.7 ポイントの差が生じています。



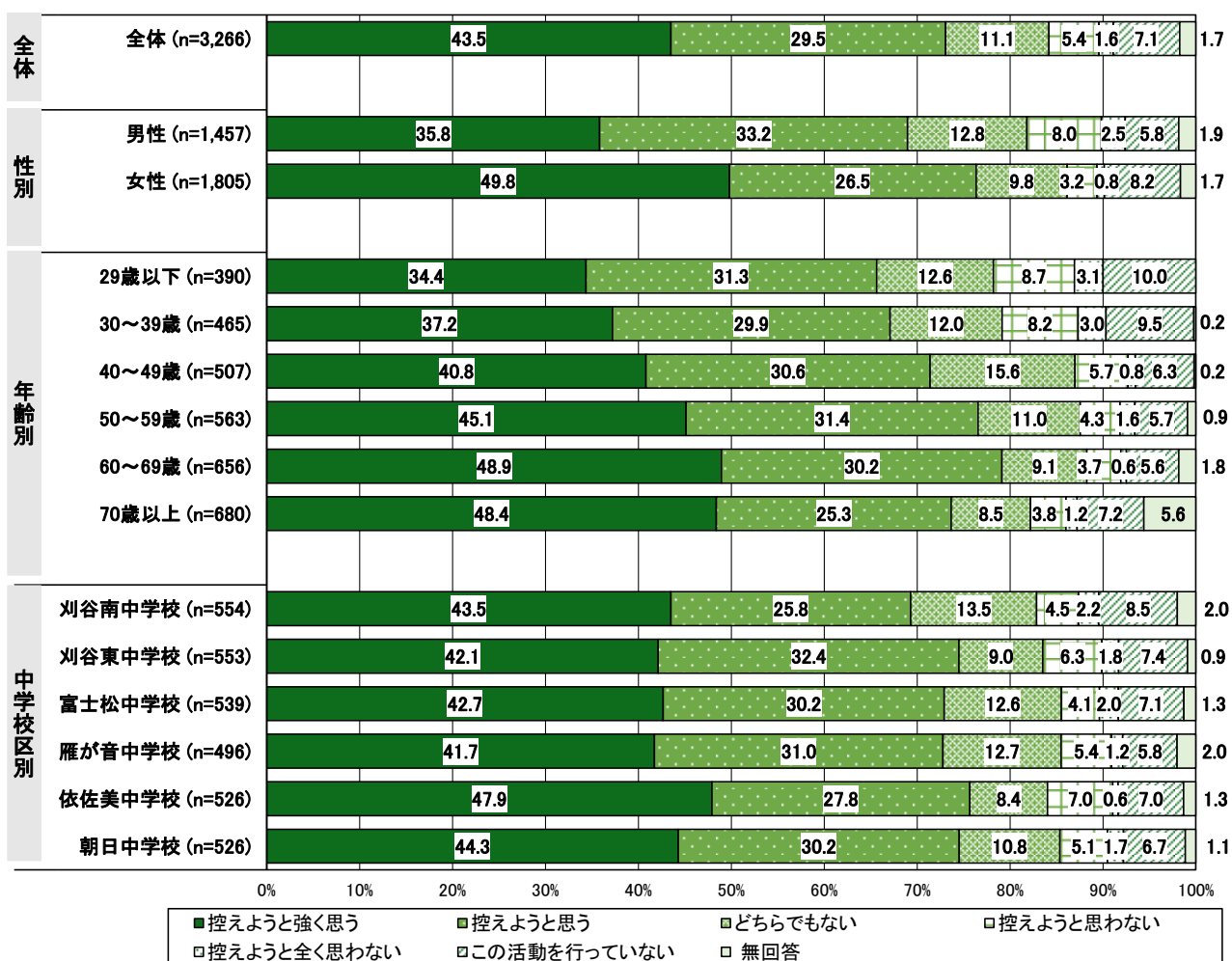
(5) 運動・スポーツ

① 緊急事態宣言中

「運動・スポーツ」については、「控えようと思う」が43.5%、「控えようと思う」が29.5%、あわせて73.0%（男性69.0%、女性76.3%）となっています。

年齢別でみると、60～69歳が79.1%で最も高く、次いで、50～59歳が76.5%、70歳以上が73.7%、40～49歳が71.4%となっています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が75.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の69.3%と6.4ポイントの差が生じています。

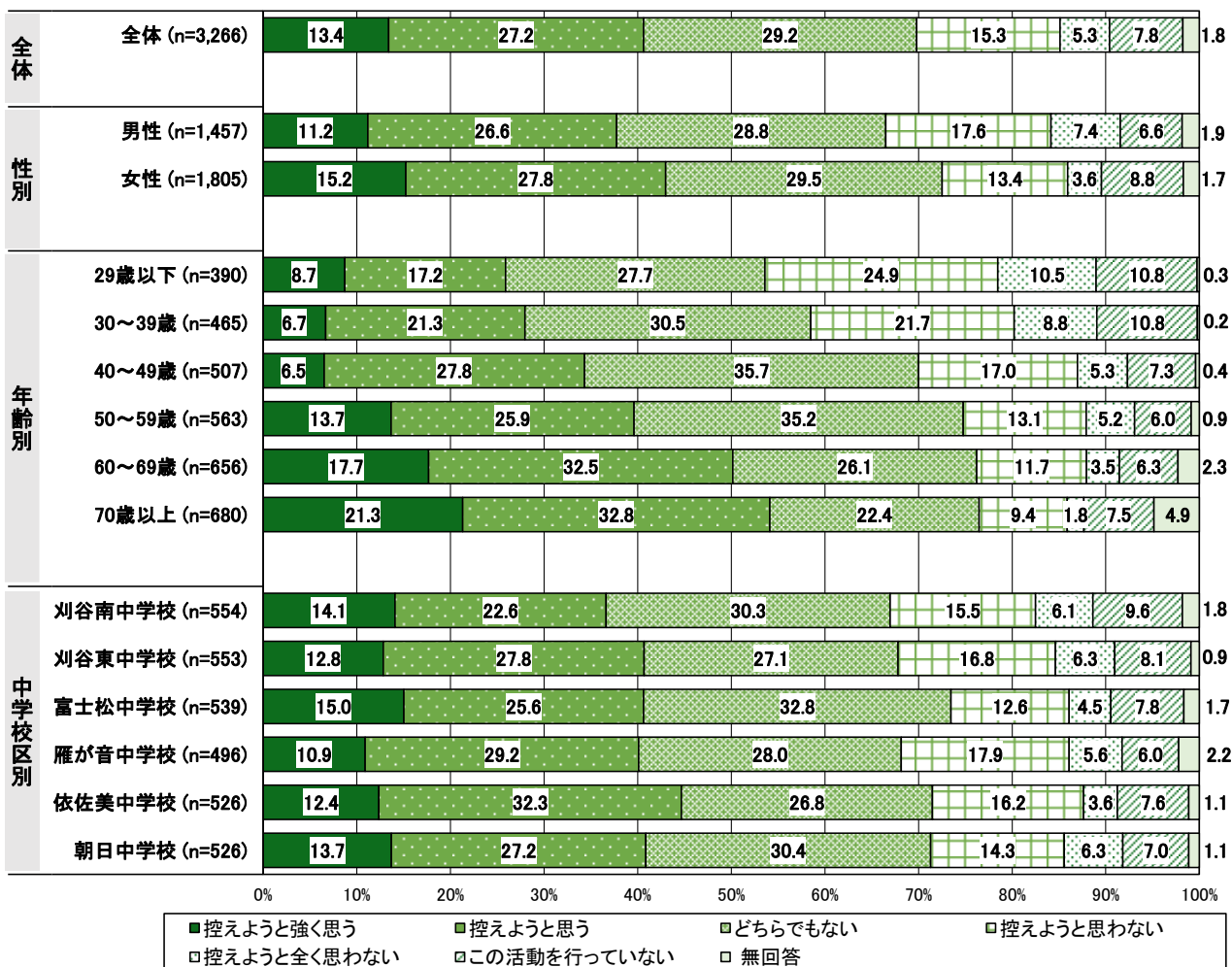


②調査時点

「運動・スポーツ」については、「控えようと思う」が13.4%、「控えようと思う」が27.2%、あわせて40.6%となっており、緊急事態宣言中と比べ32.4ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が54.1%で最も高く、最も低い29歳以下の25.9%と、28.2ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が44.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の36.7%と8.0ポイントの差が生じています。



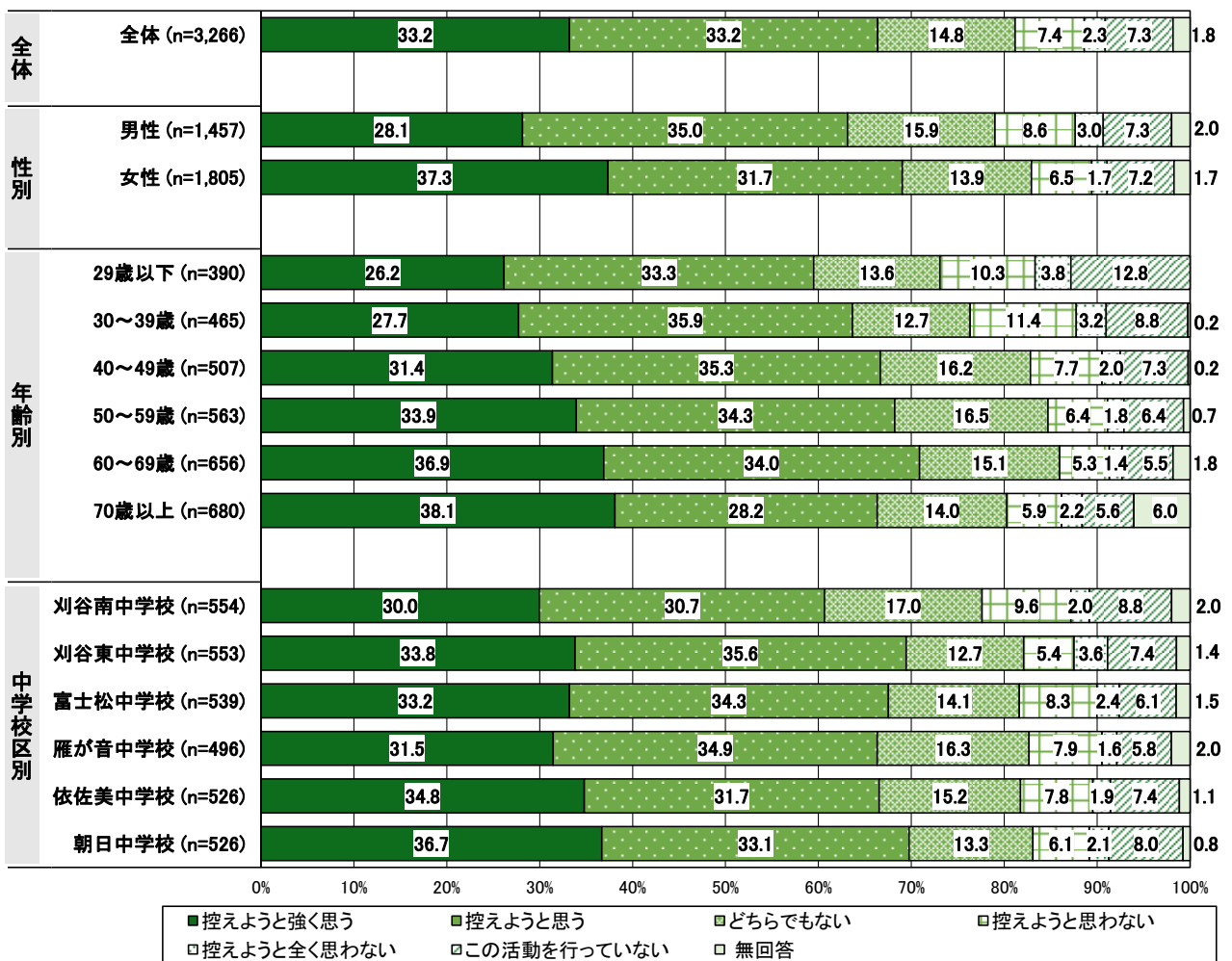
(6)公園での活動(遊び・散歩等)

①緊急事態宣言中

「公園での活動(遊び・散歩等)」については、「控えようと思う」が33.2%、「控えようと思う」が33.2%、あわせて66.4%(男性63.1%、女性69.0%)となっています。

年齢別で見ると、60～69歳が70.9%で最も高く、最も低い29歳以下の59.5%と、11.4ポイントの差が生じています。

中学校区別で見ると、朝日中学校区が69.8%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の60.7%と9.1ポイントの差が生じています。

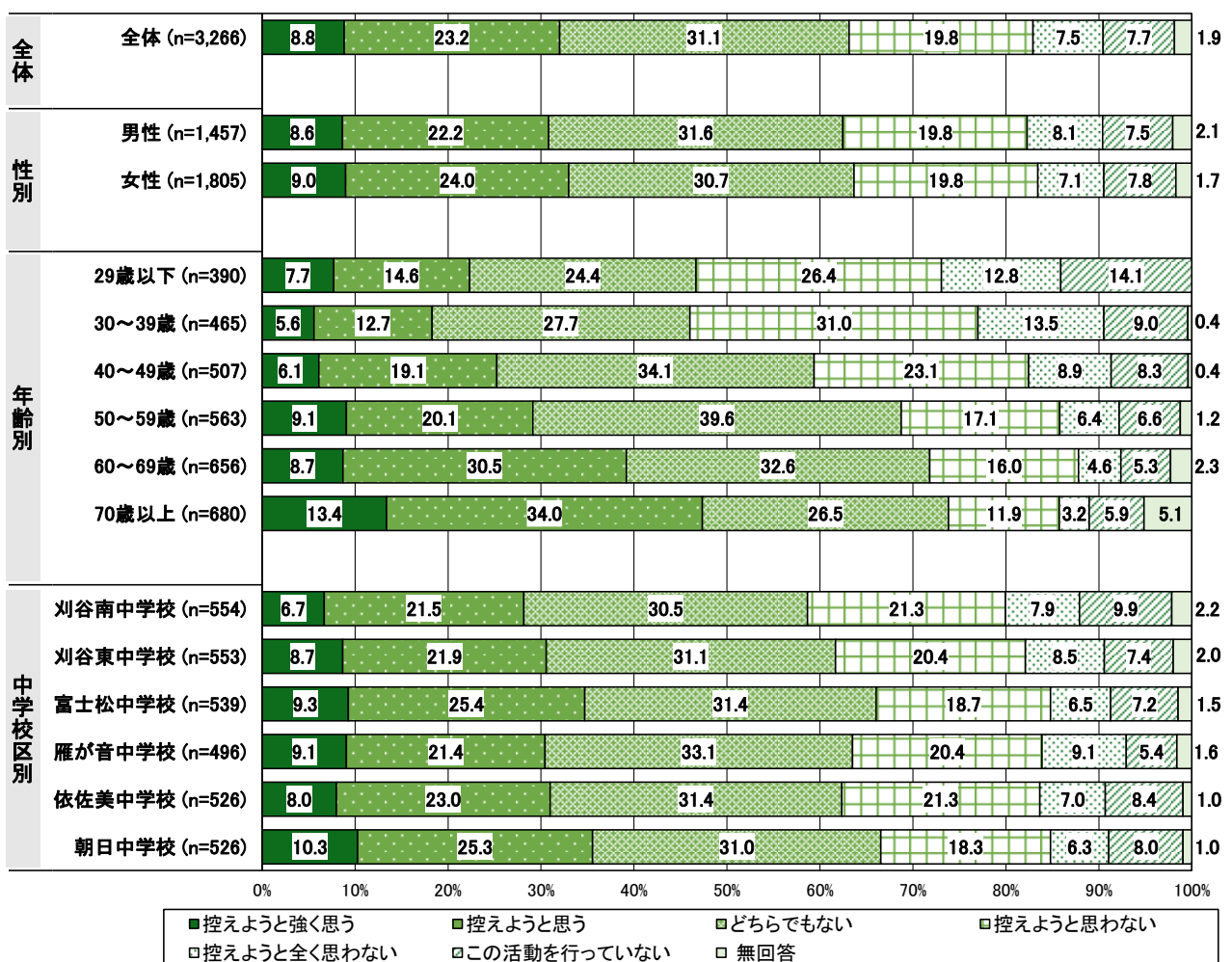


②調査時点

「公園での活動（遊び・散歩等）」については、「控えようと思う」が8.8%、「控えようと思う」が23.2%、あわせて32.0%（男性30.8%、女性33.0%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、34.4ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が47.4%で最も高く、最も低い30～39歳以下の18.3%と、29.1ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、朝日中学校区が35.6%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の28.2%と7.4ポイントの差が生じています。



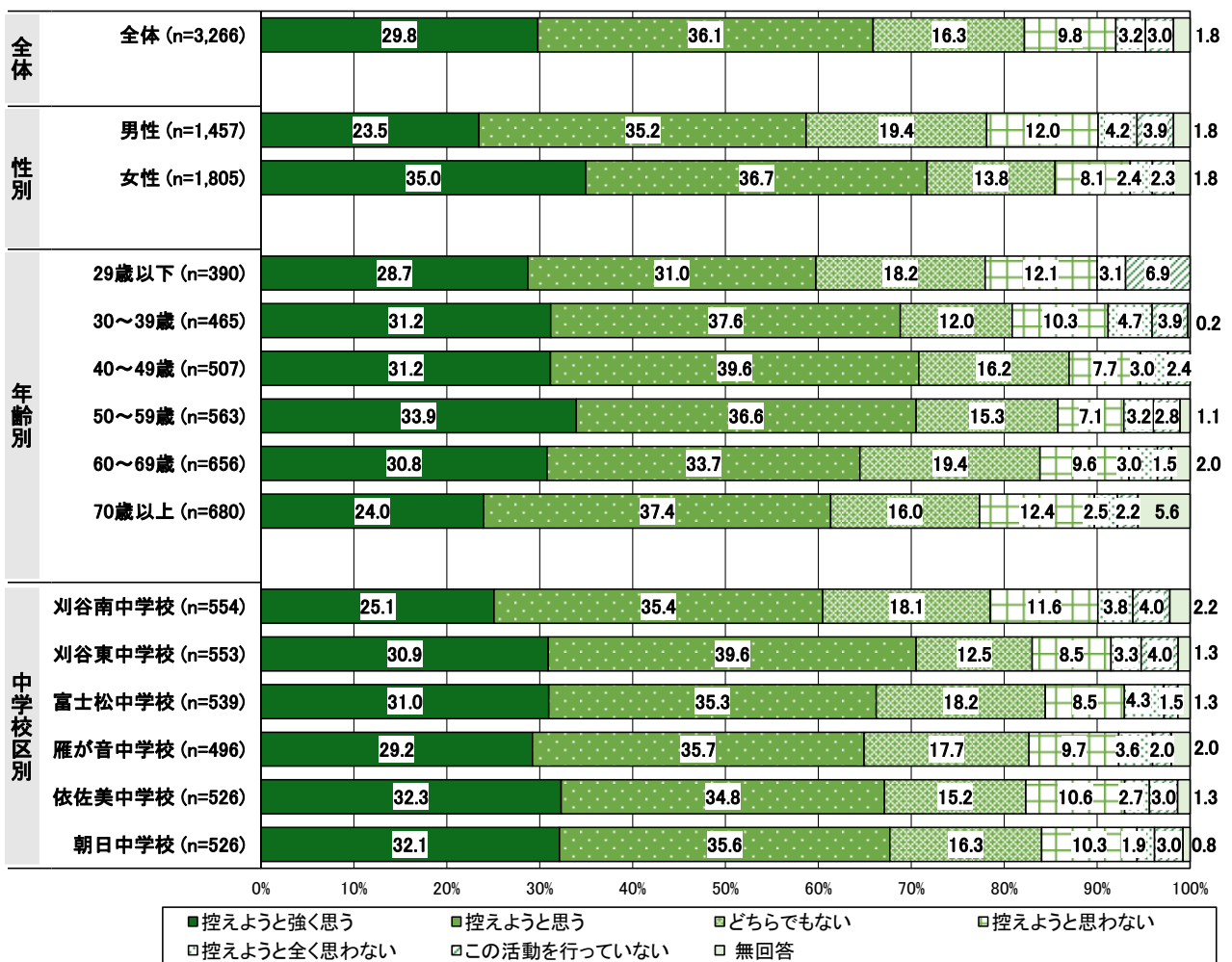
(7) 診療

① 緊急事態宣言中

「診療」については、「控えようと思う」が29.8%、「控えようと思う」が36.1%、あわせて65.9%（男性58.7%、女性71.7%）となっています。

年齢別で見ると、40～49歳が70.8%で最も高く、次いで、50～59歳が70.5%、30～39歳が68.8%、60～69歳が64.5%となっています。

中学校区別で見ると、刈谷東中学校区が70.5%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の60.5%と10.0ポイントの差が生じています。

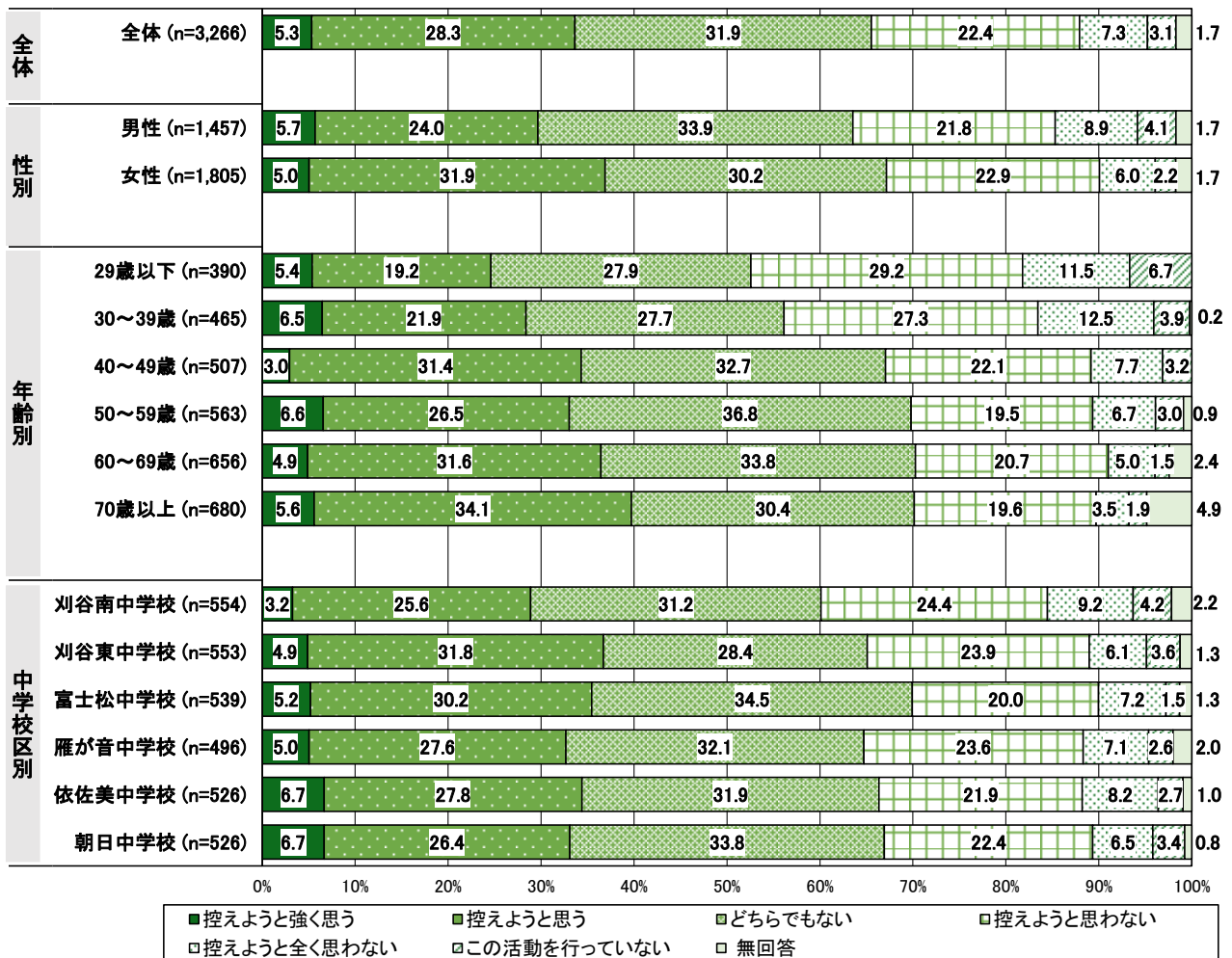


②調査時点

「診療」については、「控えようと思う」が 5.3%、「控えようと思う」が 28.3%、あわせて 33.6%（男性 29.7%、女性 36.9%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、32.3 ポイント減少しています。

年齢別でみると、70 歳以上が 39.7%で最も高く、最も低い 29 歳以下の 24.6%、15.1 ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が 36.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の 28.8%と 7.9 ポイントの差が生じています。



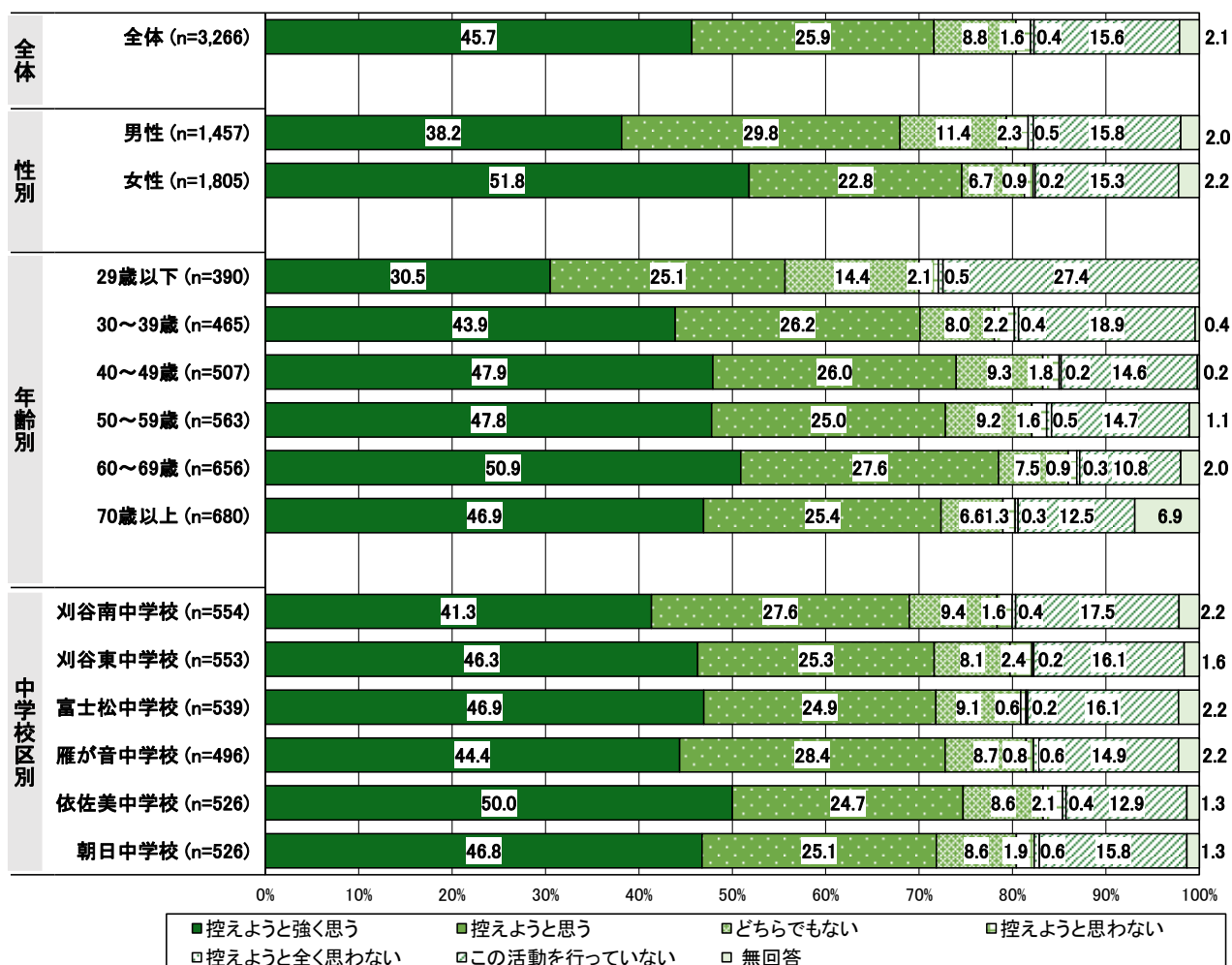
(8) 福祉施設利用

① 緊急事態宣言中

「福祉施設利用」については、「控えようと思う」が45.7%、「控えようと思う」が25.9%、あわせて71.6%（男性68.0%、女性74.6%）となっています。

年齢別で見ると、60～69歳が78.5%で最も高く、最も低い29歳以下の55.6%と、22.9ポイントの差が生じています。

中学校区別で見ると、依佐美中学校区が74.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の68.9%と、大きな差はみられません。

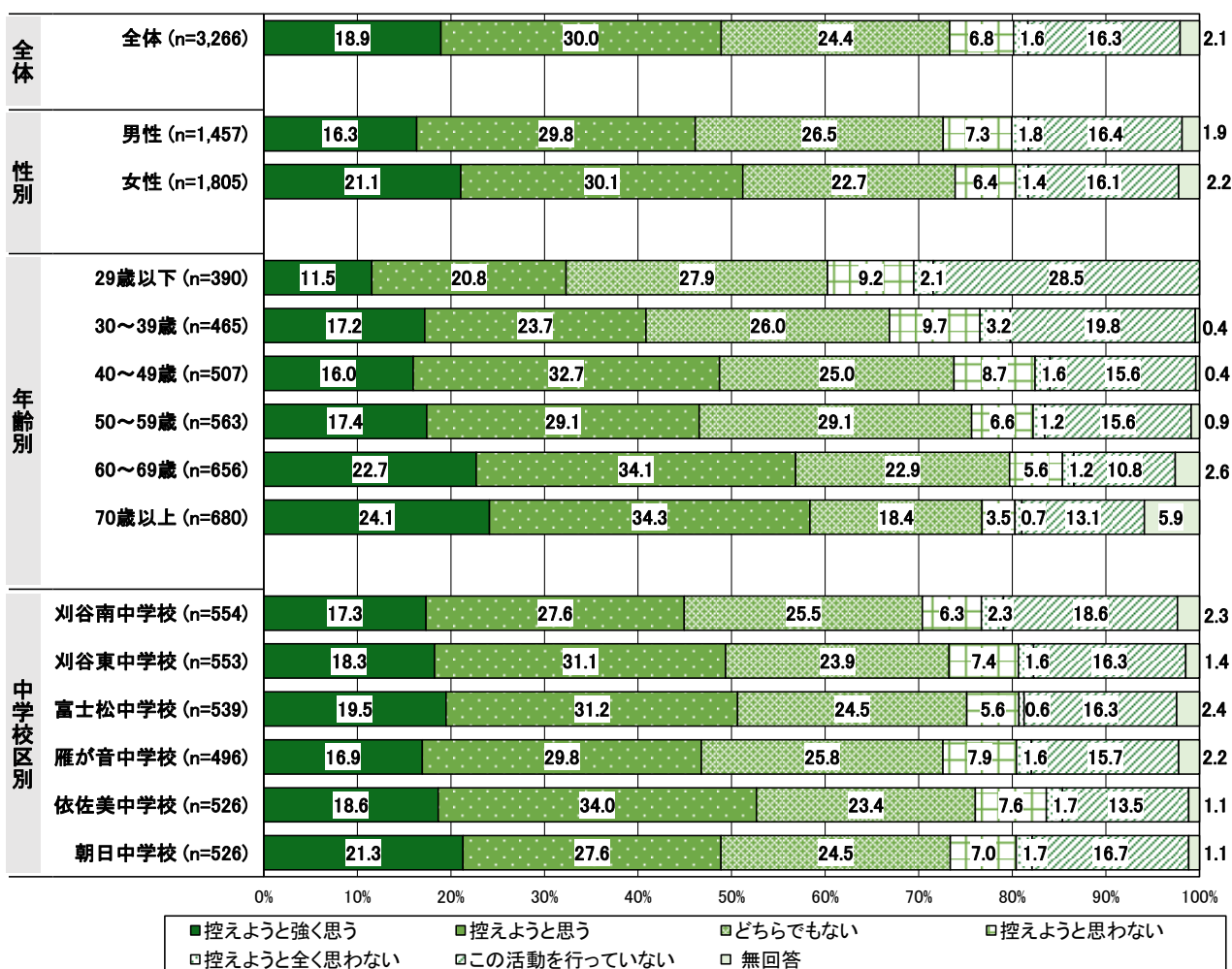


②調査時点

「福祉施設利用」については、「控えようと思う」が18.9%、「控えようと思う」が30.0%、あわせて48.9%（男性46.1%、女性51.2%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、22.7ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が58.4%で最も高く、最も低い29歳以下の32.3%と、26.1ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が52.6%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の44.9%と7.7ポイントの差が生じています。



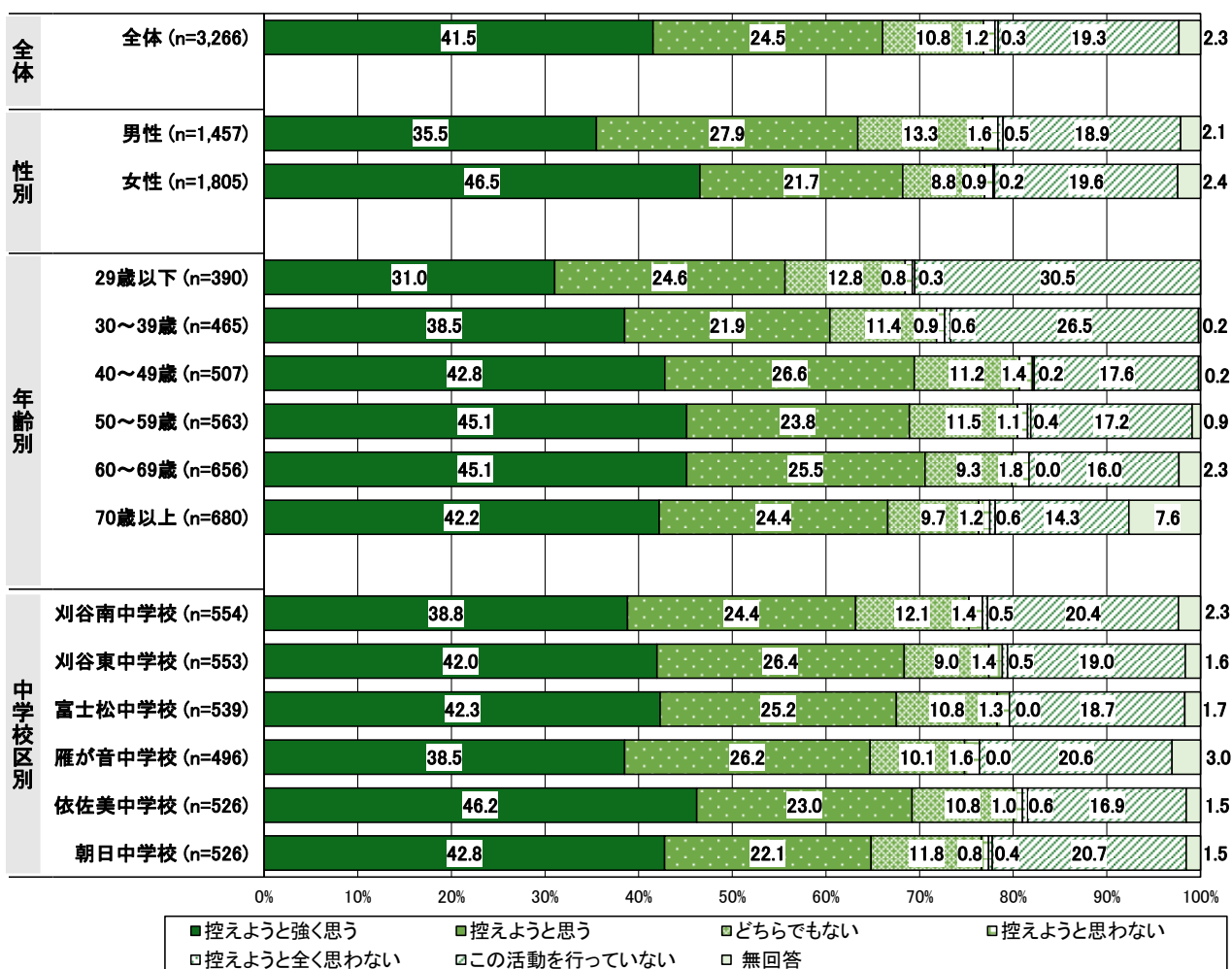
(9) ボランティア

①緊急事態宣言中

「ボランティア」については、「控えようと思う」が41.5%、「控えようと思う」が24.5%、あわせて66.0%（男性63.4%、女性68.2%）となっています。

年齢別で見ると、60～69歳が70.6%で最も高く、次いで、40～49歳の69.4%、50～59歳の68.9%、70歳以上の66.6%となっています。

中学校区別で見ると、依佐美中学校区が69.2%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の63.2%と6.0ポイントの差が生じています。

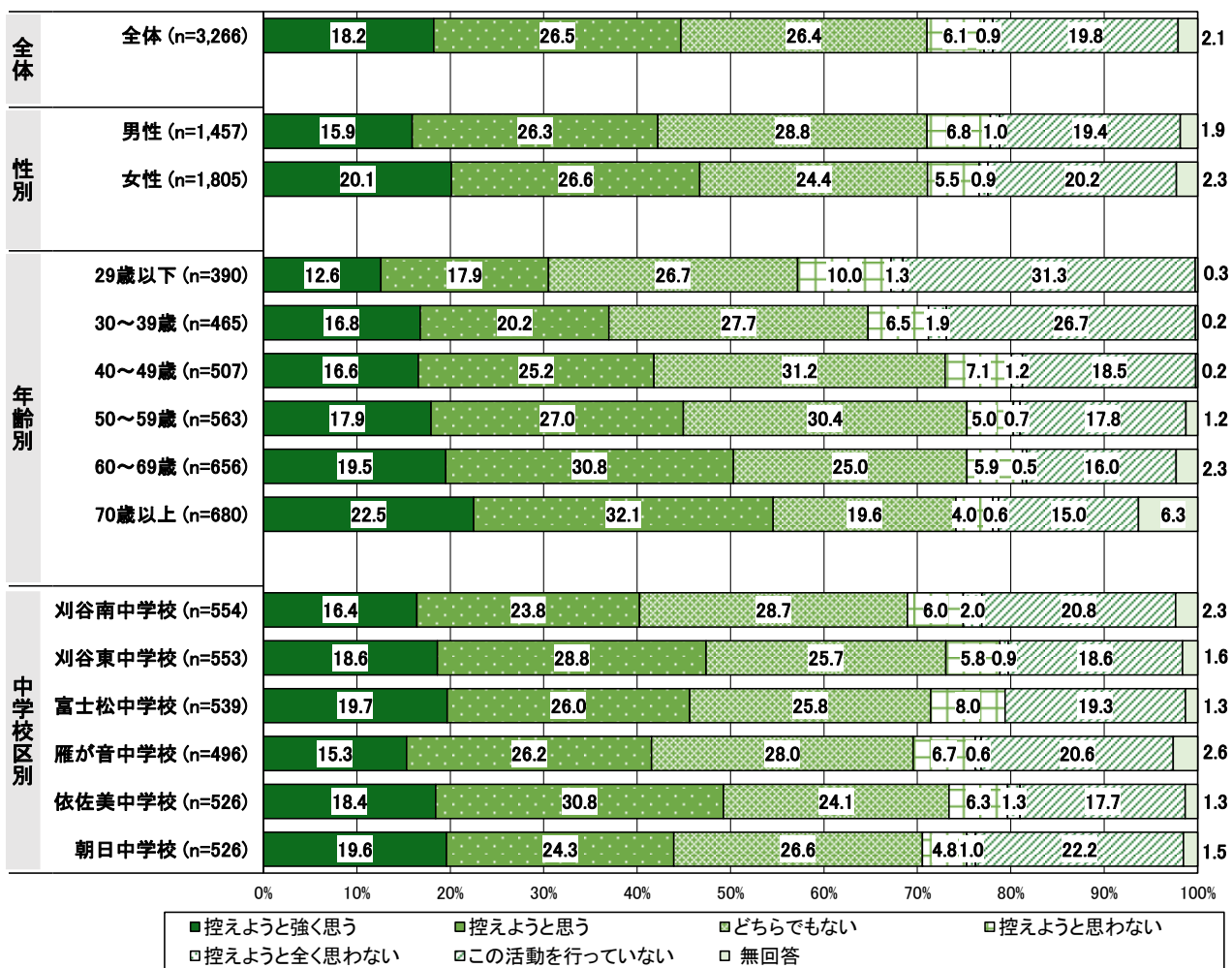


②調査時点

「ボランティア」については、「控えようと思う」が18.2%、「控えようと思う」が26.5%、あわせて44.7%（男性42.2%、女性46.7%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、21.3ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が54.6%で最も高く、最も低い29歳以下の30.5%と、24.1ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が49.2%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の40.2%と9.0ポイントの差が生じています。



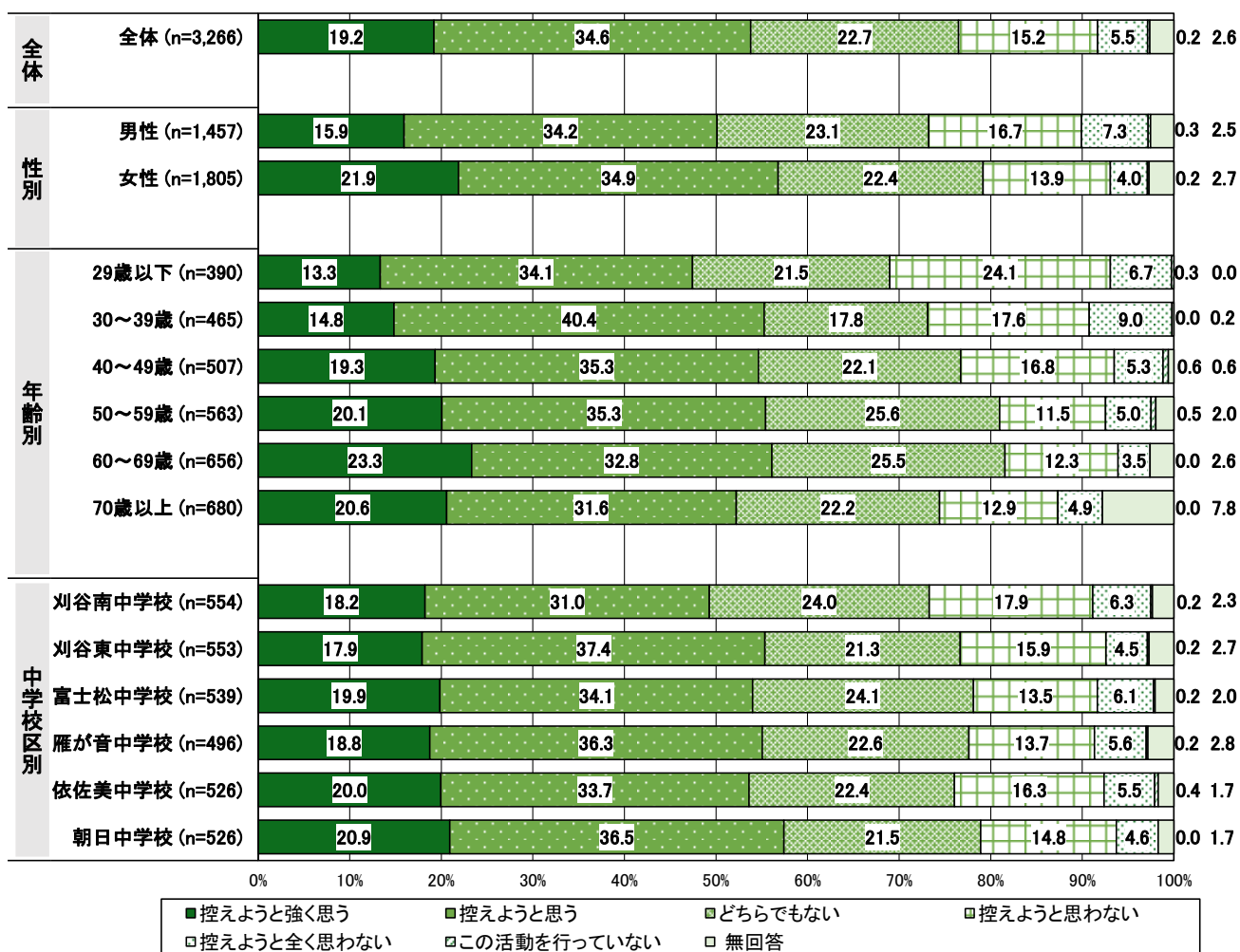
(10) 自宅周辺(徒歩約 15 分以内)

①緊急事態宣言中

「自宅周辺(徒歩約 15 分以内)」への外出については、「控えようと思う」が 19.2%、「控えようと思う」が 34.6%、あわせて 53.8% (男性 50.1%、女性 56.8%) となっています。

年齢別でみると、60～69 歳が 56.1% で最も高く、次いで、50～59 歳が 55.4%、30～39 歳が 55.2%、40～49 歳が 54.6% となっています。

中学校区別でみると、朝日中学校区が 57.4% で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の 49.2 と 8.2 ポイントの差が生じています。

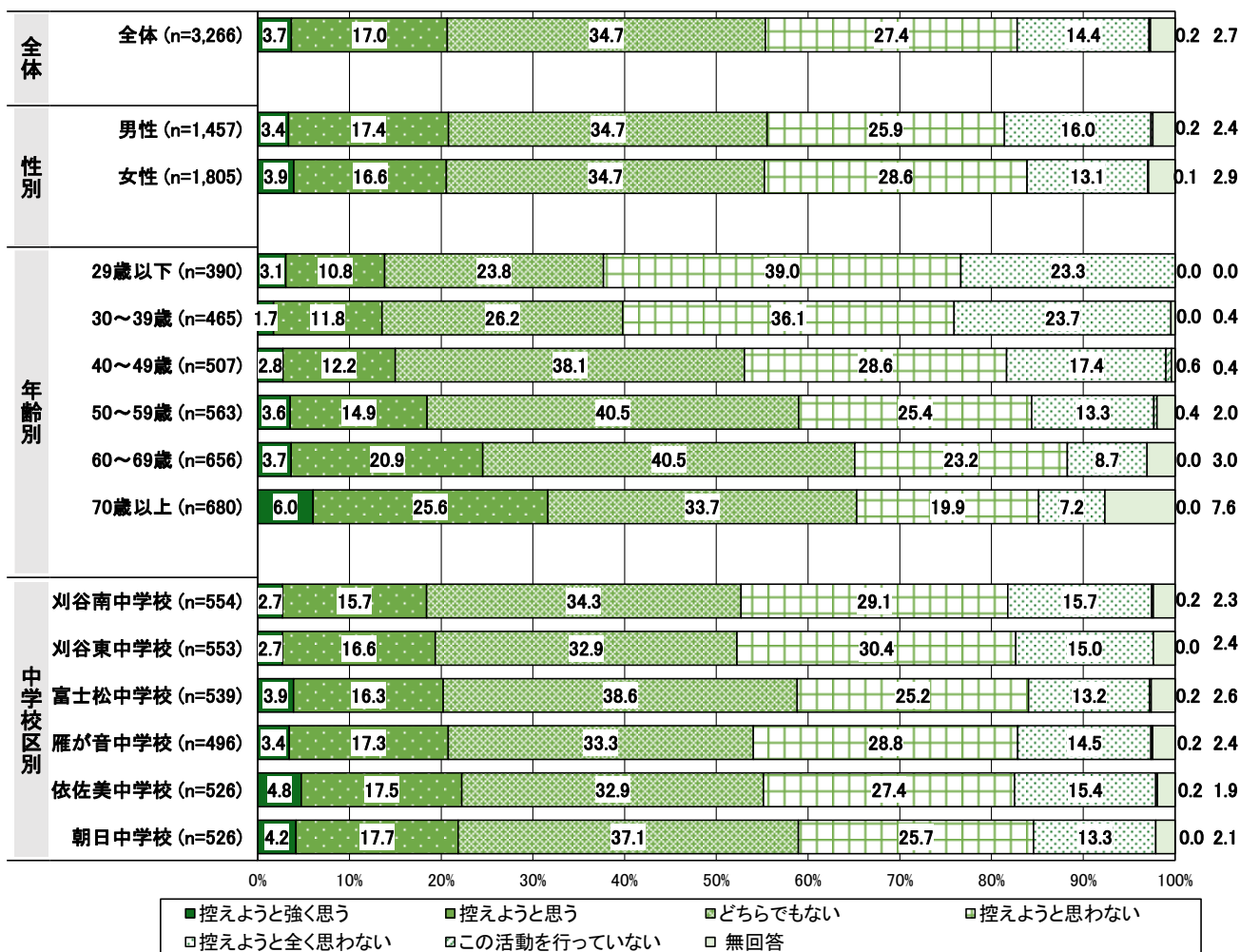


②調査時点

「自宅周辺（徒歩約15分以内）」への外出については、「控えようと思う」が3.7%、「控えようと思う」が17.0%、あわせて20.7%（男性20.8%、女性20.5%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、33.1ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が31.6%で最も高く、最も低い30～39歳の13.5%と、18.1ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が22.3%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の18.4%と、大きな差はみられません。



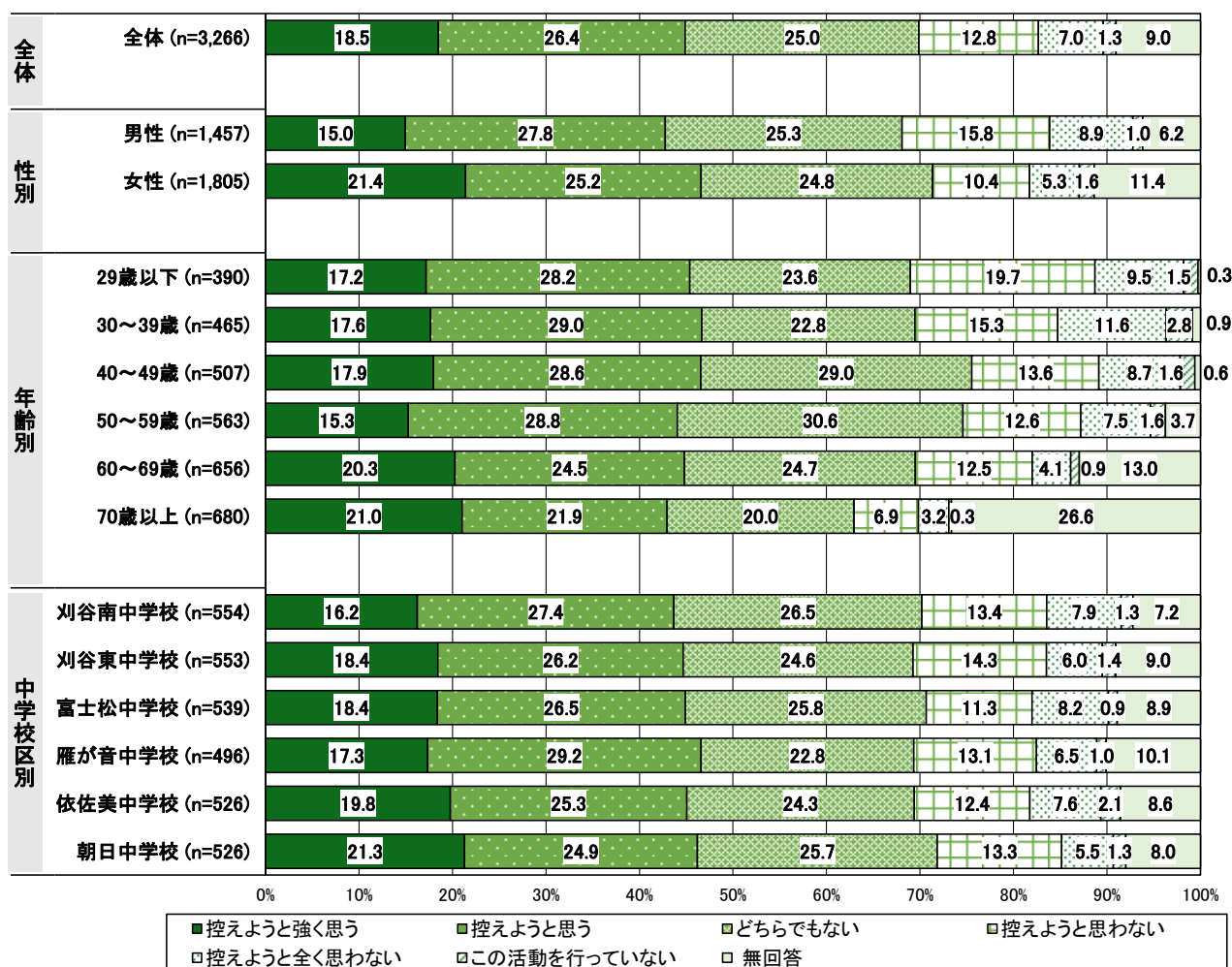
(11) 勤務地・学校周辺(徒歩約 15 分以内)

①緊急事態宣言中

「勤務地・学校周辺(徒歩約 15 分以内)」への外出については、「控えようと思う」が 18.5%、「控えようと思う」が 26.4%、あわせて 44.9% (男性 42.8%、女性 46.6%) となっています。

年齢別でみると、30～39 歳が 46.6%で最も高く、次いで、40～49 歳が 46.5%、29 歳以下が 45.4%、60～69 歳の 44.8%となっています。

中学校区別でみると、雁が音中学校区が 46.5%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の 43.6%と、大きな差はみられません。

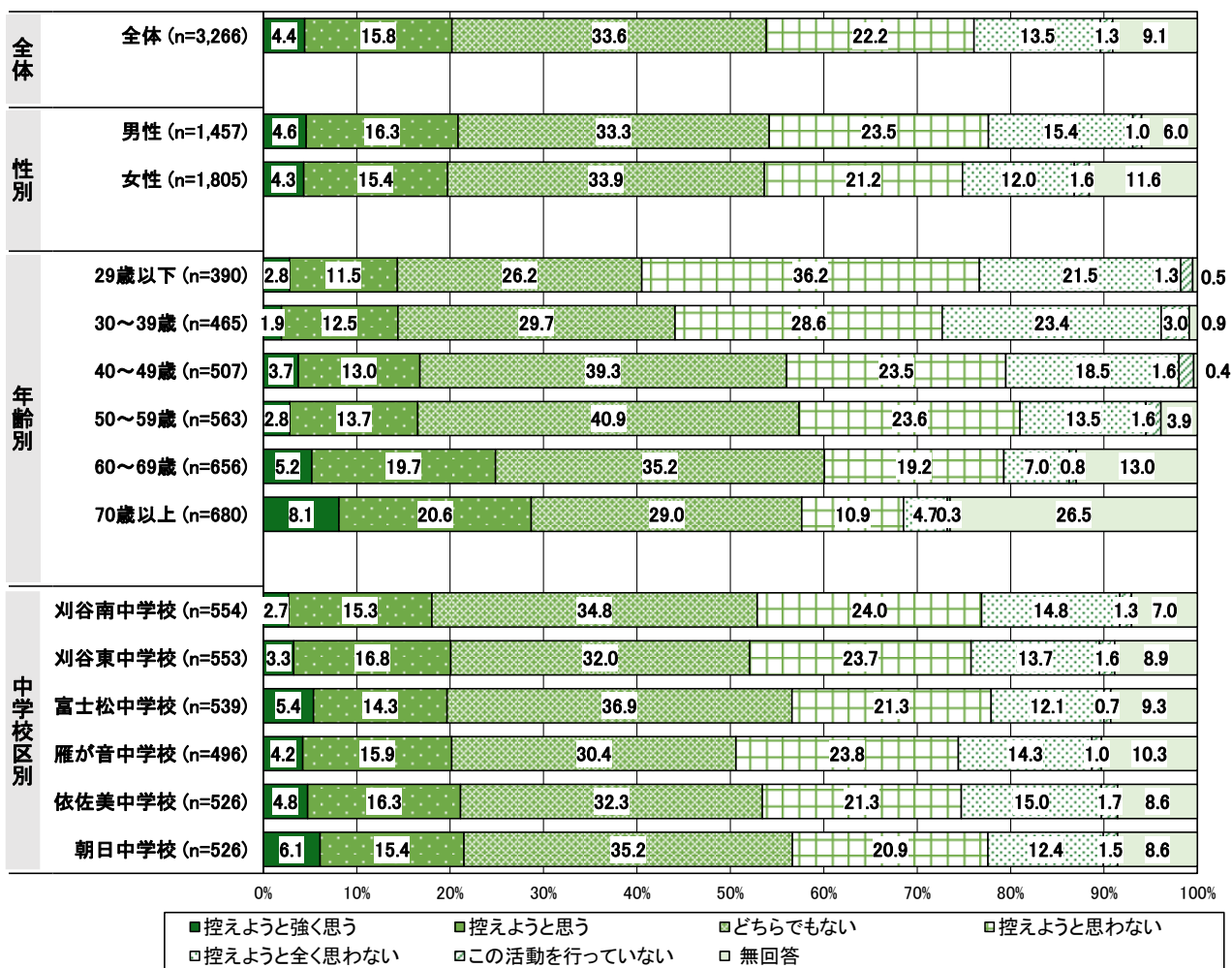


②調査時点

「勤務地・学校周辺（徒歩約15分以内）」への外出については、「控えようと強く思う」が4.4%、「控えようと思う」が15.8%、あわせて20.2%（男性20.9%、女性19.7%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、24.7ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が28.7%で最も高く、最も低い29歳以下の14.3%と、14.4ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、朝日中学校区が21.5%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の18.0%と、大きな差はみられません。



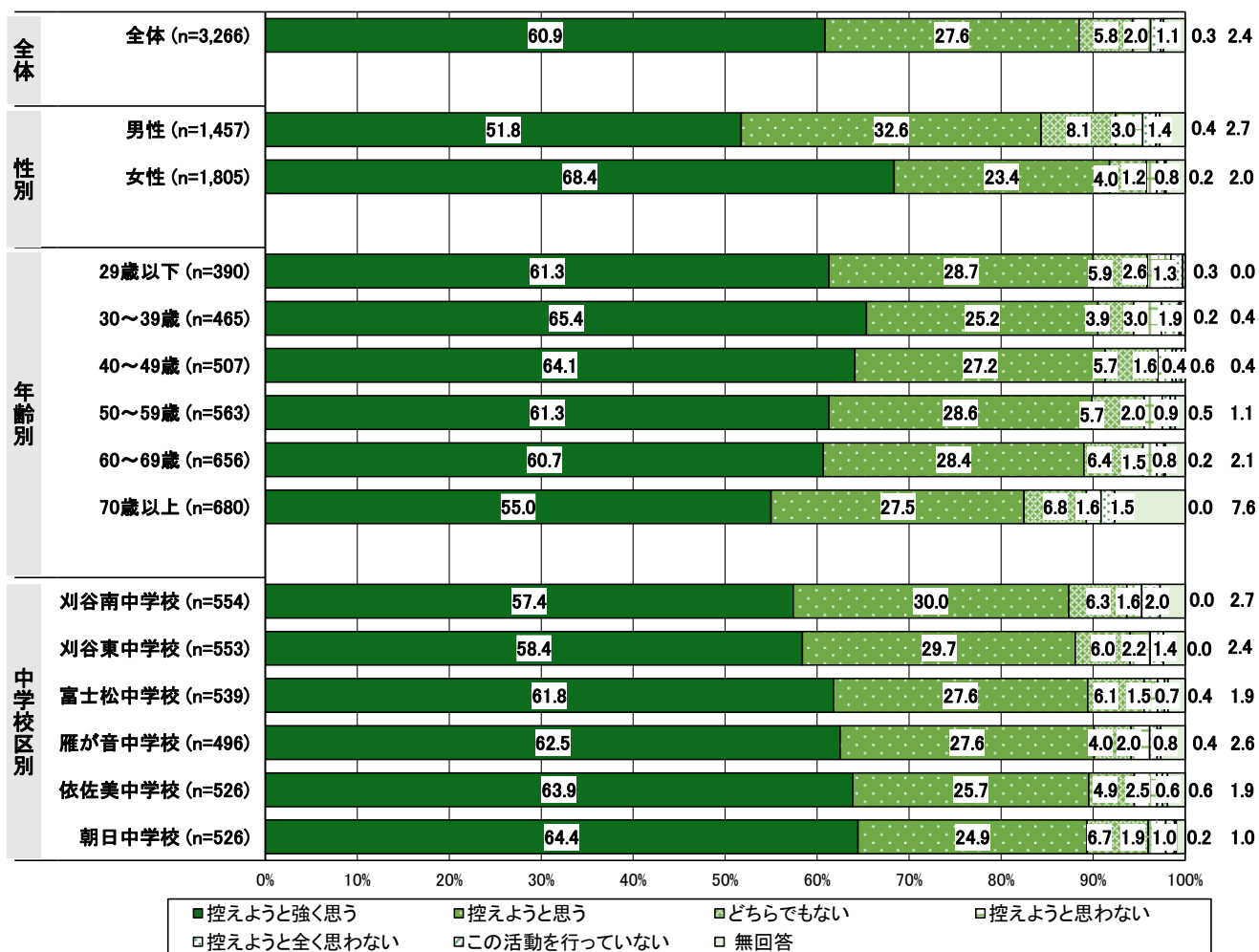
(12) 自宅から離れた都心・中心市街地(名古屋駅・刈谷駅等)

①緊急事態宣言中

「自宅から離れた都心・中心市街地(名古屋駅・刈谷駅等)」への外出については、「控えようと思う」が60.9%、「控えようと思う」が27.6%、あわせて88.5% (男性84.4%、女性91.8%) となっています。

年齢別で見ると、40～49歳が91.3%で最も高く、次いで、30～39歳が90.6%、29歳以下が90.0%、50～59歳が89.9%となっています。

中学校区別で見ると、雁が音中学校区が90.1%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の87.4%と、大きな差はみられません。

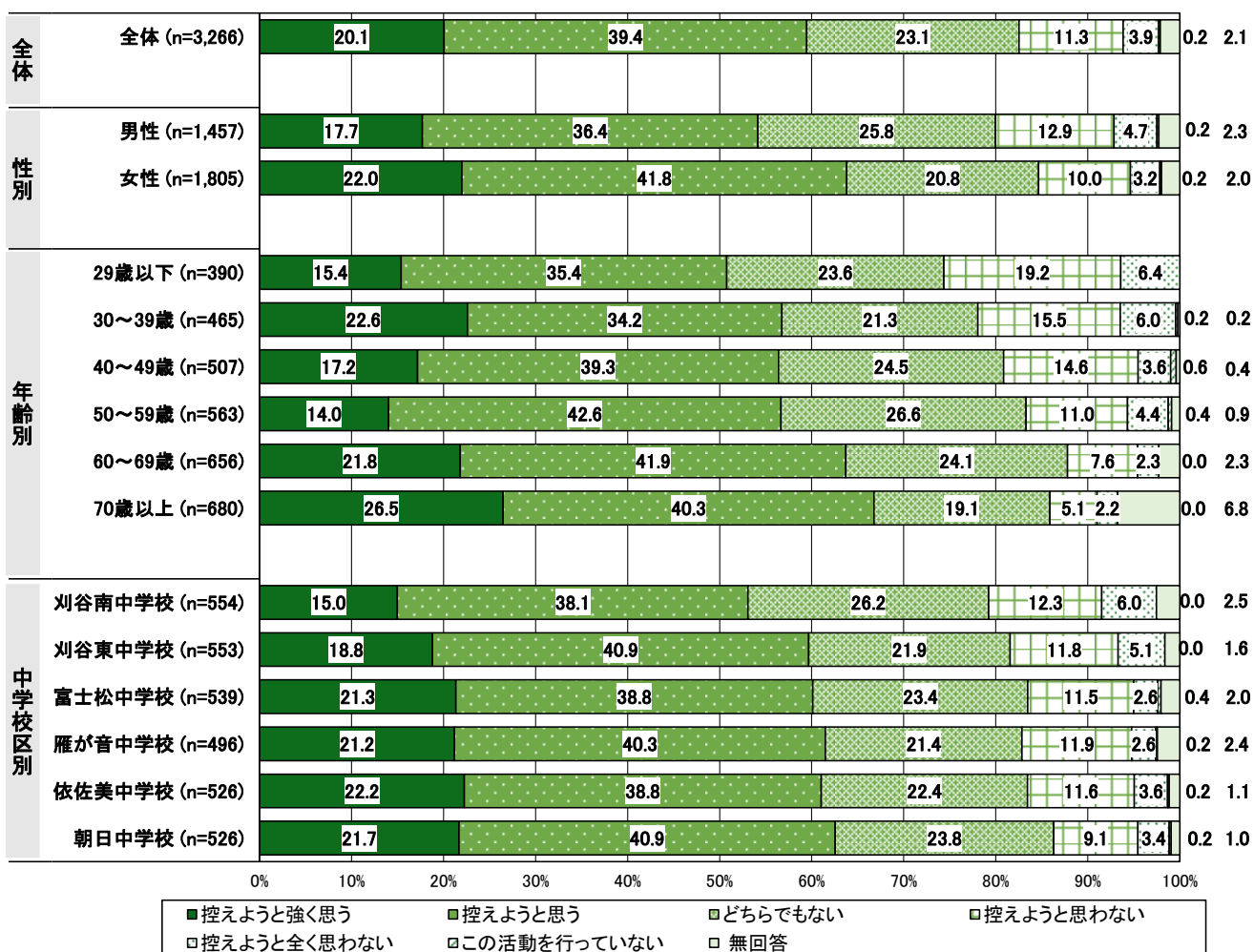


②調査時点

「自宅から離れた都心・中心市街地（名古屋駅・刈谷駅等）」への外出については、「控えようと思う」が20.1%、「控えようと思う」が39.4%、あわせて59.5%（男性54.1%、女性63.8%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、29.0ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が66.8%で最も高く、最も低い29歳以下50.8%と、16.0ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、朝日中学校区が62.6%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の53.1%と約10ポイントの差が生じています。



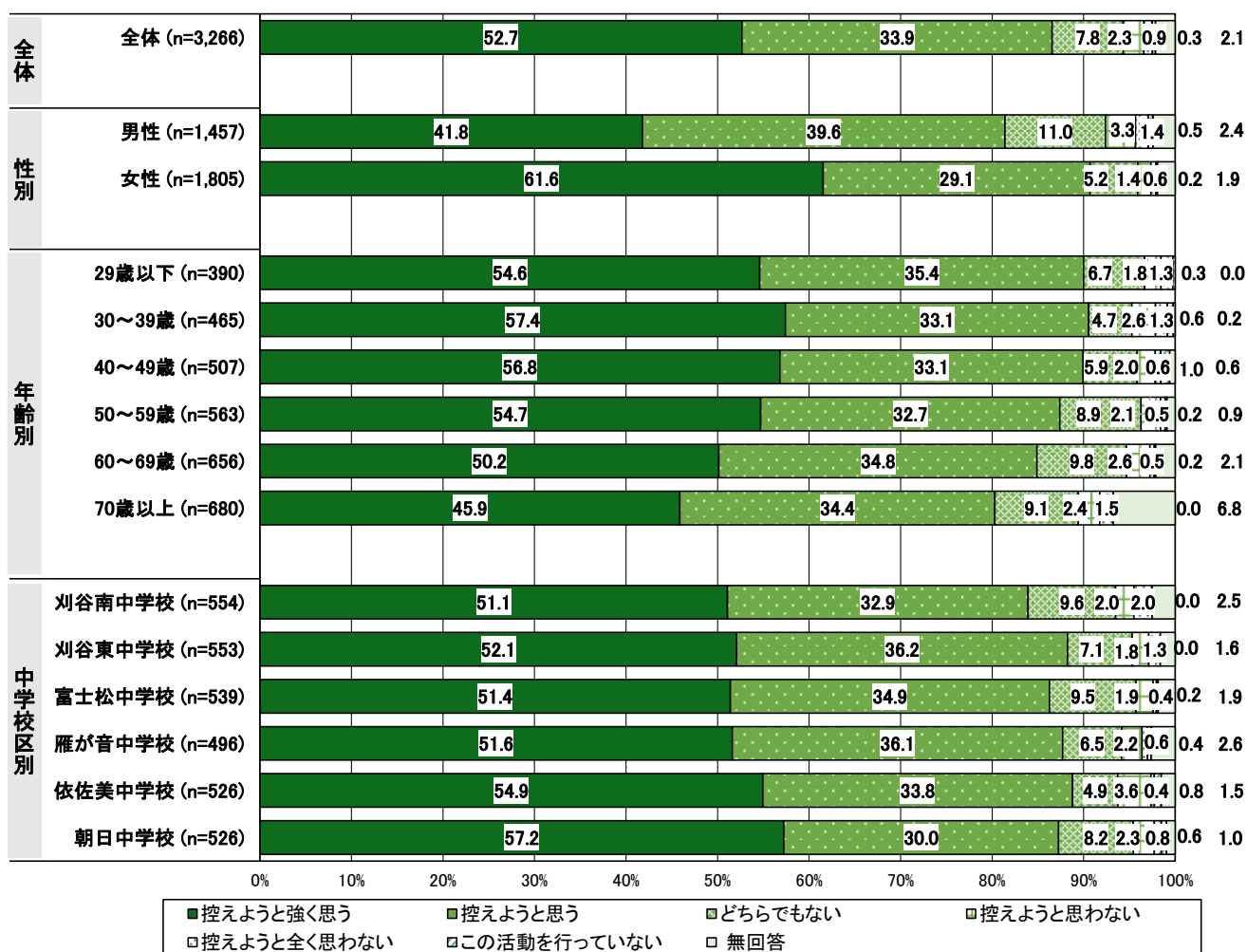
(13) 自宅から離れた郊外(ショッピングセンター等)

①緊急事態宣言中

「自宅から離れた郊外(ショッピングセンター等)」への外出については、「控えようと強く思う」が52.7%、「控えようと思う」が33.9%、あわせて86.6% (男性81.4%、女性90.7%) となっています。

年齢別でみると、30～39歳が90.5%で最も高く、次いで、29歳以下が90.0%、40～49歳が89.9%、50～59歳が87.4%となっています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が88.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の84.0%と、大きな差はみられません。

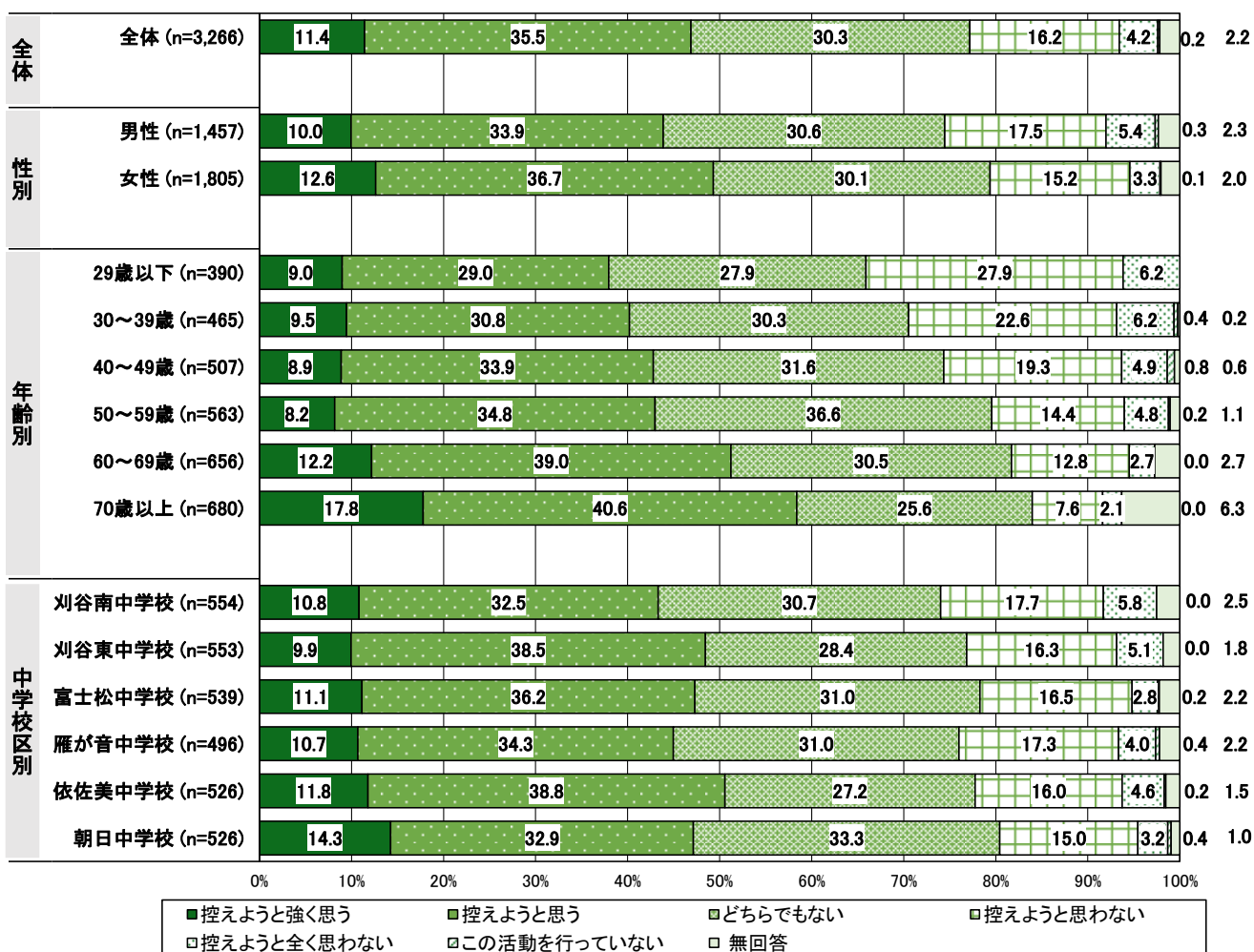


②調査時点

「自宅から離れた郊外（ショッピングセンター等）」への外出については、「控えようと強く思う」が11.4%、「控えようと思う」が35.5%、あわせて46.9%（男性43.9%、女性49.3%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、39.7ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が58.4%で最も高く、最も低い29歳以下の38.0%と、20.4ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が50.6%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の43.3%と7.3ポイントの差が生じています。



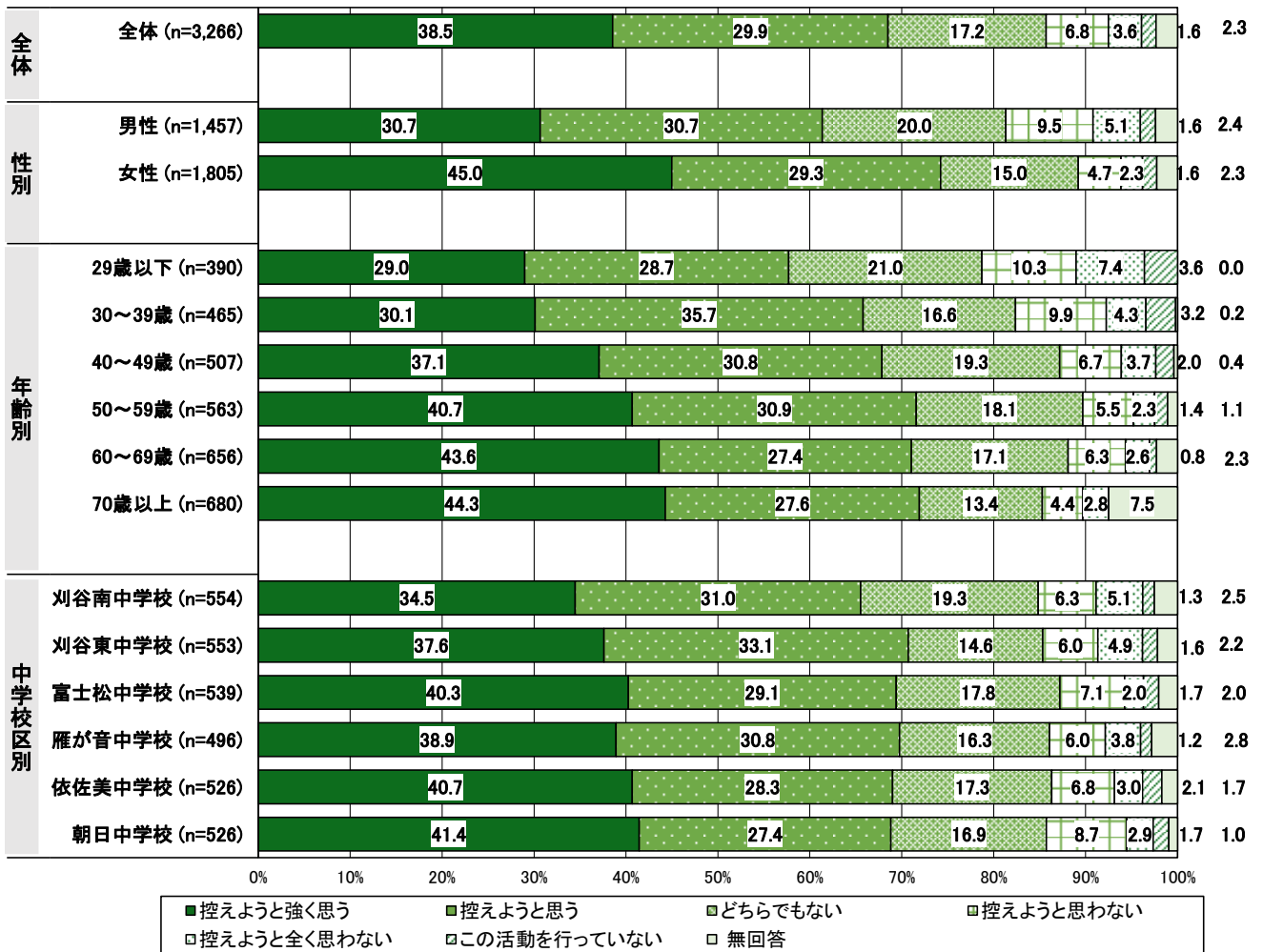
(14) 自然地(海・山等)

①緊急事態宣言中

「自然地(海・山等)」への外出については、「控えようと思う」が38.5%、「控えようと思う」が29.9%、あわせて68.4% (男性61.4%、女性74.3%) となっています。

年齢別でみると、70歳以上が71.9%で最も高く、次いで、50～59歳が71.6%、60～69歳が71.0%、40～49歳が67.9%となっています。

中学校区別でみると、刈谷東中学校区が70.7%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の65.5%と、大きな差はみられません。

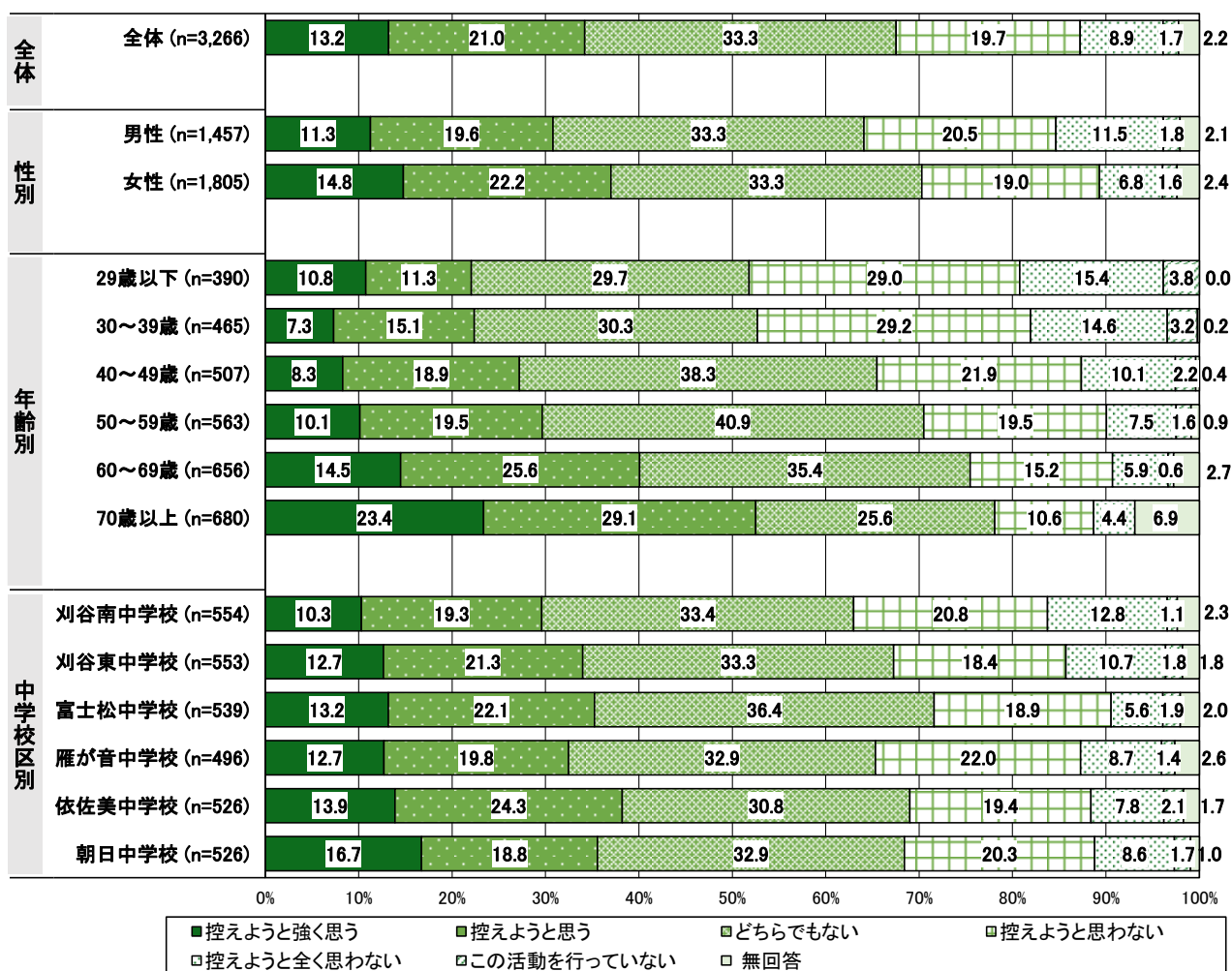


②調査時点

「自然地（海・山等）」への外出については、「控えようと思う」が13.2%、「控えようと思う」が21.0%、あわせて34.2%（男性30.9%、女性37.0%）となっており、緊急事態宣言中と比べ、34.2ポイント減少しています。

年齢別でみると、70歳以上が52.5%で最も高く、最も低い29歳以下の22.1%と、30.4ポイントの差が生じています。

中学校区別でみると、依佐美中学校区が38.2%で最も高く、最も低い刈谷南中学校区の29.6%と、8.6ポイントの差が生じています。



3 - 3. コロナ禍における行動変化

(1)「通勤や通学」

市政評価(設問 50)、現状把握(設問 64)

※設問6『あなたの職業は?』に対し、「1.自営業(農林業等従事者も含む)」「2.正規の職員・従業員(公務員、専門職含む)」「3.派遣・契約社員」「4.パート・アルバイト」「5.会社員などの役員」「6.学生・専門学校生」と回答した方

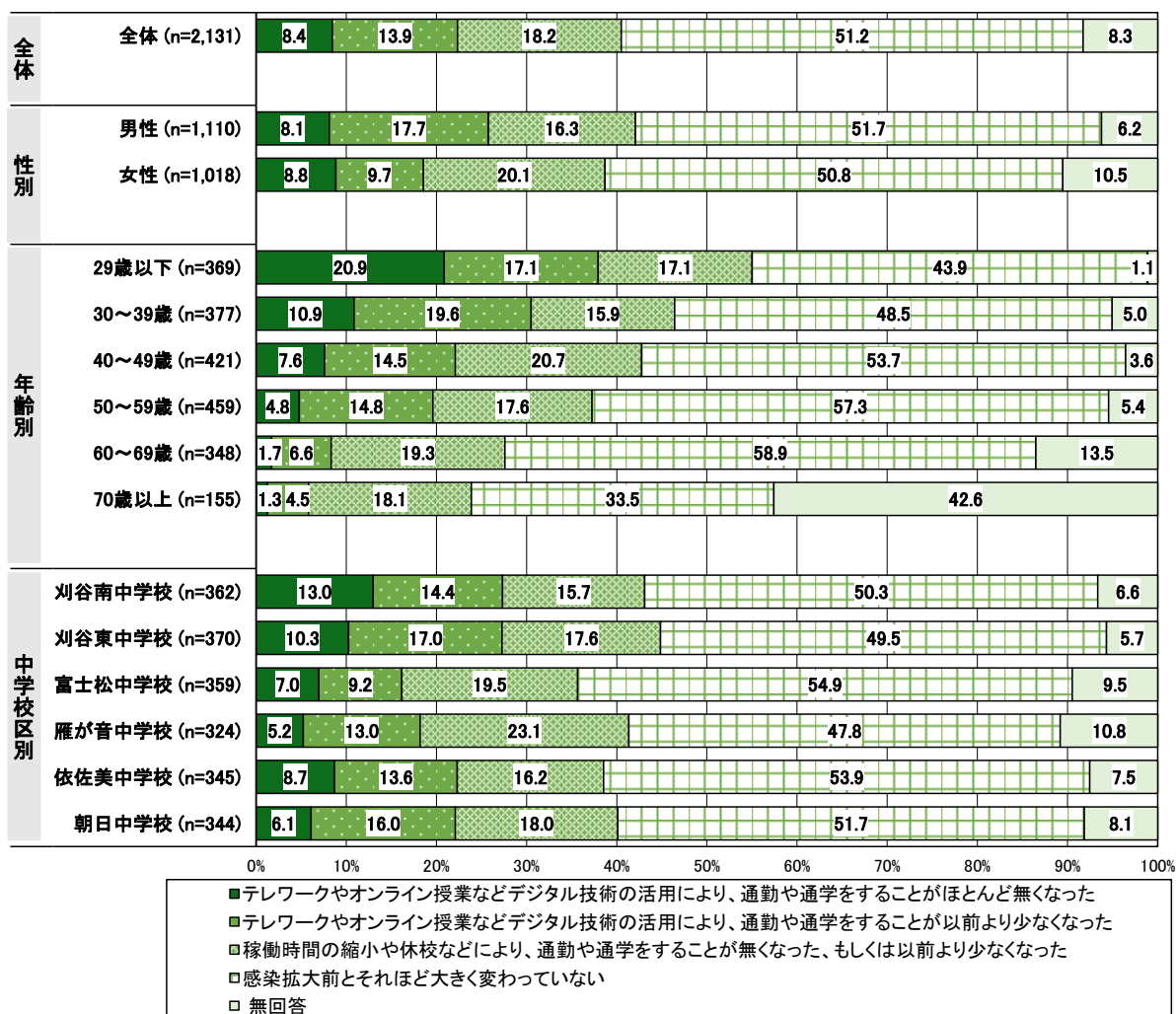
①緊急事態宣言中

「通勤や通学」については、「感染拡大以前とそれほど大きく変わっていない」が 51.2%で最も高く、次いで「稼働時間の縮小や休校などにより、通勤や通学をすることが無くなった、もしくは以前より少なくなった」が 18.2%となっています。

性別でみると、男性は、「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることが以前より少なくなった」が 17.7%で女性より 8.0 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることがほとんど無くなった」「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることが以前より少なくなった」と回答した割合は、年齢層が低くなるほど高くなっています。

中学校区別でみると、「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることがほとんど無くなった」「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることが以前より少なくなった」と回答した割合は、刈谷東中学校区が 27.3%で最も高く、最も低い富士松中学校区の 16.2%と 11.1 ポイントの差が生じています。



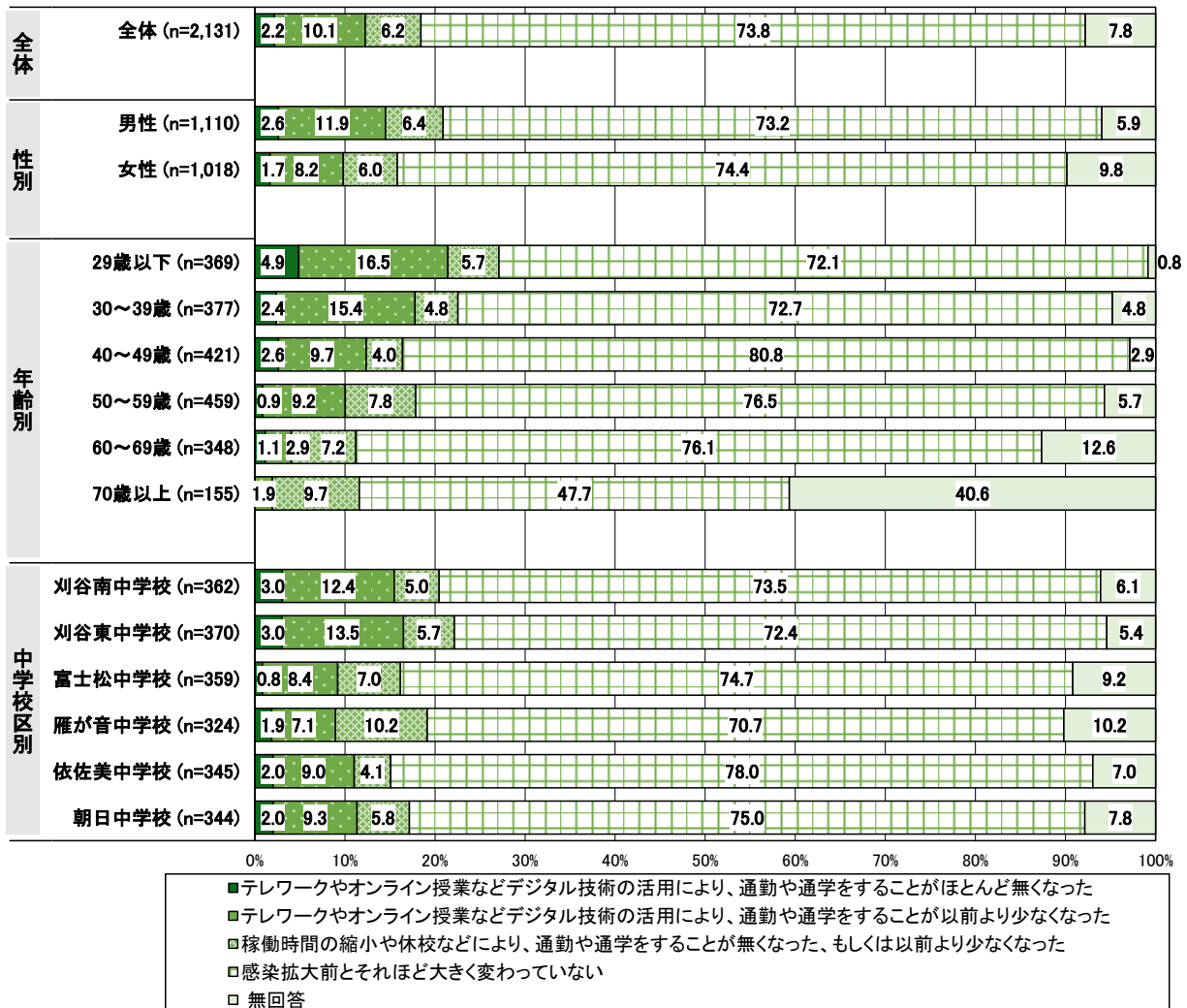
②調査時点

「通勤や通学」については、「感染拡大以前とそれほど大きく変わっていない」の73.8%で最も高く、緊急事態宣言中に比べ22.6ポイント増加しています。次いで、「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることが以前より少なくなった」が10.1%となっています。

年齢別でみると、「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることがほとんど無くなった」「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることが以前より少なくなった」と回答した割合は、年齢層が低くなるほど大きくなっています。

70歳以上を除いた29歳以下から60～69歳の「現役層」に着目すると、「感染拡大前とそれほど大きく変わっていない」は、7～8割程度を占めています。

中学校区別でみると、「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることがほとんど無くなった」「テレワークやオンライン授業の活用により、通勤や通学をすることが以前より少なくなった」と回答した割合は、刈谷東中学校区が16.5%で最も高く、最も低い富士松中学校区の9.2%と7.3ポイントの差が生じています。



(2)「余暇を過ごす場所」

市政評価(設問 51)、現状把握(設問 65)

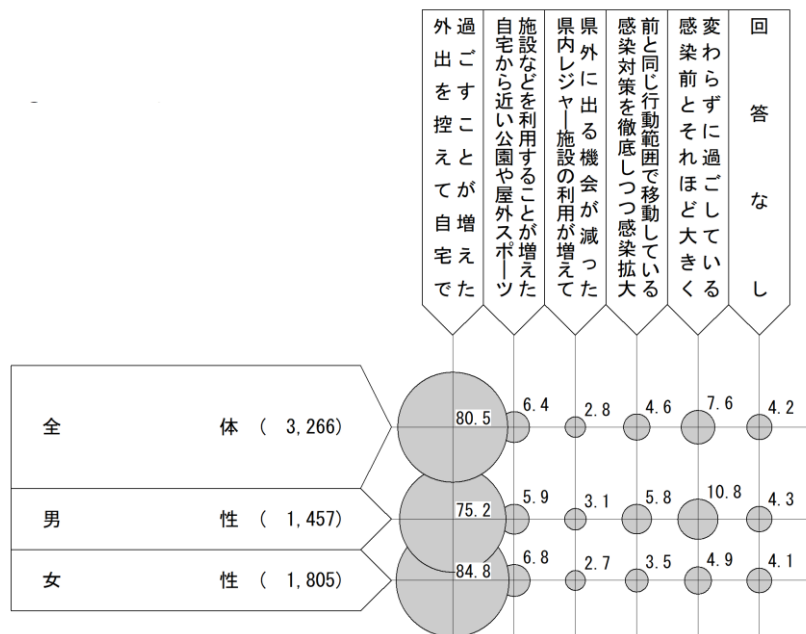
①緊急事態宣言中

「余暇を過ごす場所」については、「外出を控え、自宅で過ごすことが増えた」の80.5%（男性75.2%、女性84.8%）で最も高くなっています。その他の項目は1割未満となっています。

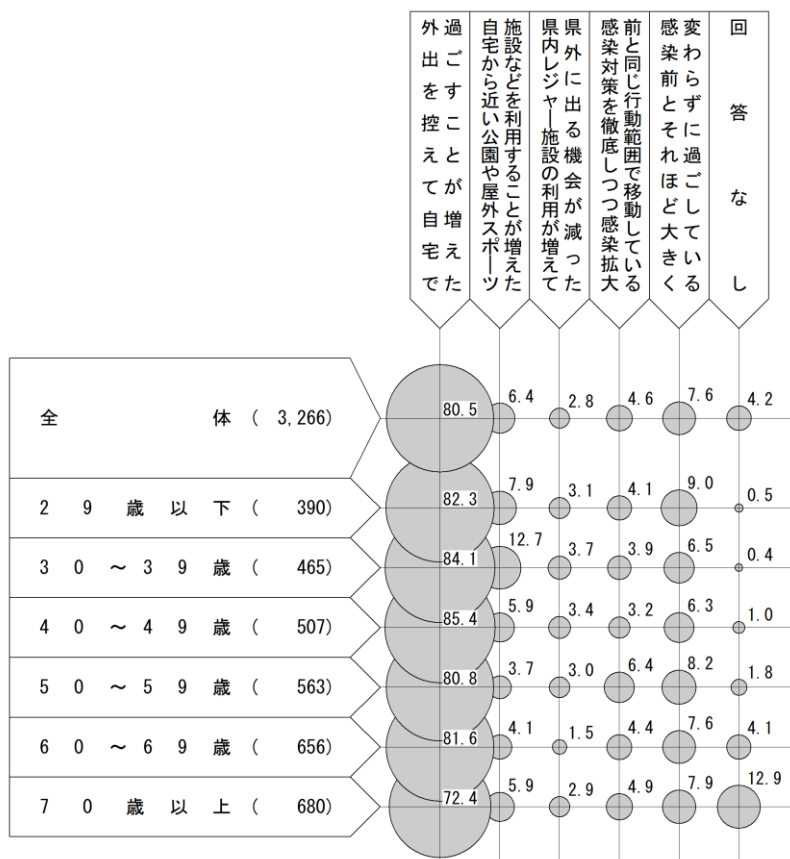
年齢別でみると「外出を控え、自宅で過ごすことが増えた」を除くと、30～39歳では、「自宅から近い公園や野外スポーツ施設などを利用することが増えた」が12.7%で最も多く、他の年齢層では、「感染前をそれほど大きく変わらず過ごしている」が最も多くなっています。

中学校区別でみると、大きな差はみられません。

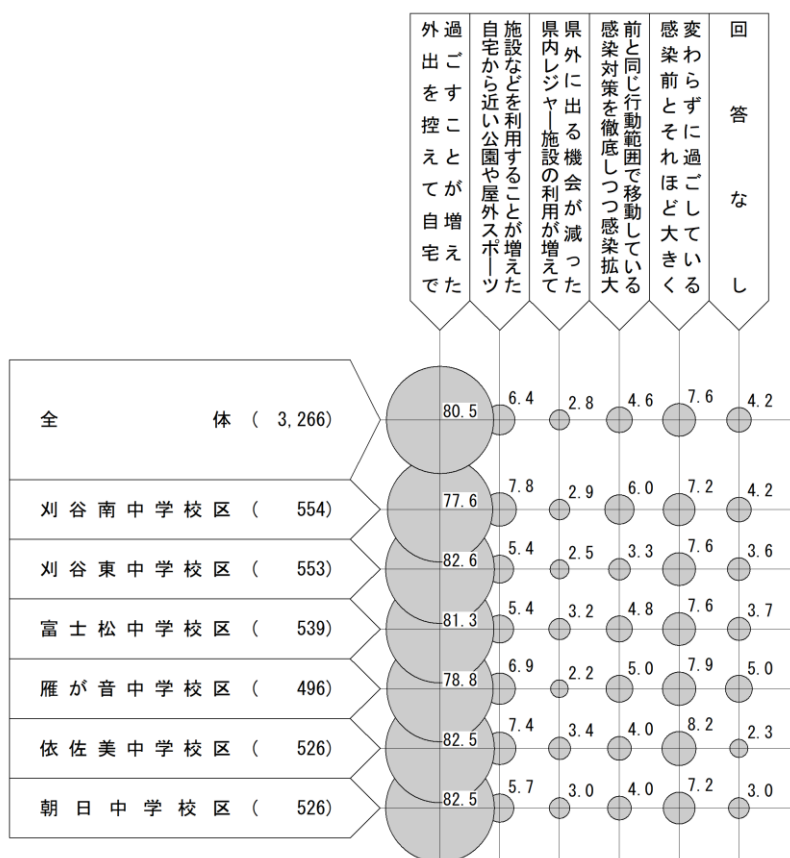
(性別)



(年齢別)



(中学校区別)



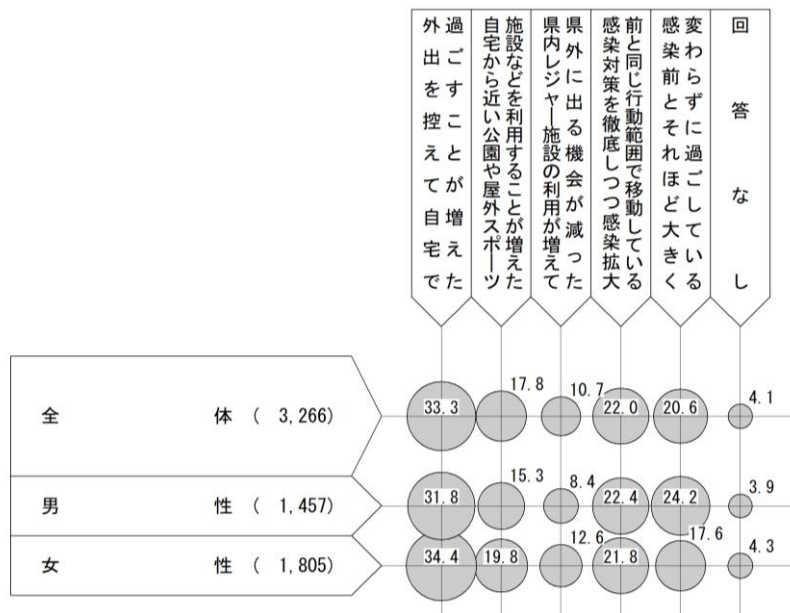
②調査時点

「余暇を過ごす場所」については、「外出を控え、自宅で過ごすことが増えた」の33.3%（男性31.8%、女性34.4%）で最も高くなっており、緊急事態宣言中と比べ、47.2ポイント減少しています。その他の項目は、緊急事態宣言中に比べ、いずれも10～15ポイント前後増加しています。

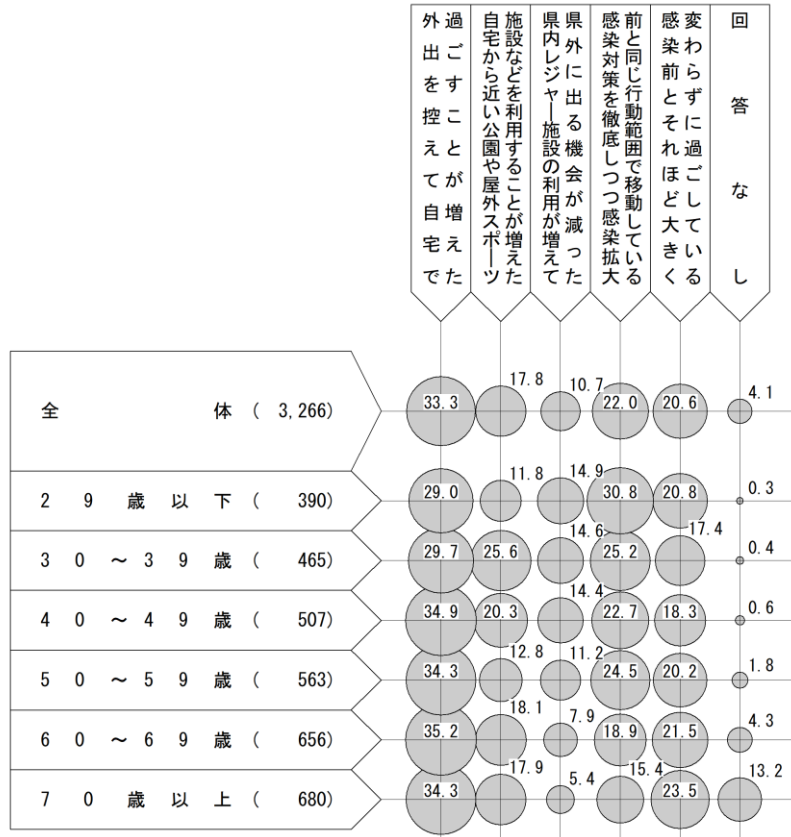
年齢別でみると、「感染対策を徹底しつつ感染症拡大前と同じ行動範囲で移動している」は、年齢層が低くなるほど割合が大きく、29歳以下（30.8%）は70歳以上（15.4%）の2倍になっています。同様に、「県内レジャーの施設利用が増え、県外に出る機会が減った」も年齢層が低いほど割合が大きくなっています。

中学校区別でみると、大きな差はみられません。

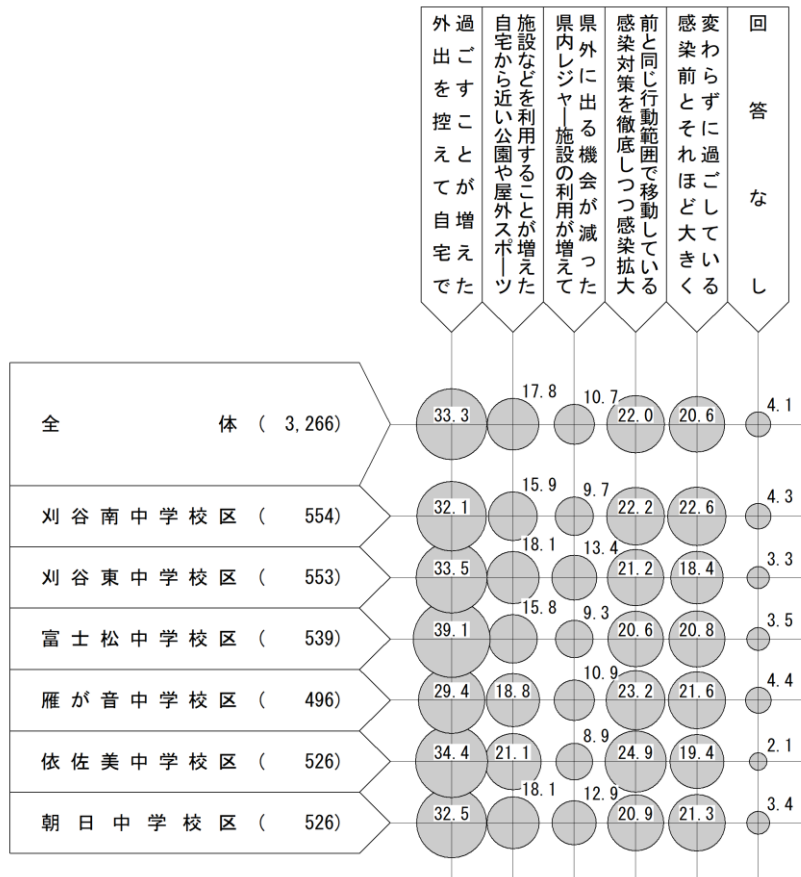
（性別）



(年齢別)



(中学校区別)



(3)「食事」

市政評価(設問 52)、現状把握(設問 66)

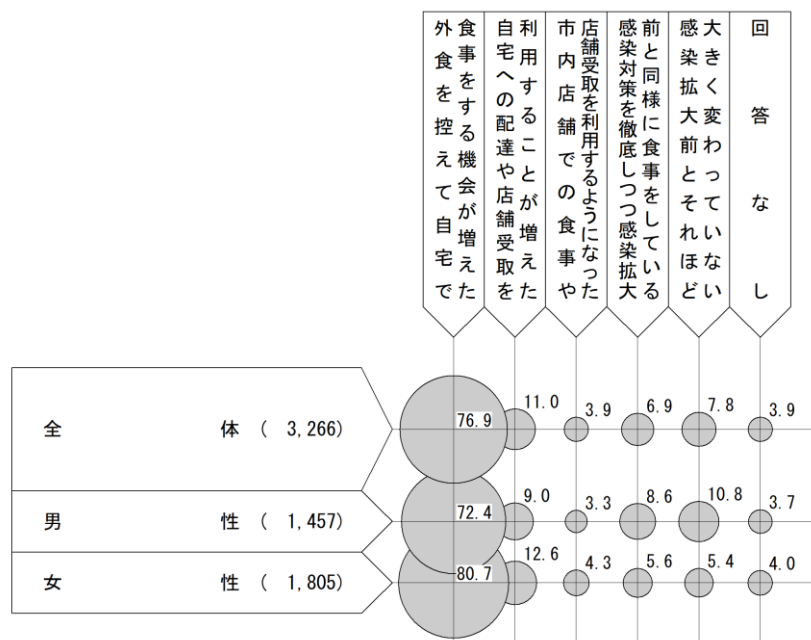
①緊急事態宣言中

「食事」については、「外食を控え、自宅で食事をする機会が増えた」が76.9%(男性72.4%、女性80.7%)で最も高くなっています。その他の項目は、いずれも1割程度となっています。

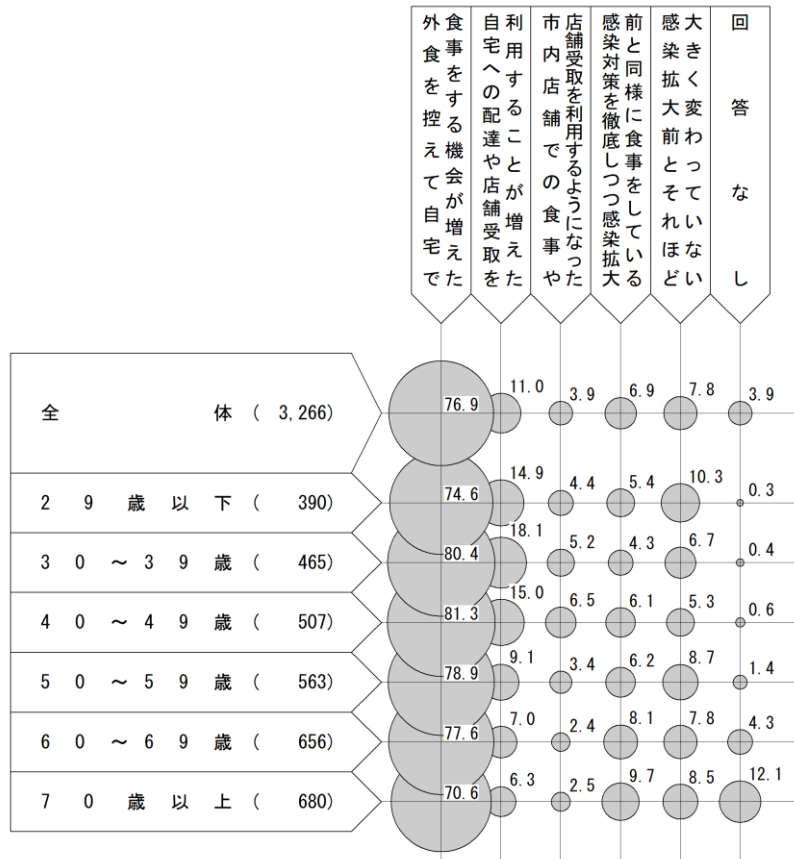
年齢別で見ると、「自宅への配達や店舗受取を利用することが増えた」は、年齢層が低くなるほど概して割合が大きくなっています。

中学校区別で見ると、大きな差はみられません。

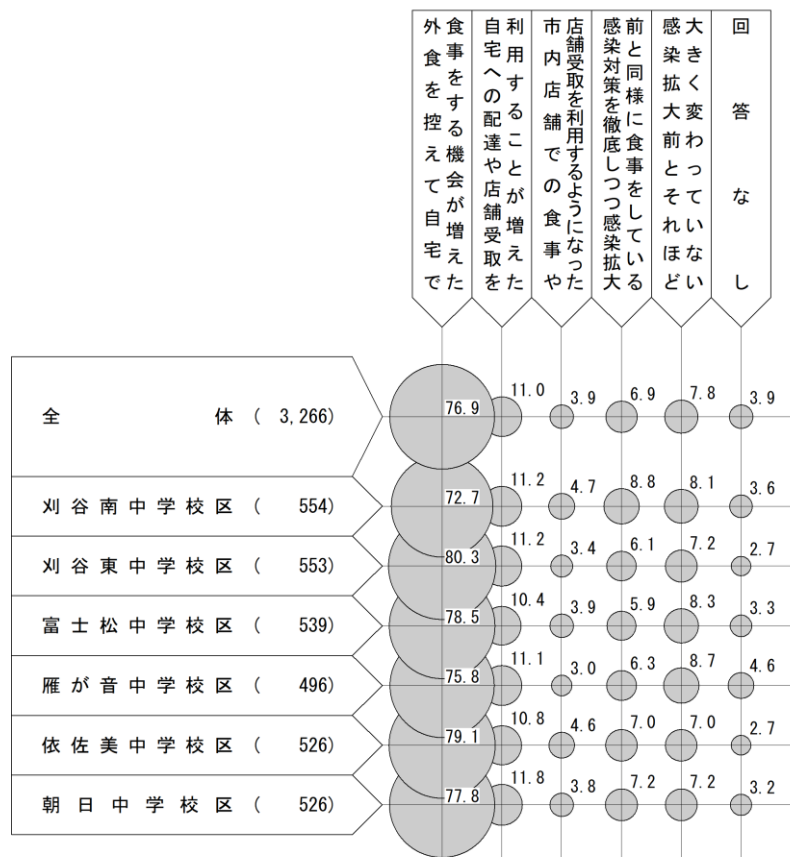
(性別)



(年齢別)



(中学校区別)



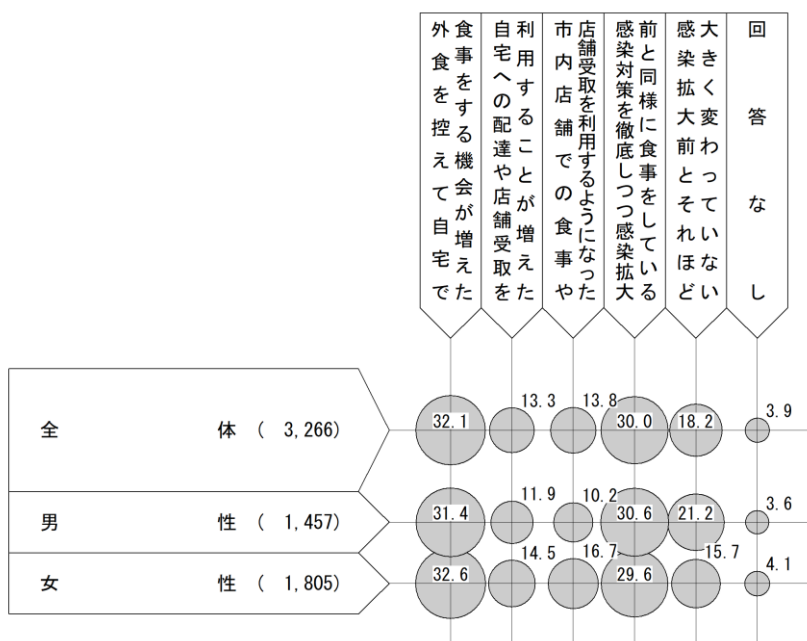
②調査時点

「食事」については、「外食を控え、自宅で食事をする機会が増えた」が32.1%（男性31.4%、女性32.6%）で最も高くなっており、緊急事態宣言中と比べ、44.8ポイント低くなっています。次いで、「感染しない・させないような対策を自ら徹底して、感染拡大前と同様に食事をしている」が30.0%となっており、緊急事態宣言中に比べ、23.1ポイント高くなっています。

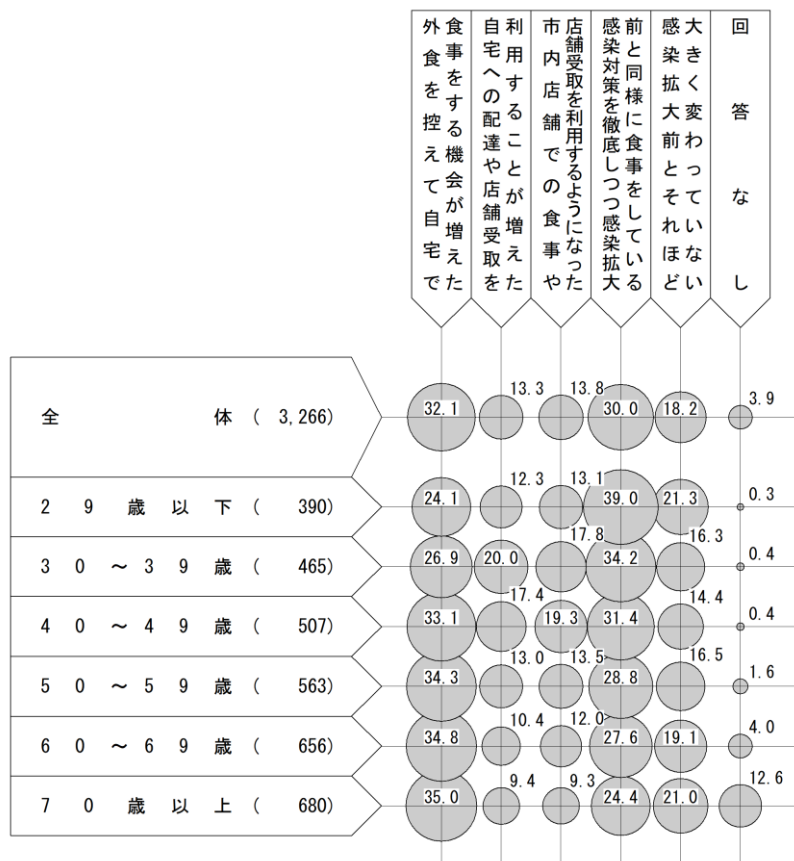
年齢別でみると、「感染しない・させないような対策を自ら徹底して、感染拡大前と同様に食事をしている」は、年齢層が低くなるにつれ割合が大きくなっており、最も高い29歳以下（39.0%）と、最も低い70歳以上（24.4%）と、14.6ポイントの差が生じています。また、緊急事態宣言中と比べ、「自宅への配達や店舗受取を利用することが増えた」は、年齢層が高い層で、割合がやや増加しています。

中学校区別でみると、大きな差はみられません。

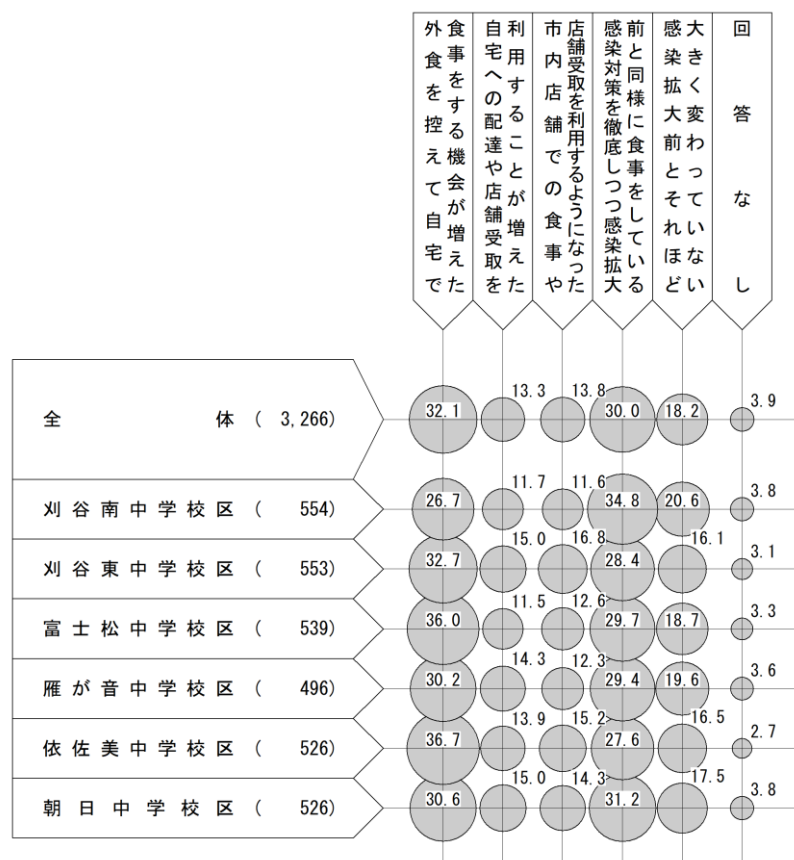
（性別）



(年齢別)



(中学校区別)



(4)「新型コロナウイルス感染症に関する情報」や「刈谷市・国・県の支援策などの情報」の入手方法

市政評価(設問 53)、現状把握(設問 67)

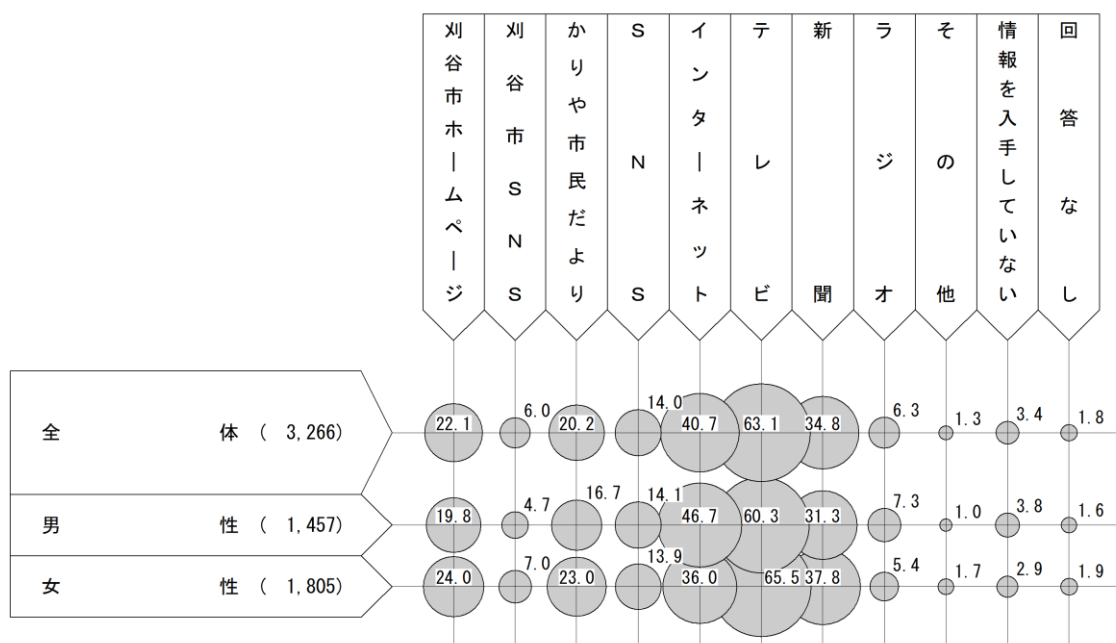
『新型コロナウイルス感染症に関する情報』や『刈谷市・国・県の支援策などの情報』の入手方法については、「テレビ」が 63.1%で最も高くなっています。次いで「インターネット」が 40.7% (男性 46.7%、女性 36.0%)、「新聞」が 34.8% (男性 31.3%、女性 37.8%)、となっています。なお、3.4% (男性 3.8%、女性 2.9%) が「情報を入手していない」と回答しています。

性別でみると、男性は、「インターネット (46.7%)」が女性より 10.7 ポイント大きくなっています。女性は、「新聞 (37.8%)」「かりや市民だより (23.0%)」が男性より約 6 ポイント大きくなっています。

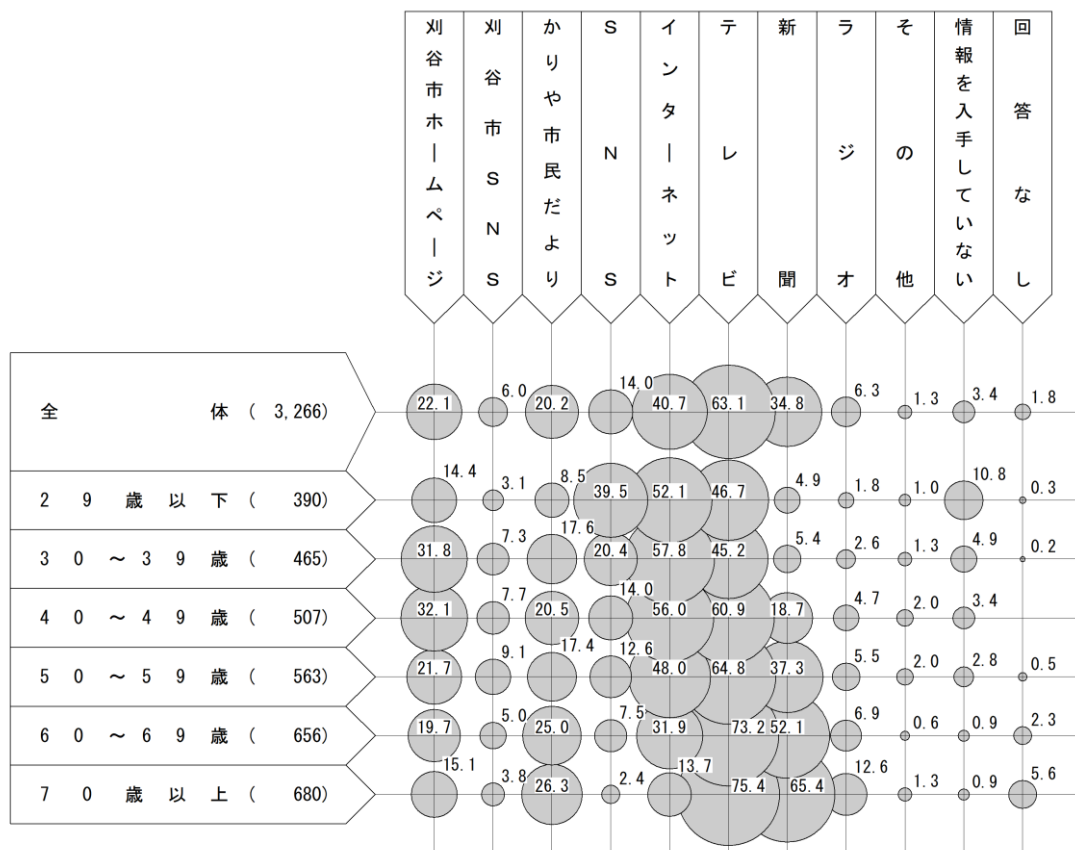
年齢別でみると、「SNS」や「インターネット」などの媒体は、年齢層が低いほど大きくなっており、「テレビ」や「新聞」は、年齢層が高いほど大きくなっています。特に、「新聞」は 29 歳以下で 4.9%、30～39 歳で 5.4%と顕著に低くなっています。

中学校区別でみると「インターネット」は、刈谷東中学校区が 43.6%で最も高く、最も低い雁が音中学校区の 36.9%と 6.7 ポイントの差が生じています。「テレビ」は、富士松中学校区が 69.4%で最も高く、最も低い刈谷東中学校区の 60.2%と 9.2 ポイントの差が生じています。

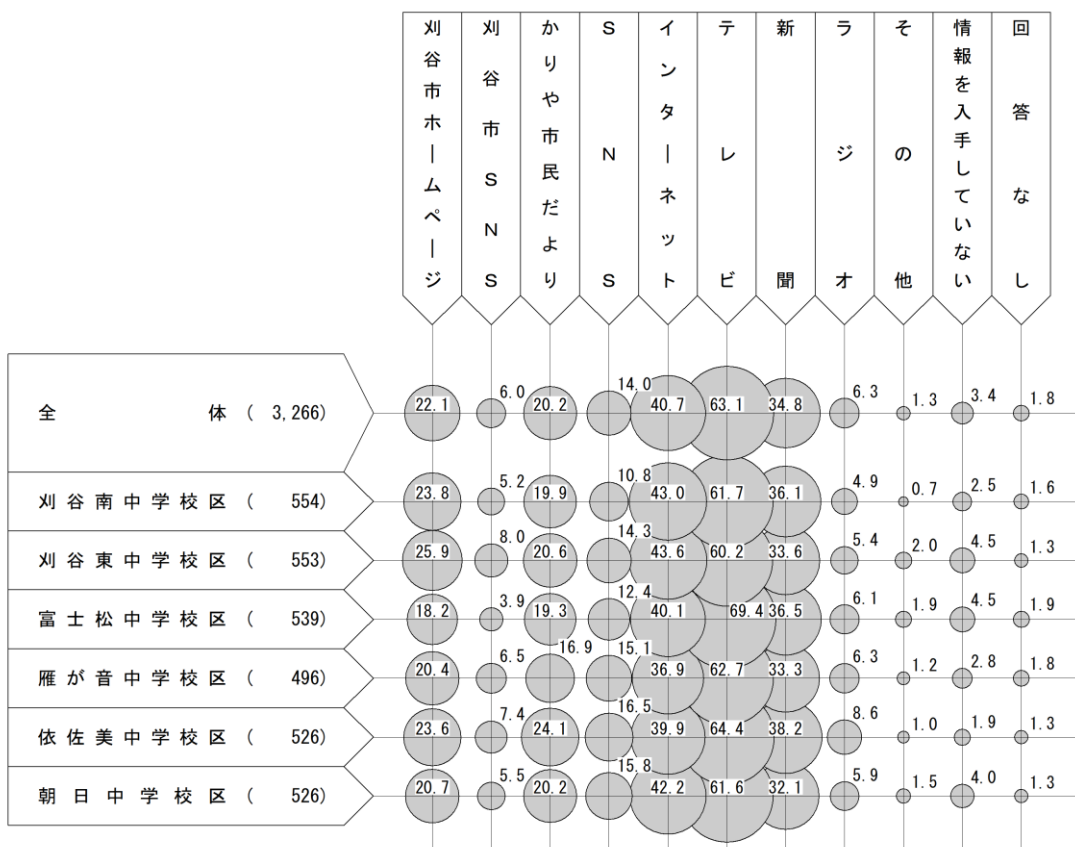
(性別)



(年齢別)



(中学校区別)



(5)「普段から利用している SNS」

市政評価(設問 54)、現状把握(設問 68)

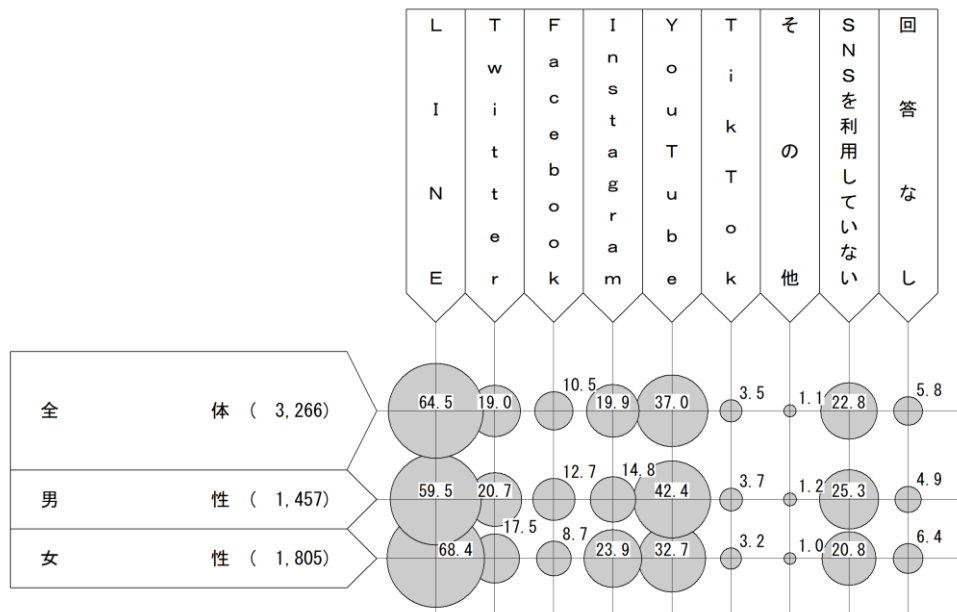
「普段から利用している SNS」について、「LINE」が 64.5%で最も高くなっています。次いで「YouTube」が 37.0%、「Instagram」が 19.9%となっています。なお、「SNS を利用していない」は 22.8%となっています。

性別でみると、男性は、「YouTube (42.4%)」が女性より 9.7 ポイント大きくなっています。女性は、「LINE (68.4%)」「Instagram (23.9%)」が男性より約 9 ポイント大きくなっています。

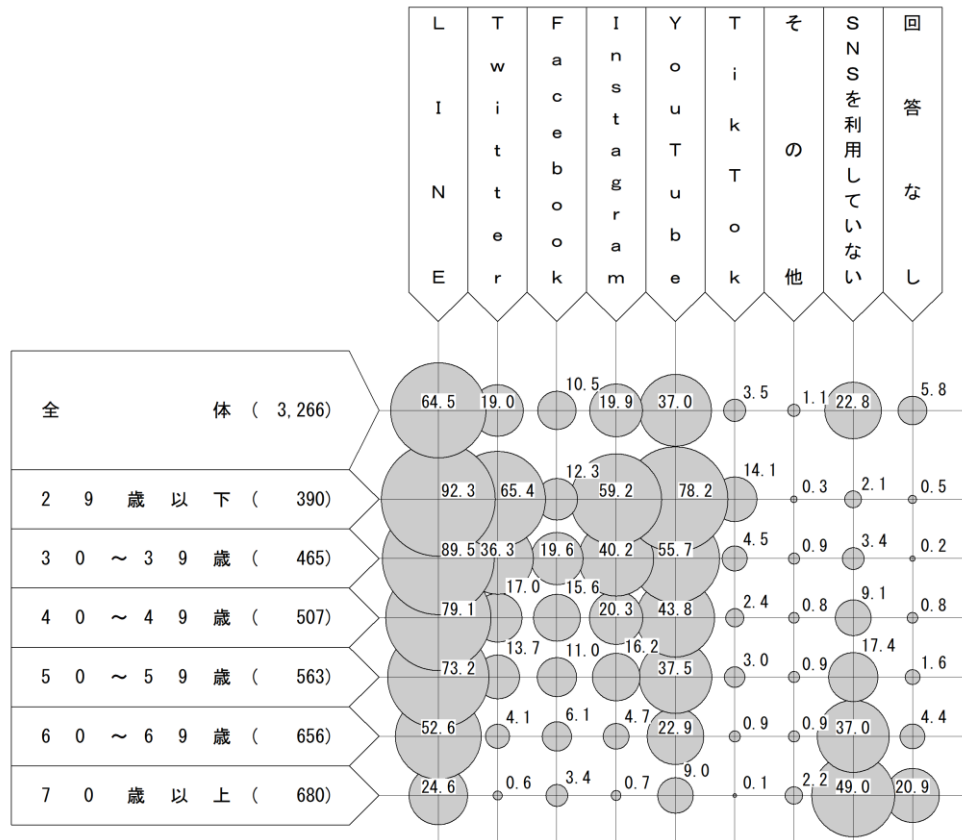
年齢別でみると、「LINE」「Facebook」を除く各 SNS は、年齢層が低いほど大きく、年齢層が高いほど小さくなっています。「LINE」は、70 歳以上では、24.6%と低いものの、他の年齢層では半数以上を占めています。

中学校区別でみると「LINE」は、依佐美中学校区が 68.4%で最も高く、最も低い富士松中学校区の 61.8%と 6.6 ポイントの差が生じています。「YouTube」は、刈谷東中学校区が 42.1%で最も高く、最も低い富士松中学校区の 34.1%と 8.0 ポイントの差が生じています。

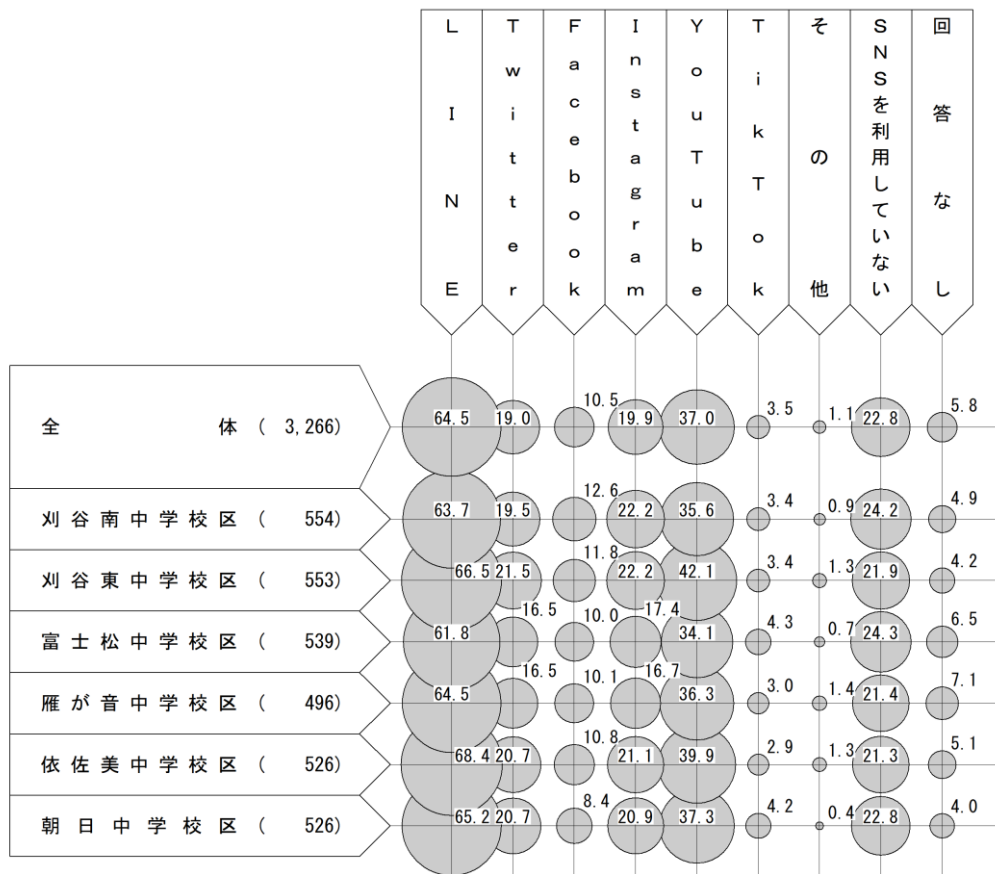
(性別)



(年齢別)



(中学校区別)



(6)代金の支払い方法

市政評価(設問 55)、現状把握(設問 69)

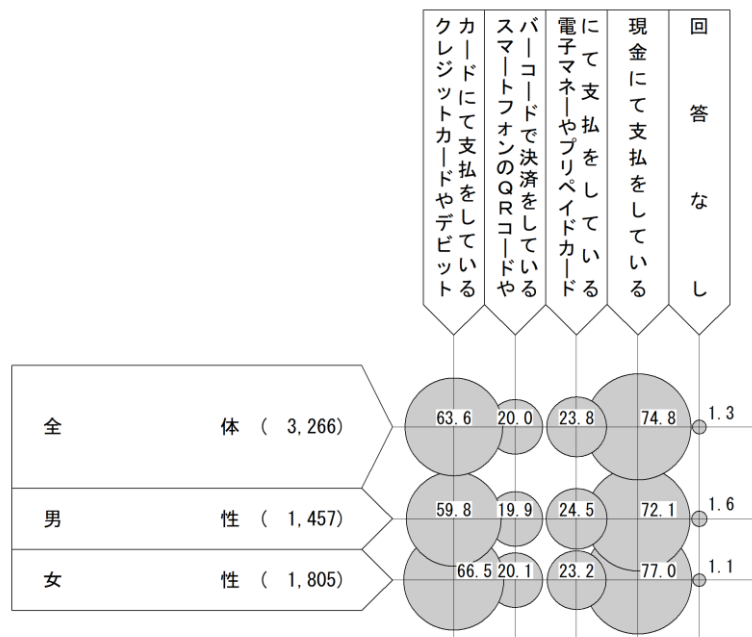
「代金の支払い方法」について、「現金」が74.8%で最も高く、次いで、「クレジットカードやデビットカードにて支払をしている」が63.6%となっています。他方、スマートフォンや電子マネーなどを使った電子通貨による支払は2割程度にとどまっています。

性別でみると、女性は、「クレジットカードやデビットカードによる支払」が66.5%で男性より6.7ポイント大きくなっています。

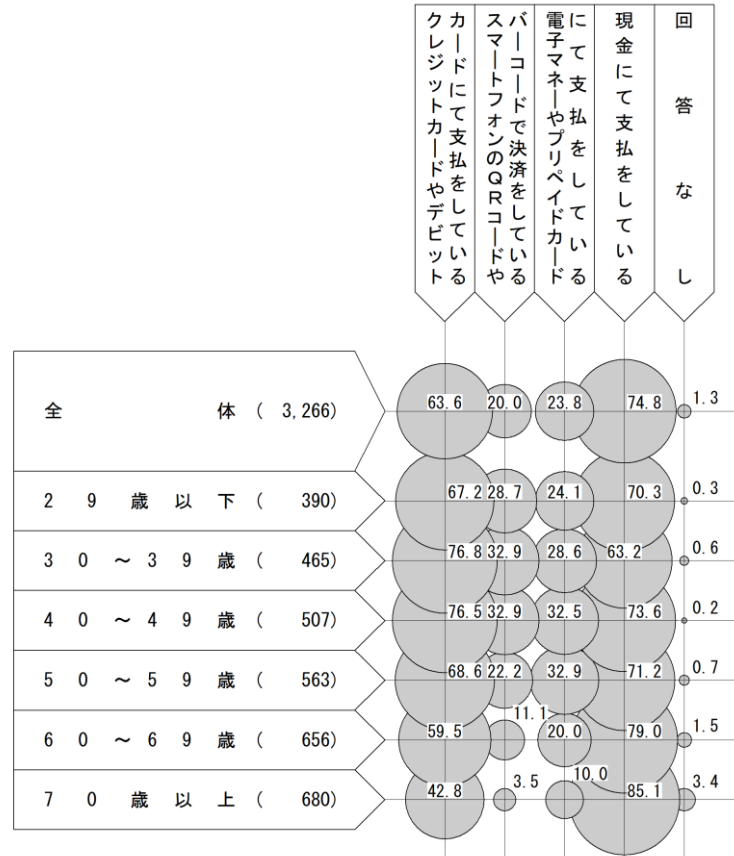
年齢別でみると、「スマートフォンのQRコードやバーコード決済をしている」は、60歳～69歳が11.1%、70歳以上が3.5%と、年齢別の高い層で割合が低くなっています。

中学校区別でみると「クレジットカードやデビットカードにて支払をしている」は、刈谷東中学校区の68.9%で最も高く、最も低い朝日中学校区の59.9%と9.0ポイントの差が生じています。「スマートフォンのQRコードやバーコード決済をしている」は、刈谷東中学校区が23.7%で最も高く、最も低い富士松中学校区の17.3%と、6.4ポイントの差が生じています。「電子マネーやプリペイドカードにて支払いをしている」は、刈谷東中学校区が29.1%で最も高く、最も低い富士松中学校区の21.3%と7.8ポイントの差が生じています。「現金にて支払いをしている」は、朝日中学校区が77.8%で最も高く、最も低い刈谷東中学校区の71.2%と6.6ポイントの差が生じています。

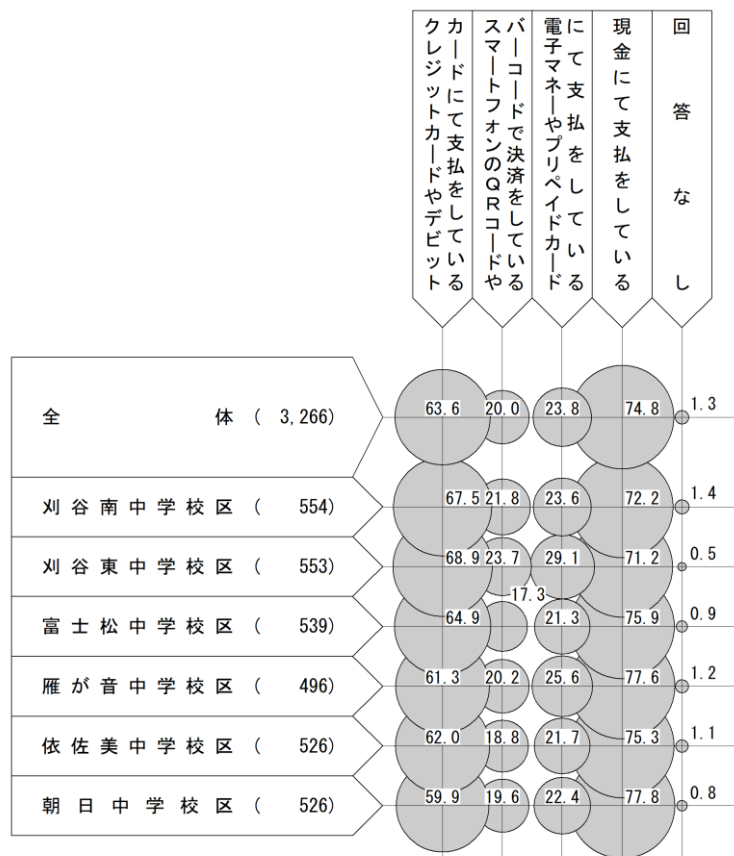
(性別)



(年齢別)



(中学校区別)



3 - 4. コロナ禍における課題と行政支援

(1) コロナ禍における「困りごと」や「不安に感じていること」

市政評価(設問 56)、現状把握(設問 70)

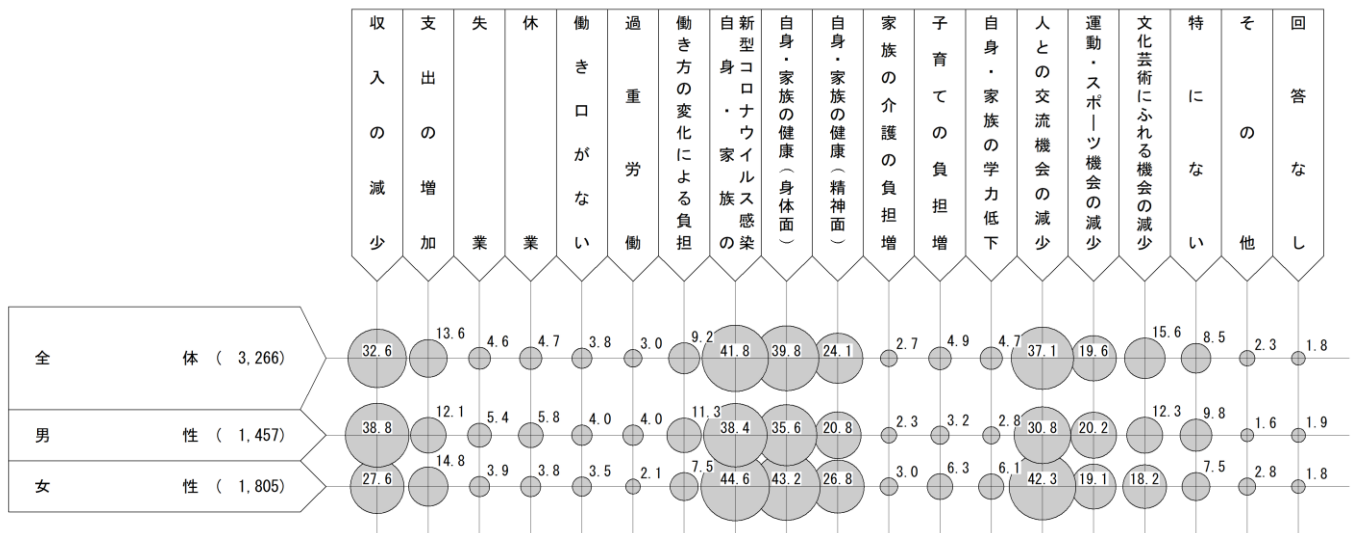
「コロナ禍における『困りごと』や『不安に感じていること』について、「自身・家族の新型コロナウイルス感染」が41.8%で最も高くなっています。次いで、「自身・家族の健康（身体面）」が39.8%、「人との交流機会の減少」が37.1%、「収入の減少」が32.6%、「自身・家族の健康（精神面）」が24.1%となっています。

性別でみると、女性は、「人との交流機会の減少（42.3%）」が男性より11.5ポイント大きくなっています。他に、「自身・家族の健康（精神面）（43.2%）」「自身・家族の新型コロナウイルス感染（44.6%）」「文化芸術にふれる機会の減少（18.2%）」において、男性より約6ポイント大きくなっています。

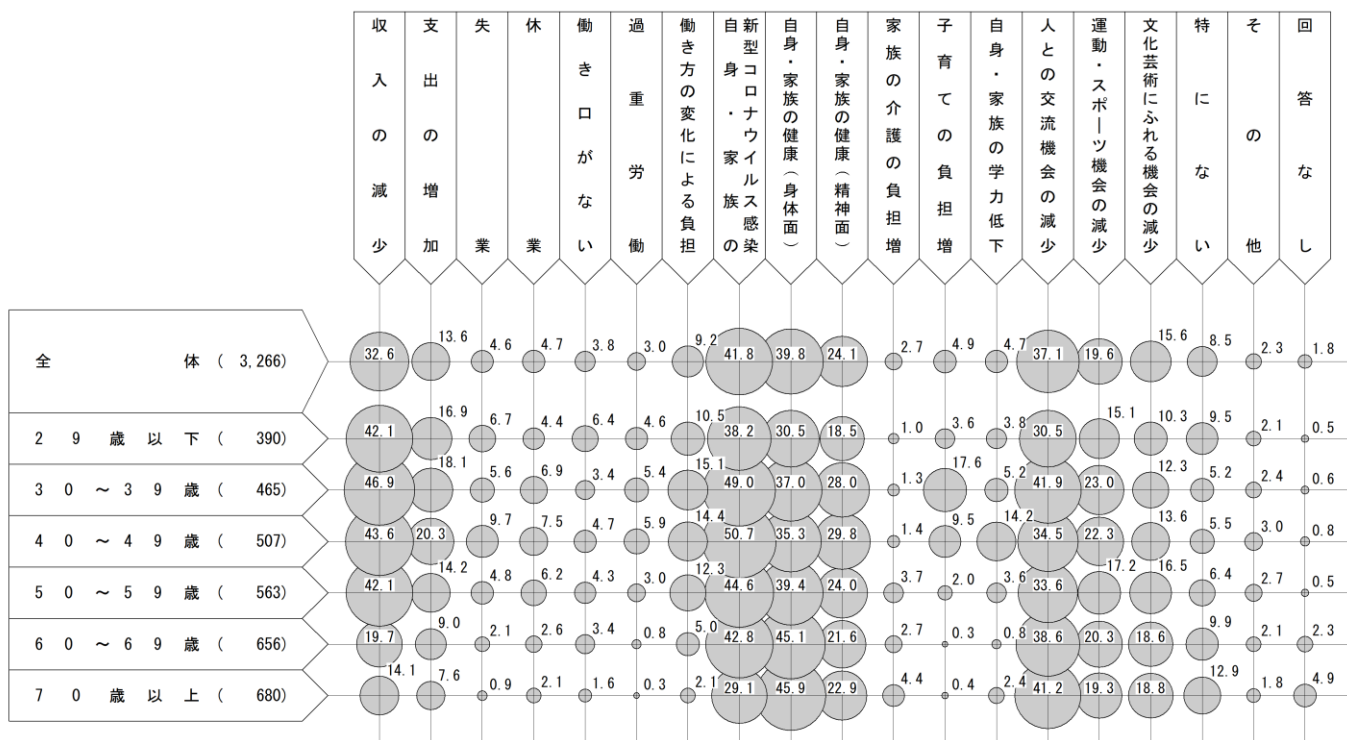
年齢別でみると、「収入の減少」は、「29歳以下」から「50～59歳」までは、概ね40%を占めていますが、「60～69歳（19.7%）」、「70歳以上（14.1%）」と年齢層が高くなるにつれ、割合は小さくなっています。「子育ての負担増」や「自身・家族の学力低下」といった子育てに関する項目は、「30～39歳」「40～49歳」の子育て世代と想定される年齢層の割合が大きくなっています。

中学校区別でみると「自身・家族の新型コロナウイルス感染」は、刈谷東中学校区が45.9%で最も高く、最も低い富士松中学校区の38.2%と7.7ポイントの差が生じています。「自身・家族の健康（身体面）」は、刈谷南中学校区が43.9%で最も高く、最も低い雁が音中学校区の37.3%と6.6ポイントの差が生じています。「人との交流機会の減少」は、依佐美中学校区が40.7%で最も高く、最も低い富士松中学校区の34.7%と6.0ポイントの差が生じています。

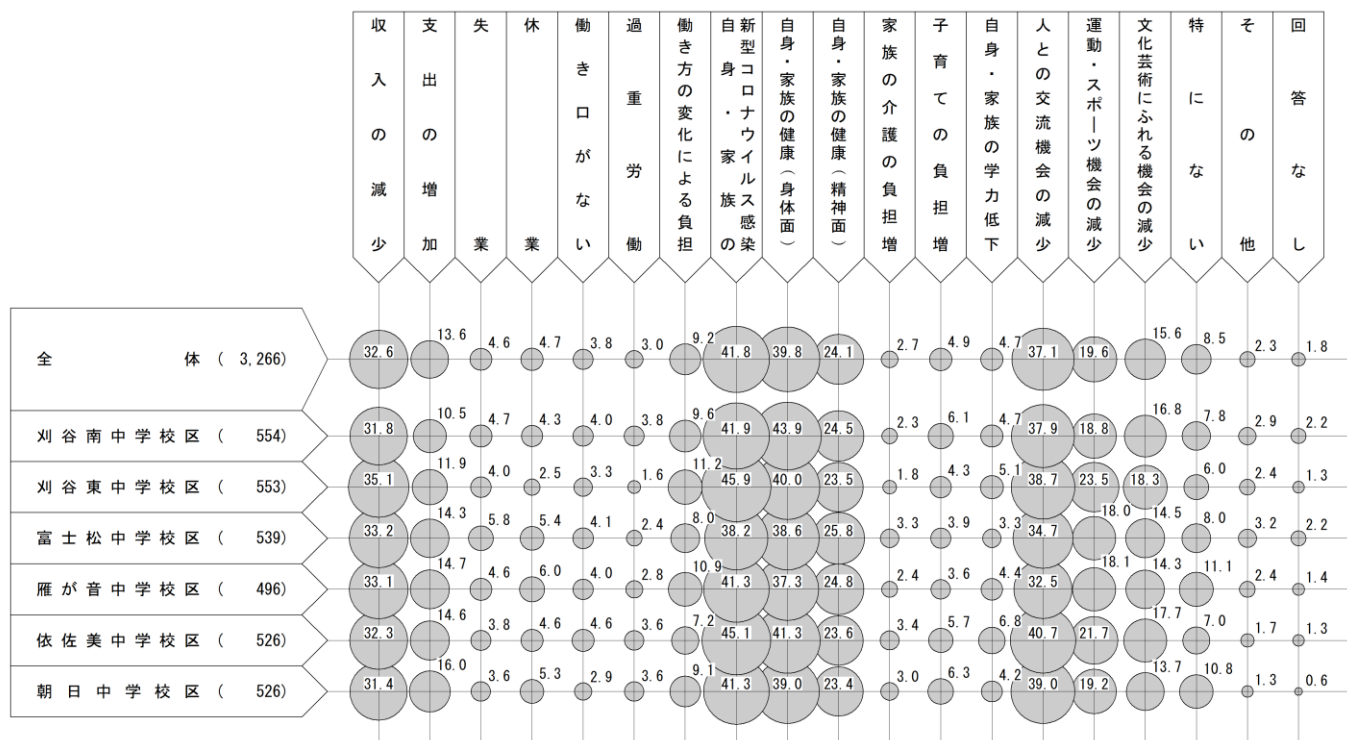
(性別)



(年齢別)



(中学校区別)



(2) 新型コロナウイルス感染症の対策としての「今後の行政支援等」について、重要だと思うもの

市政評価(設問 57)、現状把握(設問 71)

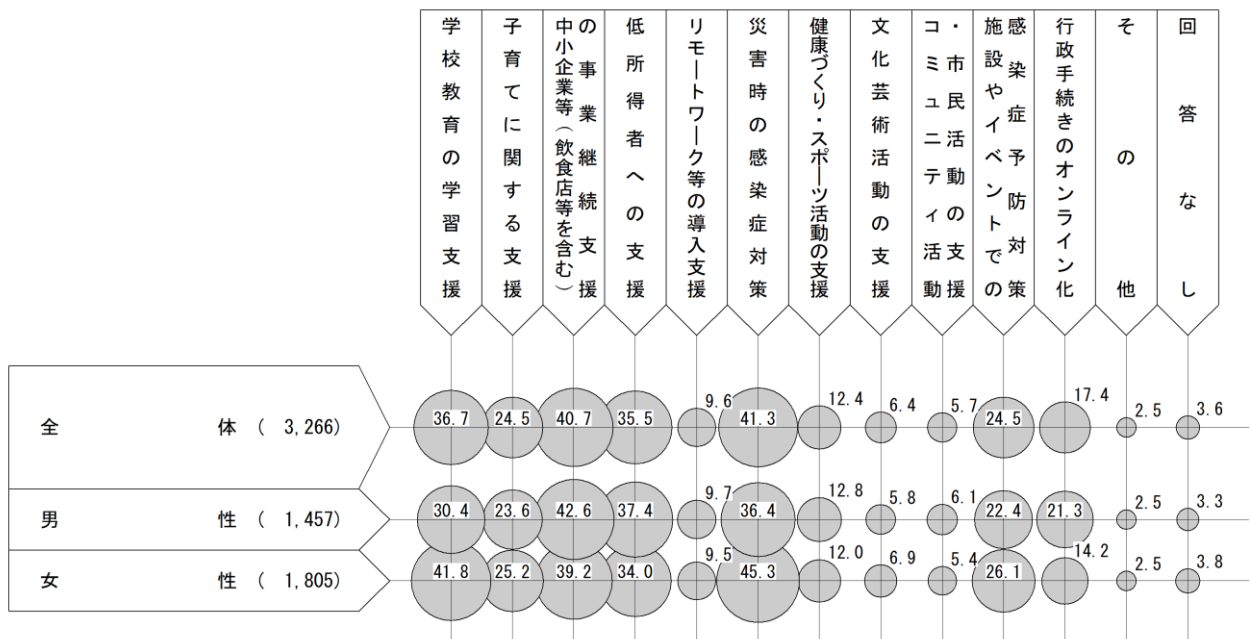
「新型コロナウイルス感染症の対策としての『今後の行政支援等』について、重要だと思うもの」について、「災害時の感染症対策」が41.3%で最も高くなっています。次いで「中小企業等（飲食店等を含む）の事業継続支援」が40.7%、「学校教育の学習支援」が36.7%、「低所得者への支援」が35.5%となっています。

性別でみると、男性は、「行政手続きのオンライン化（21.3%）」が女性より7.1ポイント大きくなっています。女性は、「学校教育の学習支援（41.8%）」が男性より11.4ポイント大きくなっています。また、「災害時の感染症対策（45.3%）」が男性より8.9ポイント大きくなっています。

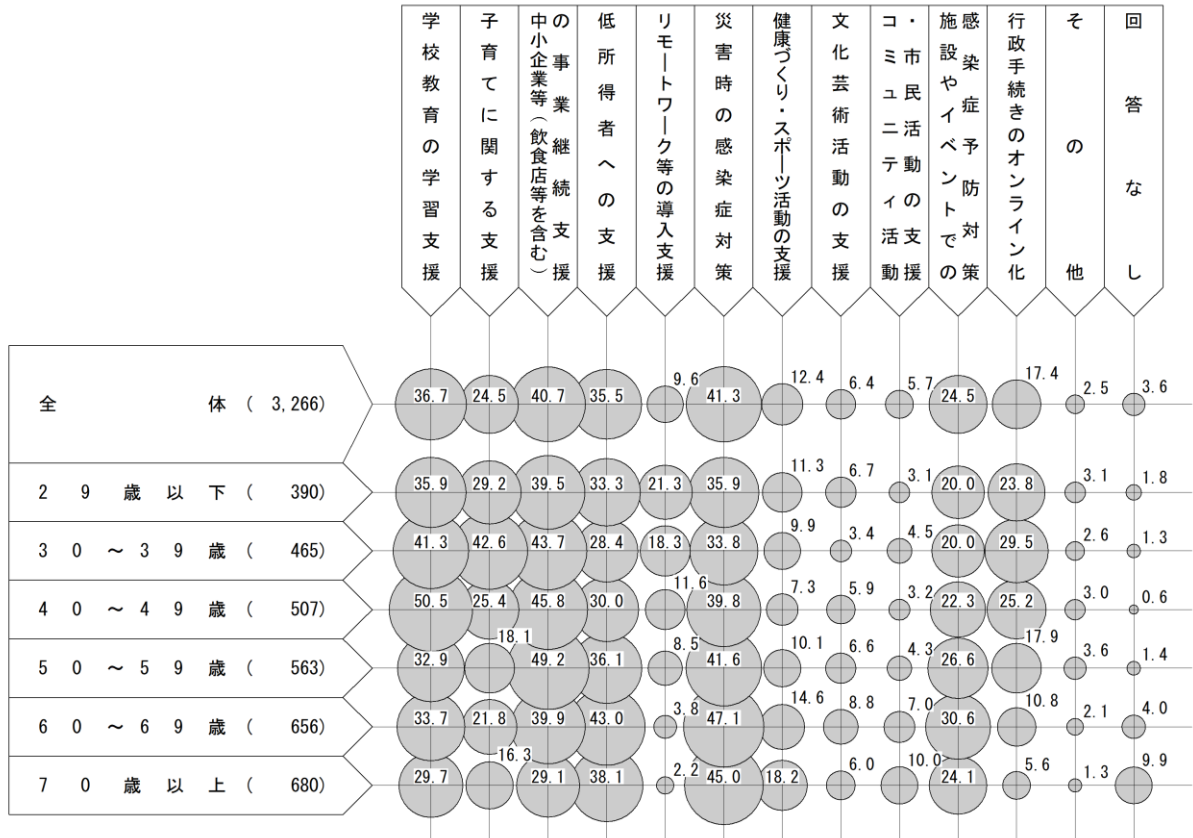
年齢別でみると、「リモートワーク等の導入支援」は、年齢層が低いほど大きく、「29歳以下（21.3%）」で最も大きくなっています。「行政手続きのオンライン化」は、「29歳以下」から「40～49歳」の年齢層で割合がやや大きくなっています。

中学校区別でみると「中小企業等（飲食店等を含む）の事業継続支援」は、刈谷南中学校区が45.5%で最も高く、最も低い刈谷東中学校区、富士松中学校区の38.0%と7.5ポイントの差が生じています。「低所得者への支援」は、朝日中学校区が40.5%で最も高く、最も低い刈谷東中学校区の32.7%と7.8ポイントの差が生じています。「災害時の感染症対策」は、依佐美中学校区が44.3%で最も高く、最も低い富士松中学校区の36.9%と7.4ポイントの差が生じています。「施設やイベントでの感染症予防対策」は、刈谷東中学校区が29.1%で最も高く、最も低い富士松中学校区の20.2%と8.9ポイントの差が生じています。

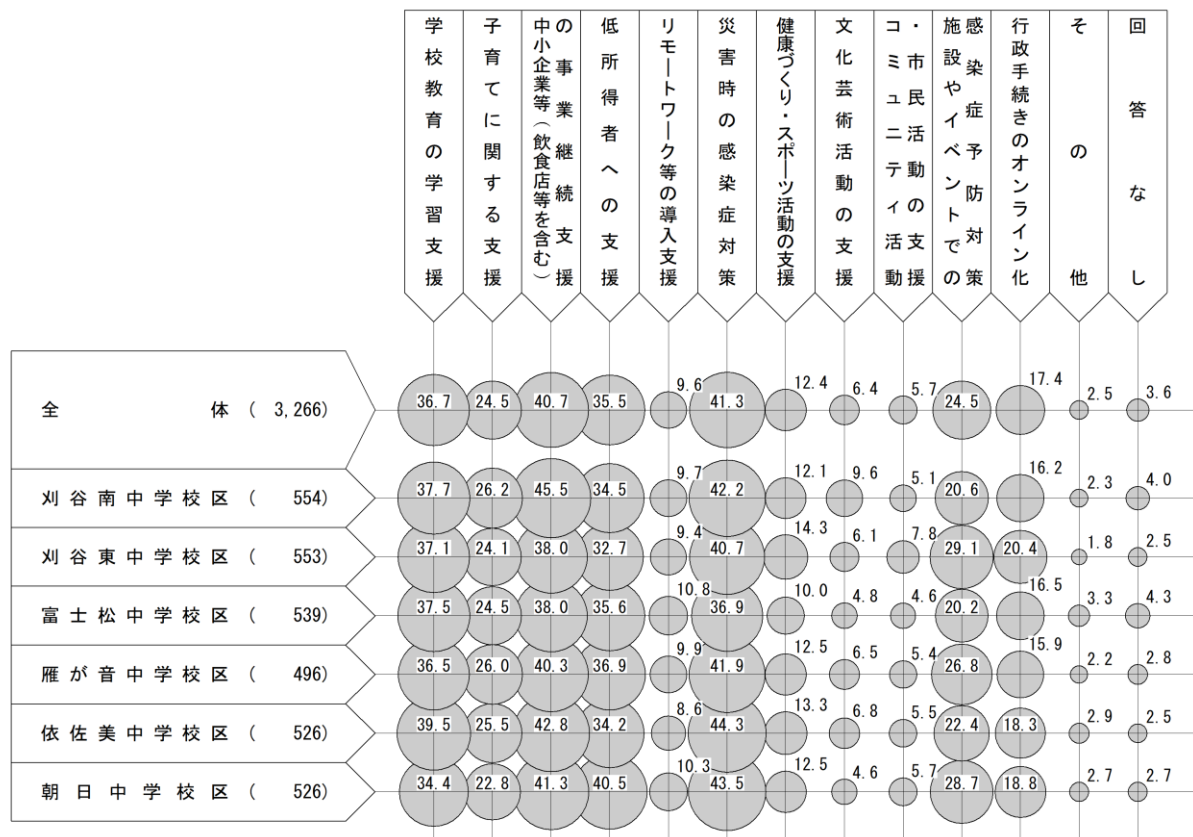
(性別)



(年齢別)



(中学校区別)



4. 児童・生徒の意識や行動に関するアンケート

4 - 1. 回答者の属性

回答者の総数は2,632人、小学校5年生が1,348人で51.2%、中学校2年生が1,284人で48.8%となっています。なお、学校別の回答者数の内訳は次のとおりです。

表 学校別回答者数

	配布数	回収数	構成比
全体（児童・生徒）	2,772	2,632	100.0%
亀城小学校	97	96	3.6%
小高原小学校	92	91	3.5%
日高小学校	82	78	3.0%
衣浦小学校	78	75	2.8%
住吉小学校	108	102	3.9%
かりがね小学校	162	152	5.8%
平成小学校	71	70	2.7%
富士松南小学校	124	123	4.7%
富士松北小学校	64	58	2.2%
富士松東小学校	79	78	3.0%
小垣江小学校	88	83	3.2%
小垣江東小学校	49	49	1.9%
双葉小学校	91	90	3.4%
東刈谷小学校	102	102	3.9%
朝日小学校	102	101	3.8%
刈谷特別支援学校	0	0	0.0%
小学校5年生	1,389	1,348	51.2%
刈谷南中学校	216	202	7.7%
刈谷東中学校	218	204	7.8%
富士松中学校	178	158	6.0%
雁が音中学校	262	237	9.0%
依佐美中学校	274	259	9.8%
朝日中学校	233	224	8.5%
刈谷特別支援学校	2	0	0.0%
中学校2年生	1,383	1,284	48.8%

4 - 2. 刈谷市の全体的な印象

①住みやすさの評価

「刈谷市を住みやすいまちだと思いますか」との質問に対し、「住みやすい」が63.3%、「まあまあ住みやすい」が33.7%、あわせて97.0%が「刈谷市は住みやすい」と回答しています。

性別でみると、「刈谷市は住みやすい」との回答は、男子が96.6%、女子が97.3%となっています。

学年別でみると、「刈谷市は住みやすい」（「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の合計）と回答した割合は、小学5年生で97.3%、中学2年生で96.7%と、学年による差異はみられません。

学校別にみると、すべての学校において、「刈谷市は住みやすい」と回答した割合は90%以上となっています。

「住みやすい」と回答した割合に限ってみると、小学校では、小高原小学校が80.2%で最も高く、双葉小学校は78.9%、小垣江東小学校では77.6%、日高小学校が75.6%の順となっており、住吉小学校と東刈谷小学校の58.8%が最も低くなっています。中学校では、依佐美中学校の64.5%が最も高く、富士松中学校の47.5%が最も低くなっています。

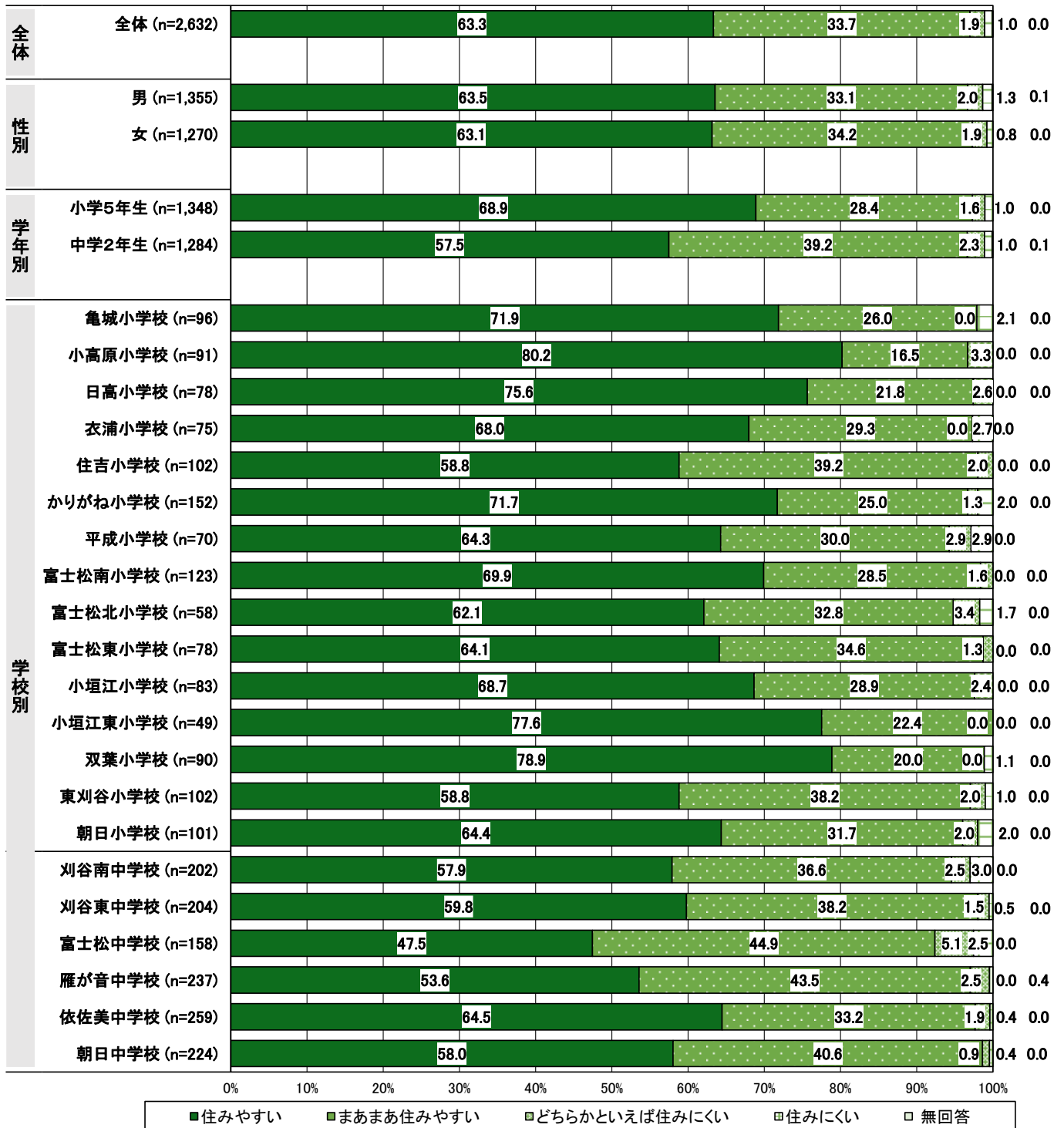
前回調査（平成30年度）と比べると、住みやすいと回答した割合（「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の合計）は小学5年生で1.3ポイント、中学2年生で0.9ポイントそれぞれ増加しています。

経年比較

		平成				令和
		24年度	26年度	28年度	30年度	2年度
全体	住みやすい	95.0%	96.9%	95.7%	95.9%	97.0%
	住みにくい	3.6%	2.9%	4.2%	3.9%	2.9%
小学5年生	住みやすい	95.9%	96.9%	96.2%	96.0%	97.3%
	住みにくい	3.3%	2.9%	3.5%	3.8%	2.6%
中学2年生	住みやすい	94.1%	97.1%	95.1%	95.8%	96.7%
	住みにくい	4.0%	2.9%	4.8%	4.1%	3.3%

《参考》 市民アンケート

市民	住みやすい	84.5%	84.5%	82.4%	82.2%	84.7%
	住みにくい	2.6%	3.2%	3.5%	4.1%	3.1%



②これからの居住意向

「今後も刈谷市で住みたいと思いますか」との質問に対し、「住みたい」は 52.9%となっており、「市外に移りたい」の 13.4%を大きく上回っています。

性別でみると、男子が 49.7%、女子が 56.5%となっています。

学年別でみると、「住みたい」と回答した割合は、中学 2 年生が 45.3%であるのに対し、小学 5 年生では 60.2%と、約 15 ポイント高くなっています。

学校別で「住みたい」と回答した割合をみると、小学校は、衣浦小学校の 72.0%が最も高く、次いで、日高小学校の 71.8%、小垣江小学校の 65.1%、双葉小学校の 63.3%の順となっており、富士松北小学校が 41.4%で最も低くなっています。中学校では、刈谷南中学校が 51.5%、刈谷東中学校が 51.0%でいずれも高く、雁が音中学校は 29.1%で最も低くなっています。

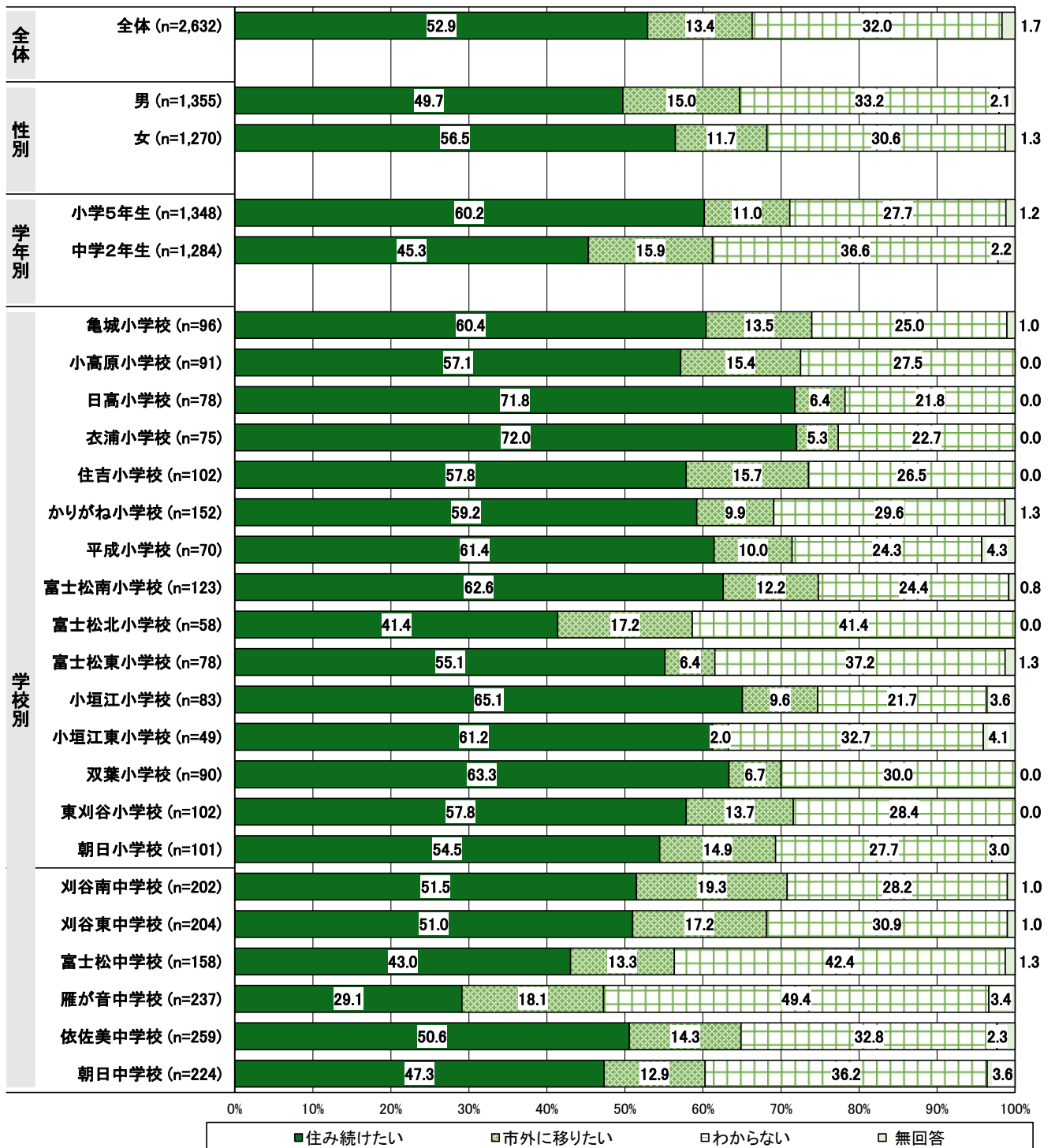
前回調査（平成 30 年度）と比較して、「住みたい」と回答した割合は、小学 5 年生では変わらず、中学 2 年生では 6.0 ポイントの減少となっています。

経年比較

		平成				令和
		24年度	26年度	28年度	30年度	2年度
全体	住みたい	57.0 %	58.5 %	59.5 %	55.9 %	52.9 %
	市外に移りたい	8.1 %	7.3 %	9.1 %	10.7 %	13.4 %
小学 5 年生	住みたい	63.9 %	62.3 %	66.4 %	60.2 %	60.2 %
	市外に移りたい	6.6 %	7.1 %	9.1 %	9.4 %	11.0 %
中学 2 年生	住みたい	50.6 %	54.7 %	52.8 %	51.3 %	45.3 %
	市外に移りたい	9.6 %	7.5 %	9.2 %	12.1 %	15.9 %

《参考》 市民アンケート

市民	住みたい	89.6 %	88.7 %	87.1 %	86.5 %	87.0 %
	移転したい	3.2 %	3.1 %	3.3 %	3.7 %	4.2 %



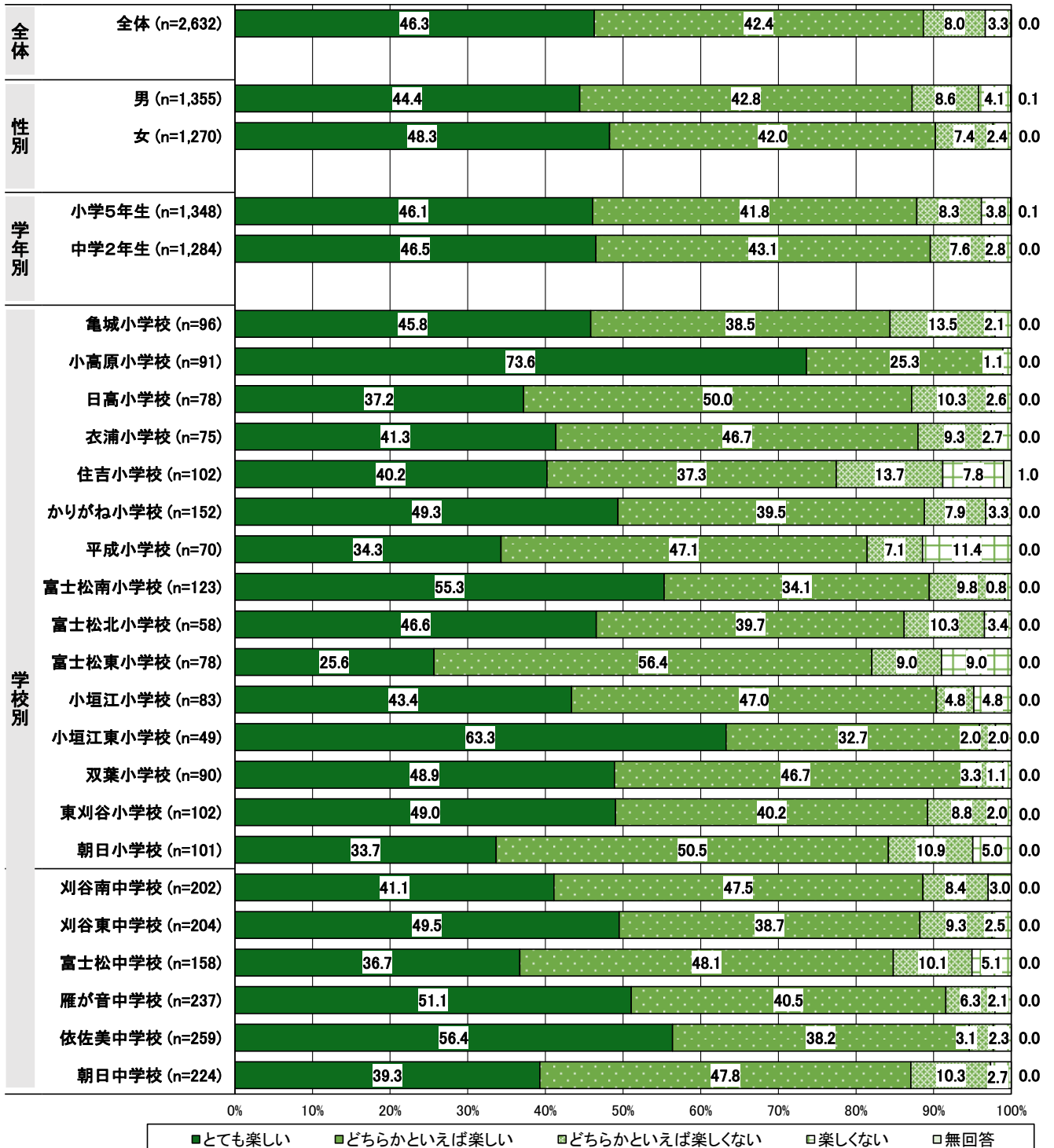
4 - 3. 個別設問の回答

①学校について

「学校は楽しいですか」という質問に対し、「とても楽しい」は46.3%、「どちらかといえば楽しい」が42.4%で、あわせて88.7%が「学校は楽しい」と回答しています。

性別では、「とても楽しい」と回答した割合に限ってみると、男子が44.4%、女子は48.3%と、性別による大きな差異はみられません。

学年別では小学5年生が46.1%、中学2年生が46.5%となっており、性別や学年による大きな差異はみられません。

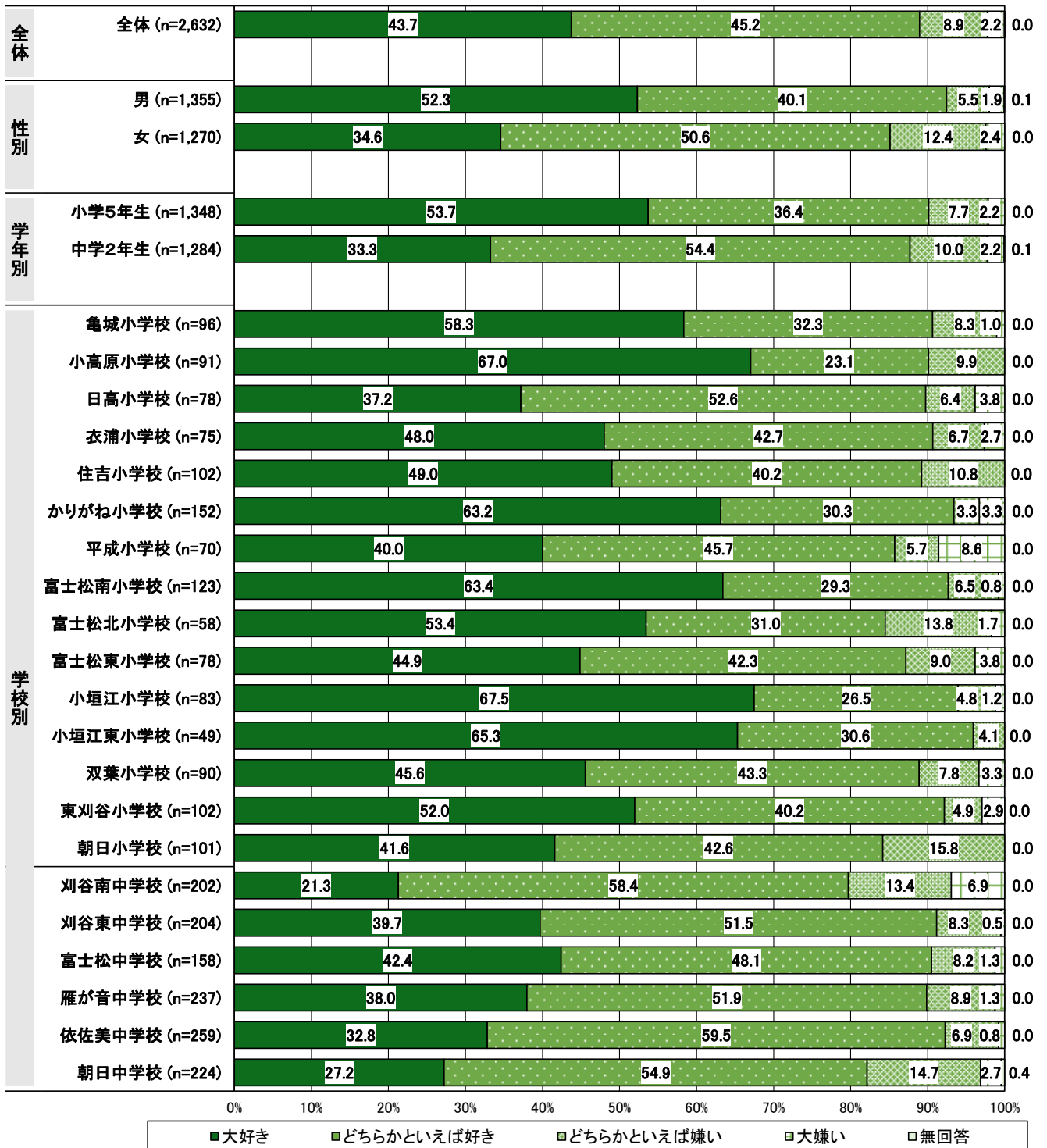


②給食について

「給食は好きですか」との質問に対し、「大好き」が43.7%、「どちらかといえば好き」が45.2%、あわせて88.9%が「給食が好き」と回答しています。

性別では、「大好き」と回答した割合に限ってみると、男子が52.3%であるのに対し、女子は34.6%と、15ポイント以上の差が生じています。

学年別では、「大好き」と回答した割合に限ってみると、小学5年生が53.7%であるのに対し、中学2年生では33.3%と、約20ポイントの差が生じています。

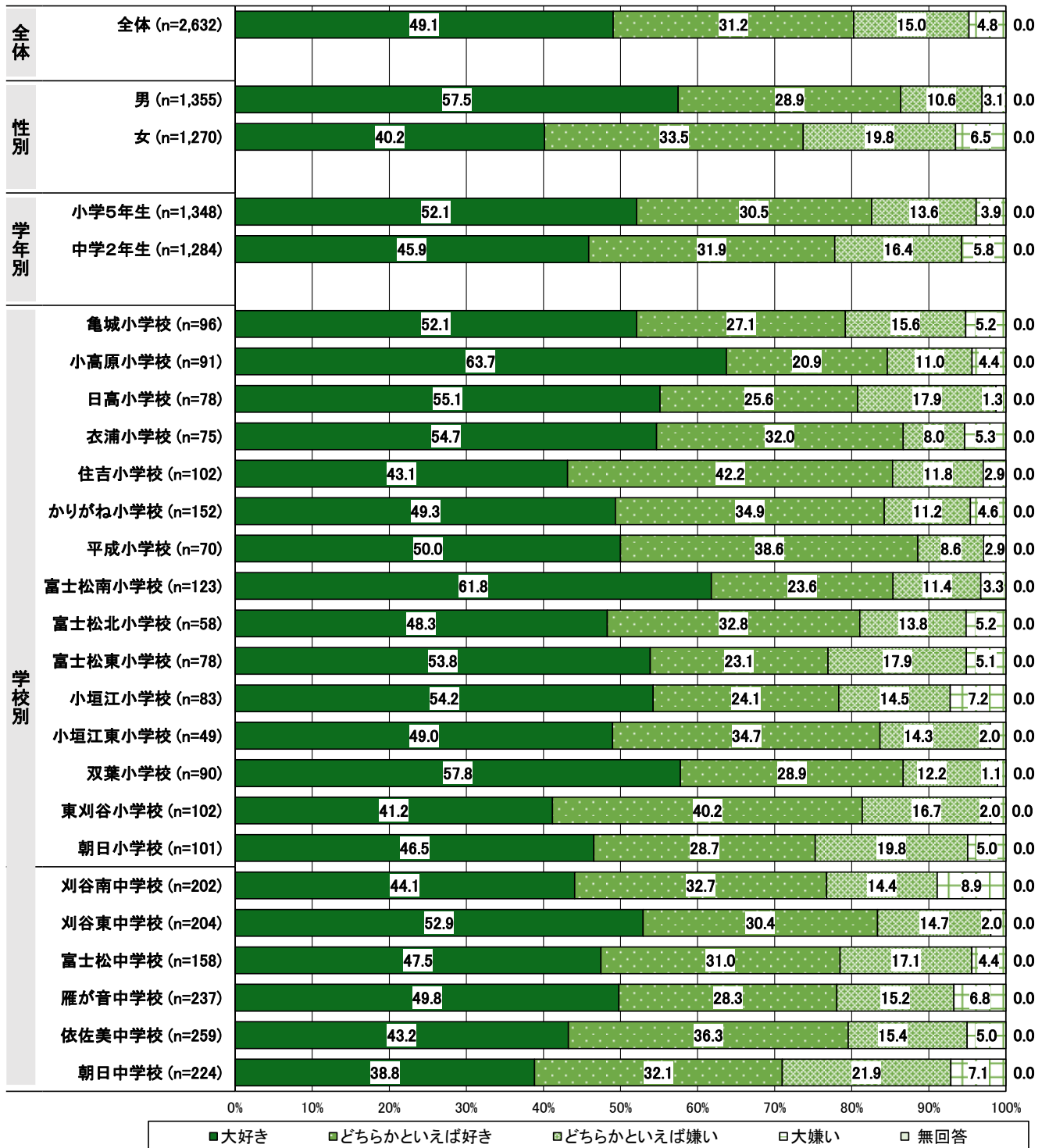


③スポーツについて

「スポーツは好きですか」との質問に対し、「大好き」は49.1%、「どちらかといえば好き」が31.2%、あわせて80.3%が好きと回答しています。

性別では、「大好き」と回答した割合に限ってみると、男子が57.5%であるのに対し、女子は40.2%と、15ポイント以上の差が生じています。

学年別では、「大好き」と回答した割合に限ってみると、小学5年生が52.1%であるのに対し、中学2年生では45.9%と、やや低くなっています。

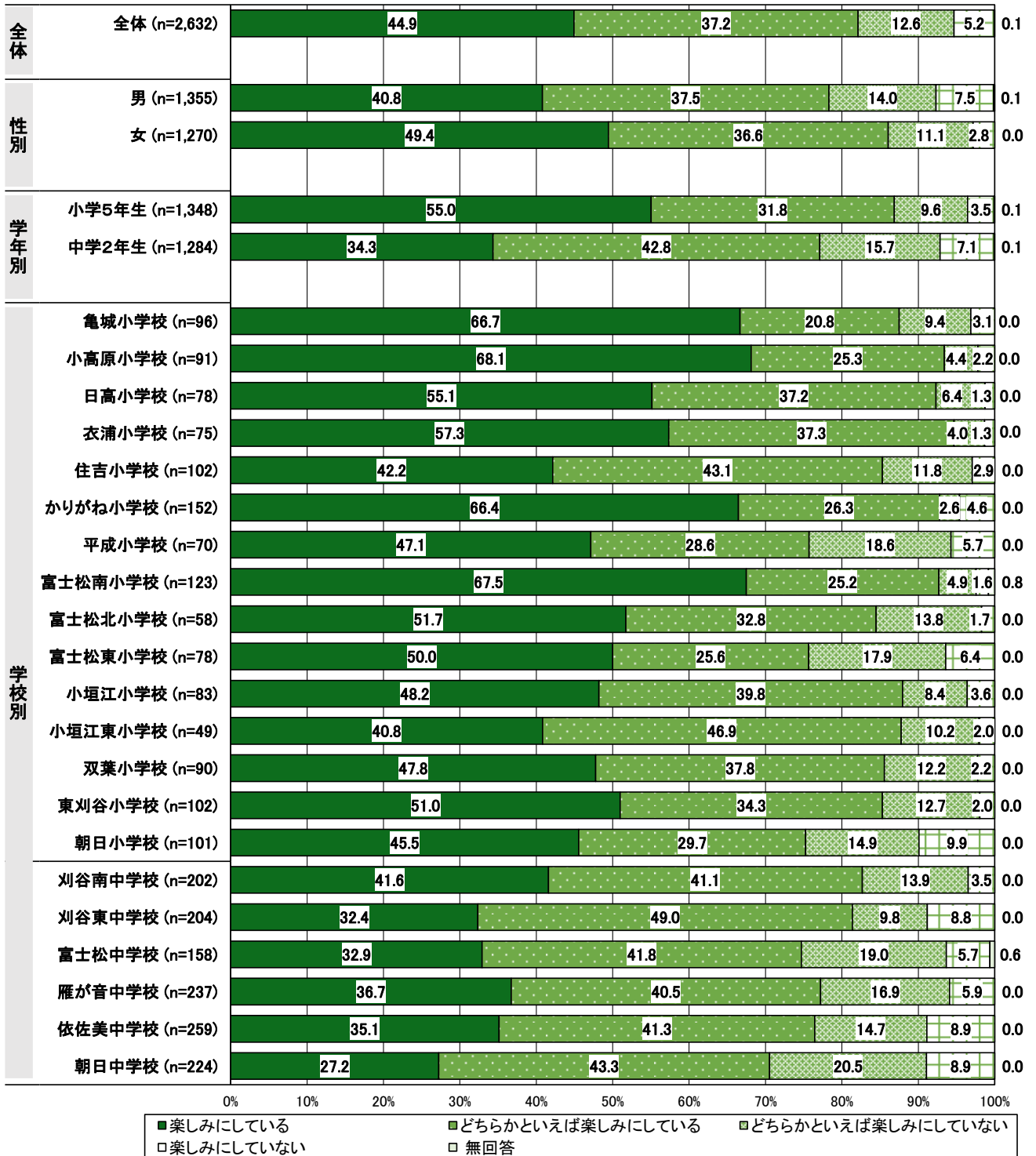


④地域の祭りや行事などについて

「地域の祭りや行事などを楽しみにしていますか」との質問に対し、「楽しみにしている」は44.9%、「どちらかといえば楽しみにしている」が37.2%、あわせて82.1%が楽しみにしていると回答しています。

性別では、「楽しみにしている」と回答した割合に限ってみると、男子が40.8%、女子が49.4%と女子の方がやや高くなっています。

学年別では、「楽しみにしている」と回答した割合に限ってみると、小学5年生が55.0%であるのに対し、中学2年生では34.3%と、20ポイント以上の差が生じています。

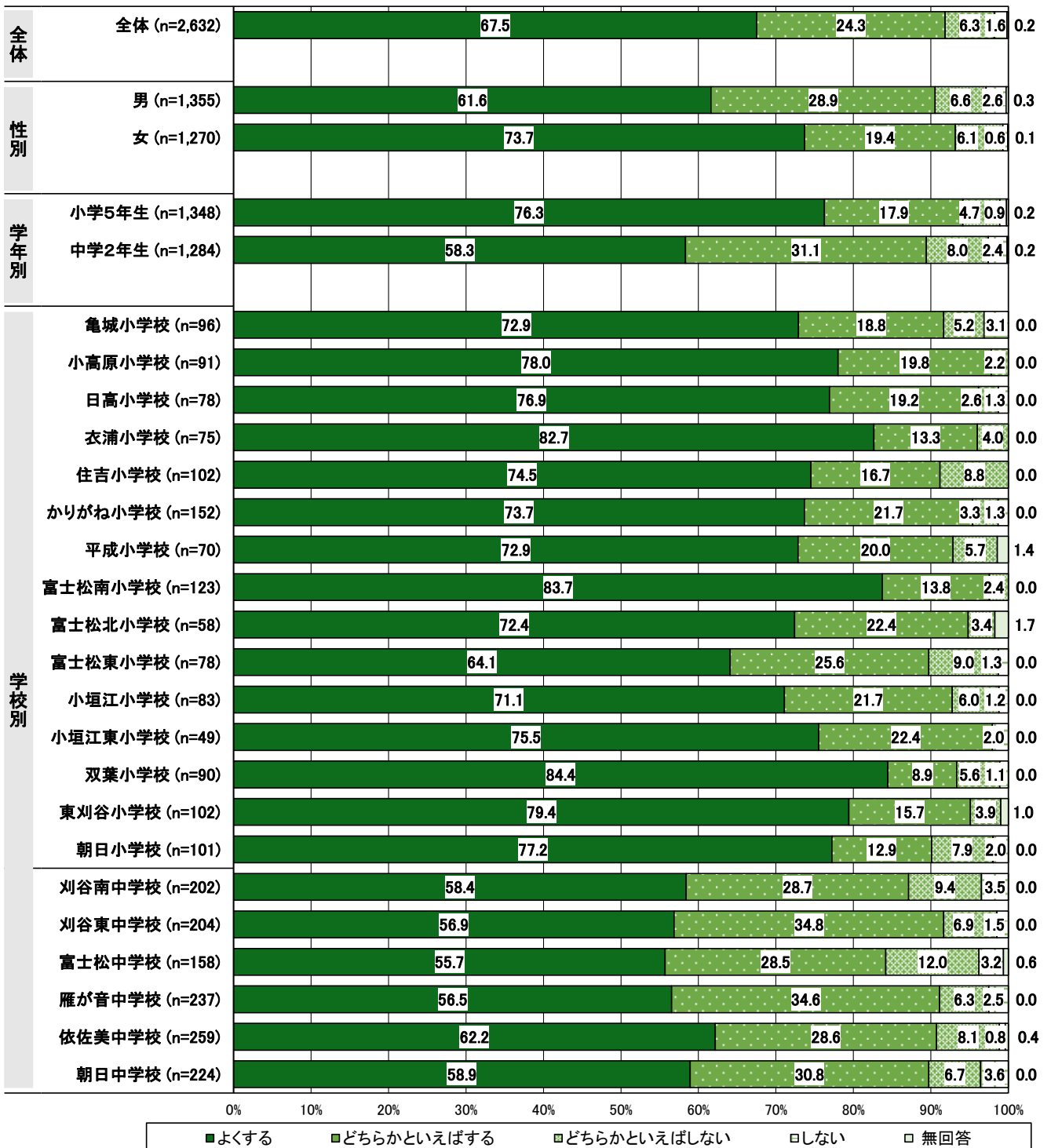


⑤家族との会話

「日ごろから、家族とよく話をしますか」との質問に対し、「よくする」は67.5%、「どちらかといえばする」が24.3%、あわせて91.8%が「話をする」と回答しています。

性別では、「よくする」と回答した割合に限ってみると、男子が61.6%、女子は73.7%と、女子の方がやや高くなっています。

学年別では、「よくする」と回答した割合に限ってみると、小学5年生が76.3%であるのに対し、中学2年生では58.3%と、15ポイント以上の差が生じています。また、「どちらかといえばする」とあわせて「話をする」と回答した割合についても、小学5年生が94.2%であるのに対し、中学2年生では89.4%と、やや低くなっています。

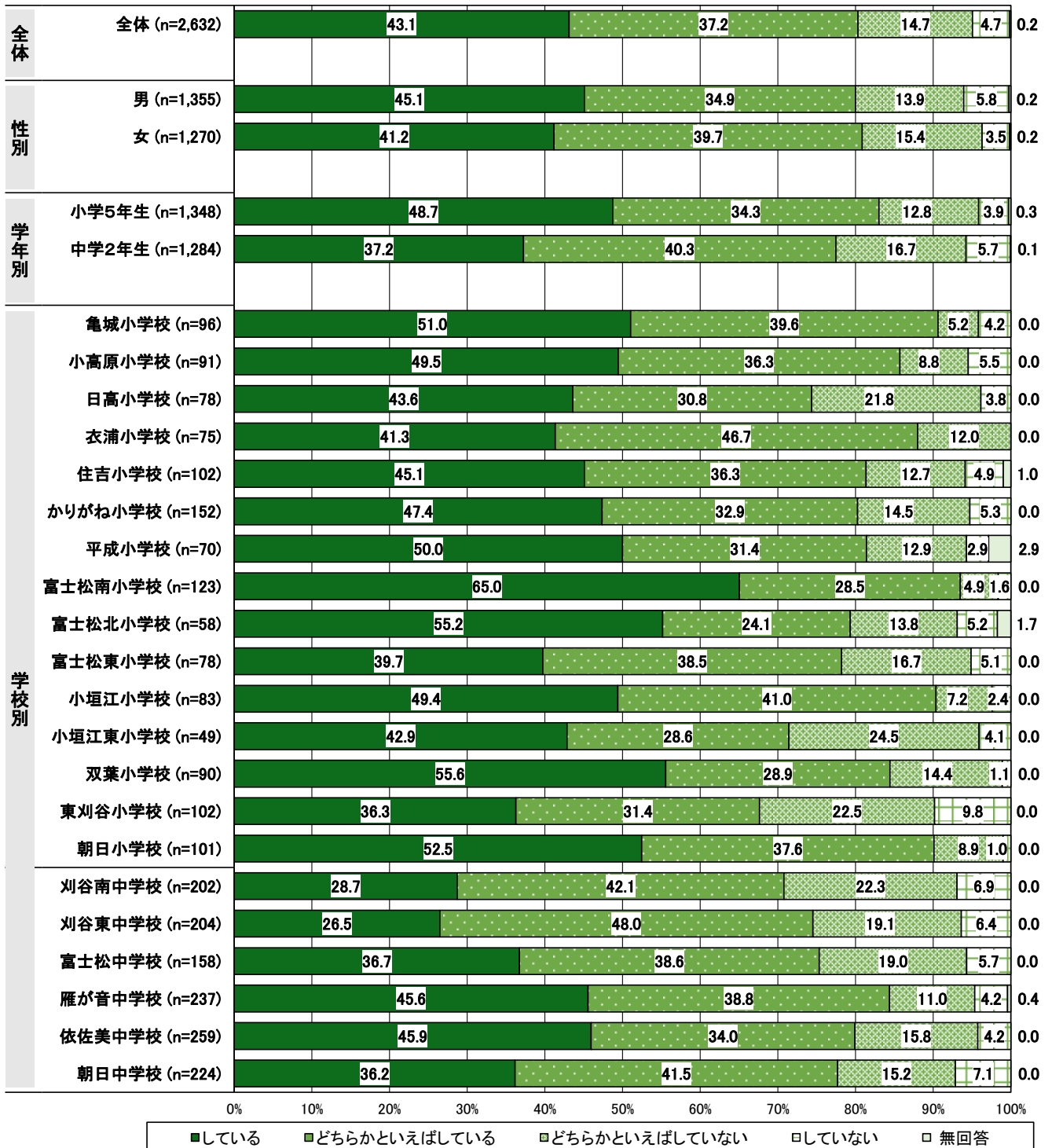


⑥近所の人とのあいさつ

「近所の人をみかけたらあいさつをしていますか」との質問に対し、「している」は43.1%、「どちらかといえばしている」は37.2%、あわせて80.3%が「あいさつをしている」と回答しています。

性別では、「している」と回答した割合に限ってみると、男子が45.1%であるのに対し、女子は41.2%で、性別による差異はみられません。

学年別では、「している」と回答した割合に限ってみると、小学5年生が48.7%であるのに対し、中学2年生では37.2%と、約10ポイント低くなっています。「どちらかといえばしている」とあわせて「あいさつをしている」と回答した割合についても、小学5年生の83.0%に対し、中学2年生は77.5%と、やや低くなっています。

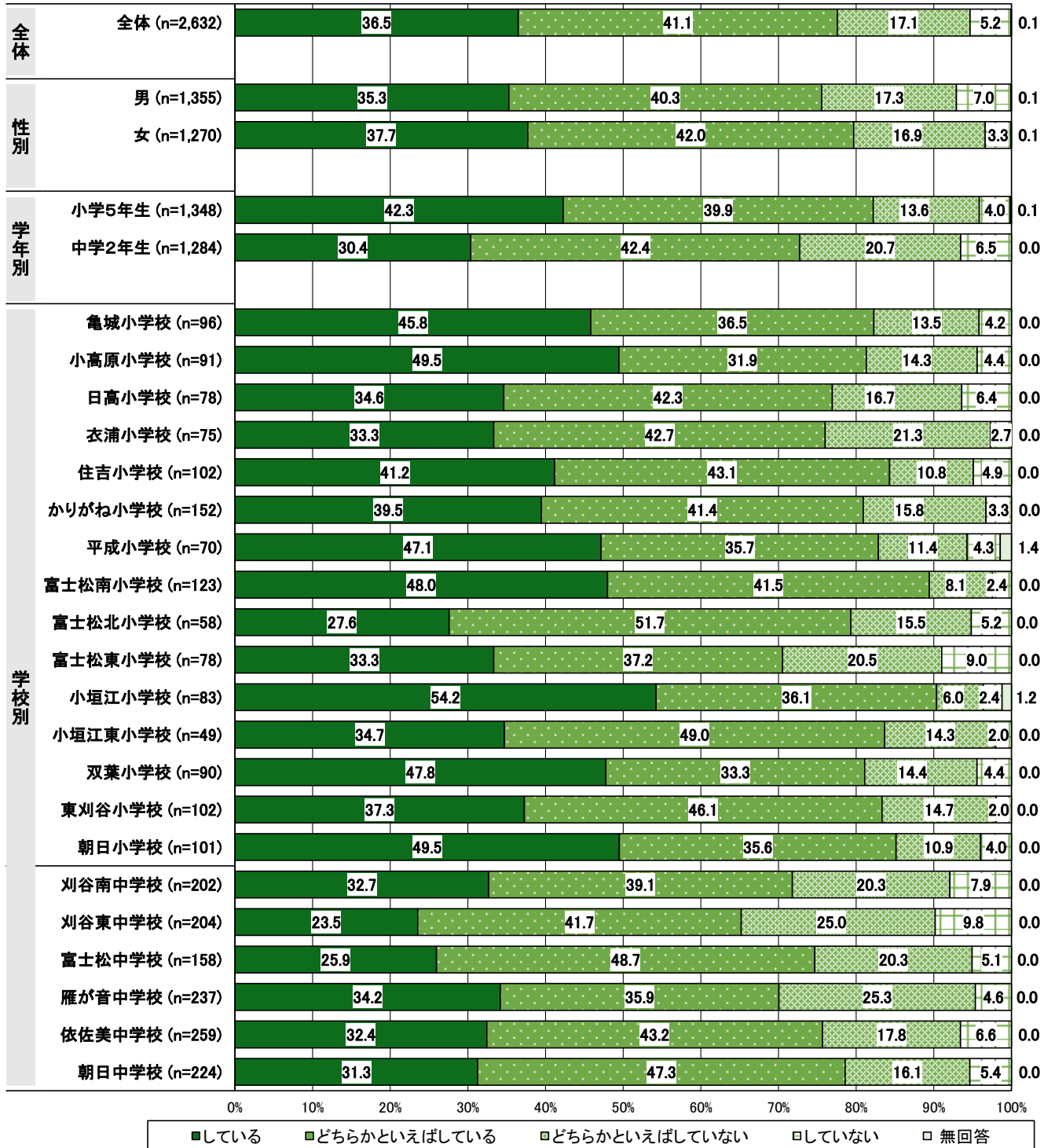


⑦電気や水の使い方への心がけ

「電気や水などを使いすぎないように気にしていますか」との質問に対し、「している」は36.5%、「どちらかといえばしている」が41.1%、あわせて77.6%が「気にしている」と回答しています。

性別では、「している」と回答した割合に限ってみると、男子が35.3%、女子は37.7%であり、性別による差異はみられません。

学年別では、「している」と回答した割合に限ってみると、小学5年生が42.3%であるのに対し、中学2年生では30.4%と、10ポイント以上の差が生じています。「どちらかといえばしている」とあわせて「気にしている」と回答した割合についても、小学5年生が82.2%であるのに対し、中学2年生では72.8%と、10ポイント近くの差が生じています。

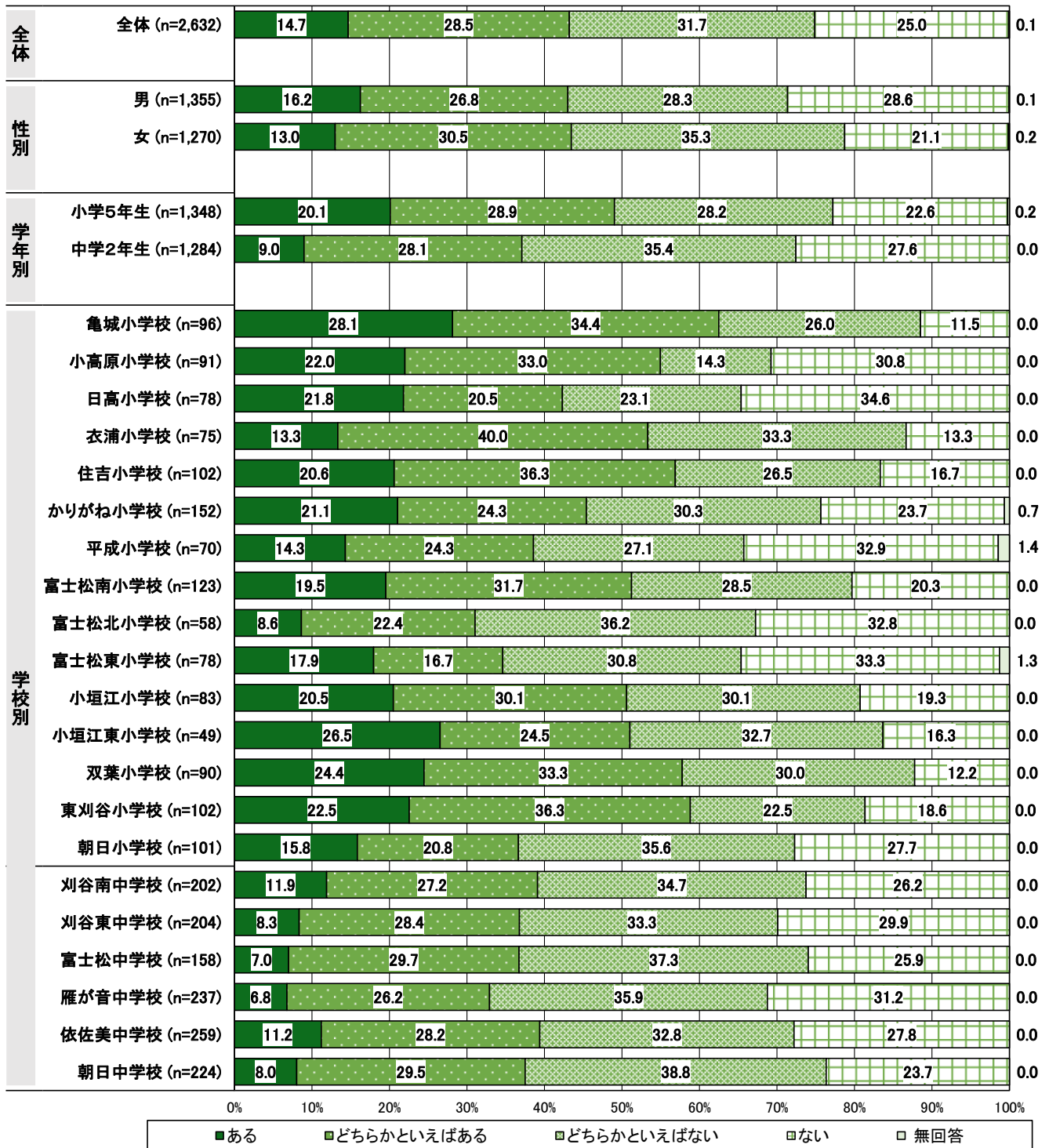


⑧刈谷のまちの歴史への興味

「刈谷のまちの歴史に興味がありますか」という質問に対し、「ある」は14.7%、「どちらかといえばある」は28.5%、あわせて43.2%が「興味がある」と回答しています。

性別では、「ある」と回答した割合に限ってみると、男子が16.2%、女子は13.0%であり、性別による差異はみられません。

学年別では、「ある」と回答した割合に限ってみると、小学5年生が20.1%であるのに対し、中学2年生は9.0%となっています。「どちらかといえばある」とあわせて「興味がある」と回答した割合についても、小学5年生が49.0%であるのに対し、中学2年生では37.1%と、10ポイント以上の差が生じています。

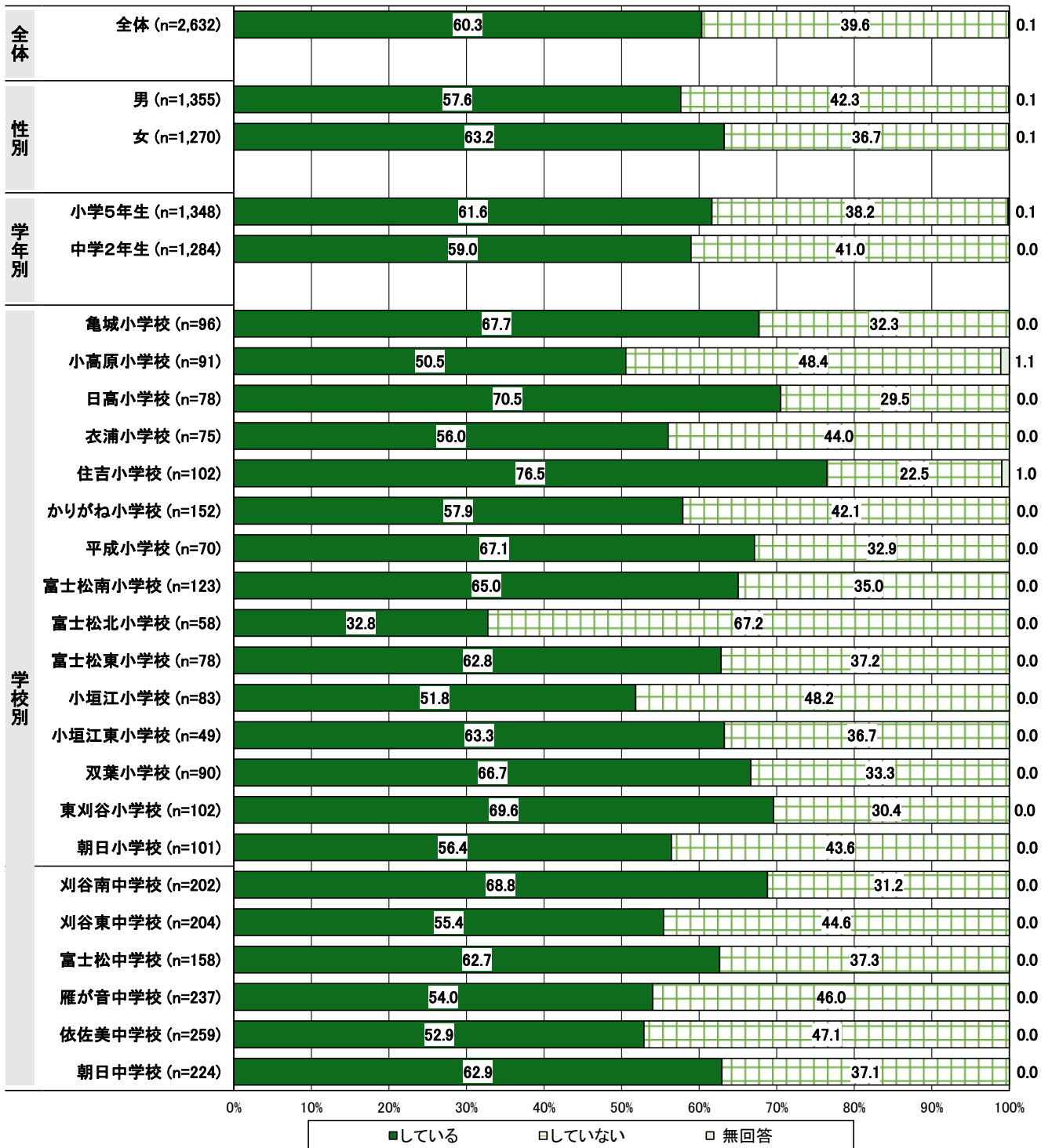


⑨災害への備え

「地震など大きな災害が起きたときに備えて家族と話し合ったり、家族で準備をしていますか」という質問に対し、「している」が60.3%、「していない」が39.6%となっています。

性別では、「している」と回答した割合は、男子が57.6%に対し、女子は63.2%と、やや高くなっています。

学年別では、「している」と回答した割合は、小学5年生が61.6%、中学2年生が59.0%であり、学年による大きな差異はみられません。

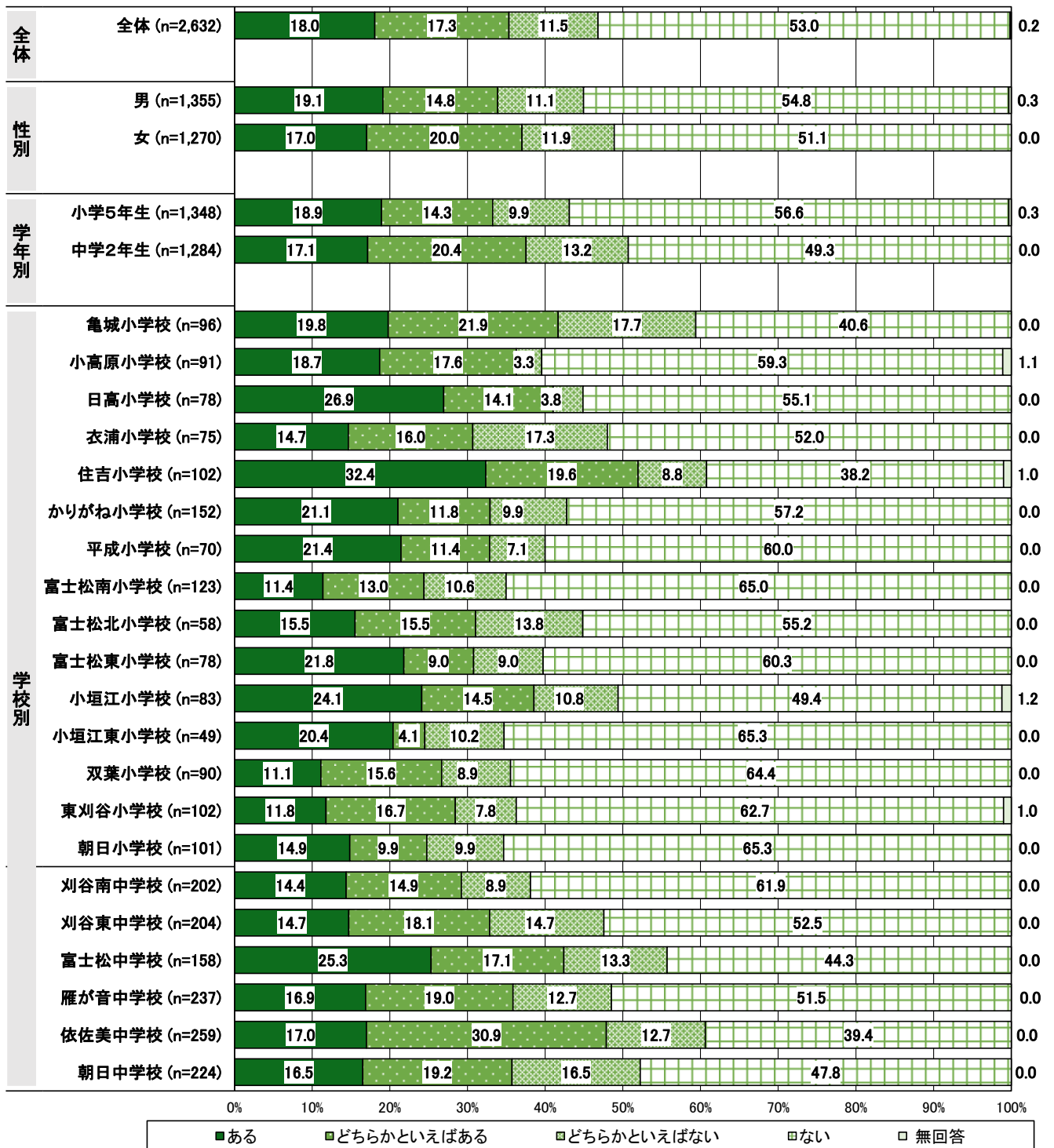


⑩登下校や外出時の危険について

「登下校や外出した時に危険を感じたことはありますか」との質問に対し、「ある」が18.0%、「どちらかといえばある」が17.3%で、あわせて35.3%が「危険を感じたことがある」と回答しています。

性別でみると、「危険を感じたことがある」と回答した割合は、男子が33.9%、女子が37.0%で、性別による大きな差はみられません。

学年別では、「危険を感じたことがある」と回答した割合は、小学5年生が33.2%、中学2年生が37.5%で、学年による大きな差はみられません。

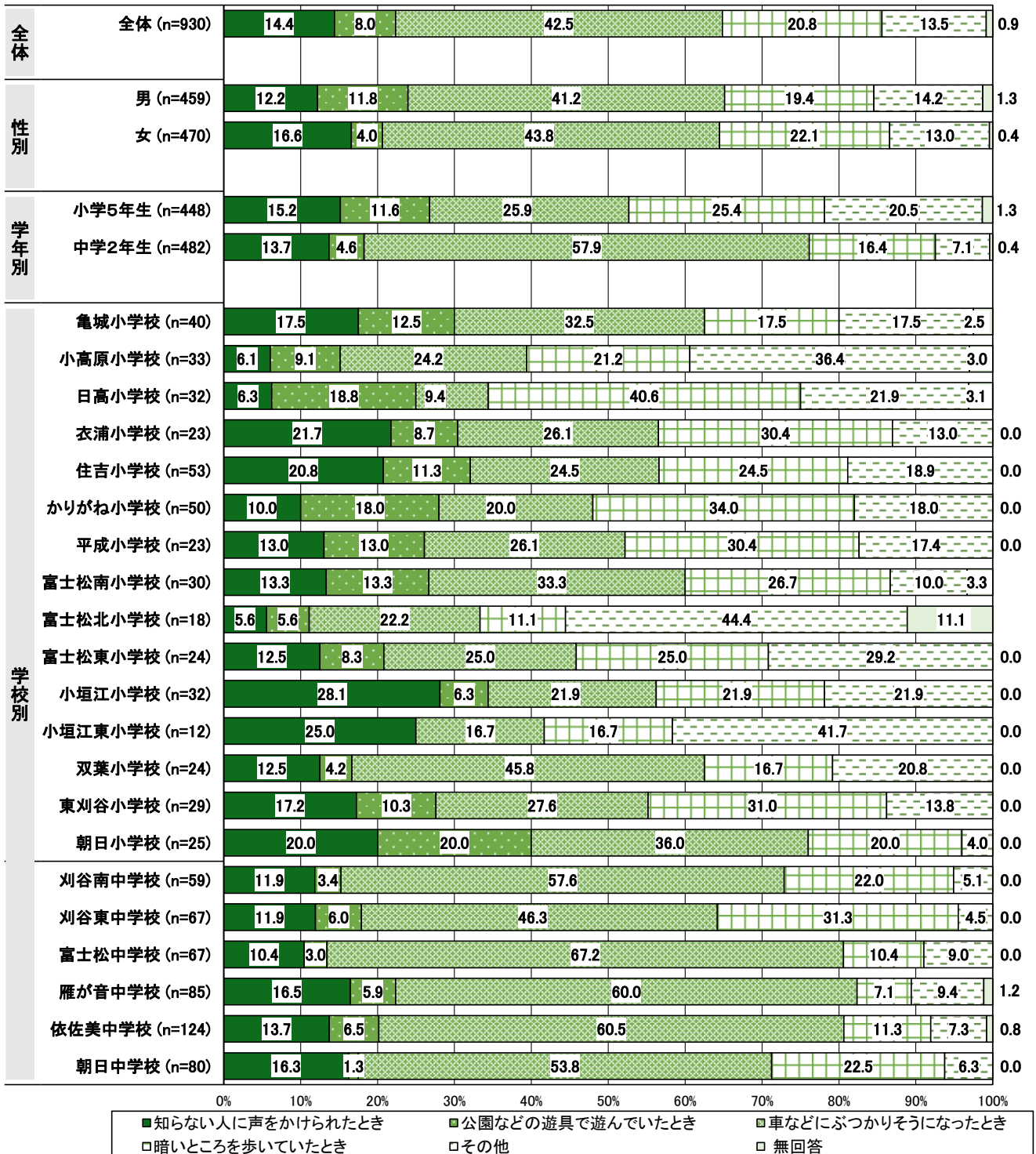


⑪危険の種類

「危険に感じたことがある」と回答した児童・生徒に対し、「ある場合、その危険は何ですか」と尋ねたところ、「車などにぶつかりそうになったとき」が42.5%で最も高く、次いで「暗いところを歩いていたとき」が20.8%、「知らない人に声をかけられたとき」が14.4%で続いています。

性別でみると、「公園などの遊具で遊んでいたとき」において、男子が11.8%、女子が4.0%で、男子の方がやや高くなっています。

学年別では、回答を比較すると、「車などにぶつかりそうになったとき」について、小学5年生の25.9%に対し、中学2年生は57.9%で2倍以上高くなっています。

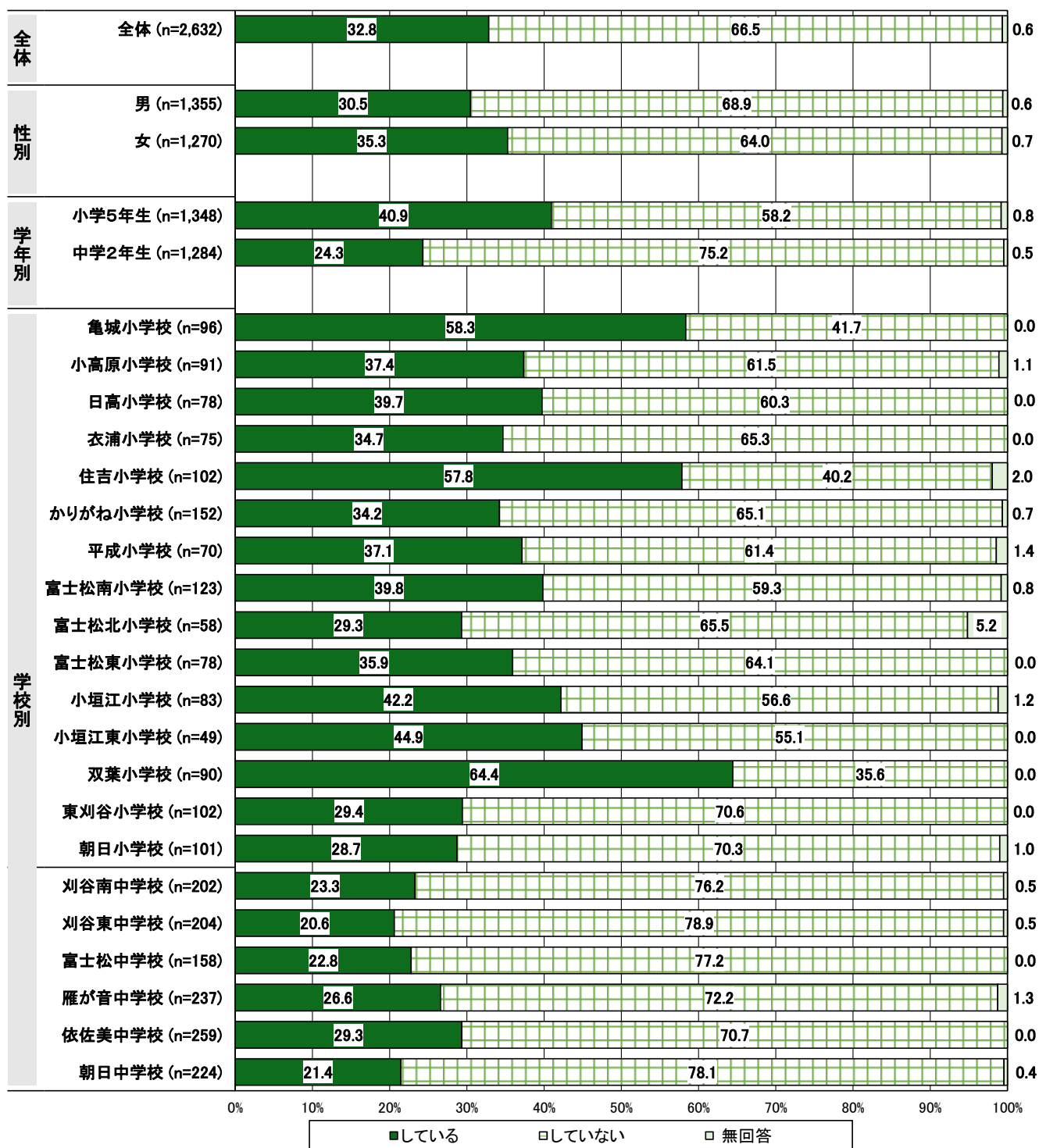


⑫ボランティア活動への参加

「自分からすすんでボランティア活動（まちをきれいにしたり、こまっている人を助ける活動）をしていますか」との質問に対し、「している」が32.8%、「していない」が66.5%となっています。

性別でみると、「している」と回答した割合は、男子が30.5%、女子が35.3%で、女子の方がわずかながら高くなっています。

学年別では、「している」と回答した割合は、小学5年生が40.9%、中学2年生は24.3%で、15ポイント以上の差が生じています。

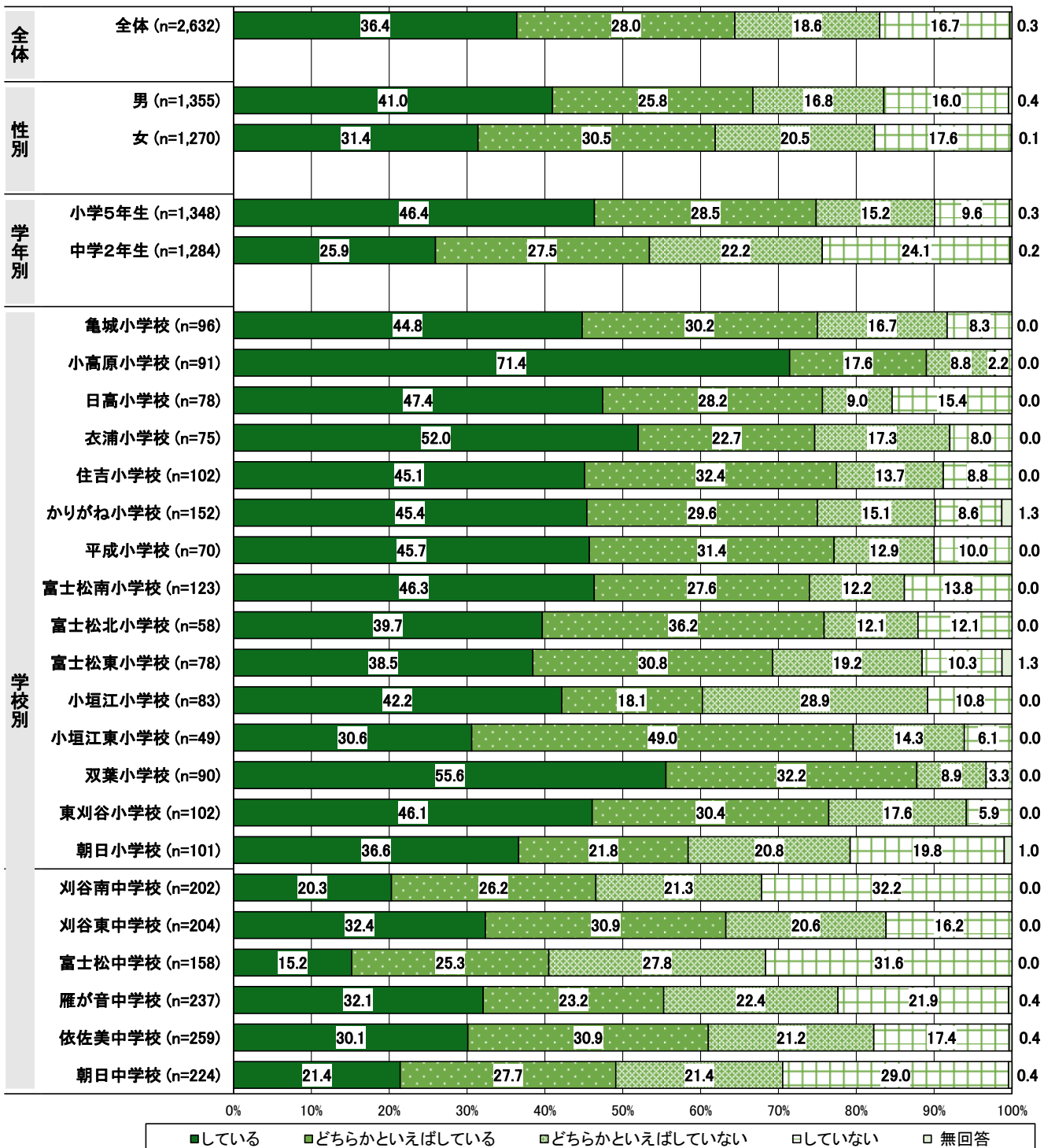


⑬公園の利用

「近所の公園をよく利用していますか」との質問に対し、「している」が36.4%、「どちらかといえばしている」が28.0%で、あわせて64.4%が「利用している」と回答しています。

性別でみると、「している」と回答した割合は、男子で41.0%、女子で31.4%と男子の方が10ポイント近く高くなっています。

学年別でみると、「している」と回答した割合は、小学5年生が46.4%であるのに対し、中学2年生は25.9%と、約20ポイントの差が生じています。また、「している」と「どちらかといえばしている」をあわせた「利用している」と回答した割合についても、小学5年生の74.9%に対し、中学2年生は53.4%であり、20ポイント以上の差が生じています。



⑭将来の夢や希望について

「将来の夢や目標はありますか」との質問に対し、「ある」が53.6%、「どちらかといえばある」が24.2%で、あわせて77.8%が「夢や希望がある」と回答しています。

性別でみると、「夢や希望がある」と回答した割合は、男子で75.9%、女子で79.6%と性別による違いはみられません。

学年別でみると「夢や希望がある」と回答した割合は、小学5年生の84.6%に対し、中学2年生は70.6%であり、10ポイント以上の差が生じています。

